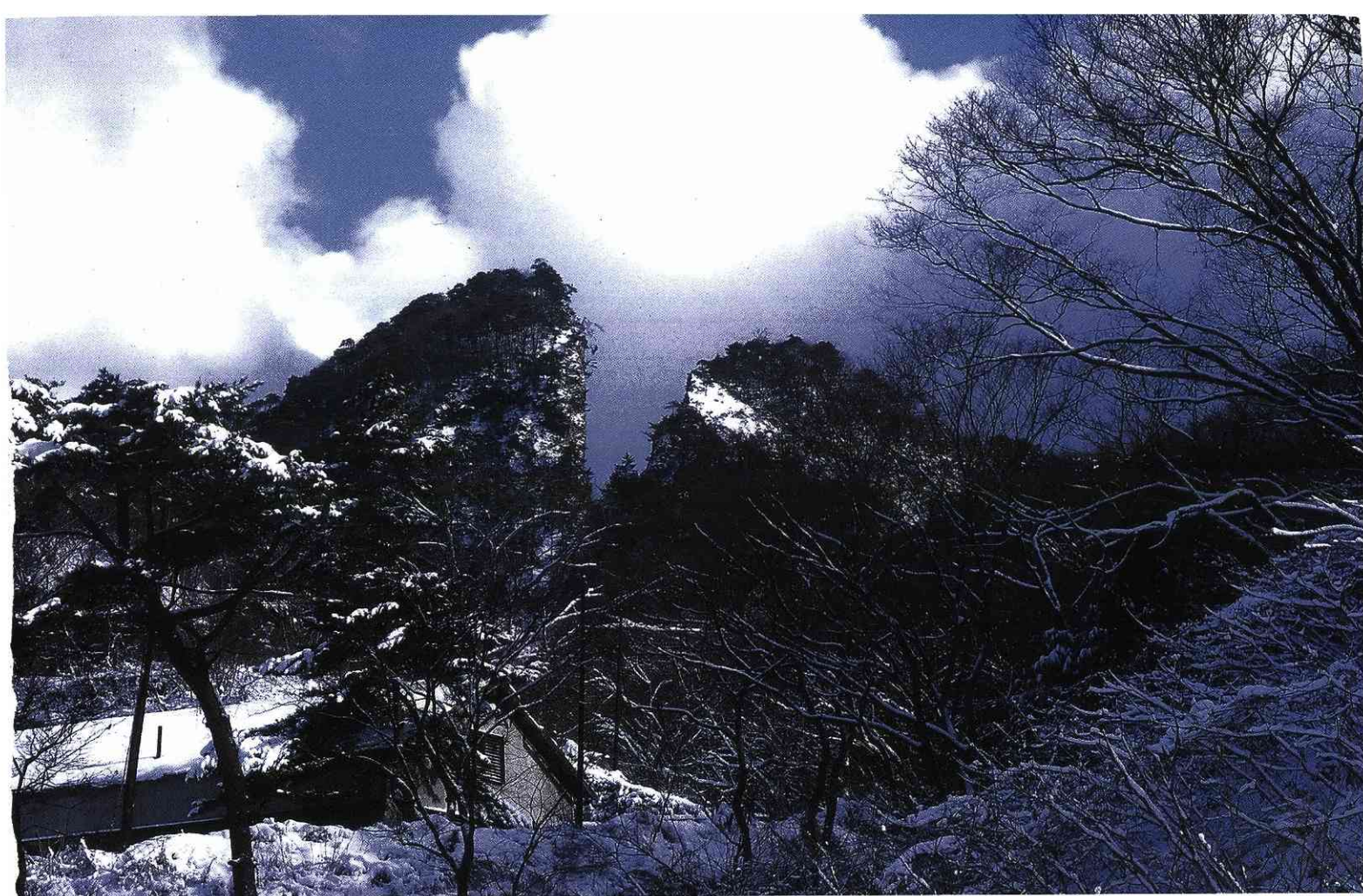


佐渡金銀山

相川地区 石造物分布調査報告書

2004年

新潟県佐渡市教育委員会



佐渡金山遺跡 道遊の割戸……鉱脈を追って採掘した結果、現在の形となった。

採掘した鉱石は、
製錬工程に回される。
製錬工程の
はじめは粉碎作業である。



廃坑に置き去りにされていたもの。凝灰岩にタガネで地藏菩薩を彫りつけている。



明治に入り、鉱山の設備は近代化された。切石によるアーチ積みとモルタル・切石による「タタキ工法」で造られたこの橋には「佐渡鉱山 三十七年……」の銘板が残る。

春日崎……相川の入江は、海が浅く、船が座礁しやすかったため、灯籠を設置して目印にした。



序

新潟県佐渡市は、前近代において「佐渡国」、近代以降は「佐渡島」の名称で呼ばれてきた地域です。

当地では古くから塩、魚介類を採り、島外に移出してきました。奈良時代になるとそこに焼物が加わり、平安時代に書かれた「今昔物語」には、砂金採りが行われていたという記述も出てきます。

戦国時代になると岩盤に坑をうがって金銀鉱石を採掘するようになり、越後にいる大名の注目するところとなり、さらに江戸幕府はここを直轄地としました。また、佐渡市の中央部分にある「国中平野」で作られる米もこのころから増えていき、江戸時代は島外へ移出するまでになり、現在に至っています。

これらの産品の内、特に鉱業の隆盛が佐渡にもたらしたものは多大なものがありました。

安土桃山時代から江戸時代にかけたゴールドラッシュともいえる状況は、いち早く時の政権の注目を浴び、当初は民間主導追認で、後には公共主導となり、大きな額を投入して開発が行なわれました。

金銀山の存在は外部からあらゆるモノ・人を引き付け、鉱物の産出量が下火となった後も、それまでに蓄積されていたものによって日本海交易ルートにしっかりと組み込まれていきました。

近代以降は、政府から模範鉱山として位置付けられ、江戸時代の技術的限界によって下火となっていた鉱物産出量を回復させました。鉱山が民間に払い下げられた後も、重要な鉱山として、投資が続けられました。

20世紀半ば以降の鉱業は、本来の役割を徐々に終えていきましたが、佐渡島内のサービス産業では、いわゆる鉱山・金山をキーワードに操業を続けてきた所も多くあります。

江戸時代からつい最近に至るまで、歴史的・文化的・経済的に鉱山が佐渡にもたらしたものは大変大きく、また有形・無形の形で市民の身近に残り、私たち佐渡市民の「今」を形作っています。

金銀山がもたらした遺産の調査に着手したのは、旧相川町による史跡整備事業に端を発します。1997（平成9）年からは規模を全島に拡大する形で「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」を設置し、島内に残る江戸時代から近代に至るまでの、鉱山関連埋蔵文化財や文化財（有形文化財・無形文化財・記念物（史跡））を対象とし、調査・研究を進めてきました。

現在これらの保存・活用を図る前の段階として、実態を解明することが必要であり、第一段階として遺跡の分布調査を実施しています。今回、報告するのは旧相川町がその管内で行った石造物の分布調査です。

調査範囲は東西2km、南北4kmに収めました。これは江戸時代に相川と呼ばれていた鉱山町の範囲とほぼ重なります。

対象とする時代は江戸時代を中心とし、一部、明治時代から昭和時代前半のものもあります。これは、相川が鉱山町として稼動した時期と重なります。

石造物には、信仰関連のもの、相川に生きた人々をしのぶもの、施設としてあるいはその部材として相川にいる人々の便宜に供したもの、生活用品として用いたもの、そして鉱石製錬や農・漁業に用いたものがあります。それらを丹念に資料化したのが本書の内容です。

本書が、鉱山関連文化財の実態を知る一助となり、かつ皆様が石造物という身近によくある文化財を通して郷土史を学習し、文化財を大切にする気持ちを育む一助になれば幸いです。

最後になりましたがこの調査に多大なご助言とご協力を賜りました新潟県教育庁文化行政課・研究者及び石造物の所有者・管理者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

佐渡市教育委員会

教育長 石瀬佳弘

例 言

1. 本書は新潟県佐渡市内の相川に所在する石造物の分布調査記録である。
2. 石造物分布調査は、佐渡金銀山遺跡整備事業に伴い、相川町教育委員会が平成13年度（2001～2002）に、佐渡市教育委員会が平成16年度（2004～2005）に、新潟県教育庁文化行政課・研究者の方々の指導・助言を得て実施した。のべ2年にわたる調査は一体を成すものである。
3. 整理及び報告にかかる作業は、平成16年度（2004～2005）に実施し、佐渡市教育委員会職員がこれに当たった。
4. 調査にかかる資料は、すべて佐渡市教育委員会が保管・管理・公開している。
ここでいう資料とは、35mmカラーフィルム等である。
5. 本書で示す北方位は特に明記しない限り真北である。
6. 作成した挿図・図版のうち、既存の図を利用した場合にはそれぞれの出典を記した。
7. 掲載した石造物の番号は通し番号である。図面図版と写真図版の番号は一致している。
8. 引用・参考文献は著者及び発行年を〔 〕内に示し、巻末に一括して掲載した。
9. 本書の記述は滝川邦彦が担当した。
石造物の実測・撮影は宇田貴光・鎌田直治・上林章造・佐藤俊策・羽二生正夫・滝川が行った。
図面類のトレースは宇田貴光・佐々木春美・羽二生正夫が担当した。
10. 石造物の分類にあたり、佐渡市内在住 計良勝範氏にご教示を頂いたが、全てを実見して頂いたわけではなく、従って本文中に誤りがあればその責任は全て調査担当者の滝川にある。
11. 新潟県佐渡市は、2004（平成16）年3月1日に佐渡島内の全市町村が対等合併して発足した地方公共団体である。従って、この調査の主体であった相川町は消滅し、事業は全て佐渡市が引き継いだ。同時に相川町の名称は行政区画・地名として用を成さなくなった。
そのため本書では、固有名詞を除いて、「相川町」の名称を使っていない。
特に断らない限り、2004（平成16）年2月28日までの相川町管区を「相川地区」、江戸時代における相川の範囲を「相川」と記している。
12. 分布調査から本書の作成に至るまで下記の方々から多大なご教示とご協力を頂いた。厚く感謝申し上げます。
北村 亮（新潟県教育庁文化行政課） 計良勝範（佐渡考古歴史学会） 三浦啓作（相川町文書館）
山口忠明（新穂村教育委員会） （敬称略 五十音順）
※さらに、ここで逐一記すことができなかったが、調査対象石造物の所有者及び、石造物が立地する土地の所有者・管理者の皆様には、多くの便宜を図っていただいた。重ねて、感謝いたします。

調査参加者

佐藤俊策・上林章造・羽二生正夫・鎌田直治・佐々木春美（敬称略）

凡 例

図面図版について

1. 見取図の縮尺は次のいずれかである。なお縮尺は図版毎にスケールを添付して示している。

1 : 1 1 : 3 1 : 5 1 : 10 1 : 20 1 : 40 1 : 160

2. 図中の ----- は地面・崖面のラインを示す。

3. 各石造物見取図の右下に添えた番号は、本文・写真図版・一覧表で用いた番号と一致する。

石造物一覧表について

Na: 報告書での通し番号

所在地: 石造物の所在する大字・地番

寺社・施設名: 石造物の所属する、あるいは所蔵されている寺院・神社・施設

固有名: 当該石造物に固有の名称をつけ記した。

本文中で使う名称は、この固有名とNaを併記している。

その他、必要と判断した属性を記した。

分 類: 本書 第Ⅳ章第2項で示す分類

記年銘: 石造物に刻まれている銘文中に年号があれば、その最も古いもの。

石 材: 肉眼視による表面観察で安山岩・凝灰岩・流紋岩・花崗岩・礫岩・砂岩・泥岩に分類した。

ここでいう石材分類は、本書第Ⅱ章第1項Fで記述した各石材に当てはめると以下のような対照となる。

安山岩・・・小泊石、椿尾石、大沢石、その他

凝灰岩・・・芴谷石（福井県）、水金沢石、春日崎の石

流紋岩・・・吹上石

花崗岩・・・佐渡島外からの移入

礫岩・・・片辺礫岩

砂岩・・・砂岩（産地不詳）

泥岩・・・泥岩（産地不詳）

寸 法: いずれの器種でも上から $a \times b \times c$ の順番で示した。

a、b、cの数値がどの部位を計測したものは、各器種の形態・部位名を示した挿図中（第Ⅳ章第2項）に表示したので、参照いただきたい。

表示した数値は現存値である。また数値はいずれも単位がcmである。

銘 文: 石面に刻まれている文字。

同一部位の正面に向かって右側面に刻まれている文字は（右）、正面に刻まれている文字は（正面）、同じく左側面に刻まれている文字は（左）、背面に刻まれている文字は（裏）、と表示した直後にそれぞれ示した。

文字の刻まれている部位が異なる場合は、初めに部位名を表示し、その後ろに文字を記した。

文字の配置はや大きさの比はできる限り、現物にならうよう注意した。

目 次

第Ⅰ章 序 説

- 1. 調査に至る経緯10
- 2. 調査・整理の経過14

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

- 1. 位置と地理的・歴史的環境
 - A 位置と地理的環境15
 - B 相川地区の遺跡16
 - C 相川周辺の遺跡20
 - D 相川の成立・展開20
 - E 近・現代の相川26
 - F 石材と産地27
- 2. 石造物の生産と流通31

第Ⅲ章 遺 跡

- 1. 調査方法
 - A 調査区の範囲と調査対象選定の目安34
 - B 基本的な調査工程48

第Ⅳ章 石 造 物

- 1. 石造物の分類
 - A 像と塔と道具49
 - B 刻像塔と文字塔49
 - C 像の彫り方、像の姿勢49
 - D 分類49
- 2. 本書における器種分類と部位名称
 - A 石神・石仏53
 - B 石塔56
 - C 石造物62
- 3. 石造物各説77
- 4. 付録119

まとめにかえて126

〈要 約〉

〈一 覧 表〉

〈引用・参考文献〉

〈図 版〉

挿 図 目 次

第1図	佐渡ヶ島 大佐渡地域の地形・遺跡	17
第2図	相川周辺の地形	19
第3図	相川周辺の遺跡	21
第4図	相川近世遺構分布図(1694年)	23
第5図	相川近世遺構分布図(1753年)	24
第6図	相川近世遺構分布図(1826年)	25
第7図	小泊・椿尾石材産地分布図	29
第8図	相川石造物所在地図の表示範囲	35
第9図	相川石造物所在地図①	37
第10図	相川石造物所在地図②	39
第11図	相川石造物所在地図③	41
第12図	相川石造物所在地図④	43
第13図	相川石造物所在地図⑤	45
第14図	相川石造物所在地図(1・325・347)	47
第15図	石神・石仏(丸彫り)の形態及び部位名・計測部位	53
第16図	石神・石仏(半肉彫り)の形態及び部位名・計測部位	53
第17図	摩崖仏(線彫り)の形態	53
第18図	狛犬の形態及び部位名・計測部位	54
第19図	庚申塔の形態及び部位名・計測部位	55
第20図	念仏車の形態及び計測部位	56
第21図	板石形石塔(塔身が平頂のもの)の形態及び部位名・計測部位	56
第22図	板石形石塔(塔身が尖頂のもの)の形態及び部位名・計測部位	56
第23図	角柱形石塔(塔身が尖頂で断面正方形に近いもの)の形態及び部位名・計測部位	57
第24図	角柱形石塔(塔身が円頂で断面長方形のもの)	57
第25図	角柱形石塔(塔身が円頂で断面正方形に近いもの)	57
第26図	笠塔婆(塔身の断面が正方形に近いもの)の形態及び部位名・計測部位	58
第27図	笠塔婆(塔身の断面が長方形のもの)の形態及び部位名・計測部位	58
第28図	宝篋印塔の形態及び部位名・計測部位	59
第29図	五輪塔(組み合わせ)の形態及び部位名・計測部位	60
第30図	一石五輪塔の形態及び部位名・計測部位	60
第31図	無縫塔の形態及び部位名・計測部位	60
第32図	カマボコ形石塔の形態及び部位名・計測部位	61
第33図	自然石石塔の形態及び部位名・計測部位	61
第34図	鳥居の形態及び部位名・計測部位	62
第35図	石灯籠の形態及び部位名・計測部位	63
第36図	旗棹の台石の形態及び計測部位	63
第37図	敷石の形態及び規則部位	63
第38図	石橋の形態及び計測部位	64

第39図	石祠の形態及び部位名・計測部位	65
第40図	土台石の形態及び計測部位	65
第41図	板石の形態及び計測部位	66
第42図	間知石の形態及び計測部位	66
第43図	樋の形態及び計測部位	66
第44図	井戸枠の形態及び計測部位	67
第45図	井戸蓋の形態及び計測部位	67
第46図	手洗鉢の形態及び計測部位	68
第47図	水槽の形態及び計測部位	68
第48図	花生の形態及び計測部位	69
第49図	粉挽臼の形態及び部位名・計測部位	69
第50図	搗臼の形態及び計測部位	69
第51図	石流しの形態及び計測部位	70
第52図	すり鉢の形態及び計測部位	70
第53図	重しの形態及び計測部位	70
第54図	火消壺・火消壺蓋の形態及び計測部位	70
第55図	松明台の形態及び計測部位	70
第56図	硯の形態及び計測部位	70
第57図	碁石の形態及び計測部位	71
第58図	砥石の形態及び計測部位	71
第59図	地均石の形態及び計測部位	71
第60図	漁具の形態及び部位名・計測部位	72
第61図	扣石の形態及び部位名・計測部位	72
第62図	鉾山臼（上臼）の形態及び部位名・計測部位	73
第63図	鉾山臼（下臼）の形態及び部位名・計測部位	73
第64図	句碑の形態（一例）及び計測部位	73

表 目 次

第1表 石造物の形態と使用目的 対照表	74
---------------------------	----

図 版 目 次

図面図版

図版1 下相川(1・2) 戸河神社(5・8) 本興寺(9~11)	195
図版2 専光寺跡(13~17) 相川郷土博物館(18~26)	196
図版3 相川郷土博物館(27~42)	197
図版4 相川郷土博物館(43~54)	198
図版5 相川郷土博物館(55~60)	199
図版6 相川郷土博物館(61~80)	200
図版7 相川郷土博物館(81~93)	201
図版8 相川下山之神町(94・95) 大山祇神社(98~101) 総源寺(102~104)	202
図版9 総源寺(105~108) 大乘寺(109~111) 八幡宮(112) 法泉寺(113~115)	203
図版10 法泉寺(116) 万宝院跡(117) 専照寺跡(118~126) 妙音寺跡(127・128)	204
上相川町 (130~132) 関東稲荷(133)	
図版11 関東稲荷(135・136) 称名寺跡(137~139) 覚性寺跡(141~143) 相川諏訪町(145・146)	205
図版12 万照寺(147・148) 相川大工町 北野神社(149~152) 大福寺(153) 西念寺跡(154~157)	206
図版13 連光寺(158) 相川大床屋町(159) 大神宮(160・161) 佐渡奉行所跡(162)	207
図版14 佐渡奉行所跡(163~184)	208
図版15 佐渡奉行所跡(185~196)	209
図版16 佐渡奉行所跡(197~204) 法久寺跡(205・206)	210
図版17 法久寺跡(207) 瑞仙寺(208~213)	211
図版18 善行寺跡(214) 相運寺(215~218) 大超寺跡(219・220) 相川下寺町(221・222)	212
図版19 観音寺(224) 銀山寺跡(225) 高安寺跡(226~229) 昌安寺跡(230-1~230-3)	213
真如院(231) 法輪寺(232) 法然寺(233)	
図版20 法然寺(234~244)	214
図版21 法然寺(245~253) 法輪寺(254~256)	215
図版22 法輪寺(257~260) 本敬寺跡(261) 本典寺(262~265)	216
図版23 本典寺(266~272) 妙円寺(273) 妙輪寺跡(275)	217
図版24 妙輪寺跡(276~278) 蓮長寺(279~281) 広源寺(282・283) 長明寺(284)	218
阿弥陀堂(285・286) 相川塩屋町(287)	
図版25 広永寺(288) 塩竈神社(290~296)	219
図版26 塩竈神社(298) 大安寺(299~305)	220
図版27 大安寺(306)	221
図版28 大安寺(307~312) 相川一町目裏町(313) 玉泉寺(314~317) 金刀比羅神社(318)	222
図版29 金刀比羅神社(321) 来迎時跡(322) 弾誓寺(323~325) 大日堂(327・328)	223
善知鳥神社(329・331・332)	

図版30	熊野神社 (333~339)	観音堂 (341・342)	中山旧道 (343)224
図版31	中山旧道 (344~347)	観音寺 (348・349)	相川鹿伏 (350)225

写真図版

図版32	写真	下相川 (1~4)	戸河神社 (5)226	
図版33	写真	戸河神社 (6~8)	本興寺 (9~11)227	
図版34	写真	相川水金町 (12)	専光寺跡 (13~17)228	
図版35	写真	相川郷土博物館 (18~41)	229	
図版36	写真	相川郷土博物館 (42~59)	230	
図版37	写真	相川郷土博物館 (60~78)	231	
図版38	写真	相川郷土博物館 (79~93)	232	
図版39	写真	相川下山之神町 (94~96-2)	相川下山之神町~相川坂下町 (97)	大山祇神社 (98・99) ...233	
図版40	写真	大山祇神社 (100・101)	総源寺 (102~105)234	
図版41	写真	総源寺 (106~108)	大乘寺 (109-1~109-6)235	
図版42	写真	大乘寺 (109-7~109-15)	236	
図版43	写真	大乘寺 (109-16~109-24)	237	
図版44	写真	大乘寺 (109-25~109-33)	238	
図版45	写真	大乘寺 (109-34~109-42)	239	
図版46	写真	大乘寺 (109-43~109-51)	240	
図版47	写真	大乘寺 (109-52~109-60)	241	
図版48	写真	大乘寺 (109-61~109-69)	242	
図版49	写真	大乘寺 (109-70~109-78)	243	
図版50	写真	大乘寺 (109-79~109-87)	244	
図版51	写真	大乘寺 (109-88~109-91・110・111)	八幡宮 (112)	法泉寺 (113)245	
図版52	写真	法泉寺 (114~116)	万宝院跡 (117)	専照寺跡 (118~122)246	
図版53	写真	専照寺跡 (123~126)	妙音寺跡 (127・128)247	
図版54	写真	上相川町 (129~132)	関東稲荷 (133~136)248	
図版55	写真	称名寺跡 (137~139)	相川宗徳町 (140-1~140-2)	覚性寺跡 (141)249	
図版56	写真	覚性寺跡 (142・143)	相川諏訪町 (144~146)	万照寺 (147・148)250	
図版57	写真	相川大工町 北野神社 (149-阿~151)	251	
図版58	写真	相川大工町 北野神社 (152)	大福寺 (153)	西念寺跡 (154~157)	連光寺 (158) 252
図版59	写真	相川大床屋町 (159)	大神宮 (160・161)	佐渡奉行所跡 (162)253
図版60	写真	佐渡奉行所跡 (163~192)	254	
図版61	写真	佐渡奉行所跡 (193~204)	255	
図版62	写真	法久寺跡 (205~207)	瑞仙寺 (208~213)256	
図版63	写真	善行寺跡 (214)	相運寺 (215-1~215-8)257	
図版64	写真	相運寺 (215-9~215-17)	258	
図版65	写真	相運寺 (215-18~215-26)	259	
図版66	写真	相運寺 (215-27~215-35)	260	
図版67	写真	相運寺 (215-36~215-44)	261	
図版68	写真	相運寺 (215-45~215-53)	262	

図版69	写真	相運寺 (215-54~215-62)	263
図版70	写真	相運寺 (215-63~215-71)	264
図版71	写真	相運寺 (215-72~215-80)	265
図版72	写真	相運寺 (215-81~216-1)	266
図版73	写真	相運寺 (216-2~216-10)	267
図版74	写真	相運寺 (216-11~216-19)	268
図版75	写真	相運寺 (216-20~216-28)	269
図版76	写真	相運寺 (216-29~218) 大超寺跡 (219・220)	270
図版77	写真	相川下寺町 (221~223) 観音寺 (224) 銀山寺跡 (225) 高安寺跡 (226~229)	271
図版78	写真	昌安寺跡 (230-1~230-3) 真如院 (231) 定善寺跡 (232) 法然寺 (233~236)	272
図版79	写真	法然寺 (237~245)	273
図版80	写真	法然寺 (246~252)	274
図版81	写真	法然寺 (253) 法輪寺 (254~259)	275
図版82	写真	法輪寺 (260) 本敬寺跡 (261) 本典寺 (262~268)	276
図版83	写真	本典寺 (269~272) 妙円寺 (273・274) 妙輪寺 (275・276)	277
図版84	写真	妙輪寺跡 (277・278) 蓮長寺 (279~281) 広源寺 (282・283) 長明寺 (284)	278
図版85	写真	阿弥陀堂 (285・286) 相川塩屋町 (287) 広永寺 (288) 相川江戸沢町 (289) …	279
		塩竈神社 (290-ㇿ)	
図版86	写真	塩竈神社 (290-阿~297)	280
図版87	写真	塩竈神社 (298) 大安寺 (299~304)	281
図版88	写真	大安寺 (305~312)	282
図版89	写真	相川一町目裏町 (313) 玉泉寺 (314~317) 金刀比羅神社 (318-阿~320)	283
図版90	写真	金刀比羅神社 (321) 来迎時跡 (322) 弾誓寺 (323~325)	284
図版91	写真	相川下戸町 (326) 大日堂 (327・328) 善知鳥神社 (329-阿~330)	285
図版92	写真	善知鳥神社 (331) 相川下戸村 北野神社 (332) 熊野神社 (333-阿~337)	286
図版93	写真	熊野神社 (338・339) 観音堂 (340~342)	287
図版94	写真	中山旧道 (343~347) 観音寺 (348・349) 相川鹿伏 (350)	288

第Ⅰ章 序 説

1. 調査に至る経緯

相川町立 相川中学校移転後の跡地利用問題

佐渡は古代より砂金の採れる所であったが、相川に1601（慶長6）年金銀山が発見され飛躍的な発展を遂げ、幕府の直轄地となり日本一の金山となった。江戸初期の最盛期には、世界の中でもトップクラスの金山であったといつてよいであろう。

佐渡奉行所跡は、『佐渡年代記』によると、初代佐渡奉行 大久保長安が支配した1603（慶長8）年に相川のうち半田清水ヶ窪の田地を山崎宗清から買い取って着工し、翌春に成就すとあり〔佐渡郡教育会1935〕、鶴子外山から移転し、幕末まで佐渡の支配拠点とした。

当地は敷地も広く、花畑・茶室などを備えた豪華な造りであったが、1618（元和4）年、鎮目市左衛門が奉行となり敷地を縮小し、茶室など贅沢な施設を取り壊した〔田中圭一1968〕。明治時代になると、大改造を加え〔教育財団文庫1901〕佐渡県・相川県の庁舎〔教育財団文庫1913〕に利用し、広間役宅跡には小学校〔相川小学校1889〕、御金蔵跡には警察署〔教育財団文庫1951〕、寄勝場には高等女学校〔県立相川高等学校〕が建ったが、それらが移転した後は佐渡奉行所建物は旧制中学校舎の一部に、他はグラウンドに利用してきた。しかし、1942（昭和17）年12月の火災で奉行所を含め、一切の施設が焼失してしまった。戦後は新制相川中学校が再建されたが、1994（平成6）年の相川中学校移転後に校舎が取り壊されることになった。相川町の中心地 相川の街中に18,000㎡余りの空き地が出現することになったのである。この土地の跡地利用は、地元行政当局にとって大問題である。文化財保護と別の観点からの展望はあった。佐渡奉行所跡正面の堀と道路を挟んだ東向かいに相川町立病院（現：佐渡市立相川病院）がある。この病院と対を成すものとして老人福祉施設を新築するという展望であった。しかし、当時は既に新潟県指定文化財「相川鉾山遺跡」の一つとして文化財保護の網掛けをされており、老人福祉施設建設計画に、文化庁・新潟県教育委員会から歯止めがかかった。施設建設と異なる活用方法を提示する意味で文化庁側から、「地域拠点史跡等総合整備事業」という補助金制度の適用を打診された。この補助金は当時、創設されて間もなかったため、佐渡奉行所跡のような遺跡をモデルケースとして必要としていたのである。これを契機に新潟県指定史跡「相川鉾山遺跡」から国指定史跡「佐渡金山遺跡」となるよう申請した。（ただし、「相川鉾山遺跡」からは、「鎮目奉行の墓」以外の物件を国史跡にした。そして、文化財に指定されていなかった「鐘楼」を「佐渡金山遺跡」に加えた。）

1994（平成6）年5月 文部省告示で国史跡に指定された。

名称 佐渡金山遺跡 7ヶ所

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1 宗太夫間歩 | 相川町大字下相川3-2 |
| 2 南沢疎水道 | 相川町大字南沢150・139-1 |
| | 同 大字大床屋町6-1 |
| | 同 大字左門町12・14・20・22・27・27-2 |
| 3 佐渡奉行所跡 | 相川町大字広間町1-1 |
| 4 大久保長安逆修塔・河村彦左衛門供養塔 | |
| | 相川町大字江戸沢町1-6 |
| 5 鐘楼 | 相川町大字八百屋町4 |

- | | |
|------------|--------------|
| 6 御料局佐渡支庁跡 | 相川町大字坂下町 2 0 |
| 7 道遊の割戸 | 相川町大字銀山町 |

相川町による史跡整備事業

国指定を契機として、1994（平成6）年に相川町教育委員会は「史跡佐渡金山遺跡保存計画策定書」をまとめ、計画策定目的の項で“史跡指定された遺跡・遺構を確実に後世へ残すとともに、史跡指定以外の遺跡・遺構を含めて保存し、文化的・教育的活用を行う”とした。

史跡指定以外の遺跡・遺構取扱い方針は結局この計画の中で示されなかったが、史跡指定の各物件については個別の保存活用方針の大枠を示した。その中で佐渡奉行所跡については発掘調査、文献調査、測量を経て、野外博物館的整備・展示を計画し、文化庁・新潟県教育庁文化行政課の指導のもとに発掘調査を実施することになった。

相川町における上位計画としては1991（平成3）年3月策定の「相川町総合開発計画」がある。この中で述べられている『将来像』には“「文化のまち」地域における文化とのふれあいの機会をひろげ、歴史と風土に根づいた地域文化を創造し、うるおいのあるまちづくりを目指す。”とある。この理念はその後に更新される総合開発計画にも受け継がれる。

「史跡佐渡金山遺跡保存管理計画」策定の翌年の1995（平成7）年3月に策定された「相川町HOPE計画」では計画の目的として“（相川町総合開発計画で示された）将来像の実現を図っていくためには、金山都市という最大の特性を生かした相川町らしいまちづくりを進める必要がある”、1993（平成5）年3月の「伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書」での提言、1993（平成5）年3月の「天領の町づくり推進計画」、1994（平成6）年度の「史跡佐渡金山遺跡保存管理計画策定書」との“整合性を図り、かつ、これらの計画書を一体的にとらえ、金山都市の遺産を活用した総合的なまちづくりを推進する指針を示すこと”とし、博物館法で述べられている伝統的博物館に対する概念として現地展示・住民と行政の二重入力システムを採用するエコミュージアム構想を示した。このように、後に佐渡金銀山遺跡調査の名で、佐渡全島に広がってゆく文化財調査は、佐渡島北端の相川町による史跡整備事業が発端である。

しかし、同時に佐渡金山遺跡の名称で広範囲の指定を受けたことから、空地利活用にとどまらない広がりをもっていくことになる。

1995（平成7）年3月には「佐渡金山奉行所跡保存整備基本計画」ができ、発掘調査と併行して史跡整備を進めることになった。また1995（平成7）年度には佐渡奉行所整備と併行して大久保長安逆修塔保存修理を実施した。整備計画は発掘調査の進展や関係各方面の財政状況を睨みながら毎年度再検討する状態が続いている。

また1998（平成10）年3月には佐渡奉行所一部一般公開に先立って「奉行所周辺整備関連アクセス検討業務報告書」をまとめた。これに関連して佐渡奉行所跡敷地の外側にも2000（平成12）年度に発掘調査が行われることになる。

翌年の2001（平成13）年4月には佐渡奉行所跡高台地区の「御役所」建物の復原がほぼ完成し、一部一般公開を開始し、2004（平成16）年4月には佐渡奉行所跡寄勝場地区に「ガイダンス施設」が完成。学習施設としての態勢が整った。同年には、「鐘楼」の解体修理を実施。有志による鐘撞きが始まった。

佐渡全島における活動

一方、1997（平成9）年に、佐渡金銀山及び関連の文化財を世界遺産（文化遺産）に登録しようとする運動が民間で起こった。（財）佐渡博物館に事務局を置く「世界遺産を考える会」である。行政側もこれ

に呼応して運動推進の受け皿作りを急ぎ、同年中に佐渡郡町村会が「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」を発足させた。この組織は、佐渡島内各市町村から任意額の出資を受けて運営し、事務局を当時の相川町内に置いた。こうして民間の「世界遺産を考える会」が運動の拡大、広報、浸透を担い、行政の「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」が文化財調査を担うという枠組みができた。

「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」は、新潟県教育委員会の支援・指導の下、活動を開始した。島内在住の有識者を調査員に委嘱し、調査団を結成した。

佐渡の貴金属鉱山そのものだけでなく、鉱山がもたらした文化をも調査対象とする方針の下、鉱山部会（前近代・近代）、文化・社会部会（芸能・石造物・陶磁器・寺社・建造物・町並み・窯業）、街道・港湾部会（街道・港湾）、資料調査部会（古文書・絵図絵巻・文献）の各部会を設け、同時併行で調査を進めることとなった。しかし、このやり方は想定を下回る成果しか得られないことが間もなく明らかになる。

そのため、発足から7年目の2004（平成16）年度現在でも、当初、第一段階と位置付けた分布調査の段階にとどまっている。しかし、各調査員の体調・多忙を乗り越えた尽力で成果の上がった部分がある。

これまでに、新潟県歴史の道調査報告書（1998年）・味方家資料調査報告書（2001年）・相川地区間歩分布調査報告書（2003年）・相川地区寺社建造物分布調査報告書（2003年）・金子勘三郎家文書調査報告書（2004年）は、報告書刊行という形で分布状況や現況をまとめた成果である。

佐渡金銀山遺跡・関連文化財分布調査の経過

- | | |
|---------------|--|
| □ 1997（平成9）年 | 世界遺産を考える会発足
佐渡金銀山遺跡整備検討準備会発足 |
| □ 1998（平成10）年 | 新潟県 歴史の道調査（街道調査）
小木街道・赤泊街道・松ヶ崎街道・両津街道・山越道 |
| □ 1999（平成11）年 | 間歩分布調査（採掘現場の分布調査）開始
相川町・佐和田町・真野町・新穂村 |
| □ 2000（平成12）年 | 間歩分布調査（相川町・佐和田町・真野町・新穂村）
寺社調査開始（信仰関連の文化財の調査）
芸能調査開始（能舞台・のろま人形・文弥人形の調査）
資料調査開始（佐渡金銀山関連の古文書の調査） |
| □ 2001（平成13）年 | 間歩分布調査（相川町・佐和田町・真野町・新穂村）
石造物調査（相川町）
芸能調査（能舞台・のろま人形・文弥人形の調査）
資料調査（佐渡金銀山関連の古文書：味方家文書の調査）・報告書刊行 |
| □ 2002（平成14）年 | 間歩分布調査（相川町 佐和田町・真野町・新穂村）
寺社調査（相川町）
芸能調査（能舞台・のろま人形・文弥人形の調査） |

資料調査（佐渡金銀山関連の古文書：金子家文書の調査）

- 2003（平成15）年
- 間歩分布調査（佐和田町・真野町・新穂村）
 - 芸能調査（能舞台・のろま人形・文弥人形の調査）
 - 資料調査（佐渡金銀山関連の古文書：金子家文書の調査）
 - 相川町間歩分布調査 報告書刊行
 - 相川町寺社分布調査 報告書刊行

- 2004（平成16）年
- 間歩分布調査（佐和田地区・真野地区・新穂地区）
 - 相川地区石造物分布調査 報告書刊行

市町村合併への対応

2003（平成15）年4月、相川町に「佐渡金銀山課」が発足した。それまで教育委員会社会教育課で文化財保護を担当していた職員が町長部局に異動して結成した部署であった。職務分掌は「文化財に関すること」と「世界遺産登録推進に関すること」であり、内実にはわか作りの側面を否定できないものの、地元行政当局の意志を内外に広報する効果はあった。

また、2003（平成15）年中には民間側から世界遺産登録推進を盛り上げる団体として「佐渡金銀山友の会」が発足した。先に記した「世界遺産を考える会」とは並立し、相互補完しながら活動が続けている。

2004（平成16）年3月1日に、佐渡島内全市町村が対等合併して「佐渡市」が誕生した。「佐渡金銀山課」は「教育委員会生涯学習課」内の係として「佐渡金銀山室」の名称で継続し、同時に「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」の機能を吸収した。「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」は市町村合併を機に解散した。

現在は「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」に換わる調査組織の立ち上げに向けて準備を進めている。

2005（平成17）年度からは、これまで多くの部署に分散していた佐渡金銀山遺跡関連の事業を「佐渡金銀山室」で一括管理する予定であり、組織の整備とともに、調査の力強い推進を期している。

2. 調査・整理の経過

2001(平成13)年度

この調査は、もともと、「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」に、相川町（当時）管内における調査費を支払うという名目で、事業計画が浮上していた。しかし、予算確保の観点から、国県補助事業として行うこととし、あくまで相川町の事業として実施した。

相川町職員は、調査成果についての著作権はじめ、諸権利には頓着していなかった。そのため、補助事業は「佐渡金銀山遺跡調査検討準備会」のしくみと矛盾する方法ではなかった。

なお、2001（平成13）年度の調査体制は次の通りである。

事業主体	相川町教育委員会	教育長	中村正直
事務局	相川町教育委員会	社会教育課長	斎藤 正
		同 参 事	大平三夫
		同主任調査員	佐藤俊策
		同 主事	斎藤本恭
		同 主事	滝川邦彦

2001（平成13）年度は10月12日より調査を開始した。『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』所収の石塔をはじめ、相川内の寺社にある石塔・石造物を現況確認・計測・見取り図作成・写真撮影・銘文読解し、調査カードに集約した。調査カードをある程度まで仕上げた時点で、この年度は終了した。

2004(平成16)年度

2004（平成16）年度は2001（平成13）年度に作成した見取り図をトレースすることから始めた。

さらに、2001（平成13）年度調査では不足していた石造物・石神仏を調査対象に追加した。

佐渡市教育委員会相川事務所・佐渡市教育委員会佐渡金銀山室職員の協力を得て、資料整理と報告書作成は同時併行で進めた。

なお、2004（平成16）年度の体制は次の通りである。

事業主体	佐渡市教育委員会	教育長	石瀬佳弘
協 力	佐渡市教育委員会	生涯学習課佐渡金銀山室 室長	門口 栄
		同 主事	斎藤本恭
		同 職員	上林章造
事務局	佐渡市教育委員会	相川事務所生涯学習課 課長	大蔵 勇
		同 副参事	柳平則子
		同 主事	滝川邦彦
		同 職員	宇田貴光

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

1. 位置と地理的・歴史的環境

A 位置と地理的環境（第1・2・3図）

佐渡島は、本州、北海道、九州、四国、沖縄を除くと、日本最大の島で、面積約857km²、周囲227kmの広さである。中央の国中平野を挟んで北に大佐渡、南に小佐渡と分かれる。大佐渡山地には標高1,173mの金北山をはじめとして1,000m近い比較的高い山並みが連続し、小佐渡丘陵は標高645mの大地山を最高として比較的低い山並みとなっている。佐渡島で確認される最古の岩石は今からおよそ2～3億年前の古生代後期のものであるが、佐渡島の大部分は火山によってできた火山岩類および日本海の海底で堆積した地層が重なったものである。火山活動は約2,000万年前で、それによって入川層、相川層、真更川層、金北山層が形成された。この火山活動によって、安山岩、流紋岩の溶岩や軽石、火山灰が多量に噴出したが、佐渡鉱山等の金銀鉱床は、この火山活動に関係してできたとされる。他の岩石としては、凝灰岩、玄武岩、硬質頁岩などがある。日本海が誕生するのは今からおよそ1,700万年前である。この時に堆積していったのが下戸層、鶴子層、中山層である。これらの地層が隆起運動で変形しながら海上に現れ、佐渡島が誕生した。佐渡島が現在とほぼ同じ形になったのは今からおよそ数十万年前とされている。第四紀の中頃になると隆起運動が活発となり、高い山地が形成され、それと氷期・間氷期の繰り返しによる海面の上下運動が重なり段丘地形が作られていった。現在5段の段丘面が確認されている。国中平野は中央部が沖積層であるが、周りには中位段丘、低位段丘がよく発達している。加茂湖はこの中位段丘によって囲まれている。平野西側の真野湾にそって八幡砂丘が発達している。[新潟県教委2000]

大佐渡山脈の西側の海沿いは外海府と呼ばれる。金北山を主峰に険しい山々が海岸近くまで迫っている。これらの山々から海へと流れ出る主な河川は38本を数える。

地形は、ほとんどが台地と急斜面となっており（第1・2図）。砂浜の少ない切り立った岩盤からなる海岸線は、国の記念物（名勝）に指定されている。佐渡島は現在も隆起を続け、隆起量は佐渡地域が大きい。集落は、海岸沿いの海成段丘面上や、流出河川によってわずかに形成された扇状地上に立地し、耕作地は主に、集落背後の海成段丘面上に広がっている。集落背後の海成段丘面は、流出河川によって深く挟まれて独立し、舌状台地の形を呈して、集落の背後に迫っている。これらの舌状台地から始まる尾根の上を、南東へ進めば、大佐渡山脈の主稜線を越えて、国中平野へと向かうことができる。

流出河川によって侵食が進んでいき、潟湖が平野化した様子が、佐渡市石花では考古学的に裏付けられている。[相川町教委1983]

相川湾の入江も、そうした侵食による堆積はある程度進んでいたであろうが、大部分は江戸時代以降の埋め立てである。[佐藤俊策1994]

相川湾より南は二見半島と呼ばれ、外海府地域とは区別されている。第四紀の中頃に活発化した隆起運動の大きい区域にあたり、段丘地形がよく発達している。[小林、神蔵1993] 大佐渡山脈の南端にあることから、集落背後の山は緩やかである。灌漑設備が整ってから、集落背後の内陸深くまで耕作地が広がっている。ここの地形もほとんどが、台地と急斜面からなっており、集落は海岸沿いの海成段丘面に立地している。流出河川による侵食は、外海府地域ほど大きくない。

佐渡金山遺跡（第1図-25）は、道遊割戸・父の割戸・大立坑・青盤間歩等を擁する鉱床地域から北沢（濁川）沿いに扇状に広がり、水金沢と間切川（南沢）によって隔てられた2つの尾根の先端部近くまで

が、周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されている。(第2・3図)

2つの尾根うち、南側の尾根(濁川と間切川によってつくられた尾根で、上町台地と呼ばれる)(第2図)は、初期・前期の相川と重なる部分が多い。

例えば(株)ゴールデン佐渡が経営する「佐渡金山」の第3駐車場は、鉾山集落の跡地である。また初期の鉾山集落である「上相川」の一部も、佐渡金山遺跡に含まれる(第3図)。

さらに尾根をさかのぼれば、青野峠を経て鶴子銀山の鉾床地帯へとつながる(第1図)。その尾根の先端部には、佐渡奉行所跡が立地する(第2・3図)。

佐渡奉行所跡は、西側の眼下に相川の町並みを見下ろす場所に建てられたことがわかる。相川の市街地は、海岸に沿って南北に伸びる下町と、前述の緩い傾斜を持った段丘上を東西に伸びる上町(かみまち)からなり、T字状を呈する。上町と下町の間は、勾配の急な段丘斜面によって隔てられている。そのため、上町と下町は、石段のあるいくつかの坂道で結ばれている(第2・3図)。

B 相川地区の遺跡(第1図)

佐渡島では、旧石器時代の遺物が単独資料では見られるが、追加資料の出現が待たれている状況である。[堅木1998] 相川地区では、旧石器時代のものと言える資料は、採集されていない。

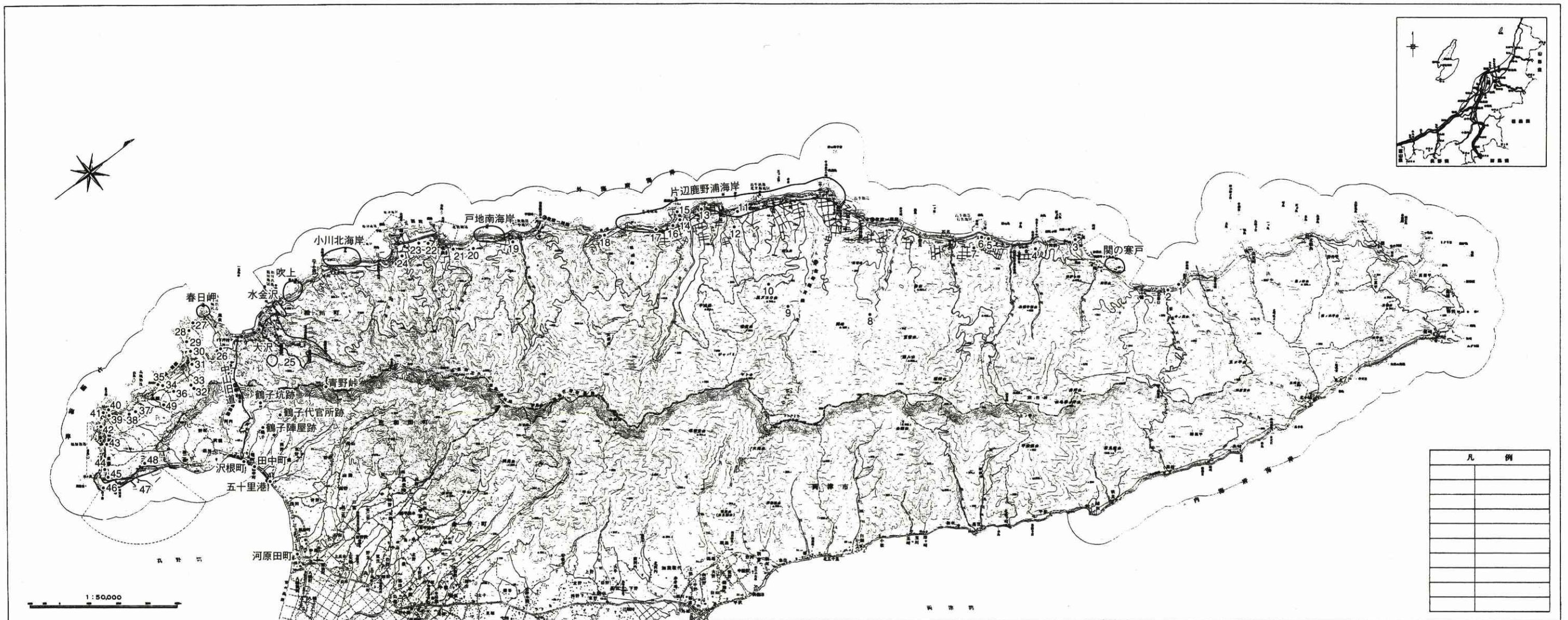
縄文時代にはいると、縄文早期の資料が南佐渡に主に見られる。縄文中期には、遺跡が全島で見られるようになる。国中平野では、海水湾入部の台地先端に集中して遺跡が分布するが、相川地区のある大佐渡山系西側の海成段丘面には、面積の狭小な石器・土器の散布地や海食洞穴が分布する。事例の増加を待たなければならないが、定住的な遺構を明確に伴わない遺跡が、分布すると言える。[佐藤俊策1993]

弥生時代の遺跡では、中期以降のものが確認されている。それらは、弥生時代中期以降の国中平野での、半専門的な稲作を裏付ける遺跡とは異なり、面積の狭小な土器散布地や海岸沿いの土器散布地である。[新潟県考古学会1999] 本格的に調査された佐渡市高瀬の夫婦岩・浜端洞穴遺跡(第1図-34・35)では、弥生中期の北陸系・東北系の土器が共伴し、管玉製作時に出土した剥片と思われる緑色凝灰岩片、ト骨片、天王山式土器が出土した。[相川郷土博物館1969]

佐渡島では、今のところ、前期古墳は発見されていない。しかし、佐渡市相川鹿伏出土と伝えられる宮内庁所蔵資料には、碧玉製車輪石・金環・ガラス製小玉など24点があり、前期古墳の存在が窺える。古墳時代後期には、海岸沿いの土器散布地とともに、6世紀頃の北九州系と見られる石室をもつ台ヶ鼻古墳、6世紀後半以降築造のものでは二見半島の西半に8つの円墳が、これまでに確認されている(第1図-27・28・29・30・40・41・42・46)。[相川郷土博物館1964 新潟県考古学会1999] いずれも、海成段丘端の海岸を見下ろす位置に、築造されている。これらの古墳では、佐渡市橘の橘古墳が、1960(昭和35)年に調査された。古墳は盗掘されていたが、横穴式石室から壮年男子2体以上の人骨、碧玉製管玉・ガラス製切子玉・滑石製白玉・直刀・鉄鏃・鏢・鎌・鍬・土師器が出土した。[相川郷土博物館1961]

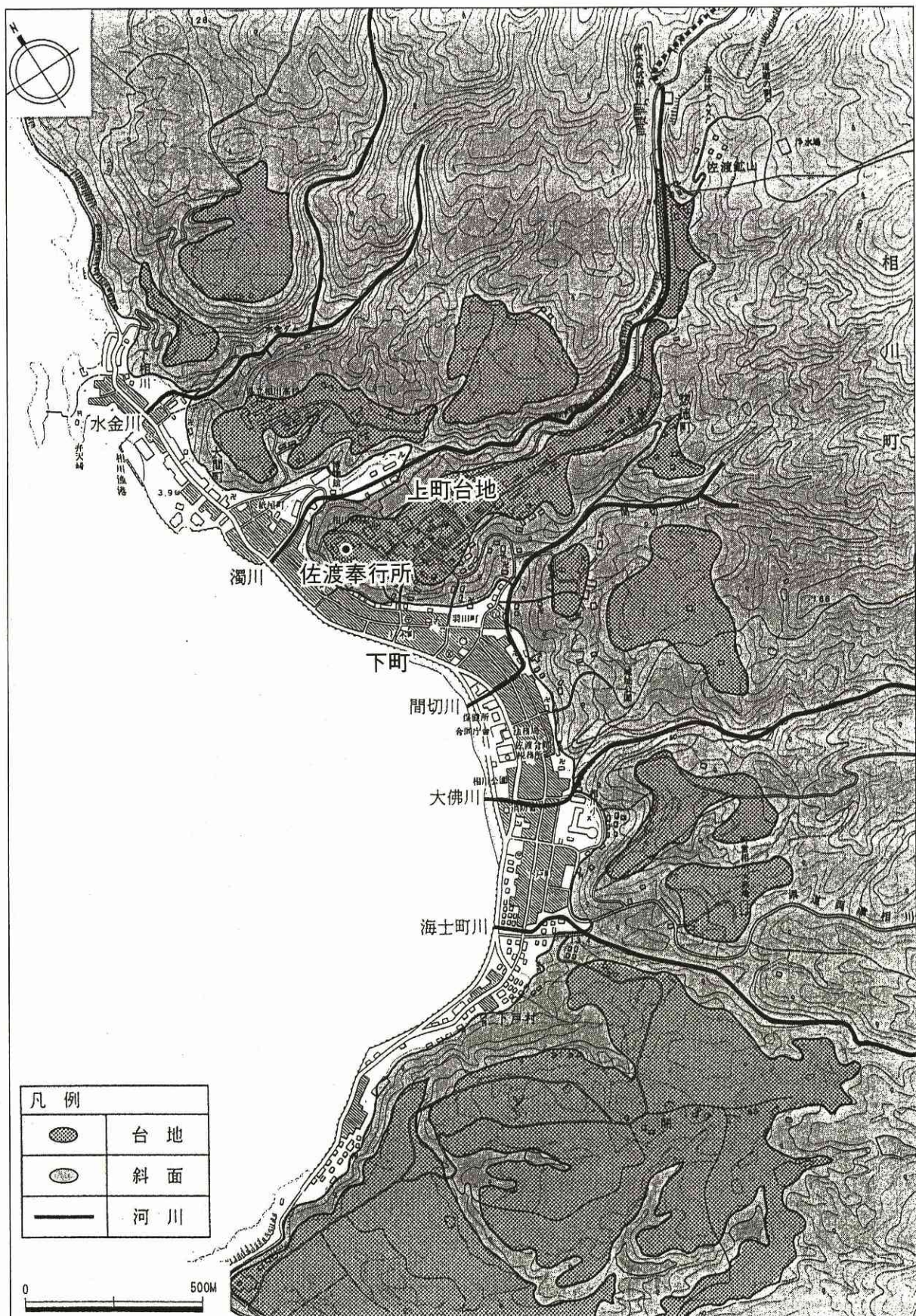
外海府地区では、同時期の古墳は確認されていないが、二見半島での遺跡分布が示すように、海における生業を前提にした生活に不都合があったとは考えられず、事実、弥生～古墳時代の土器片は採集されている。[金沢他1964]

奈良・平安時代には、海岸沿いに広範に、製塩土器が散布する地点が確認されるようになる。二見半島では、8世紀前半に、須恵器生産が開始され(第1図-32・36・49)、9世紀中葉以降、佐渡市小泊に佐渡島内の須恵器生産地が集約されるまで操業された。8世紀前半における須恵器生産開始の背景には、律令制下における、手工業生産体制の整備等の事情が考えられ、二見半島の須恵器生産終了後も10世紀まで相川地区の海岸沿いで続く製塩遺跡は、その流れの中で考えられる。[坂井1990 坂井他1991]



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	泊川	不詳	14	馬場	奈良・平安	27	谷地2号墳	古墳	40	橘古墳	古墳
2	岩屋口岩屋山洞窟	縄文～古墳	15	藻浦岬	古墳	28	谷地3号墳	古墳	41	宮の浦古墳	古墳
3	禿の高	縄文～平安	16	北片辺城	中世	29	岩塚古墳	古墳	42	稲鯨古墳	古墳
4	大倉城	中世	17	松島川	縄文	30	岩塚2号古墳	古墳	43	稲鯨城本丸	中世
5	小僧の川	古墳	18	安寿塚	中世	31	大浦城	中世	44	貝の平	平安
6	小田南	古墳	19	大塚	縄文	32	石地河内	奈良	45	須行笠	平安
7	小田城	中世	20	戸地中尾	縄文	33	大浦鉾山	江戸	46	台ヶ鼻古墳	古墳
8	小野見鉾山	江戸	21	大野	縄文	34	浜端洞穴	弥生・古墳	47	二見製塩遺跡群	奈良・平安
9	入川鉾山	江戸	22	中道	縄文	35	夫婦岩洞穴	弥生・古墳	48	二見鉾山跡	江戸
10	立島鉾山	江戸	23	鎌倉どん	中世	36	苗代の腰	奈良	49	高瀬穴窯	奈良
11	北河内熊野内	古墳	24	嘉右エ門畑	縄文	37	伝助畑	平安			
12	北河内城	中世	25	佐渡金山	江戸	38	塔の上	古墳～平安			
13	石花城	中世	26	開	縄文	39	橘城	中世			

第1図 佐渡島 大佐渡地域の地形・遺跡



第2図 相川周辺の地形（相川町教委 1995より転載）

この頃、外海府地区の石花川河口近くで営まれた集落遺跡である馬場遺跡（第1図-14）が、1982（昭和57）年に本格的に調査され、6世紀～9世紀までの土器・須恵器が出土している。この遺跡の調査にかかった部分は、海岸砂丘上の祭祀遺跡と捉えられた。その立地から、港湾機能が想定される。[相川町教委1983]

相川地区では、中世前半の遺跡は判然としない。中世後期になると、海岸沿いにて塩焼きを想起させる地名の他、相川・二見半島には、地面を掘り込んで壁面が真っ赤に焼けている穴が3例ほど知られる。これらは、鉄釜による煎焼が想定され、実際に二見半島の送崎遺跡（第1図-47）では、14世紀の珠洲焼が出土している。[金沢1966 坂井1990 佐藤俊策1994]

現在の集落の背後に聳える海成段丘端には、中世の遺物散布地や城郭の縄張りが確認され、佐渡市北片辺の北片辺城跡（第1図-16）が、1984（昭和59）年に調査されている。北片辺城跡の調査では、柱穴・堀状遺構が検出され、中世の包含層とされる土層から、珠洲・須恵器・瀬戸美濃陶器が出土している。[相川町教委1985]

16世紀には、砂金採取によらない金・銀の採掘が、採掘地に隣接した場所に、鉱山集落を伴って行われるようになり、二見半島「野坂」・相川の山奥「上相川」に集落跡が残る。外海府地区にも、段丘上の地名から、中世の採掘が想起されている。

江戸時代に入ると、相川の鉱山が、莫大な投資を得て採掘されるようになる。二見半島や外海府地区でも、沢沿いで、坑道掘りによる小規模な採掘は常に行われ（第1図-8・9・10・33・48）、採石業・製炭業とともに、相川金銀山の補助的な役割を果たした。[小菅1966]

相川では、佐渡市下相川に、江戸時代初め石工専門の集落ができた。下相川の一帯には、吹上（球顆状流紋岩）、水金沢（凝灰角礫岩）、大沢（安山岩、安山岩質凝灰岩）等の石材産地があった。外海府方面、二見方面では佐渡市関の寒戸（石英安山岩）、片辺鹿野浦海岸（礫岩）、佐渡市戸地南海岸（溶結凝灰岩）、佐渡市小川北海岸（凝灰岩）、佐渡市相川鹿伏の春日崎（凝灰角礫岩）等がある。この中で、片辺鹿野浦海岸の礫岩は、鉱山臼の下臼に使用された。その石切丁場開発は、江戸時代の初め頃である。また、下相川字吹上の球顆状流紋岩は、鉱山臼の上臼に使用された（第1図）。[相川町史編集委員会1973]

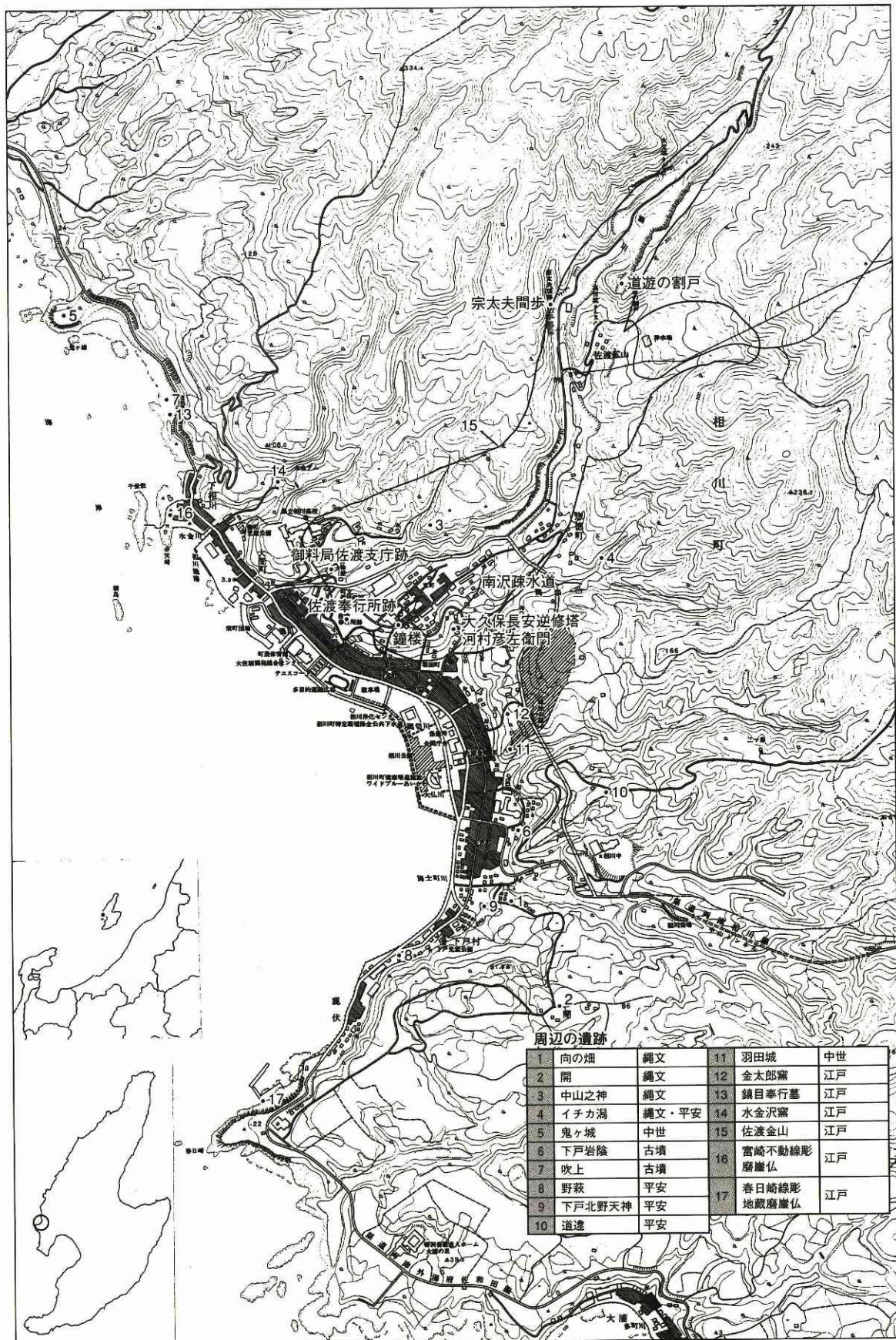
C 相川周辺の遺跡（第3図）

相川とその周辺には、縄文時代～江戸時代の遺跡が見られる。海成段丘上には、縄文時代・奈良平安時代・中世の遺跡がある。吹上遺跡（第3図-7）のような海岸のすぐ近くにある遺跡からは、製塩土器が出土する。相川の下町地区は、17世紀初頭から18世紀初頭にかけての埋め立てによって造成された部分が多いことから、中世以前には、海浜と低湿地が広がっていたと思われる。

下町地区での土木工事・建設工事の際に発見された下戸岩陰遺跡（古墳）（第3図-6）、佐渡市相川塩屋町の赤化した海浜層（塩焼きの跡か）[佐藤俊策1994]は、当時の海岸線に沿って立地していたものである。このことから、中世以前の人々は、海成段丘上のわずかな平坦地で主に耕作・居住し、段丘崖の手前まで迫る海を利用して生活していた様子がわかる。

D 相川の成立・展開（第1・3・4・5・6図）

佐渡島の中世における支配者は、本間氏である。本間氏は大仏北条氏の家臣であり、承久の乱後に地頭代として佐渡に入国し、土着の支配階層を温存しながら配下に治め、開発に伴って徐々に増加する所領を庶子に分け与えながら分立し、越後の上杉氏の佐渡攻略による敗北まで実質的に佐渡を支配した、とのイメージが定着している。[田中聡2000]



第3図 相川周辺の遺跡

時代は下るが、室町時代後期の佐渡における一般的な農村支配形態は、穀倉地帯を押さえた強大な力をもった地頭（代）のもとに、各村々にはその代官である村殿（在地名主）がおり、村殿はさらにその下に「垣の内」民の代表者である殿原（二次的な名主）を把握して、段階的に年貢収取に当たるといった構造をもっていたことが、明らかにされている。[山本1966]

鶴子銀山（第1図）で、1542（天文11）年頃に鉱石の採掘が始まると、貴金属の生産量が飛躍的に増加すると同時に、採掘地の近隣に採掘・精錬の固定的な拠点が必要になり、鉱山集落が出現するようになった。[小菅1995] こうして生まれた鉱山集落を地名からうかがうと、採掘現場と集落の境界付近に「代官屋敷」「出居の内」などの地名が認められ、「出居の内」は低い土塁に囲まれて他と区別されている。また付近からは土器・鉱滓が出土する。このことから、支配者が採掘を直接支配する代官の館や鍛冶の施設がおかれていたことがわかる。

その頃、この鉱山集落の下流に当たる地域の沢根・五十里（現在の佐渡市沢根町付近）では、それぞれの村殿が、海岸沿いから背後の海成段丘上に、居館を移すようになる。また沢根・五十里を領有していた河原田本間氏も、それまでの居館を背後の山に移して、海岸の砂州上に城下町として河原田町（現在の佐渡市河原田本町・河原田諏訪町付近）の町割を行ったのは、1560（永禄3）年である。河原田町の領主である河原田本間氏は、1589（天正17）年上杉景勝の佐渡攻略によって滅ぼされるが、河原田・沢根・五十里は存続した。（第1図） [田中圭一1993]

戦国期の鉱石採掘は、初め、山頂の地表部に近い富鉱帯の鉱石を、露天掘り式に掘り進むか、地表部の鉱脈を、溝状に掘削したものと考えられる。岩盤の中に穴を掘って掘り進む坑道掘りの始原について、記録はないが、露天掘りや溝掘りで地表に近い鉱石を掘り尽くす段階で、自然発生的に始まったものと思われる、16世紀の半ば頃に、坑道掘りと灰吹法による銀生産が、全国的に普及したと考える研究者もいる。[小菅1995]

佐渡島内で、坑道掘りと灰吹法による採掘が行われるようになった時期については前述のとおりだが、鶴子銀山の奥山に位置し、岩質の硬い相川金銀山の再開発が、前記の2つの技術の組み合わせによって初めて可能になったのは想像に難くない。

現在の相川に当たる地域では、16世紀の末に「金山町」が1601（慶長6）年の六十枚間歩・道遊・父（てて）の割戸の開発を予測して行政的に独立している。[佐藤利夫1993] この鉱山集落は、江戸時代の資料では、「上相川」と呼ばれている地区である。立地上、相川湾から物資を出入りさせた方が、効率が良いように見える。事実、佐渡市下相川の戸川山本興寺は、1506（永正3）年あるいは1572（元亀3）年の開山と伝えられる[佐藤利夫1993]。しかし、主に、この鉱山集落（上相川）への物資の出入りは、上相川番所・六十枚番所をへて峠越えで沢根・五十里にて行われていたようである。

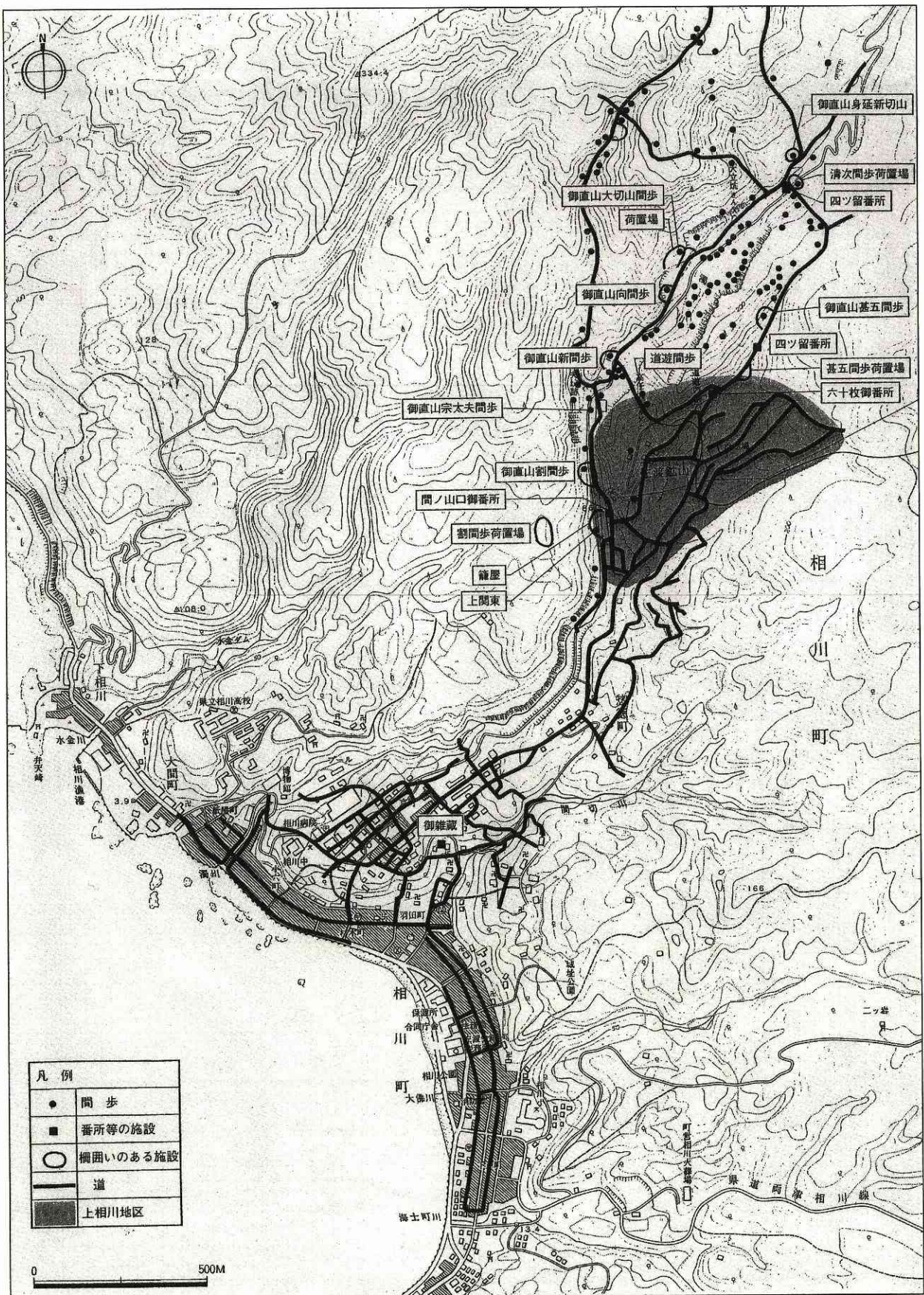
上相川と呼ばれる地区以外にも、鉱山町は広がっていた。例えば、1600年頃には、左沢の鉱床の開発拠点として、「間ノ山」（現在の史跡佐渡金山第3駐車場）に鉱山集落があった[真島1993]。

また1603（慶長8）年以前には、関原宗清という山師が、後に佐渡奉行所が置かれる上町台地先端部を、所有していたことがわかっている。[相川町史編集委員会1978]

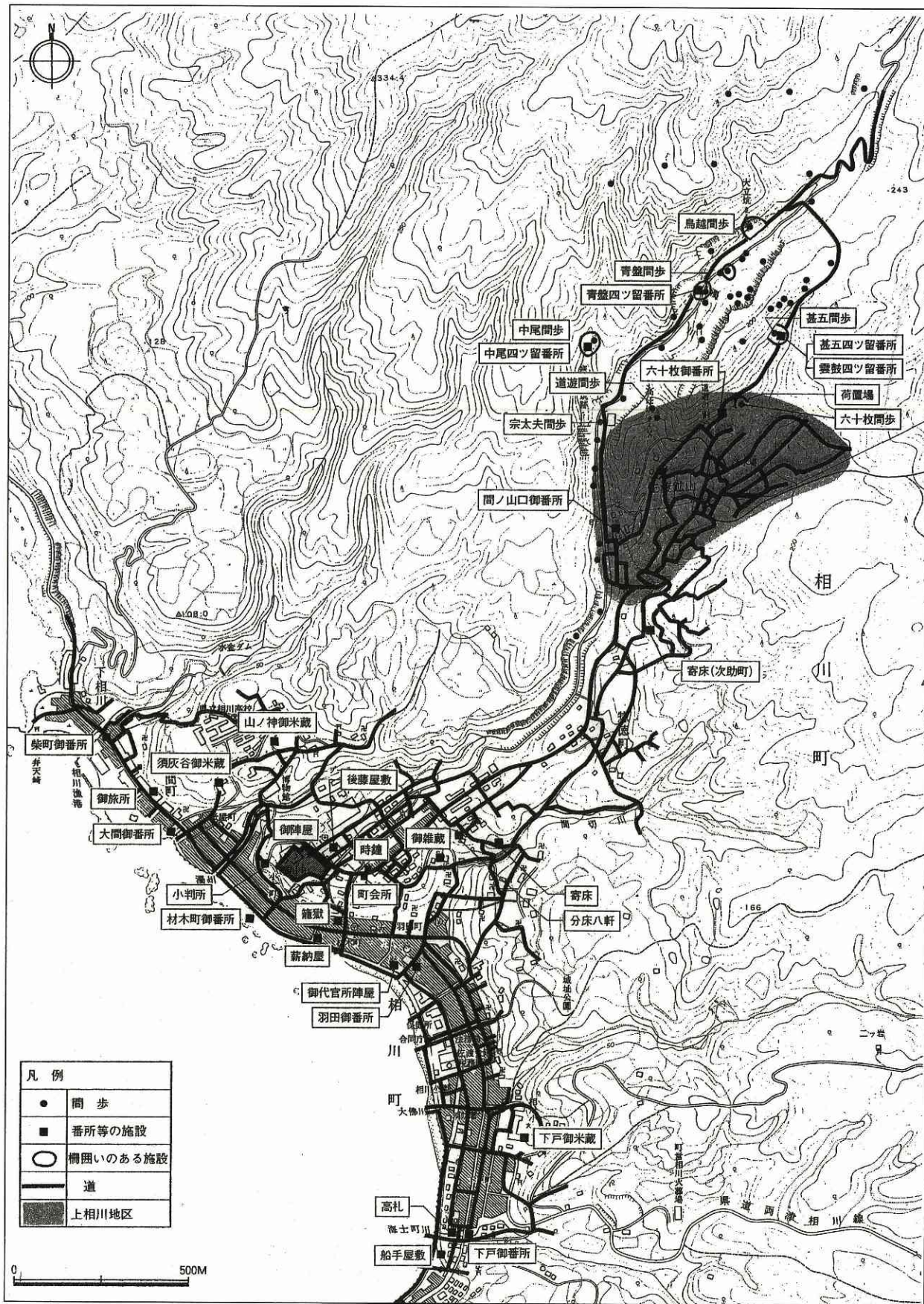
1600（慶長5）年、佐渡の代官となった田中清六は、五十里地内に館を構えて、沢根の商人と利害対立する形で五十里に港湾施設を整え、物資の輸送に力を入れる。

田中清六は、専ら鉱石の採掘・精錬を行う上相川への物資輸送では、隔地間の価格差を利用して莫大な利益をあげたとされる。

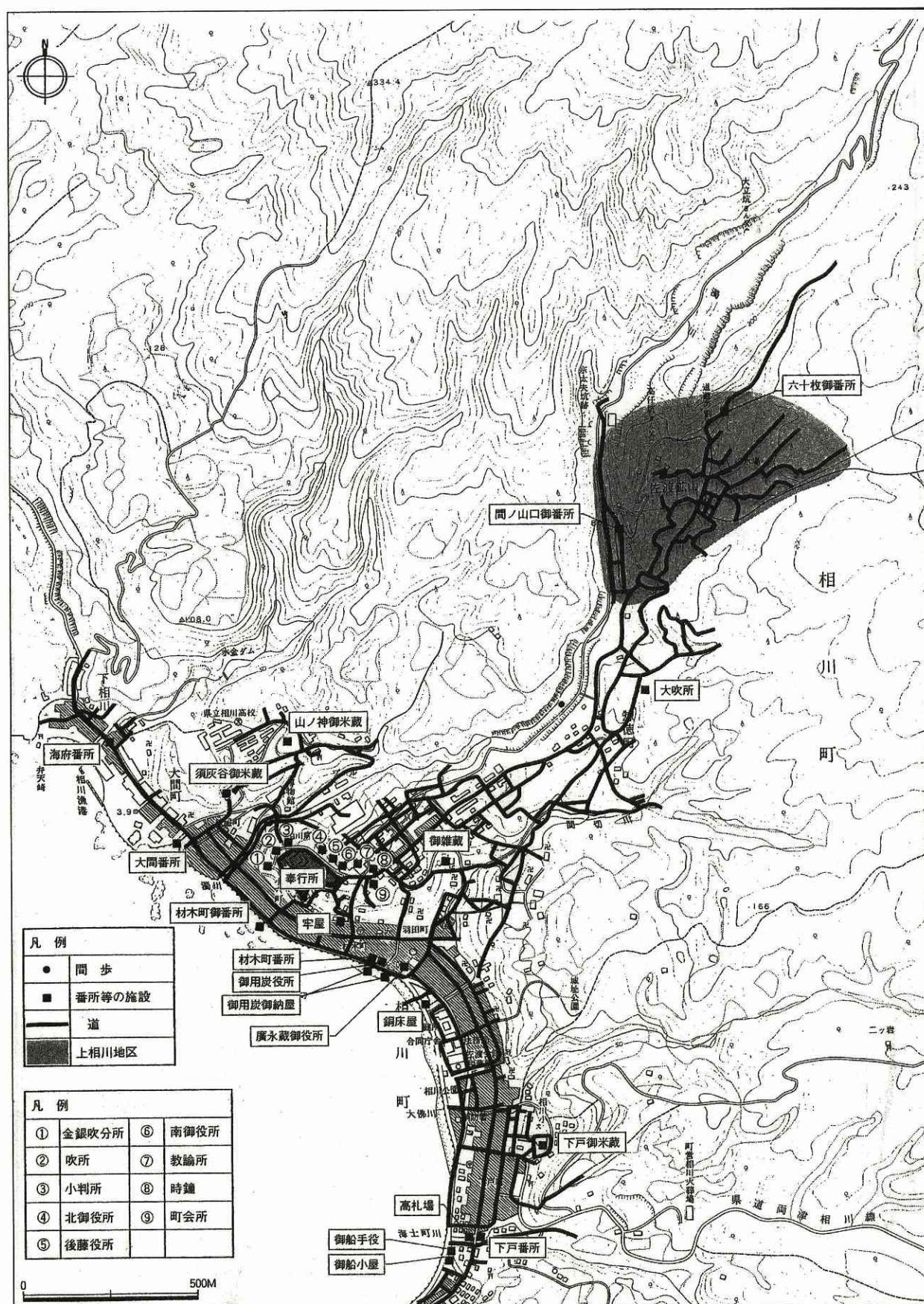
しかし、急速に増大する鉱山町人口に物資の供給が追いつかず、また運上入札制のもと、野放図な鉱石



第4図 相川近世遺構分布図（1694年）（相川町教委 1994より転載）



第5図 相川近世遺構分布図（1753年）（相川町教委 1994より転載）



第6図 相川近世遺構分布図（1826年）（相川町教委 1994より転載）

採掘がもたらす鉱山の荒廃が表面化して、田中清六は更迭され、1603（慶長8）年、大久保長安が佐渡の代官となった。

このときの大久保長安らにとっての急務は、谷底から排水坑を多く掘って水没した坑道を再興すること、不足物資を他国から供給して物価を安定させることであった。そこで、それまで鶴子にあった代官所（のちに「佐渡奉行所」と呼ばれる機関）を、相川湾を見下ろす上町台地先端に移し、翌年に完成してから佐渡へ渡り、金銀山の検分をし、具体的な都市計画を指揮した。

都市計画の骨子は、鉱山から上町台地の尾根伝いに道路をつけて、鉱山－佐渡奉行所（当時は陣屋と呼ばれた）－相川湾の港を結び付け、相川湾の港には荷揚げ場を設けて、それぞれに番所を置き、取扱い商品別に商人を集住させて座を組織させ物資を集めさせ、沢根・五十里に港湾機能を依存しないようにするというものであった。物資が潤沢に供給できるようになると、専売の特権は意義が薄れて、取扱い商品別の集住は崩れていく[田中圭一1993]が、現在も、相川には商品名のついた町名が残る。

相川成立以前からあった鉱山集落は、その後も鉱石採掘の拠点として存続した（第4・5・6図）。

1620年代からは、代官頭としての性格を帯びた人物が相川に滞在して、地方代官が佐渡島内各地の代官所に赴任する、というやり方を改めて、佐渡島内各所の代官を相川の佐渡奉行所に呼び戻し、河原田・小木・赤泊・夷などの代官所をなくしていった。代官所に替わって、他国移入の物資や人々の往来を支配統制し、関税徴収事務を行う「番所」の機能を充実させていく。[相川町史編纂委員会1978]

こうして、相川の機能は鉱山町としてよりも、佐渡一国支配のための府としての意味が強まる。そして一町目から四町目までの埋め立て（1629年）から市町の形成（1710年代）に至るまで町屋が広がり、下町地区が発展していく（第4・5・6図）。[佐藤利夫1993]

E 近・現代の相川

1868（明治元）年、新政府は佐渡県を置き、1869（明治2）年に越後府の直轄となり、1871（明治4）年には佐渡県が相川県に改められた。その後、1876（明治9）年に、新潟県に合併され、新潟県佐渡支庁の直轄となった。これにともない、佐渡奉行所跡は佐渡郡役所として使用され、1942（昭和17）年の焼失まで、行政の中心地としての役割を果たしていた。

江戸時代に繁栄していた「上相川」周辺の集落は、鉱山の近代化技術導入とともに衰退し、現在は佐渡市相川大工町から佐渡市相川京町にかけて、当時の町割を残している。

「明治八年八月相川諸方地理乃図」と「大正十四年九月相川市街図」を比較すると、後者には佐渡郡役所敷地内に相川中学校が建設されており、隣地には警察署、裁判所、鉱山病院が記されている。海岸部は板町と材木町と新材木町が材木町に、上羽田町と下羽田町が羽田町に統合されるなど町名変更がみられるものの、町割に大きな改変はみられない。佐渡市沢根へ通じていた中山道は、旧道の両側の山を開鑿して1885（明治18）年に中山新道が完成し、1924（大正13）年には中山隧道が落成した。

したがって現在の海岸線を通る主要地方道両津・鷺崎・佐和田線ができるまでは、金銀山から海沿いにかけて、江戸時代の町割りがあるまま残っていたと考えられる。

明治時代以後、佐渡近鉱山の近代化にともなう大立・高任・間の山・北沢・大間といった主要地区の開発や、これらを結ぶ軌道の敷設などにより、濁川沿いの景観は激変する。特に、1891（明治24）年の大間港の完工、1937（昭和12）年の北沢浮選鉱場完成は、大規模な開発であり、現在も巨大な遺構が残されている。

1952（昭和27）年、佐渡鉱山が、所有資産及び資金援助（相川町に対して）と引き換えに、企業合理化を実施し、鉱山従業員とその家族合わせて2000人余りが町を去った。鉱山が大縮小する前の相川町人口は、

8324人であった。他に鉱山への出入り業者、鉱山から納付される税金収入等を合わせるといかに、当時、鉱山が相川町に与えていた影響が大きかったかがわかる。その後、相川は、鉱山以外の産業に将来展望を託すことになる。[相川町史編纂委員会1995]

戦後の、自動車社会への転換にともなう交通量の増加から、1965（昭和40）年に現在の主要地方道両津・鷺崎・佐和田線が完成し、旧来の砂浜は姿を消した。さらに、1976（昭和51）年より、この県道から海岸側部分の埋立て工事が始まり、町民体育館や多目的運動広場などの主要施設が建設された。

大間港では1963（昭和38）年からはじまった漁港整備事業にともない、1967（昭和42）年に大間港に隣接して相川漁港が完成した。

1978（昭和53）年頃までは、大間港と二見港の2港で鉱石の積込を行っていたが、その後、二見港に一本化され、大間港は鉱山施設としての役目を終えた。

また、中山新道は、1987（昭和62）年に、旧中山道を挟んだ西側に建設された中山トンネルに切り替えられ、現在の主要地方道相川・佐和田線となる。

1989（平成元）年には、細々と最後まで続けていた鉱石採掘作業を中断し、鉱山は休山状態に入り、400年近い鉱山の槌音が消えた。

2001（平成13）年には、相川市街地の通過交通の過密を緩和するため、県道白雲台・乙和池・相川線へ至るバイパス道が完成した。[相川町2004]

今、鉱山の休山・資源の国中平野集中を受け、相川地区からの人口流出は、ますます激しくなっている。緩やかでも着実に進んできた衰退の波は、ついに止まることはなかった。[金井透 1993]

鉱山の機械化・規模縮小・休山、国・県行政機関の縮小、土木関連予算削減、佐渡市発足に伴う行政職員の流出、観光業の不振と、相川は次々とその基盤を失いつつある。インフラとしての相川は、そして、ここに住む人たちがふるさととして特別な思い入れを抱く対象としての相川はこれからどうなってゆくのだろうか。

F 石材と産地（第1・7図）

主な石材の産地としては、佐渡市小泊（石英安山岩）、佐渡市椿尾（花崗岩）があげられる。（第7図）相川の古い墓及び石造物は、ほとんどこの二つの石材で造られている。小泊と椿尾は、江戸時代の佐渡における代表的な石材産地であった。

相川では、佐渡市下相川に、江戸時代のはじめ石工專業の集落ができたこともあって、下相川一帯にかなりの産地がある。吹上（球顆状流紋岩）、水金沢（凝灰角礫岩）、大沢（安山岩、安山岩質凝灰岩）に大別できる。ここから採石した石材でつくられた墓、石造物も多く見られる。（第1図）

外海府方面、二見方面の石材産地としては、佐渡市関の寒戸（石英安山岩）、片辺鹿野浦海岸（礫岩）、佐渡市戸地南海岸（熔結凝灰岩）、佐渡市小川北海岸（凝灰岩）、佐渡市相川鹿伏の春日崎（凝灰角礫岩）等があり、これらはその土地の墓の石材として用いられている。この中で片辺鹿野浦海岸の礫岩は、鉱山の鉱石粉碎用石磨材として多量に使われて、その石切丁場開発は江戸時代のはじめごろまでにさかのぼる。（第1図）

なおほかにも、各村落にわたって、小規模な石材採取の跡が見られるが、最近では島外からの花崗岩（みかげ石）の大量移入のため、ほとんど採取されていない。しかし、石垣石の採取は各地で行われている。

ところで、古くは島外から運ばれた石材の記録があるが、現在までの調査では、佐渡市岩谷口の船登源右エ門一族の墓等が、越前（福井県）から運ばれた笏谷石（凝灰岩）ではないかとみられている。また佐

渡市松ヶ崎の本行寺境内にある延宝期の石灯籠は、明らかに佐渡産出の花崗岩と異なり島外から運ばれた形跡が見られる。[相川町史編集委員会1973に加筆]

石材の特色は以下のとおりである。

小泊石（石英安山岩）（第7図）

造岩鉱物として石英、斜長石がおもに見られる。わずかに角閃石の見えるものもある。中色の岩石であるが、風化したものは淡褐色である。比較的堅硬で細工には手間がかかる。したがって風化しにくい。古い五輪塔、板石形石塔、手洗い鉢に多く使用されている。石材としての使用は椿尾石の切り出しよりも先がけていて、室町以前にもこの石材を用いた墓も少なくない。

椿尾石（第7図）

俗に「佐渡みかけ」といわれる石材で、造岩鉱物は石英、長石、角閃石等がおもに見られる。一般的な花崗岩に比べ、石英分が少なく（花崗岩としてもっとも必要な石英分20%以上、の条件には疑問もあるが）、比較的粗粒で軟質、風化ははげしく、ゴマ塩様に見える中色、または優白質に近い岩石である。細工は小泊石よりも容易で、五輪塔はじめ各種の石造物特に地蔵等多方面に使用され、その細工は小泊石とともに全島に分布し、相川でも石造物の主流を占めている。

吹上石（球顆状流紋岩）（第1図）

造岩鉱物は石英、長石等がおもに見える。多数の球顆を含む流紋岩である。球顆は一種または二種以上の繊維状鉱物が放射状または、同心円状に集合したもので球顆の間には緻密な隠微晶質の石基がある。美しい菊花状集合体のものもあり、淡桃色、淡褐色、緑色、または、それらが混じりあっているものがある。硬くて風化はしがたく、しみ割れ等も生じにくく、採石の場合切り出し作業も難しい。したがって、細工は困難であるが鉱山の鉱石粉磨用に使用するほか石垣、まれに墓、手洗い鉢用の石材として見られる。

水金沢石（凝灰角礫岩）（第1図）

鉱山付近の水金沢をはじめ相川では広く分布している岩石で葉層状凝灰角礫岩、凝灰質頁岩、および細粒凝灰岩も少しは見られるが、これらの分布は限られる。石材として採取されているのは凝灰角礫岩がほとんどである。淡緑色、灰緑色のものが多い。凝灰角礫岩の礫は細、中礫の亜角礫状のものが多く灰緑色、赤褐色、青黒色の安山岩、流紋岩、黒色頁岩等である。比較的軟らかで、風化しやすく、しみ割れも生じやすい。採石の場合、切り出しも容易である。したがって細工は容易であるが風化しやすいので、もとの形をとどめているものが少ない。墓、流し石、水車小屋の石うす、火消し等の石材として使用されている。

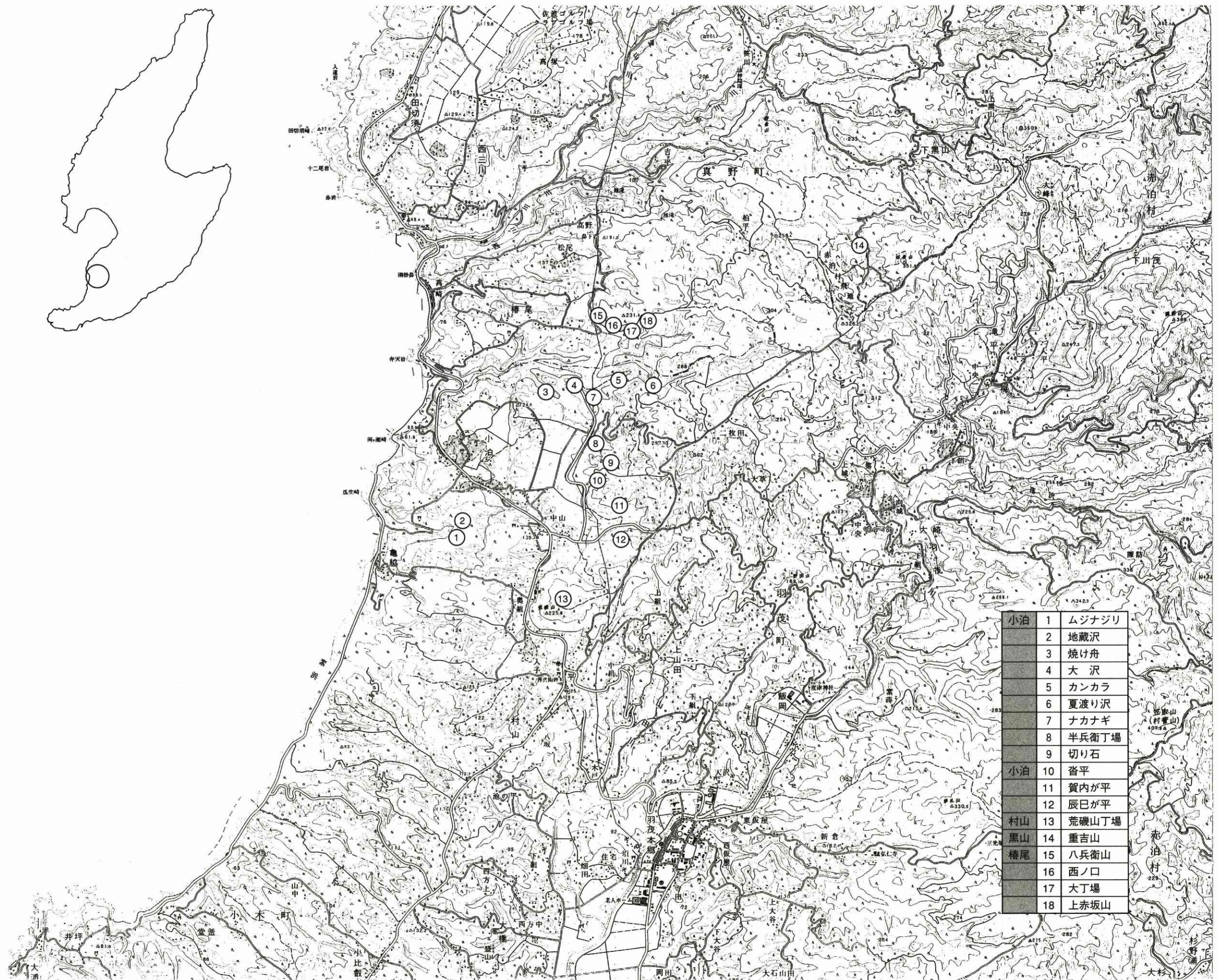
大沢石（安山岩、安山岩質凝灰岩）（第1図）

灰黒色で流紋岩、黒色頁岩等の破片をともなっている安山岩、あるいは安山岩質凝灰岩で、硬さも普通の比較的均質な岩石である。風化もそれほどはげしくなく、しみ割れ等も少ない。したがって切り出し作業、細工も容易なので墓、石垣石、手洗鉢、鳥居、等の石材として昭和のはじめころまでかなり使用されている。

片辺礫岩（礫岩）（第1図）

片辺から鹿野浦に至る海岸には、花崗岩礫を多量に含む礫岩が分布している。この特殊な礫岩を片辺礫岩とよび、片辺南海岸より鹿野浦に分布する塊状、無層理のものと、平根崎、戸中付近に分布する層理が発達し、砂岩、珪質細粒凝灰岩と互層するものがある。石材として切り出されたものは前者で、分布が海岸沿いに限られ、花崗礫岩がほぼ80～90%を占める礫岩で、基質は灰緑岩、帯黄緑色で、ときに暗緑色を呈する花崗岩の破片および安山岩質凝灰岩である。まれに30cm程度の砂岩をはさんでいる。全体として非常に硬く、柱状節理がほぼ垂直に発達して、断崖をつくり、遠望すると火成岩体のような産状を示している。

細工は比較的容易ではない、用途は前述のように鉱山の鉱石粉磨用石磨材として多量に使われて、その石切丁場は、海岸沿いの断崖、波打ち際等に美しいノミ跡を残している。[相川町史編集委員会1973]



第7図 小泊・椿尾石材産地分布図（藤井三好 1998をもとに作図）

2. 石造物の生産と流通

いつ頃から作られたか

佐渡の石仏がいつ頃、どうして作られるようになっていったか。それを物語るのに二つの口碑が伝わっている。

その一つは、佐渡の石工の起源は新羅王が伝来したということ。

その二は、平家の落人、弥兵衛宗清の末裔が、故あって当国へ来て始めた。

というものである。

上のうち、その一は何の根拠もなさそうである。その二は、小泊の石屋の起原伝説であって、平氏の重盛の子、宗清は、平家の没落ののち、三河国岡崎に隠れ、また伊賀上野にも居り、その子の権三郎は佐渡の小泊の海岸から上がり、下河内に居てそののちに現在の屋敷へ引き移って石細工に妙を得た（『西三河村志』）としている。三河国岡崎は石屋の産地である。小泊は岡崎の姓が多い。これらのことは、小泊の石屋の起原をひもどく一つの鍵であるようにも思える。

右の口碑のほか、記録にあらわれるのは、『佐渡相川志』、『佐渡年代記』などがあげられる。

『佐渡相川志』巻三の「石工（いしきり）」に、

慶長年中ニ越中ヨリ五郎兵衛ト伝フ石工来リテ此業ヲ勤ム。陣屋或ハ味方孫太夫屋敷木原正順等ガ石垣ヲ築ク。其外諸方ノ石細工ヲナセシヨリ弟子多ク付キテ次第ニ広ガルトゾ今ニ一町此業ヲ勤ム。石切町下相川ニアリ。とあり、

『佐渡年代記』巻之六、天和三壬戌年（一六八二）の項には、

一、八月十六日下相川村石屋作兵衛又右衛門坏云者共勝場入用ノ磨下丁場出入訴出ルニ付取糺ス所慶長年中銀山立始リノ砌播州見影ヨリ石切四兵衛源右衛門ト言者来リ見影ヨリ石ヲ廻シ磨石ニ用ヒ亦越後国山ノ下黒岩歌村ヨリモ取寄せシガ……。としている。

この二つの記録は、相川の石切町の起こりを記したもので、慶長年中、相川金銀山が立ち始めると、越中から、「五郎兵衛」が、播州見影からは「石切四兵衛源右衛門」が来たことを示している。ただここで注意したいことは、右の『佐渡年代記』にみえる記録の中には数名の石工の名が出てくるが、その中で、同じ下相川の石切町のことであるのに、『佐渡相川志』の「五郎兵衛」の名はどこにも出てこない。これはなぜなのであろうか。

次に島内にみられる石仏等の資料から、その古さをさぐってみよう。確かに江戸時代以前と思われるものはいくつかみられる。例えば、

小木町宿根木岩屋磨崖仏

相川町橘杉島聖観音磨崖仏

相川下相川富崎不動磨崖仏

などで、宿根木の磨崖仏は藤原後期説や室町初期説のあるところだし、杉島聖観音磨崖仏は藤原初期説など、富崎不動磨崖仏は桃山期説などである。また慶長年代の石塔などとしては、小木町蓮華峰寺にある大五輪塔と鳥居があり、相川町大安寺には同じく河村彦左衛門の大五輪塔や、大久保石見守長安の逆修塔などがある。このうち蓮華峰寺の五輪塔、大安寺の五輪塔には、小泊村（または「木泊村」）の名が数名刻まれている。このことは、小泊村および、その付近にはあきらかに、慶長年代には石工がいたことをあらわしている。

恐らく、上代から中世にかけては、大体は島外からの修業僧や普教僧などによって海岸などに磨崖仏やその他の石仏がきざまれた場合が多かったであろう。一方中世も終わり頃から、小泊などで、そろそろ石

工たちが定着していった。佐渡の古い寺院や村落などにはその当時の石仏や石塔などがみられるが、それらは小泊あたりの石工たちによって製作されたのであろう。徳川期に入ると、一方では相川金銀山の開発と平行して、相川に主として金銀山で必要とした石臼などや石塔などがぎざまれる石工の町が作られていった。

どこで製作されたか

佐渡の石仏の産地はどこかという問題である。それは前項で記した、いつ頃から作られるようになったか、ということも関連することである。

普通、佐渡の石仏の産地としてあげられるのは「小泊」（佐渡市小泊）と「椿尾」（佐渡市椿尾）である。そのことは、『佐渡四民風俗』と『佐渡志』にすでに当時（江戸時代）のことが記されている。

『佐渡四民風俗』の上巻には、

一、小泊村、椿尾村は耕作の外石臼、石仏の類を多くきり出して渡世の便に仕り候・・・。

とあり、『佐渡志』巻之四「諸物」には、

…小泊椿尾両村の石工は国用の余り近国に及び殊に石仏を作ることに巧にして北陸七州と羽州の海浜村里迄も彼像至らざる所無し・・・。

としている。これによると、相当に輸出もしていたことが知られる。

右のうち小泊においては、前項でもみたとおりであるが、椿尾はどうであろうか。

「椿尾」は「小泊」の隣村あるが、いつ頃から石仏などを作るようになったかはわからない。恐らく、小泊よりは古くはないであろう。そこで問題となるのは、やはり、前記した『佐渡相川志』の「五郎兵衛」で、椿尾の名工である「五兵衛」の本名は「五郎兵衛」といい、その両者に何か連なりがあるのであろうか。

小泊や椿尾に石工が居住を定めたのは第一に、まずそこに石材に適した石山があることであった。小泊には、「大沢」「なつわたり沢」「地蔵沢」などの石山があり、「おうちょう場」がある。それらの石山の石質は大体角閃安山岩であって、白っぽくなく比較的落ち着いた石感をもっている。この石はまた普通に「ごま石」とも言っている。なお、小泊では石仏にきる石は、石山によって違い、「地蔵沢」の石を石仏に用いた。椿尾では「おうちょう場」の石を石仏にも石材にも用いたという。また石仏石を呼ぶ場合に、小泊、椿尾の石工たちは「シャク」（細工石）と呼んだといい、このことから『佐渡相川志』の「五郎兵衛」の「諸方ノ石細工ヲナセシ」という「石細工」の内容がうかがえる。

一方「下相川村石切町」（佐渡市下相川）は、慶長年間に立ち始まっていたことが知れたが、石仏の類はあまり作らなかったようである。いま、その石山についてみると、当初は石材を輸入していたが、南沢、へつつり山、ニッ岩、春日崎などの石が使用された。また片辺、戸中などからも運んでいた。それらは大体、石臼、墓石、土台石などに用いられていた。

以上のとおり島内の石屋は、小泊、椿尾、下相川が、最も多かった。[計良勝範1968]

そして、小泊、椿尾の石工は石仏、狛犬、墓石など信仰関連の細かい加工を施したものや、粉挽臼を主に生産し、佐渡島外へも移出していた。

下相川の石工は、間知石、土台石、餅つき臼などの建築部材・生活用品あるいは、鉾山臼を主に生産した。下相川の石工達が製作した品物は、主に相川で使用された。

江戸時代の中ごろになると、小泊の石工が国中平野に進出していき、石工の工場や石切丁場が広がってゆく。[北村 他1986]

天保年間の記録と思われる「年中入用覚張」（羽茂町上山田、中川勇雄氏蔵、中川善兵衛が佐渡一国一

撰をやるときの資料としたものといわれる) に、

小泊村石工鑑札拾七枚

下相川村石大工拾貳人

山田村石工四人

徳和村石工四人

村山村石工役四貫文

などとみえる。右の他、一人、二人位ずつ全島二十二カ村に石工が記されている。(この文書では、椿尾村の石工が記されていない。)[計良勝範1968]

これらの小規模な石材産地や石工達は、近隣の集落の需要を満たしていた。

第Ⅲ章 遺 跡

1. 調査方法

A 調査区の範囲と調査対象選定の目安（第1・8～14図）

今回の分布調査では調査の範囲を、江戸時代に「相川」とよばれていた区域にほぼ限定した。

江戸時代に「相川」と呼ばれていた区域とは、南北2km・東西4kmにほぼ収まる範囲である。（第8図）

北西側を海に面する相川の町は、北は水金町（みずかねまち）、南は下戸炭屋浜町（おりとすみやはままち）、東は銀山町（ぎんざんまち）を町外れとしていた。

相川の町域からすぐ近くに、行政区画としては村として扱われていた区域がある。

水金町に隣接する下相川村、下戸炭屋浜町に隣接する鹿伏村・下戸村、銀山町・上相川町と隣接する羽田村である。これら隣接村だった所も、調査対象範囲とした。

調査対象の選定に当たっては、「鉾山に関係あるもの」をキーワードに考えた。

しかし、江戸時代から20世紀半ばまで、鉾山とは切っても切れない関係をもち、町の存在自体が鉾山を支えるためにあったと言っても過言ではない。佐渡島内の行政の中心地という側面は、地政学上は不自然であり、これも鉾山の存在がなければ、考えられないものであった。

鉾山が事業規模を大縮小して、町を支える産業とは言えなくなった後も、サービス産業では鉾山・金山ブランドを活用して懸命に操業している。つまり、どんな石造物も「鉾山に関係あるもの」である。

そこで、「現在までに書物等に収録され、地元にて、ある程度関心が払われてきたもの」

「寺院や神社に付随するもの」

「指定文化財になっているもの」

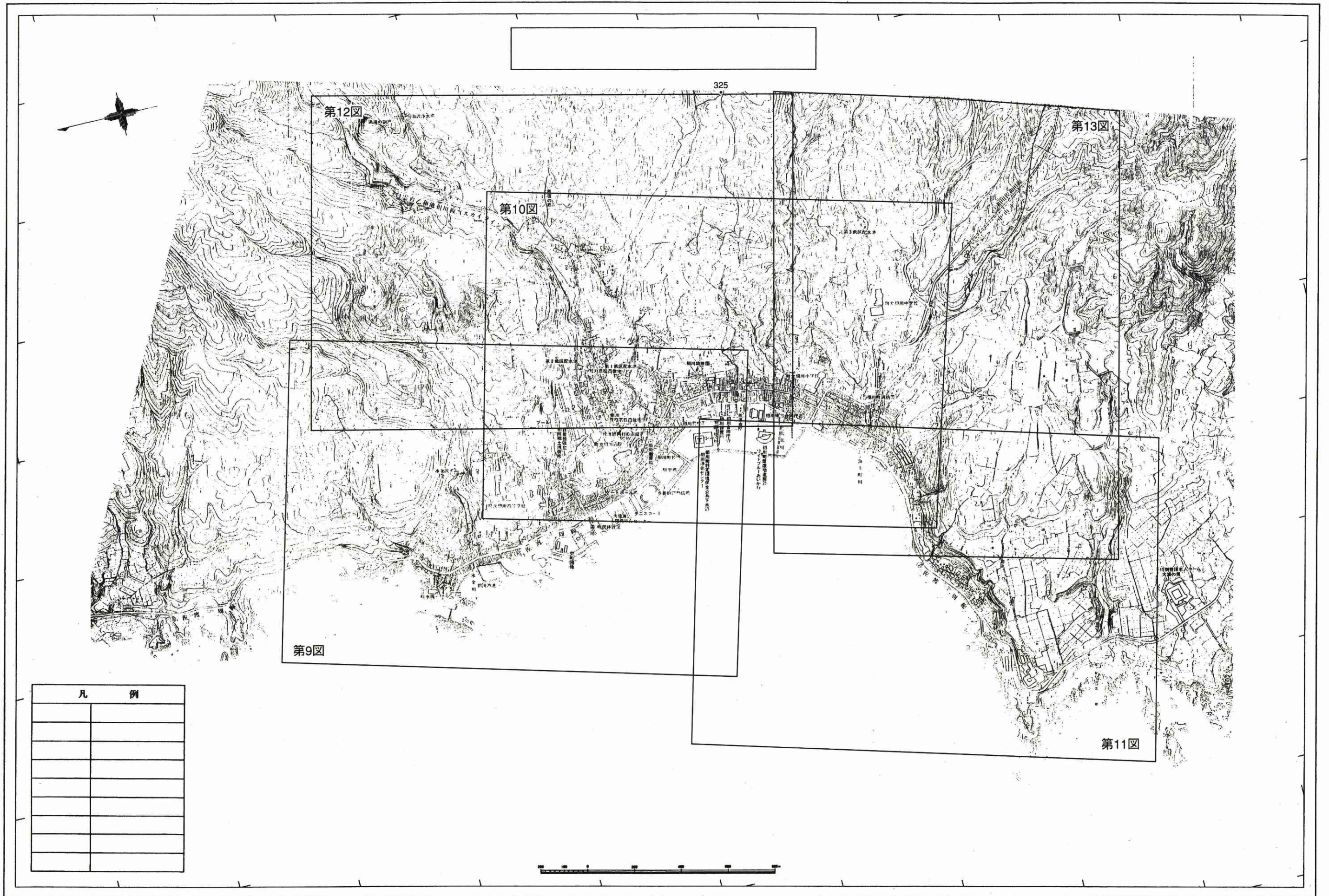
「埋蔵文化財として、文化庁・新潟県教育委員会から文化財認定されているもの」

「相川郷土博物館に収蔵されているもの」

「史跡佐渡奉行所跡に展示されているもの」

「仏像や神像など相川に暮らした人々の信仰を裏付けるもの」

というくくりで、調査対象を選定した。つまり、地元で今後長く保存・活用されていく可能性が高く、且つそれを実践するシステムがあり、鉾山とともにあった相川の歴史を知るために必要な石造物である。



第8図 相川石造物所在地図の表示範囲



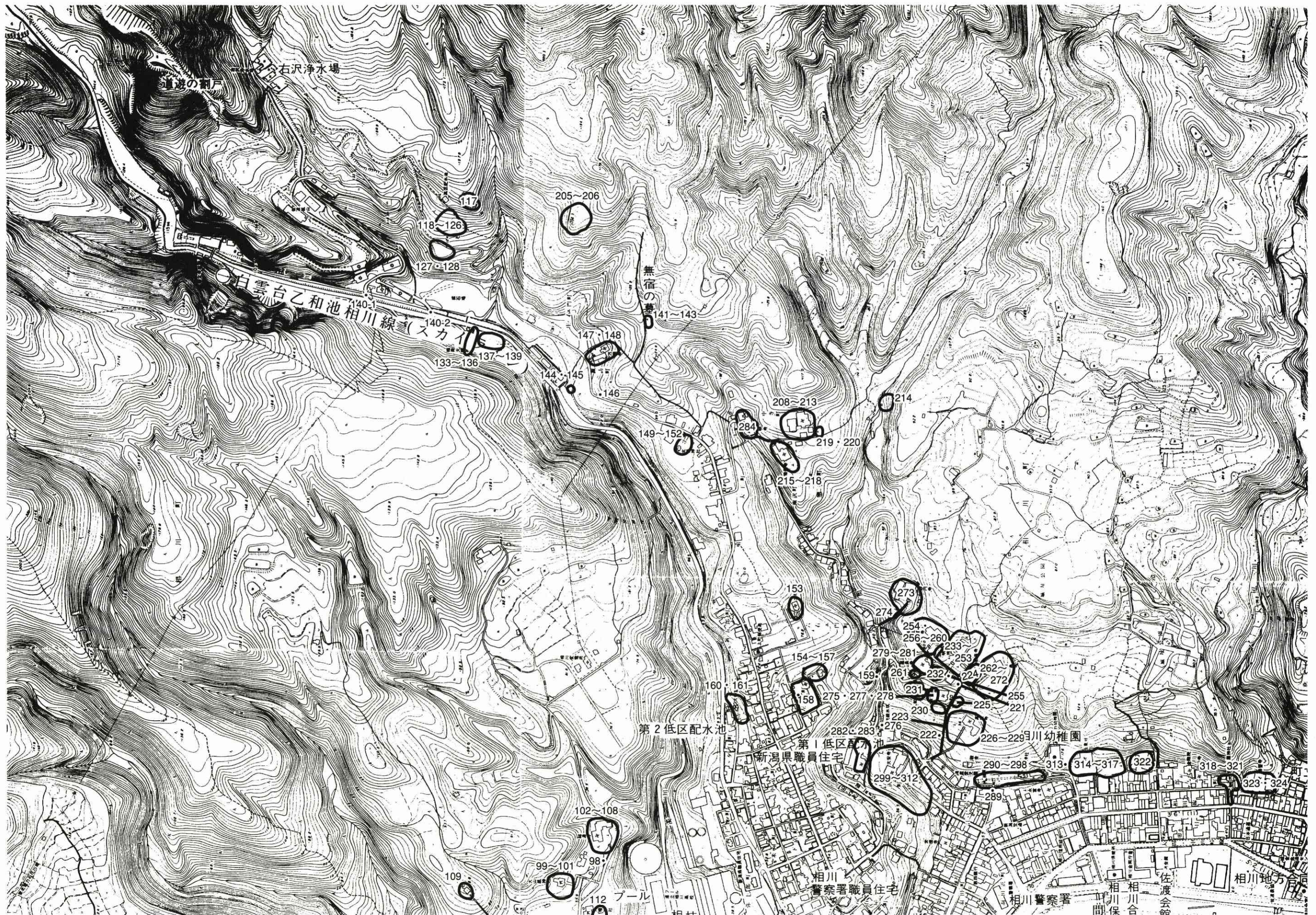
第9図 相川石造物所在地図①



第10図 相川石造物所在地図②



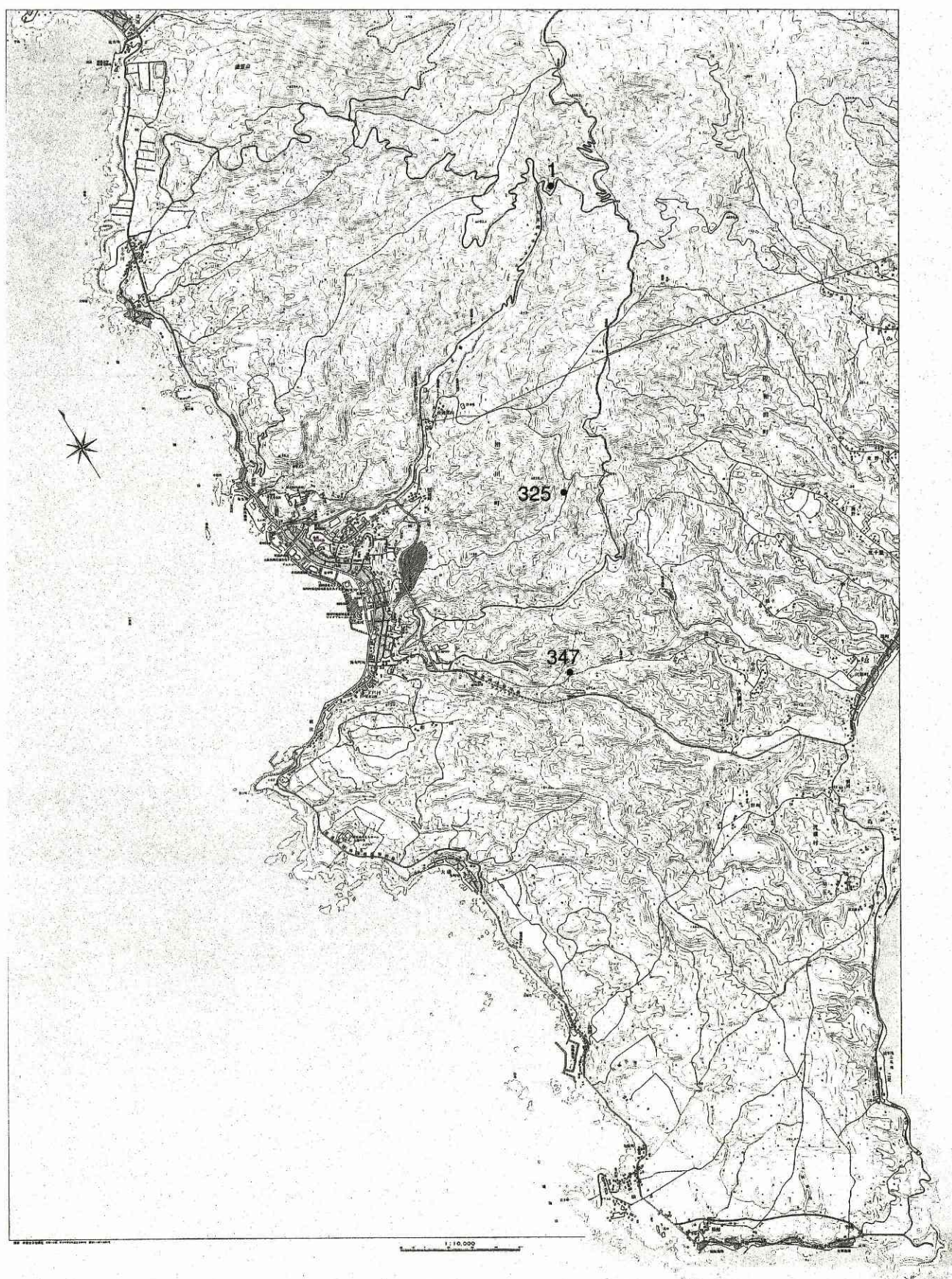
第11図 相川石造物所在地図③



第12図 相川石造物所在地図④



第13図 相川石造物所在地図⑤



第14図 相川石造物所在地図 (1・325・347)

B 基本的な調査工程

2001（平成13）年度

資料選定

「佐渡 相川の歴史 資料集2 墓と石造物」等をもとに対象石造物を選んだ。

計測・石材同定・銘文読解・写真撮影

調査員が現地に出向いて野帳に記録した。

調査カード作成

調査員が現地にて記録してきた情報を調査カードに集積した。

この一連の作業の中で、写真を整理し、見取り図原図を方眼紙に描いた。

2004（平成16）年度

資料選定

2001（平成13）年度に調査できなかった石造物を、先述の観点に基いて選定した。特に石神仏の選定に当たっては市内在住の有識者から多くの教示を得た。

計測・石材同定・銘文読解・写真撮影

調査員が現地に出向いて野帳に記録した。

調査カード作成

調査員が現地にて記録してきた情報を調査カードに集積した。

この一連の作業の中で、写真を整理した。見取り図原図を描く際には、現地にて撮影した写真を用いて、パソコン上で製図した。

ただし、2001（平成13）年度調査分の製図は、手作業で行った。

報告書作成

調査カードに集積した情報をもとに、上記の資料整理と同時併行で報告書を執筆した。



作業風景

第Ⅳ章 石 造 物

1. 石造物の分類

A 像と塔と道具

生活資材・生産資材ではなく、ある「もの」・「観念」を偶像化する際に、大きく分けて像・塔・その他の形をとる。

例えば、像なら、仏像・神像・狛犬などである。塔では、五輪塔・宝篋印塔・宝塔などである。

また、生活や生産に必要な道具を、石を材料にして作る場合は、その目的に応じて合理的な形をとる。

B 刻像塔と文字塔

塔の形態をとったものの中にも、石に神仏の像を刻んだ刻像塔に対し、神仏名や造塔の趣旨、信仰の種類などを文字で表したものを文字塔と呼び、庚申塔、馬頭観世音、湯殿山塔などがある。刻像塔に比べ容易に建てられることから、その種類も数も多い。[新潟県石仏の会2002]

C 像の彫り方、像の姿勢

仏像・神像等には、像の彫り方が3種類ある。像の全面を彫りだした「丸彫り」、平面的な石の表面に像の前面部分だけを彫りだして後面は彫りださない「半肉彫り」、石の表面に線を刻んで像を表現した「線彫り」である。石面に種字（梵字）を刻んで仏を表す「種字彫」もある。

磨崖仏の中には、文字のみで仏を表現しているものがある。

また、像の姿勢には、立ち姿の「立像」、あぐらを組んだ「坐像」、椅子に座り片方の膝に肘をついて考えている姿の「半伽思惟像」等がある。

D 分類……形態を分類するのか、何が表現されているかで分類するのか、使用目的で分類するのか、生産地を分類するのか。

一口に石造物といっても、その用途は多種多様であり、時代差も大きい。

さらに、石造物は製品の重量から、長距離の搬送には無理がある品物で、各地に残る石造物は、当時近くの石山で活動していた石工が、その石山で採掘される石の質感と特性を読み取り、石に合わせた石造物を生産していたと考えられる。[垣内光次郎1995] 石造物は、茶臼・砥石・硯・滑石製石鍋といった一部の器種を除いて、各地に分布する石切丁場から半国単位で流通していたと思われる。

そのため、石造物の調査・研究には筆者が思いつくだけでも、考古学（遺跡出土品）、宗教史（石仏・石神・石塔）、社会史（石塔の内、墓塔）、技術史（鉾山臼等）、民俗学（生活用具・生産用具）、石造美術（石仏・石神等）の関係者がそれぞれの問題意識のもとに、別個に調査研究を続け、各県あるいは各旧国（例：佐渡国）・各郡単位で検討を重ねているのが現状である。

その結果、各器種の分類・名称が、それぞれの時代・地域（遺跡）・調査者の所属分野に応じて合理的なものとなってしまう、全国的・学際的統一はなされていない。

しかし、これまでに行われてきた分類は、裏を返せば地域の実情に見合った分類ともいえ、それぞれ参考にするべきところばかりである。

筆者らは、相川に分布する石造物を現況調査していったのであるが、相川という「地域」を対象石造物

選定のキーワードとしたため、まず、多種多様な石造物の分類に迷ってしまった。

筆者らが行った分類を理解しやすくするため、始めに諸先輩が行ってきた捉え方を紹介してみる。

ア、考古学の立場から [垣内光次郎1995] より抜粋

(福井県)一乗谷の城下町で見受けられる石造品は、石がもつ重さ・硬さ・耐火性・不朽性などの特性を生かした品物で、城下町に建つ屋敷や町屋の建築部材、室内の生活に使用する道具、寺院に造立される信仰遺物の三種類に大きく分類することができる。・・・(略)・・・ここに一乗谷の城下町で使われた石造品の種類を書上げてみたい。

(建築部材)棟石、石鬼、踏石、樋、井戸枠、手水鉢、囲炉裏

(生活道具)火鉢、行火、炉壇石、たらい、こね鉢、粉挽臼、茶臼、石風呂、温石、砥石、硯、碁石

(信仰遺物)五輪塔、一石五輪塔、宝篋印塔、石層塔、笠塔婆、板碑、石仏、花立、灯籠、狛犬、石殿

垣内氏の分類は上記のとおりであるが、考古学関係者の間では、「威信財と、そうでないもの」や生産地の違いに着目した分類もよく行われる。

イ、宗教史の立場から [新潟県石仏の会2002] [庚申懇話会1993] より抜粋

仏像

大乗教ではもっぱら釈迦を超人格化し、歴史を超えた存在として釈迦のもっているさまざまな性格を実体化、如来や菩薩などの多くの仏を生んだ。そしてこれらの像(仏像)を建立し、神々と同様、祈願の対象とした。仏像には如来、菩薩、明王、天部の四つの種類があるが、そのほかに仏像とはいえないが羅漢や権現・祖師の像があり、仏像と同様に崇拜され祭祀されてきた。

如来

仏足石、釈迦如来、阿弥陀如来、大日如来、薬師如来、五智如来、不空成就如来、宝生如来、阿閼如来

菩薩

聖観音、千手観音、馬頭観音、十一面観音、准提観音、不空羂索観音、如意輪観音、六観音、白衣観音、魚籃観音、延命観音、楊柳観音、三十三観音、子安観音、弥勒菩薩、虚空蔵菩薩、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、六地藏、勝軍地藏、子育地藏、勢至菩薩、馬鳴菩薩、日光菩薩・月光菩薩、浄行菩薩、二十五菩薩、妙見菩薩

明王

不動明王、俱利伽羅不動、軍荼利明王、大威徳明王、五大明王、大元帥明王、愛染明王

天部

帝釈天、梵天、毘沙門天、吉祥天、弁財天など

羅漢

十六羅漢・五百羅漢、蔵王権現、祖師像(達磨大師など)

形態の部

仏像儀軌により造られた本格仏像が石に写されたものを、広い意味で石仏と呼んでおり、その範疇に入らないものを形態の部とした。

層塔、宝塔・多宝塔、宝篋印塔、五輪塔、無縫塔、笠塔婆、板碑、石幢、石灯籠、磨崖仏、石棺仏、石祠、墓塔、鳥居、町石、手洗鉢、狛犬

民間信仰の塔

庚申塔

文字塔、刻像塔、帝釈天の庚申塔

日待系統の塔

日待塔、甲子塔、巳待塔

月待系統の塔

二十三夜塔、二十二夜塔、二十一夜塔、二十日待塔、十九夜塔、十八夜塔、二十六夜塔、
その他の月待供養塔

道祖神塔

自然神信仰の塔

山神塔、水神塔、金神塔、地神塔、雷神塔

馬の守護神の塔

馬頭観音塔、馬檀神塔、蒼前神塔

その他の民間信仰の塔

天神塔、淡島信仰の塔、恵比須塔、疱瘡神塔、聖徳太子塔、田の神塔、石敢当、動物供養塔

山岳信仰の塔

大峰信仰の塔、大峰講碑、富士講碑、御嶽講碑、霊神塔、出羽三山塔、大山信仰の塔、
三峰信仰の塔、古峰信仰の塔、妙義信仰の塔、戸隠信仰の塔、白山信仰の塔、立山信仰の塔、
秋葉信仰の塔、愛宕信仰の塔、金華山信仰の塔、その他

名神大社信仰の塔

伊勢信仰の塔、天神信仰の塔、金毘羅信仰の塔、青麻信仰の塔

念仏塔

念仏供養塔、百万遍念仏塔、常念仏塔、踊念仏塔、天道念仏塔、六斎念仏塔、四十八夜念仏塔、
百堂念仏塔、斎念仏塔、不食念仏塔、寒念仏塔、夏念仏塔

経典に関する塔

経典読誦塔、経典書写塔、一字一石塔、光明真言塔

巡拝塔

三十三番巡拝塔、百番巡拝塔、六十六部廻国塔

その他の仏教関係の塔

三界万霊塔、葦酒塔、石橋・道路・石階供養塔、名号塔、題目塔、餓死供養塔

ウ、社会史の立場から〔島根県教育委員会・大田市教育委員会2002〕

島根県にある石見銀山遺跡では県と地元市町村が各種の鉱山関係文化財調査を推進している。

その中で、石造物調査は銀山の人口推移、活動エリアの消長・人の動き、社会構造の把握を具体的な目的として実施されている。

①碑、石塔、石仏などの信仰関連石造物、②石臼や要石などの生産関連石造物、③街道沿いの道標などの交通関連石造物、④石切り場などの生産地を含む流通関連石造物といった多種多様な石造物のうち、①の、特に埋葬関係の遺構群・遺物群の様相に、鉱山遺跡を構成する諸要素のなかで「鉱山の盛衰」がより直接的に反映されていると考え、寺院跡に付随する墓地に残る石造物を悉皆調査した。

すなわち、上に記した問題意識の下に、悉皆調査で扱った墓塔・供養塔等を徹底的に分類し、銘文を読

解したのである。

2000（平成12）年に行った龍昌寺跡墓地の調査では次のとおり分類している。

一石宝篋印塔、一石五輪塔、組み合わせ宝篋印塔、組み合わせ五輪塔、円頂方形型墓標、円頂方柱型墓標、円頂六角柱型墓標、尖頂方柱型墓標、突頂方柱型墓標、笠付方柱型墓標、笠付方形型墓標、位牌型墓標、無縫塔、記念碑、墓誌、自然石墓標、観音、地藏（座像）、地藏（立像）、灯籠、社寺標石

なお、他の地方における分類が、全国版の手引書に載っている場合〔庚申懇話会1985〕があるが、江戸時代の墓塔は地域差が大きく、結局は調査対象の実態に即して分類するのが妥当なようである。

エ、技術史の立場から 〔今村啓爾1990〕より

山梨県にある黒川金山遺跡の調査に参加した今村氏は、遺跡に散乱する石臼類が鉾山の考古学にとって鍵になる遺物であると考え、日本各地の鉾山に残存する石臼類の調査に取り組んだ。

氏が示した分類は次のとおりである。

搗き臼、磨り石、回転臼（茶臼・粉挽臼・鉾山臼）

さらに、氏は論考のなかで、磨り石と鉾山臼（狭義の鉾山臼）の細分にも取り組み、編年的位置付けの大枠を示した。

オ、民俗学の立場から

日本民具辞典等所収の民具に石製のものがある。これらは民具として、各地の歴史民俗資料館、博物館等で収集されてきたことであろう。

また、『佐渡相川の歴史 墓と石造物 資料集2』〔相川町史編纂委員会1973〕の一節（p 281～287）では、相川という現存する町に今ある人々の暮らしの中に分け入り、目にする石造物をコラム形式で書き連ねている。その一節には次のような石造物が出てくる。

石段、石垣、石橋、墓の基礎石、墓石、鉾山臼、石堀、鳥居、灯籠、水鉢、石仏、狛犬、土台石、戸前石、板石、棟石、鬼瓦、トヨ石、石倉、粉すり臼、石ひびつ、はしり（流し）、へっつい（カマ）、火消し壺、モチつき臼、井戸ゲタ、のぼり杵石

以上のように多岐にわたる問題意識の前に筆者らは、相川の町に分布する石造物を「相川」というくくりでとらえられるようにするために、個別の分野には敢えて深入りせず、俯瞰的な分類をするよう努めた。

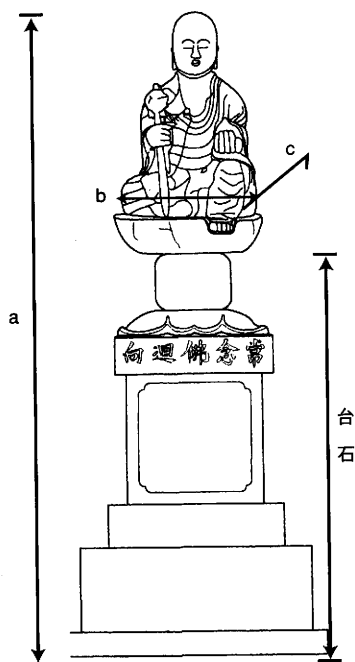
分類に当たっては、島内在住の有識者から実態にあった分類方法について、多大なる教示を受けた。

2. 本書における器種分類と部位名称

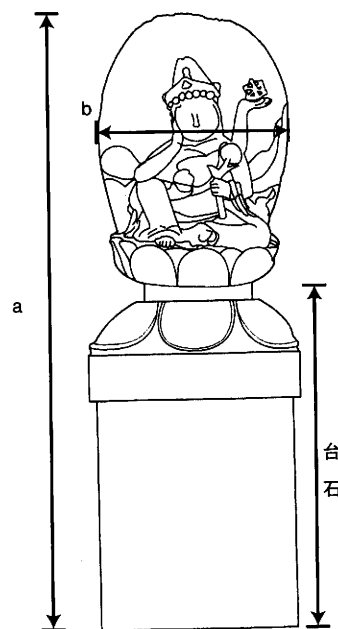
A. 石神・石仏

石神・石仏（せきしん・せきぶつ）（第15図・16図）

如来、菩薩、天部、明王、羅漢（僧）や、神道における神、各種の土着神を丸彫り、半肉彫り、線彫りしたもの。中には仏か神かそれ以外の崇拝対照なのか分別の難しいものもあり、本書では敢えて仏か神かを分類しない。神仏を表した石造物であっても、石塔に文字を刻んで表現してあるものは、石塔のカテゴリーに入れた。



第15図 石神・石仏（丸彫り）の形態及び部位名・計測部位



第16図 石神・石仏（半肉彫り）の形態及び部位名・計測部位

磨崖仏（まがいぶつ）（第17図）

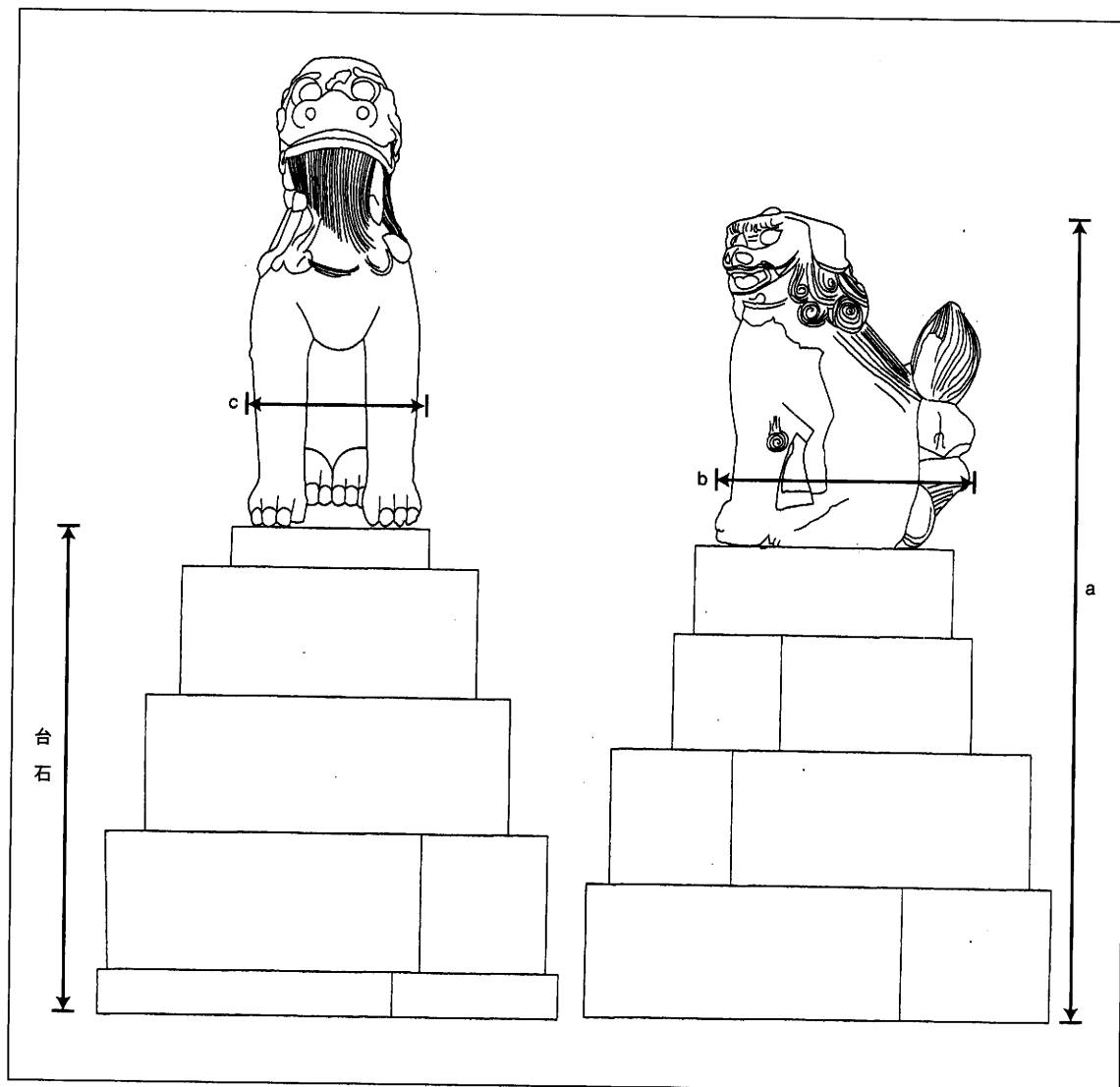
露呈した岩面や洞窟内の壁面に仏像などを刻みつけたものを磨崖仏と呼んでいる。



第17図 磨崖仏（線彫り）の形態

狛犬（こまいぬ） （第18図）

社寺の守護神として神前に置かれるもので、古くは堂内に置かれていたものが、石造物として野外に置かれるようになった。鳥居などと同様、江戸中期より全国的にみられるようになった。



第18図 狛犬の形態及び部位名・計測部位

庚申塔（こうしんとう） （第19図）

庚申信仰の同信者の集まりである庚申講の人々は、庚申供養塔（略して庚申塔）を造立するのが、一般的なしきたりになっている。

ここで庚申塔造立の基盤となっている庚申信仰について説明する。

庚申とは十干の庚と十二支の申とが結びついた、60年に一回廻ってくる日や年のことである。中国の道教の思想に三尸（さんし）説というものがある。これは、人間の体内に三尸という虫がいて、いつも人間の早死にを望んでいるが、庚申の日の夜毎に、人が眠っている間に、その人の体内から抜け出して天に昇り、天帝にその人の日常の罪過を上告する。天帝はこれを聞いて、その人の死期を早めるという説である。

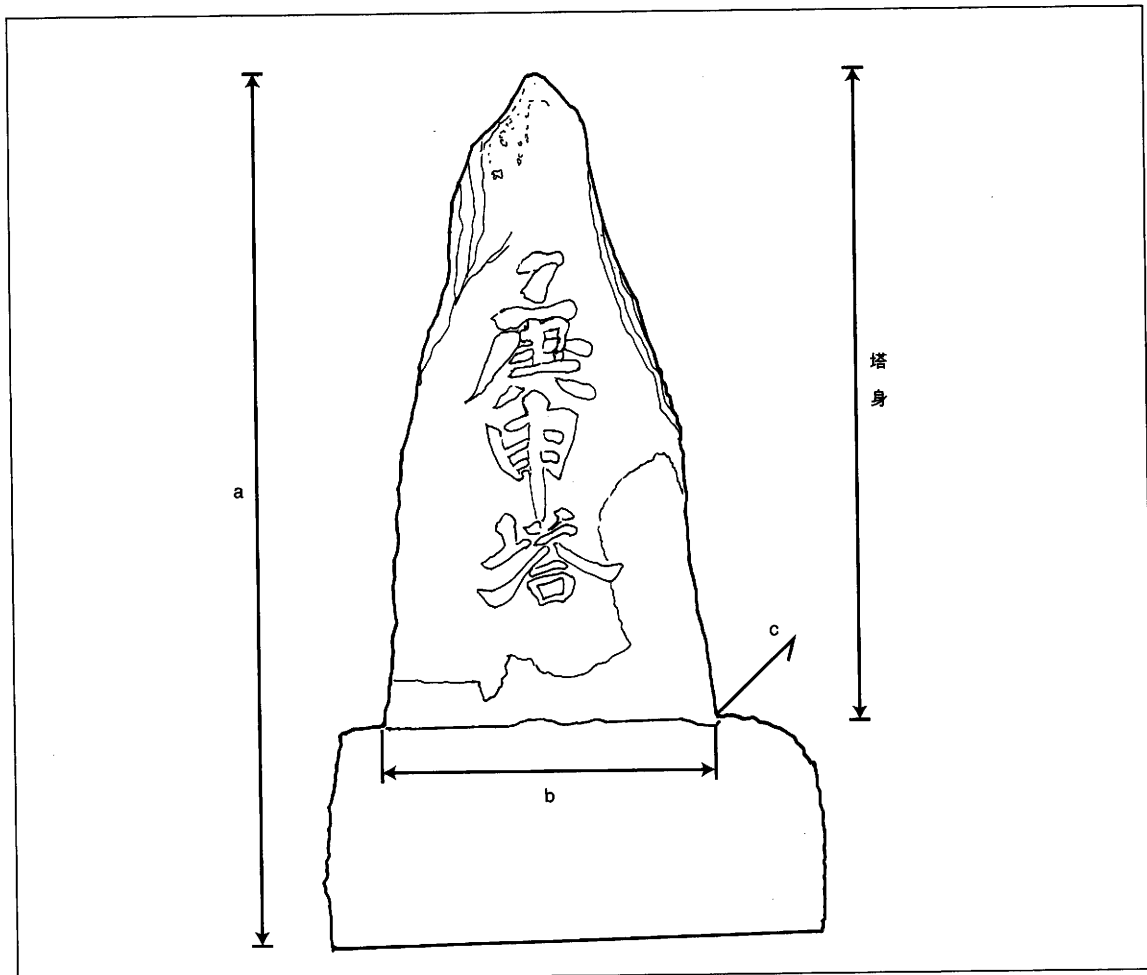
三尸の上天を防ぎ、長生きをするためには庚申の日に身を慎み眠らずに、一夜を送ることを「守庚申」と称している。そして七回守庚申を続ければ、三尸は長絶すると説いている。

庚申塔は文字のみを刻む文字塔と、神仏などの像を刻む刻像塔の二つに大別される。

文字塔は塔の表面に「庚申」「庚申供養」「庚申塔」「庚申塚」など、庚申を主体とした銘文を彫ったもの、「青面金剛」「猿田彦命」など、青面金剛や猿田彦命を文字で表したものなどがある。

刻像塔は圧倒的に青面金剛を刻んだものが多い。

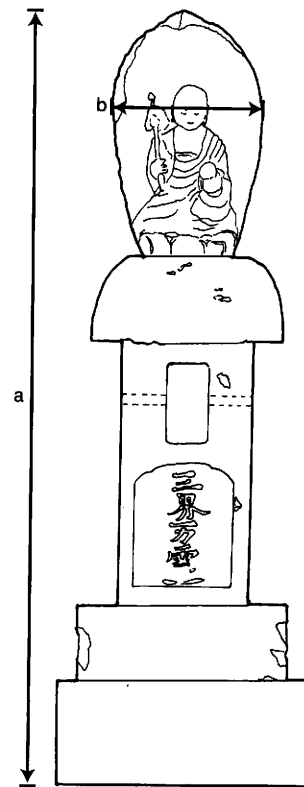
庚申塔はその全国的分布と数の多さゆえ、本書中では、民間信仰の神仏を表した石造物から独立して分類した。



第19図 庚申塔の形態及び部位名・計測部位

念仏車（ねんぶつぐるま）（第20図）

塔に石製の車を取り付け、その車を回転させることで念仏を唱えたと見なす石造物があり、佐渡島内ではこれを「念仏車」（ねんぶつぐるま）と呼んでいる。今回の分布調査で扱った石造物の中に一つだけあるが、その念仏車は、竿の上に半肉彫りの仏像をのせ、竿の正面には「三界万霊塔」と刻んでいる。



第20図 念仏車の形態及び計測部位

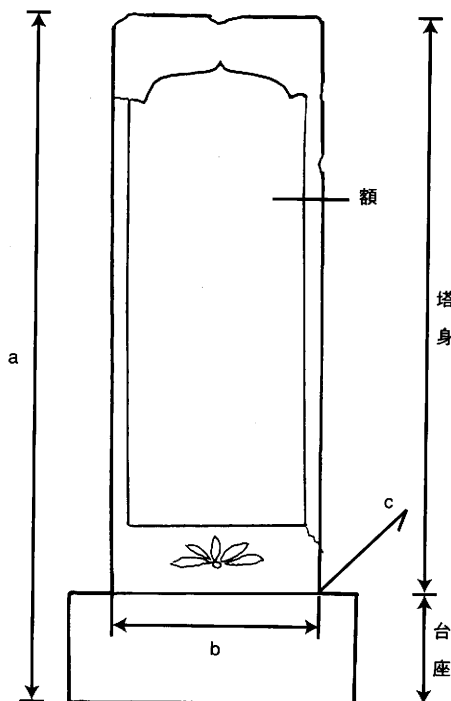
B 石塔

板石形石塔（いたいしがたせきとう）

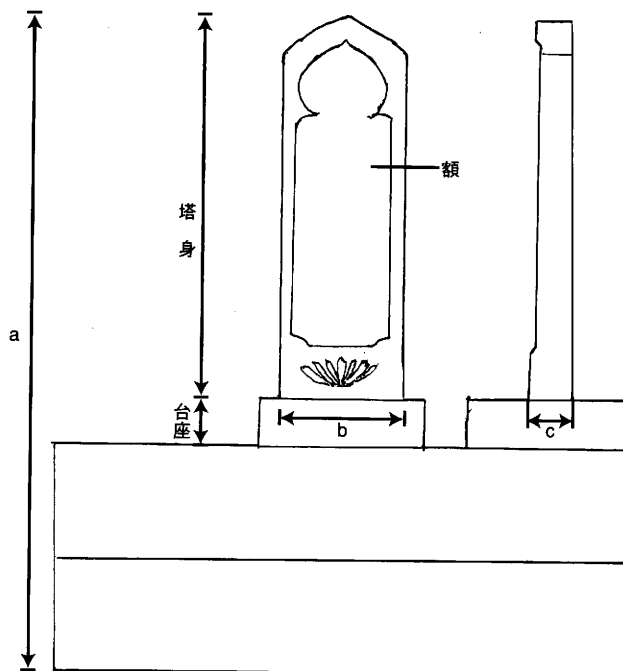
（第21図・22図）

石塔塔身の正面幅に比して、塔身の奥行が大幅に薄いものを、板石形石塔と分類した。塔身頂部の形態にいくつかの類型を見出せるが、本書においては細分化を見送った。

今回の分布調査で中世の板碑は見つからなかった。板石形石塔は江戸時代前半の記念銘がある石塔に多い形態であるが、中世の板碑との関係は明らかでない。



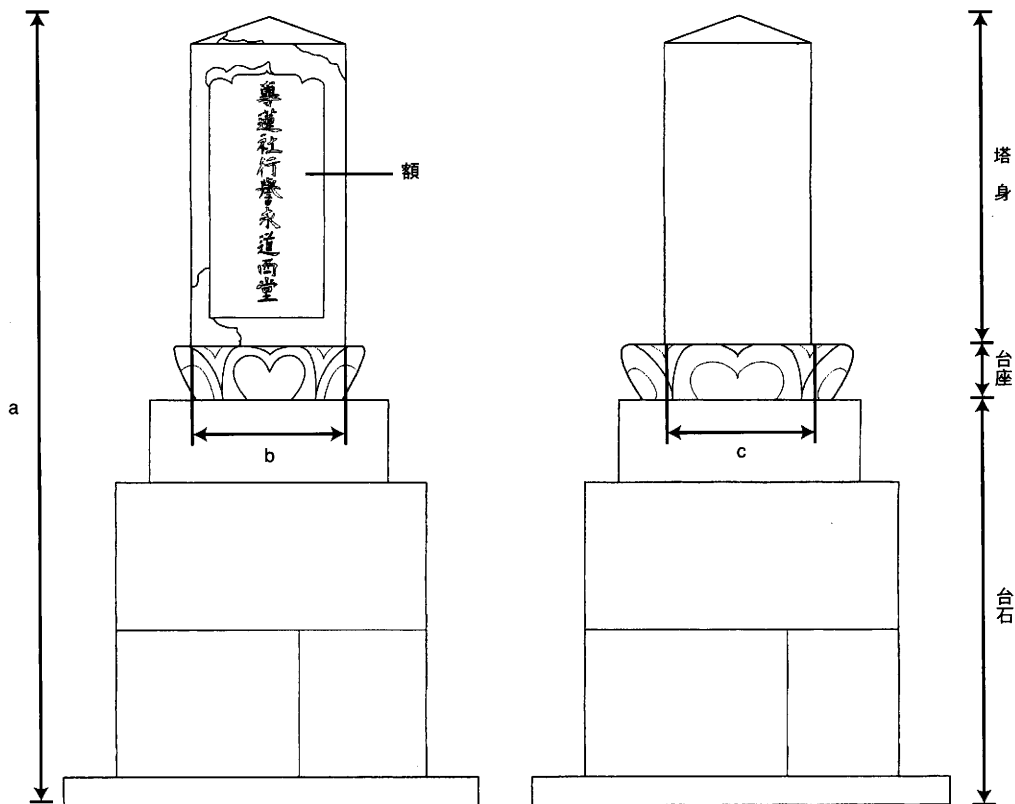
第21図 板石形石塔（塔身が平頂のもの）の形態及び部位名・計測部位



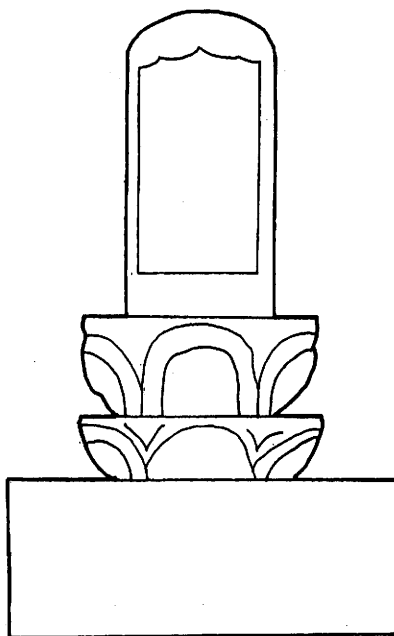
第22図 板石形石塔（塔身が尖頂のもの）の形態及び部位名・計測部位

角柱形石塔（かくちゅうがたせきとう）（第23図～25図）

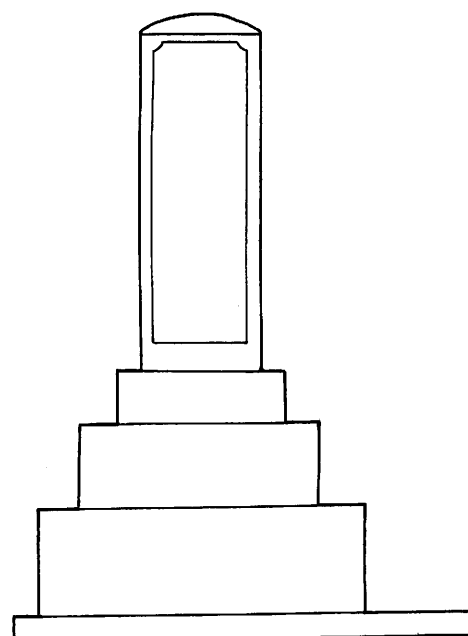
板石形石塔と異なり、塔身の正面幅に比して、塔身の奥行きが同じか大差のないものを、角柱形石塔とした。角柱形石塔は江戸時代後半には主流を占める形態である。さらに、塔身頂部の形態にいくつかの類型を見出せるが、本書においては細分化を見送った。



第23図 角柱形石塔（塔身が尖頂で段面正方形に近いもの）の形態及び部位名・計測部位



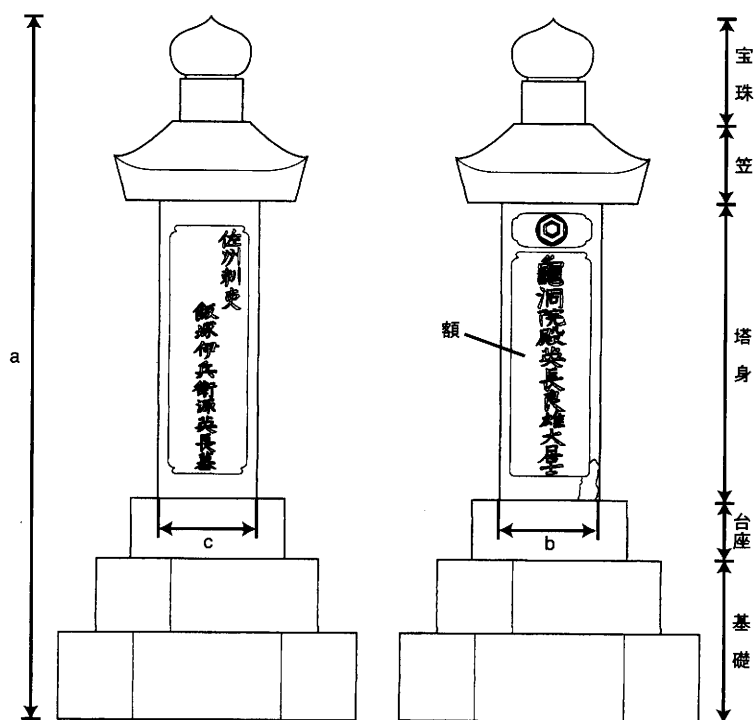
第24図 角柱形石塔（塔身が円頂で段面長方形のもの）



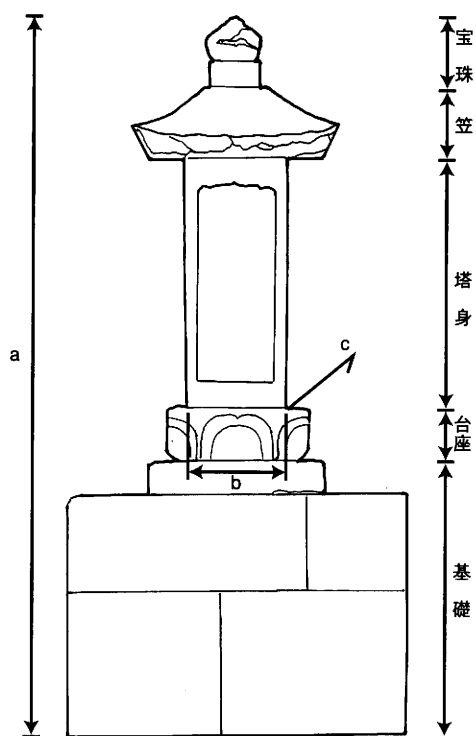
第25図 角柱形石塔（塔身が円頂で段面正方形に近いもの）

笠塔婆（かさとうば）（第26図・27図）

長方形の塔身に像容、種字や名号、題目等を刻し、笠をのせたものがこの笠塔婆である。古いものでは笠を失ったものもあり、頂部にホゾ穴の有無が問題となる。



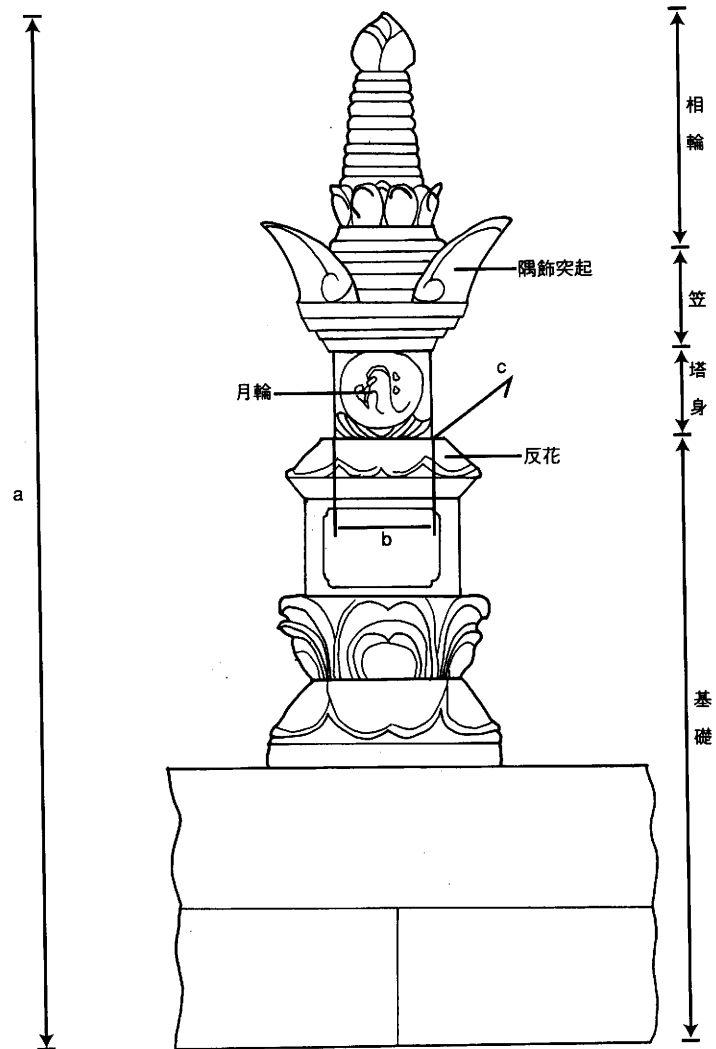
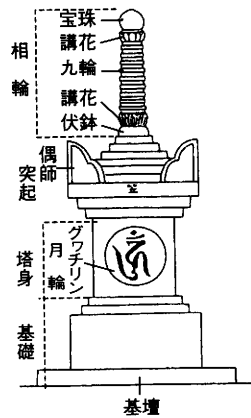
第26図 笠塔婆（塔身の断面が正方形に近いもの）の形態及び部位名・計測部位



第27図 笠塔婆（塔身の断面が長方形のもの）の形態及び部位名・計測部位

宝篋印塔（ほうきょういんとう）（第28図）

「宝篋印心呪経」を納める塔としてこの名が生じた。五輪塔と並んで広く普及した塔形である。
平面は各部とも四角で、基礎、塔身、笠、相輪の部分から成る。



第28図 宝篋印塔の形態及び部位名・計測部位

五輪塔（ごりんとう）

（第29図）

上から空輪（宝珠形）、風輪（半月形）、火輪（三角）、水輪（円）、地輪（方形）の五つの部分から成る。

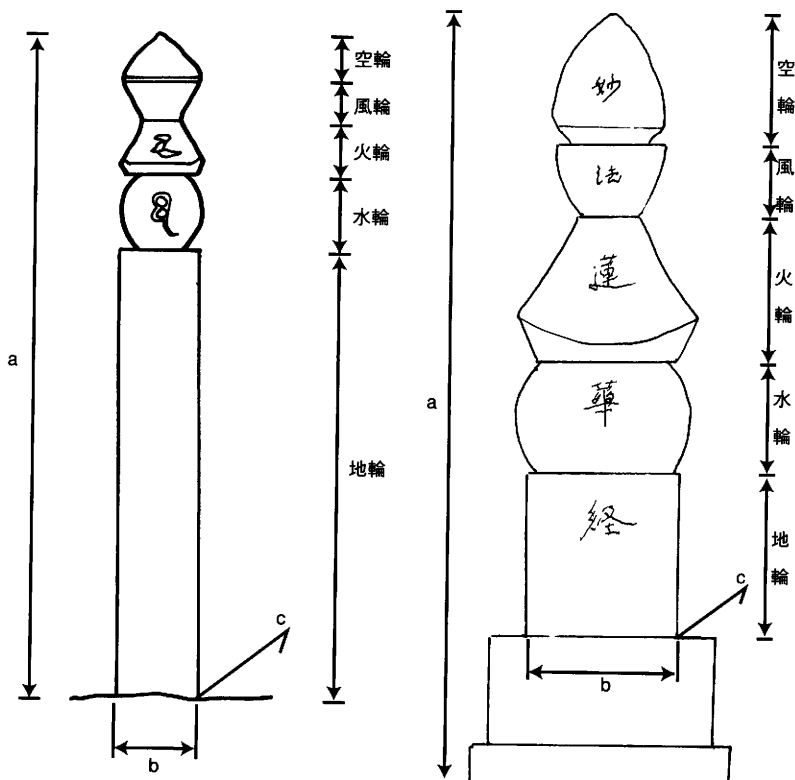
はじめ密教系の塔として現れたが、のちに広まって全国に分布している。

一石五輪塔

（いっせきごりんとう）

（第30図）

一石で五輪塔を作ったものである。



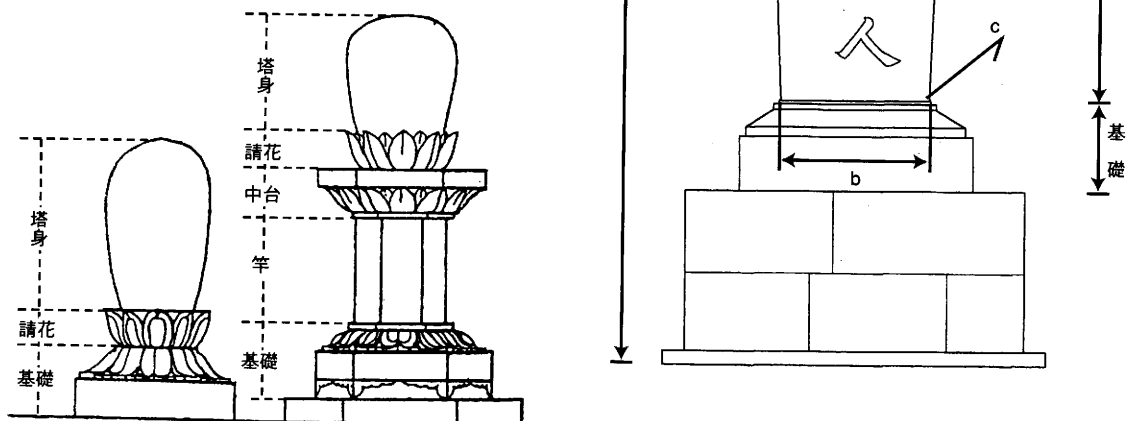
第30図 一石五輪塔の形態及び部位名・計測部位

第29図 五輪塔（組み合わせ）の形態及び部位名・計測部位

無縫塔（むほうとう） （第31図）

塔身が卵型であり、卵塔とも呼ばれ、はじめ禅宗の僧侶の墓に用いられ、のちに僧一般の墓となった。

上から塔身、請花、中台、竿、基礎の部分から成り、これを重制と呼び、竿の省略されたものは単制と呼ばれている。



第31図 無縫塔の形態及び部位名・計測部位

カマボコ形石塔

(かまぼこがたせきとう) (第32図)

今回調査した石造物を見る限りでは、惣墓・惣供養塔として使われる塔形のようなものである。

塔身の断面が半円に近い形をしている。

自然石石塔 (しぜんせきせきとう)

(第33図)

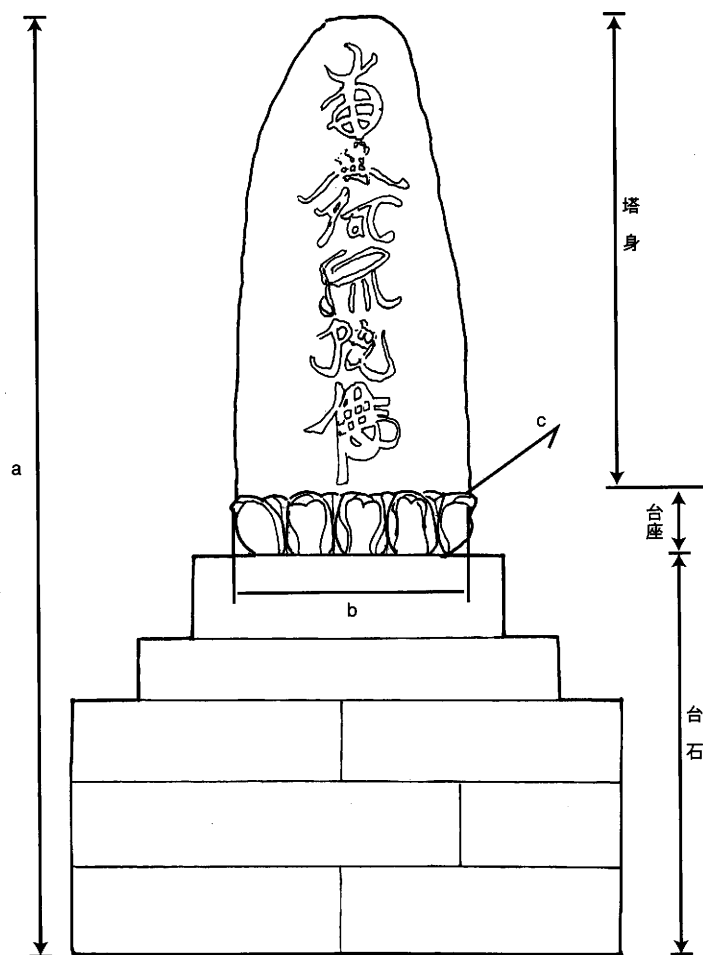
角のとれた自然の石を、碑あるいは塔身に用いて、造った塔である。

その他

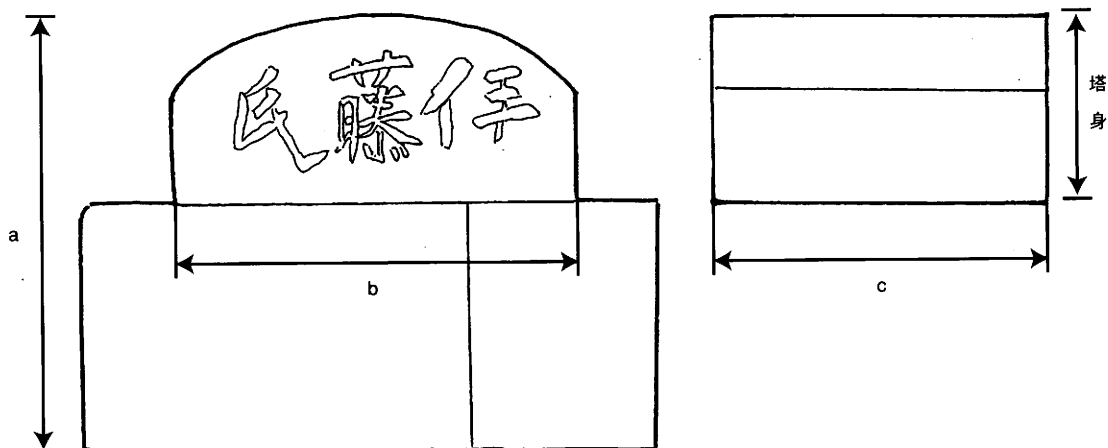
上記のものに当てはまらないものをその他とした。

分類不能

石塔のうち、破損して形態がわからないものは分類不能とした。



第33図 自然石石塔の形態及び部位名・計測部位



第32図 カマボコ形石塔の形態及び部位名・計測部位

C 石造物

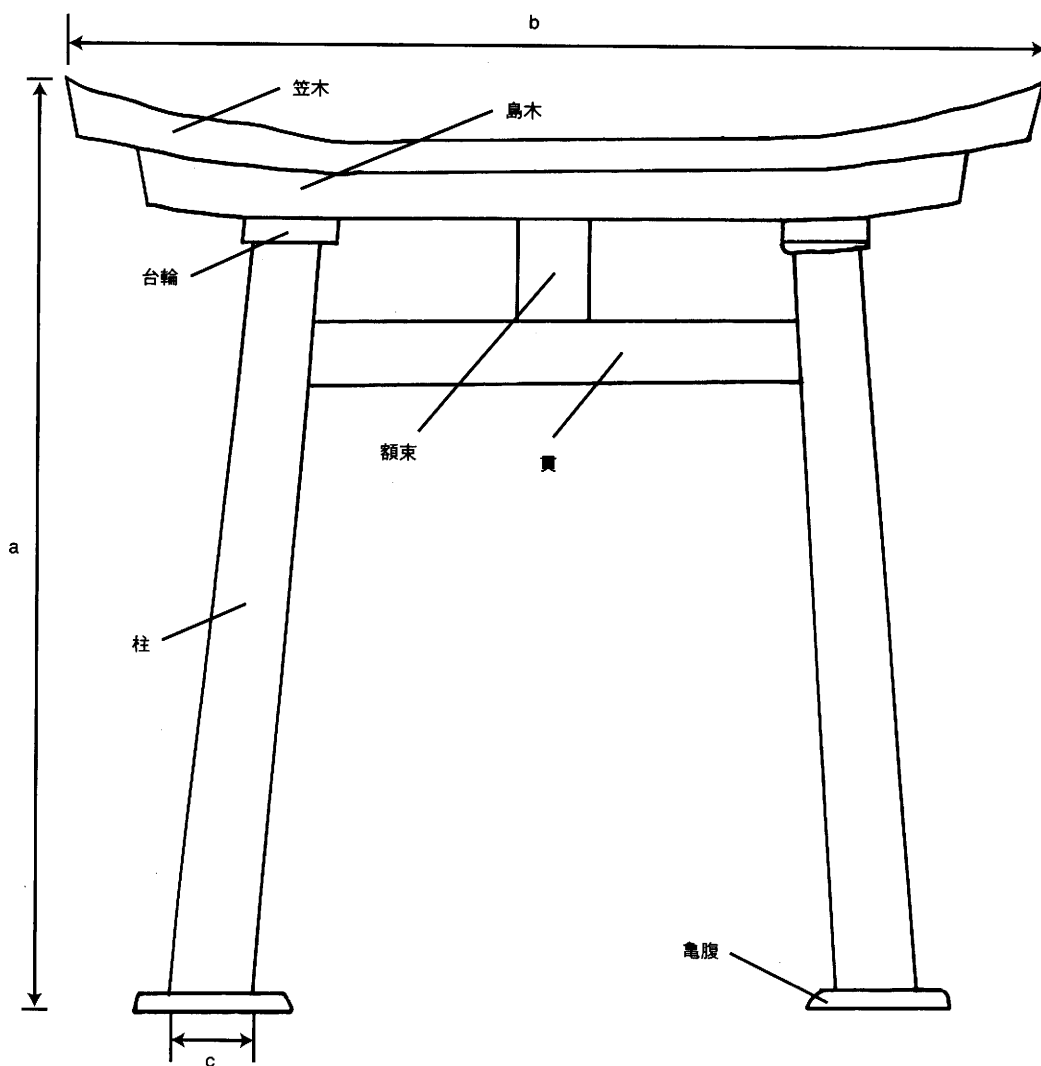
A、遺構

土地に据えられ、そこから頻繁に移動させることを想定していないと思われるものをここに入れた。

鳥居（とりい）（第34図）

神社の前に必ずといってよいほどあり、石造のものも少なくない。

江戸時代以前のものは少なく、全国的に造られるようになるのは江戸時代中頃であり、その造立は今日まで及んでいる。



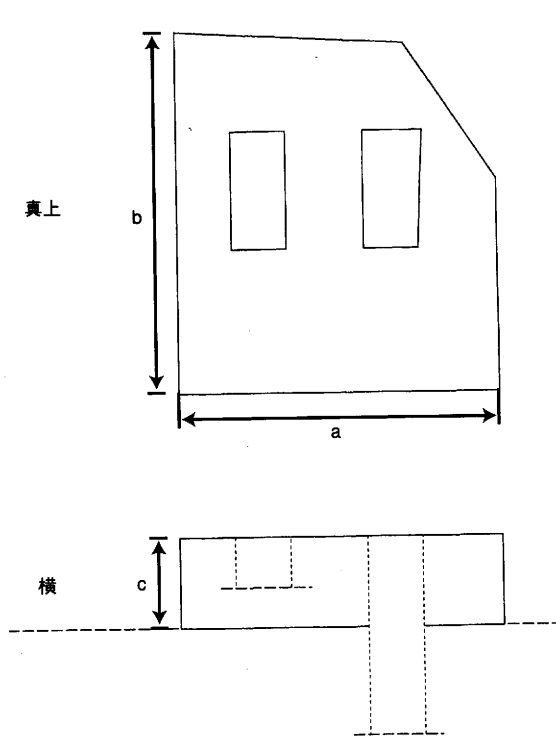
第34図 鳥居の形態及び部位名・計測部位

石灯籠 (いしどうろう) (第35図)

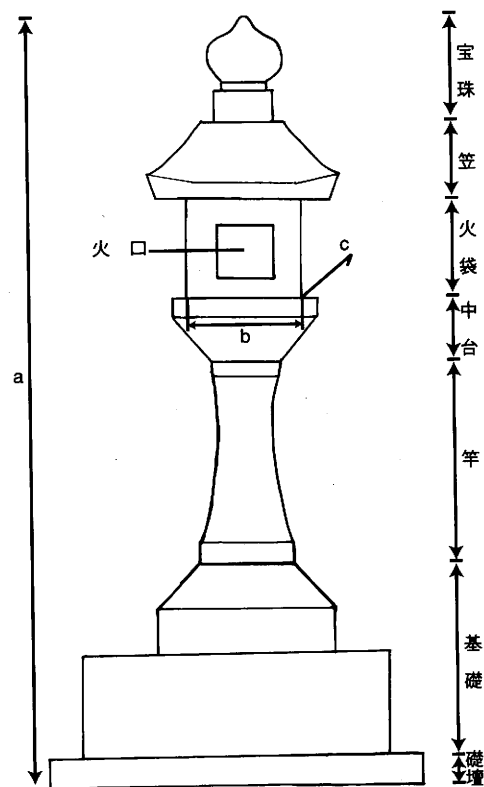
社寺に置かれる石製の灯籠で、本来中心に1個置かれていたものが、のちに対となった。
上から宝珠、笠、火袋、中台、竿、基礎の部分からなる。

旗棹の台石 (はたさおのだいし) (第36図)

神社で祭礼行事を執り行う際には、社地の入口に旗竿を立てる。旗竿は地面に据えた台石のホゾ穴に2枚の板を差し込み、2枚の板の間に旗竿を挟んで板をゆわえて固定する。



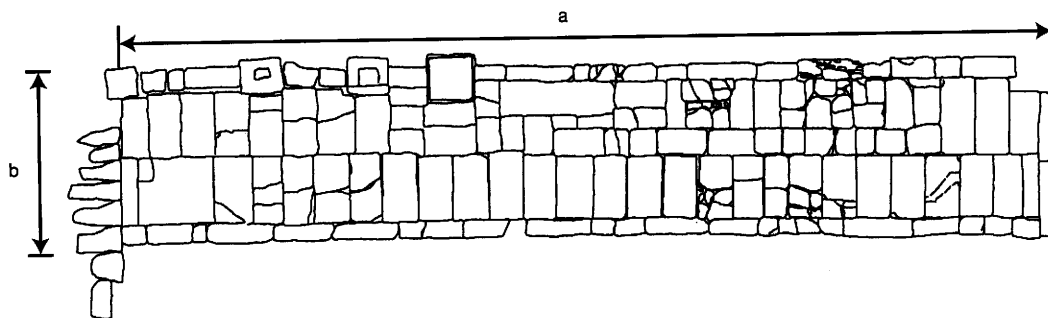
第36図 旗棹の台石の形態及び計測部位



第35図 石灯籠の形態及び部位名・計測部位

敷石 (しきいし) (第37図)

地面に板石を敷き詰めて通路としたもの。寺社の入口から本堂・社殿にいたる部分に見られる。
今回、調査対象としたものの中には、寺社以外にも佐渡奉行所跡の地下に埋もれていた敷石がある。



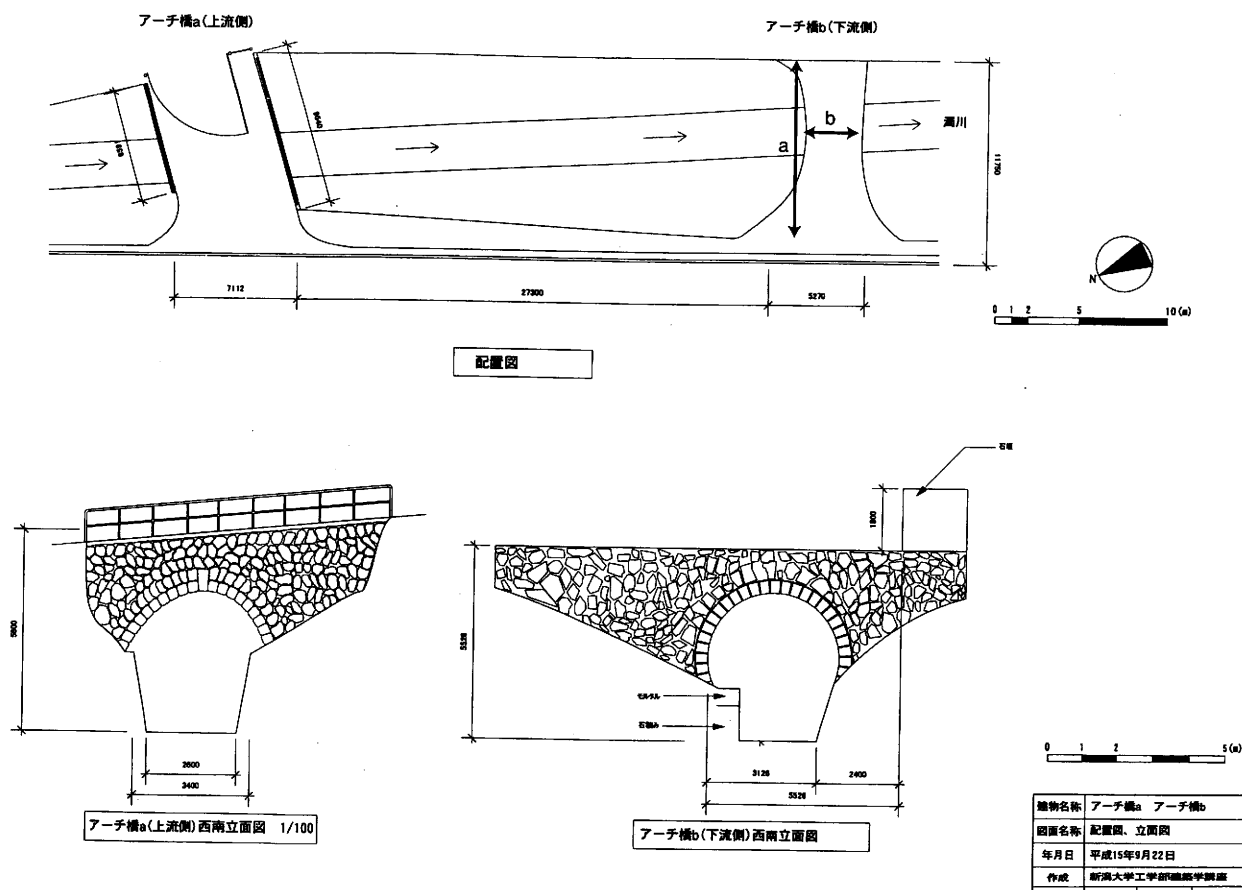
第37図 敷石の形態及び計測部位

石橋（いしばし）（第38図）

相川には、小河川や多くの水路がある。これらには、江戸時代の記録にも石橋がかかっていたという記述を見出せる。『佐渡相川誌』[田中圭一1968]

現在でも、一車線の市道などには石橋がかかっており、それらは、上辺部を広く下辺部の幅を小さくした個石をいくつか組み合わせて、半円形にこしらえた「アーチ橋」である。

また、寺や旧家の庭園には、一石で造った石橋が、池を渡る橋としてかけられているが、これは今回の調査では残念ながら調査できなかった。[相川町史編集委員会1973]



第38図 石橋の形態及び計測部位

石垣（いしがき）

土留めや土地区画に用いられる。さまざまな積み方があるが、本書では細分しない。

相川は急峻な地形が多いため、石垣を町のいたるところで見かける。

石段（いしだん）

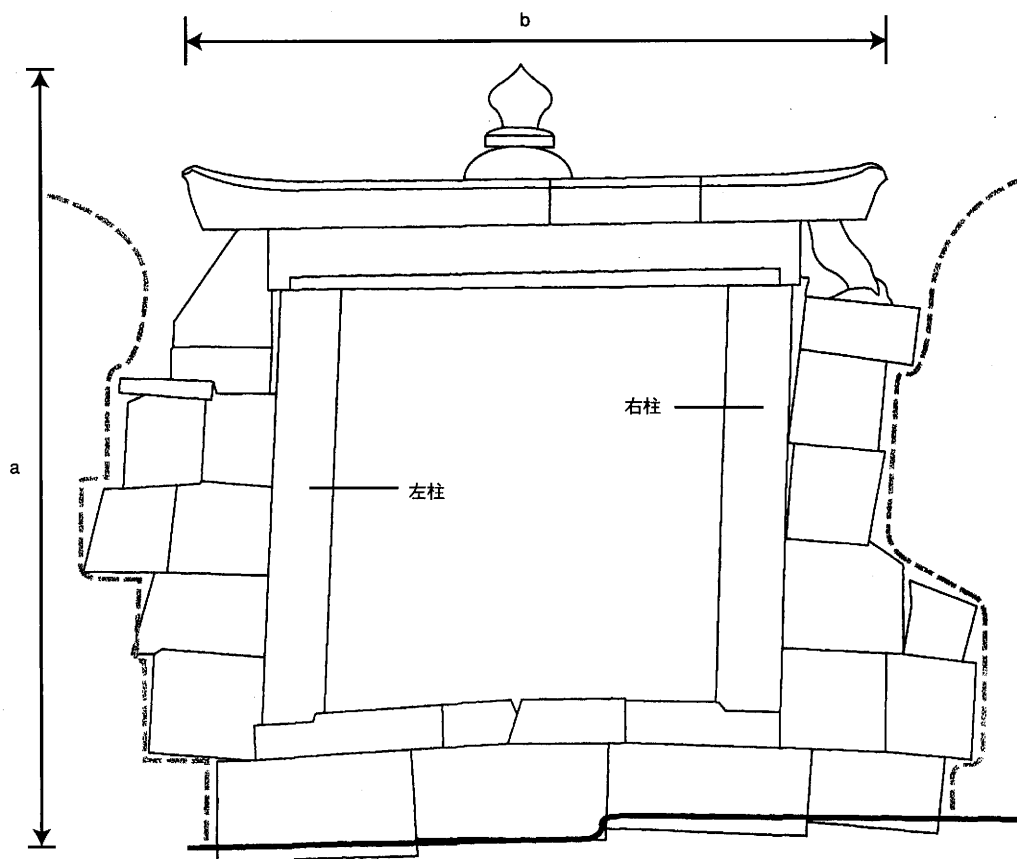
同じく、坂道も相川には多い。現在では、コンクリートの階段や近代的なデザインの石段に切り替わったところが多いが、寺院や神社にいたる坂や指定文化財となっている坂は、石段が残っている。

石堀（いしべい）

相川では、居宅を石製の堀で囲んでいる光景も見られる。

石祠（せきし）（第39図）

石で造られた家屋形の石造物をいう。石室、石殿ともいう。



第39図 石祠の形態及び部位名・計測部位

石蔵（いしくら） 石材を組み立てて造った蔵が相川に残っている。

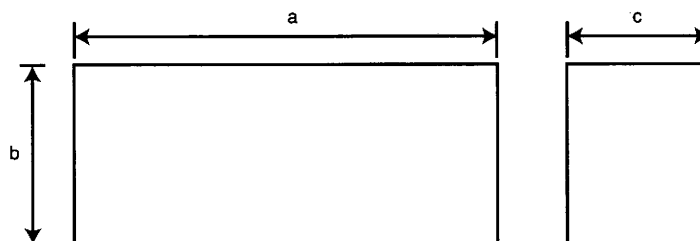
イ、建設部材 上記のような遺構を形作る部材をここに括った。

棟石（むねいし） 屋根瓦の頂部に、石製の棟瓦をしつらえている建物がある。

鬼瓦（おにがわら） 石製の鬼瓦をのせた建物がある。

土台石（どだいし）（第40図）

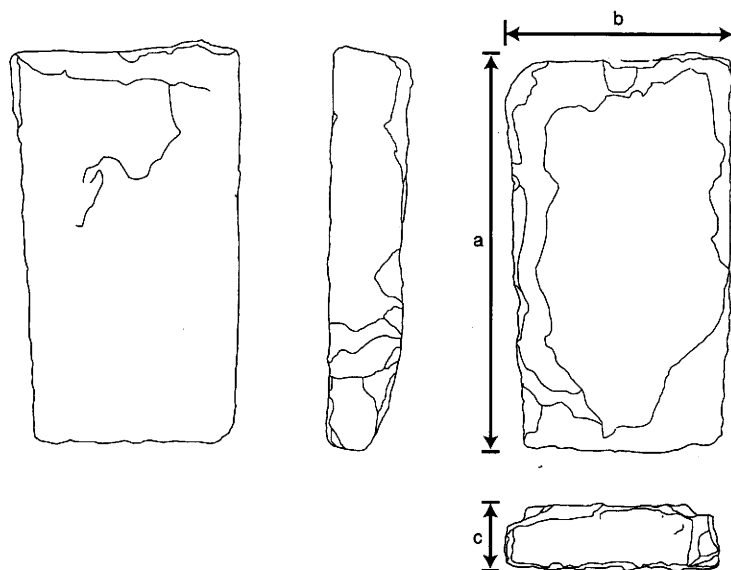
相川郷土博物館に収蔵されているものである。建物を建てる時の基礎にしたものである。



第40図 土台石の形態及び計測部位

板石（いたいし） （第41図）

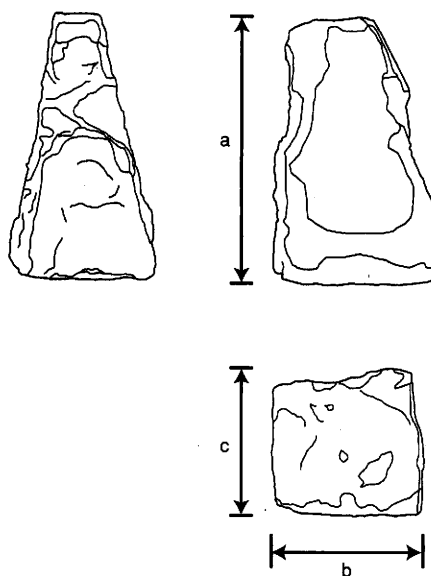
相川郷土博物館に収蔵されているものである。家庭の土間、寺社の参道に敷く石を板石という。板状に細工した石材で汎用性は高かったことであろう。



第41図 板石の形態及び計測部位

間知石（けんちいし） （第42図）

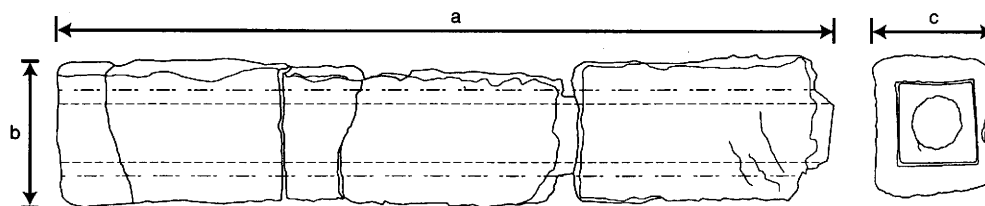
相川郷土博物館に収蔵されているものである。
四角錐に切った石材の頂部を切り取ったもの。
石垣や水路の面石に用いられる。



第42図 間知石の形態及び計測部位

樋（とい） （第43図）

相川郷土博物館に収蔵されているものである。
農業用水や下水を流すために石製の樋を使うことがあった。今回の調査で対象にできたのは、内部を窟孔し、そこに管を入れるタイプのものである。



第43図 樋の形態及び計測部位

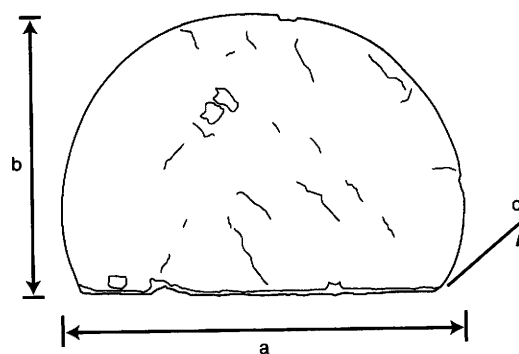
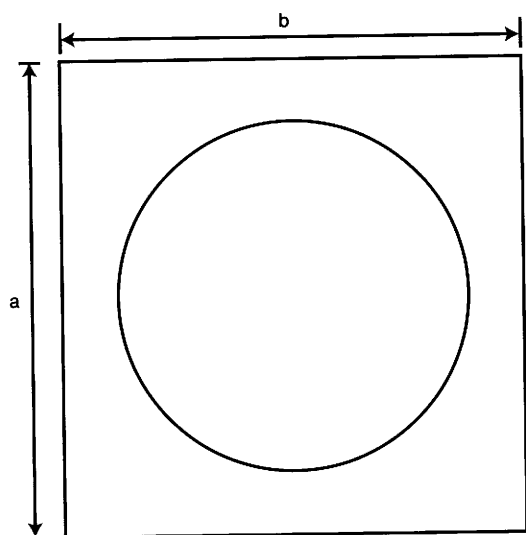
井戸枠 (いどわく) (第44図)

相川郷土博物館に収蔵されているものである。

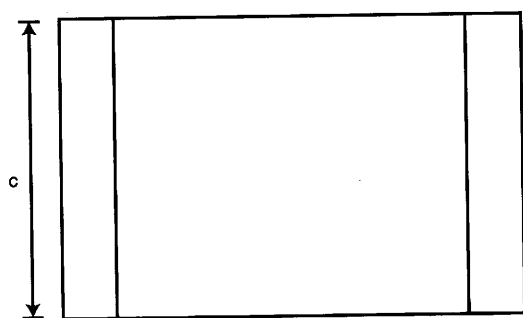
井戸上の地上部分に置いたものと思われる。漢字の井の形に組んだ木製のものは「井桁」と呼んだ。

井戸蓋 (いどぶた) (第45図)

相川郷土博物館に所蔵されているものである。井戸枠と対で使用されていたと思われる。



第45図 井戸蓋の形態及び計測部位



第44図 井戸枠の形態及び計測部位

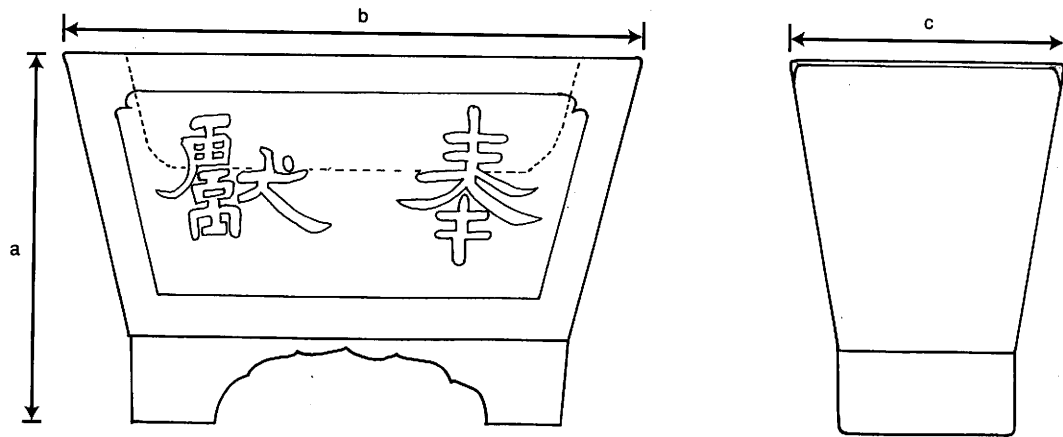
これら以外にも、礎石など、ここに収録できなかった建設部材があることを断っておく。

ウ、器具

土地に長期間据えることを想定しておらず、人間が道具として持ち運びする性格のものをここに括った。考古学でいう「遺物」に当たる。

手洗鉢（てらいばち）（第46図）

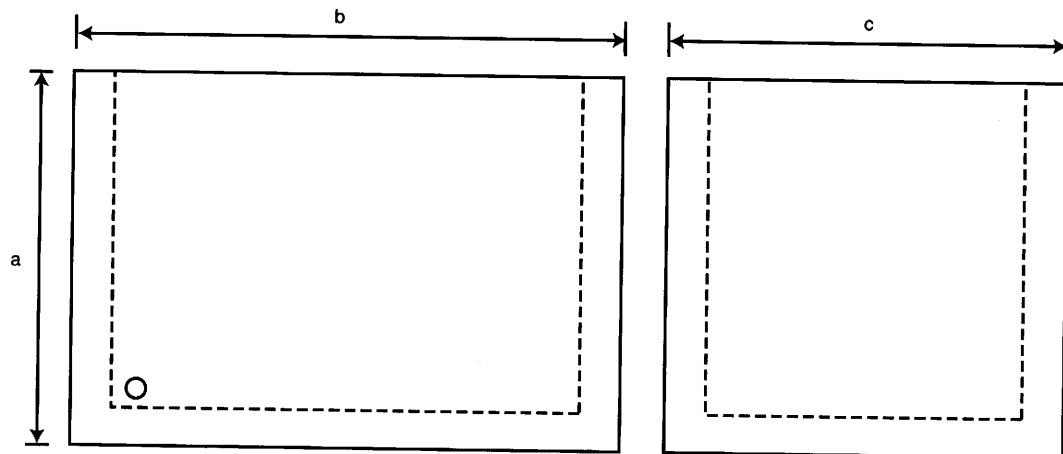
社寺を参詣するとき、身を浄めるため神前に置かれる。江戸時代後半には、鳥居と同様に手洗い鉢のない神社はないほど多く造られ、その正面に多様な銘文が彫られるのも特徴である。



第46図 手洗鉢の形態及び計測部位

水槽（すいそう）（第47図）

手洗鉢と異なって、器壁が薄く一定の厚さであり、内法が深い。手洗い鉢と同じ用途で寺社に置かれている場合もあり、また、防火水槽として置かれている例もある。



第47図 水槽の形態及び計測部位

花生（はないけ）（第48図）

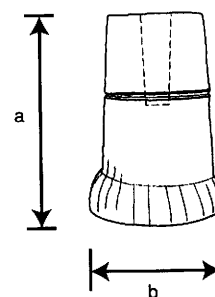
墓前や仏前に置かれ、仏や死者に供える草花を挿す孔を穿つ。

粉挽臼（こひきうす）（第49図）

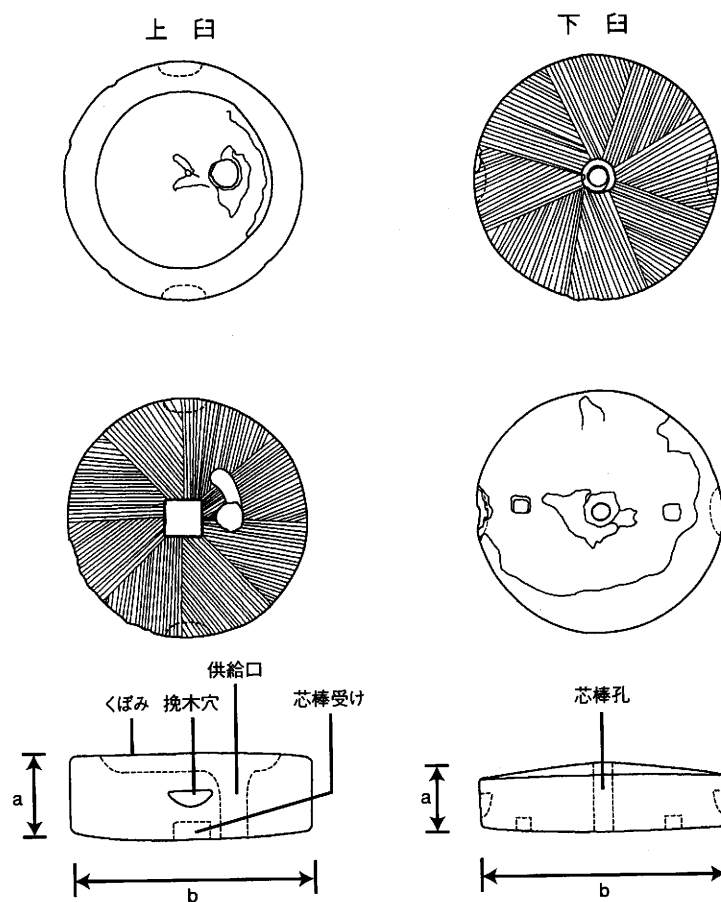
相川郷土博物館に収蔵されているものである。

下臼の上に上臼を乗せ、下臼を床面に固定してその上に乗っている上臼を回転させることによって、主に穀類・豆類をすり潰す。

相川地区では、豆腐を作るために、蒸した大豆をすり潰す場合が多かったと思われる。



第48図 花生の形態及び計測部位

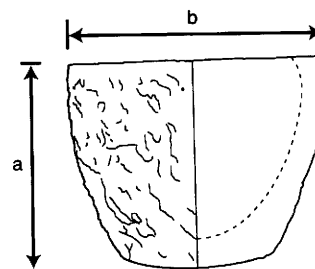


第49図 粉挽臼の形態及び部位名・計測部位

搗臼（つきうす）（第50図）

相川郷土博物館に収蔵されているものである。

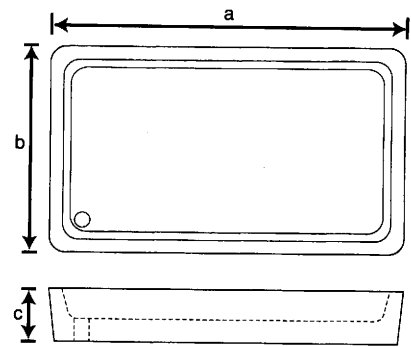
餅を搗くのに使ったと思われる。蒸すか炊いた餅米をこの臼の中に入れて、杵で強く何度も圧迫していると餅になる。



第50図 搗臼の形態及び計測部位

石流し（いしながし）（第51図）

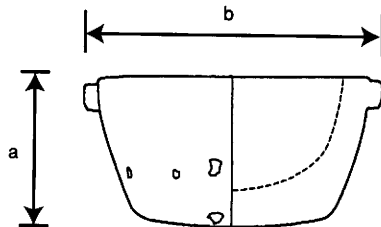
相川郷土博物館に収蔵されているものである。
石製の流しである。現在でも台所などに置いている家がある。



第51図 石流しの形態及び計測部位

すり鉢（すりばち）（第52図）

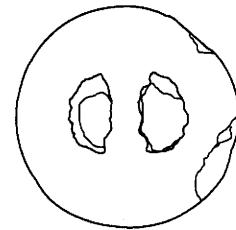
相川郷土博物館に収蔵されているものである。



第52図 すり鉢の形態及び計測部位

重し（おもし）（第53図）

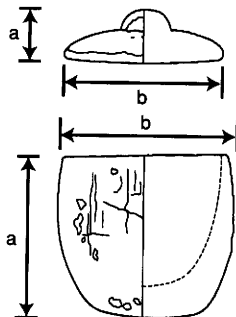
相川郷土博物館に収蔵されているものである。
把手を彫りだしたものである。



第53図 重しの形態及び計測部位

火消壺（ひけしつぼ） 火消壺蓋（ひけしつぼふた）（第54図）

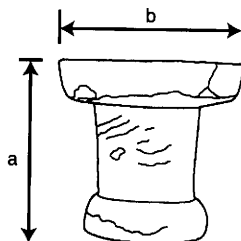
相川郷土博物館に収蔵されているものである。



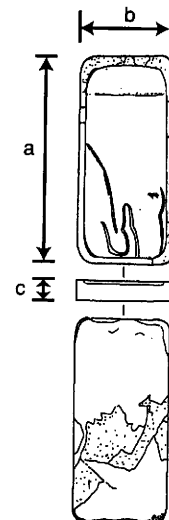
第54図 火消壺・火消壺蓋の形態及び計測部位

松明台（たいまつだい）（第55図）

相川郷土博物館に収蔵されていたものである。



第55図 松明台の形態及び計測部位



第56図 硯の形態及び計測部位

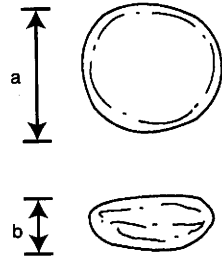
硯（すずり）（第56図）

佐渡奉行所跡から出土したものである。
佐渡奉行所跡に勤めた人たちの識字文化を物語る石造物である。

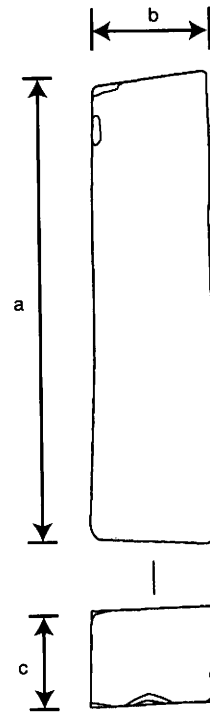
碁石（ごいし）（第57図）

佐渡奉行所跡から出土したものである。

佐渡奉行所跡に勤めた人たちが興じた遊戯の一端を物語る石造物である。



第57図 碁石の形態及び計測部位

**砥石（といし）（第58図）**

佐渡奉行所跡から出土したものである。

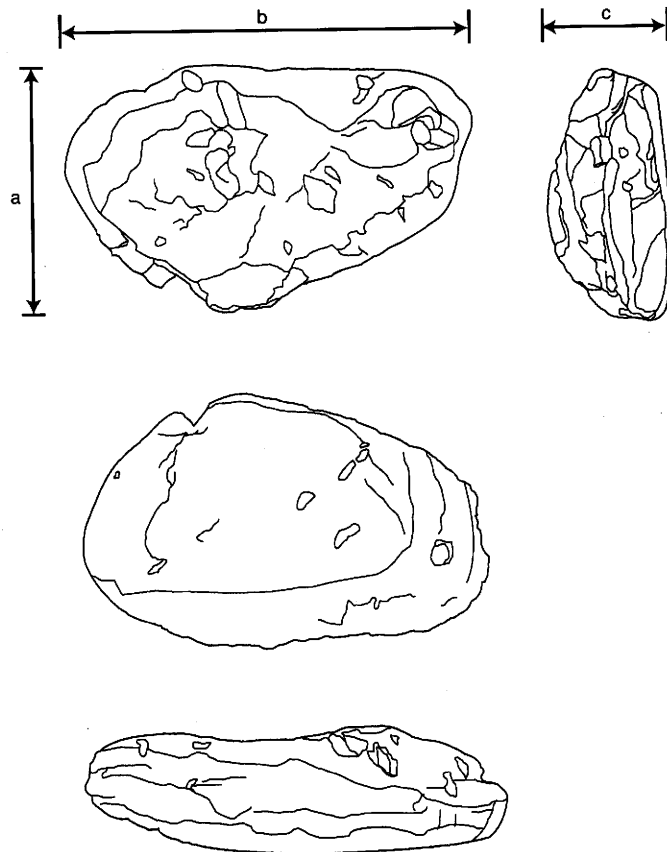
第58図 砥石の形態及び計測部位

地均石（じならしいし）（第59図）

相川郷土博物館に収蔵されているものである。

水がかりの悪い田や水はけの良い田では、田面に泥を塗りこめて、用水を最大限に有効利用しなければならなかった。

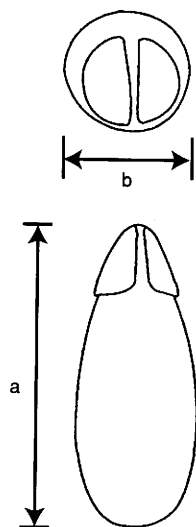
その、泥を塗りこめるのに用いた石である。端に穿った孔に綱をとおして、人力で引いて使った。



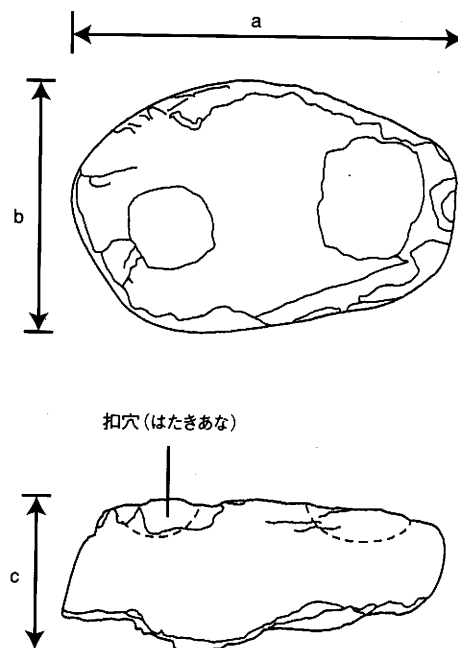
第59図 地均石の形態及び計測部位

漁具（ぎょぐ）（第60図）

相川郷土博物館に収蔵されているものである。
漁網の錘に使われたものと思われる。



第60図 漁具の形態及び計測部位



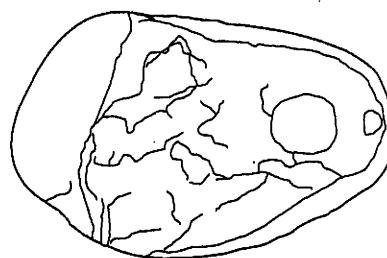
扣石（はたきいし）（第61図）

相川郷土博物館・佐渡奉行所跡に収蔵されているものである。

採掘した鉱石を製錬する作業場に搬入すると、まずこの扣石に穿たれた孔に鉱石を入れて、粗割りした。呼称は鉱山によって異なる。

例えば、島根県の石見銀山では「要石（かなめいし）」と呼んでいた。

また、採掘する鉱物に質によっては、扣石による粗割りが不要な場合もあった。

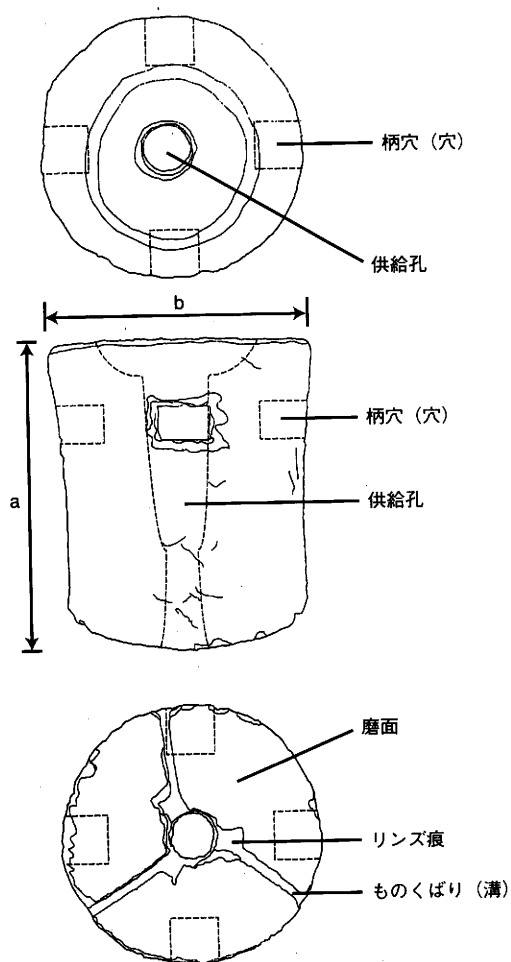


第61図 扣石の形態及び部位名・計測部位

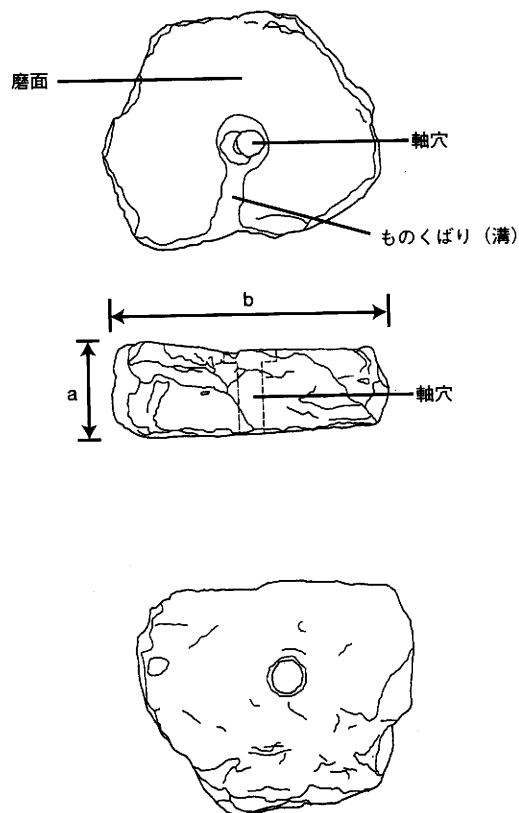
鉢山臼（こうざんうす）（第62図・63図）

相川郷土博物館・佐渡奉行所跡に収蔵されているものである。

粉挽臼同様に、上臼が下臼の上に乗って、上臼の重みですり潰す道具である。粉挽臼と異なる点は、上臼・下臼の磨面に目を刻んでいないことと、上臼の中心に軸穴という孔があり、軸穴が芯棒受けと供給孔の役割を兼ねていることである。



第62図 鉢山臼(上臼)の形態及び部位名・計測部位

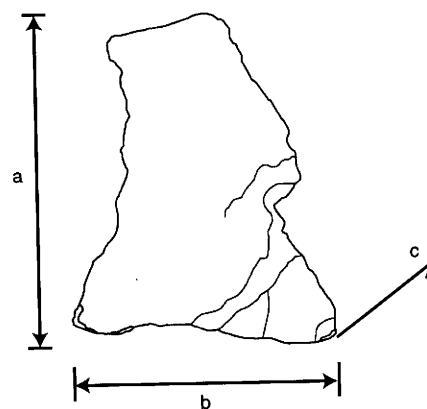


第63図 鉢山臼(下臼)の形態及び部位名・計測部位

エ、その他

句碑（くひ）（第64図）

文人の句を刻んだ碑である。相川郷土博物館に収蔵されていたものを収録した。



第64図 句碑の形態（一例）及び計測部位

本書における分類は石造物の形態に着目したものである。しかし、「何に見立てたか」に着目した分類は宗教史の立場では重要とされている。この「何に見立てたか」という観点は特に石仏・石神や石塔といった信仰に関する石造物の分類には有効な場合が多い。本書における形態分類と「何に見立てたか」との対照を表にすると次のようになる。

第1表 石造物の形態と使用目的 対照表

形態	何に見立てたか（使用目的）
石神・石仏	<p>神仏そのもの</p> <p>民間信仰の塔（刻像塔）</p> <p>日待系統の塔・・・日待塔、甲子塔、巳待塔</p> <p>月待系統の塔・・・二十三夜塔、二十二夜塔、二十一夜塔、二十日待塔、十九夜塔、十八夜塔、二十六夜塔、</p> <p>その他の月待供養塔</p> <p>道祖神塔</p> <p>自然神信仰の塔・・・山神塔、水神塔、金神塔、地神塔、雷神塔</p> <p>馬の守護神の塔・・・馬頭観音塔、馬糞神塔、蒼前神塔、</p> <p>その他の民間信仰の塔・・・天神塔、淡島信仰の塔、恵比須塔、</p> <p>疱瘡神塔、聖徳太子塔、田の神塔、</p> <p>石敢当、動物供養塔</p> <p>山岳信仰の塔・・・大峰信仰の塔、大峰講碑、富士講碑、御嶽講碑、</p> <p>霊神塔、出羽三山塔、大山信仰の塔、三峰信仰の塔、</p> <p>古峰信仰の塔、妙義信仰の塔、戸隠信仰の塔、</p> <p>白山信仰の塔、立山信仰の塔、秋葉信仰の塔、</p> <p>愛宕信仰の塔、金峯山信仰の塔、その他</p> <p>名神大社信仰の塔・・・伊勢信仰の塔、天神信仰の塔、金毘羅信仰の塔、</p> <p>青麻信仰の塔</p> <p>念仏塔・・・念仏供養塔、百万遍念仏塔、常念仏塔、踊念仏塔、</p> <p>天道念仏塔、六斎念仏塔、四十八夜念仏塔、百堂念仏塔、</p> <p>斎念仏塔、不食念仏塔、寒念仏塔、夏念仏塔</p> <p>巡拝塔・・・三十三番巡拝塔、百番巡拝塔、六十六部廻国塔</p> <p>その他の仏教関係の塔・・・三界万霊塔、葷酒塔、</p> <p>石橋・道路・石階供養塔、名号塔、</p> <p>題目塔、餓死供養塔</p>
摩崖仏	仏
庚申塔	庚申塔
狛犬	狛犬
念仏車	念仏車

形態	何に見立てたか（使用目的）
石 塔 板石形石塔 角柱形石塔 笠塔婆 宝篋印塔 五輪塔 一石五輪塔 無縫塔 カマボコ形石塔 自然石石塔 その他 分類不能	墓塔 供養塔 逆修塔 顕彰碑 記念碑 道標 寺標 民間信仰の塔（文字塔） 日待系統の塔・・・日待塔、甲子塔、巳待塔 月待系統の塔・・・二十三夜塔、二十二夜塔、二十一夜塔、二十日待塔、十九夜塔、十八夜塔、二十六夜塔、 その他の月待供養塔 道祖神塔 自然神信仰の塔・・・山神塔、水神塔、金神塔、地神塔、雷神塔 馬の守護神の塔・・・馬頭観音塔、馬糞神塔、蒼前神塔 その他の民間信仰の塔・・・天神塔、淡島信仰の塔、恵比須塔、 疱瘡神塔、聖徳太子塔、田の神塔、 石敢当、動物供養塔 山岳信仰の塔・・・大峰信仰の塔、大峰講碑、富士講碑、御嶽講碑、 霊神塔、出羽三山塔、大山信仰の塔、三峰信仰の塔、古峰信仰の塔、妙義信仰の塔、戸隠信仰の塔、 白山信仰の塔、立山信仰の塔、秋葉信仰の塔、 愛宕信仰の塔、金華山信仰の塔、その他 名神大社信仰の塔・・・伊勢信仰の塔、天神信仰の塔、金毘羅信仰の塔、青麻信仰の塔 念仏塔・・・念仏供養塔、百万遍念仏塔、常念仏塔、踊念仏塔、 天道念仏塔、六斎念仏塔、四十八夜念仏塔、百堂念仏塔、斎念仏塔、不食念仏塔、寒念仏塔、夏念仏塔 経典に関する塔・・・経典読誦塔、経典書写塔、一字一石塔、 光明真言塔 巡拝塔・・・三十三番巡拝塔、百番巡拝塔、六十六部廻国塔 その他の仏教関係の塔・・・三界万霊塔、葦酒塔、 石橋・道路・石階供養塔、名号塔、 題目塔、餓死供養塔

形態	何に見立てたか（使用目的）
鳥居	鳥居
石灯籠	石灯籠
旗棹の台石	旗棹の台石
敷石	敷石
石橋	石橋
石垣	石垣
石段	石段
石堀	石堀
石祠	石祠
石蔵	石蔵
棟石	棟石
鬼瓦	鬼瓦
土台石	土台石
板石	板石
間知石	間知石
樋	樋
井戸枠	井戸枠
井戸蓋	井戸蓋
手洗鉢	手洗鉢
粉挽臼	粉挽臼
搗臼	搗臼
石流し	石流し
すり鉢	すり鉢
重し	重し
火消壺	火消壺
松明台	松明台
硯	硯
碁石	碁石
砥石	砥石
地均石	地均石
漁具	漁具
扣石	扣石
鉾山臼	鉾山臼
句碑	句碑

3. 石造物各説

佐渡市下相川（図版1・32-1～5）（第1・8・9・14図）

1 伝真光寺元屋敷 地主衆霊塔（図版1・32）（第14図）

大佐渡スカイライン沿いの林の中にある。切石の台石・台座を据え、塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、丸彫りの仏像をはめ込む。仏像の石材は安山岩である。塔身右側面には願文を、左側面には年月及び施主名を、裏面には石工名を刻む。

この石塔が建っているのは、真光寺という寺院の境内だったと伝わっている。

2 佐渡奉行 鎮目市左衛門惟明 墓（図版1・32）

新潟県指定文化財「相川鉱山遺跡（鎮目奉行の墓）」（記念物 史跡）

1618（元和4）年に佐渡奉行になり、10年間佐渡奉行を務めた。大久保長安の没後、衰退に向かっていった金銀山を復興するため、山師に銀の貸与や生産資材を供給し、大工・穿子には銀や米を前借りさせて生計の安堵を図るとともに、鉱山労働力の保持のため米を市価より安く払い出すなど、積極的な産金政策を行った。また、貨幣流通の円滑化と、銀の国外流出防止のため佐渡一国限り通用の極印銀を鑄造すると同時に、上納金輸送の安全と、金銀山入用費の逆輸送による経費を節減するため、相川で小判を鑄造するなど経済面にも意を用いた。このため山は活気を取り戻し、産金量は増えて相川は賑わいを見せた。

1627（寛永4）年に亡くなった。島民から「鎮目さん」と親しまれ、徳を偲んで毎年7月14日にはにぎやかな供養祭が行われていた。現在建っている墓は1845（弘化2）年の造立である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 721～722

3 富崎 鬼瓦・棟石（図版1）

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』所収の写真を掲載した。

4 下相川 石蔵（図版1）

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』所収の写真を掲載した。

5 富崎 線彫不動磨崖仏（図版1・32）

線彫の不動磨崖仏。向かってやや左向きの両眼を開く座像で、像高はおよそ37cm、右手に宝剣、左手に絹索をほぼ像の中ほどに持つ。像背後の火焰光と、像下の蓮華座の蓮弁もかすかにうかがえる。

金銀山が開発される前後、桃山期頃のものと思われる。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 510～511

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 128～129

戸河神社（図版1・33-6～8）（第1・8・9図）

6 戸河神社 石垣（図33）

下相川の手前に小高い岩山があるが、その地形を利用して戸河神社が建っている。これは戸河神社のある平坦面を支えている石垣である。大きさは不ぞろいであり、ある程度成形を施した石を面石に用い、内側へ丸みをもたせた積み上げ方をしている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 8 1

7 戸河神社 手洗鉢① (図版1・33)

社殿に向かって左右に設置されている手洗鉢のうち、左側にあるもの。正面には「文久四歳・・・奉献・・・盥水 当所若者中」と刻む。

8 戸河神社 手洗鉢② (図版8・33)

角張った造りで、脚部も前後にくり抜いているのみである。正面に「天保二卯年 奉献 吉田周明」と刻む。

戸河山 本興寺 (図版1・33-9～11) (第1・8・9図)

9 石屋 山本平三郎 墓 (図版1・33)

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りして髭題目等を刻む。塔身正面根部には蓮華文を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 0 4

10 石屋 本間又右衛門 墓 (図版1・33)

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りして俗名及び年号等を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 3 6

11 本興寺 情死の墓 (図版1・33)

切石の台石を据えている。連弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身の正面に年月と「情死の墓」と刻む。以下、参考文献より引用した記述である。

「情死墓」施主 水金町宿屋中

安政六年五月一日 奉行所山方役高野忠左衛門下男虎吉、二十四歳、水金町松本屋広吉抱遊女柳川、二十歳、本興寺墓地而開相對死。

参考文献 『佐渡金山』 磯部欣三 著

佐渡市相川水金町 (図版34-12) (第1・8・9図)

12 相川水金町 石橋 (アーチ橋) (図版34)

水金川にかかっている。切石をアーチ状に積む「アーチ橋」である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 8 0～2 8 7

水金山 専光寺跡 (図版2・34-13～17)

13 地役人 和田市左衛門 墓 (図版2・34)

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取り、法名及び年月を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 2 3

14 地役人 和田与右衛門 墓（図版2・34）

台石・台座に該当する部位は見当たらない。板石形の塔身正面には法名及び年月を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 231

15 専光寺跡 五輪塔（図版2・34）

空輪と風輪が欠落して見当たらない。現存する各輪に「火」「水」「地」と刻む。また、地輪正面には、法名及び年月等を刻む。

16 常照院心誉居士 墓（図版2・34）

空輪・風輪・火輪が欠落して見当たらない。現存する各輪に「水」「地」と刻む。また、地輪正面には法名及び年月等も刻む。

17 専光寺跡 徳本上人六字名号塔（図版2・34）

徳本上人は浄土宗捨世派の僧。捨世派とは、既成の寺檀関係や共同体に制約されない布教活動を行う脱体制派である。全国各地に足跡を残すが、佐渡に来た記録はない。佐渡には五つの講中があり、このうち相川には柴町講中・大安寺講中・立岩寺講中があった。

この塔は寺院門前標柱と相対していたらしい。名号の書体は中山旧道の馬清水の近くにある石塔と同じ特徴がある。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 503

相川郷土博物館（図版2・7・35～38-18～93）（第1・8～10図）

18～23 相川郷土博物館 丸彫地藏①～⑥（図版2・35）

相川郷土博物館所蔵の石仏。地藏菩薩を丸彫りする。

18 相川郷土博物館 丸彫地藏①

佐渡群書文庫資料（岩間徳太郎氏収集）である。

19 相川郷土博物館 丸彫地藏②

佐渡群書文庫資料（岩間徳太郎氏収集）である。

20 相川郷土博物館 丸彫地藏③

佐渡群書文庫資料（岩間徳太郎氏収集）である。

21 相川郷土博物館 丸彫地藏④

佐渡群書文庫資料（岩間徳太郎氏収集）である。

22 相川郷土博物館 丸彫地藏⑤

佐渡群書文庫資料（岩間徳太郎氏収集）である。

23 相川郷土博物館 丸彫地藏⑥

佐渡群書文庫資料（岩間徳太郎氏収集）である。

24 相川郷土博物館 鑿彫地藏（図版2・35）

計良勝範氏所蔵 鉾山坑内より出土

相川金銀山の廃坑の一つから発見したもので、採石した金鉾石の捨石の正面に、鑿彫りしてあるものである。岩石は、高さが約30cm、厚さ約8cmくらいの小さなものであるが、正面は平らで、下方をやや広くし、上方はやや細め山形にしている。正面には鑿で彫ったと思われる像を線彫りするが、像高約14cmで、頭は丸め、さらに頭光をつけ、右手には錫杖と思われるものを肩にかつぐように彫っている。顔相などは省略したものであろう。全体に単純で省略した線にかえて力強さを感じる。頭を丸めていることで持物と錫杖とみて、地藏菩薩と考えられる。また裏面には同様に鑿で下方に大きく「山」と彫っている。

すなわち、この資料は、相川金銀山の坑内から出たものであり、「山」は金銀山をあらわすであろうし、鉾内深く入って鑿をふる金掘の刻んだものとみてよいであろう。

江戸時代、盛況な相川金銀山に働く金掘たちの信仰の一面を物語る資料である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p190

25～41 相川郷土博物館 土台石①～⑪（図版2・3・35）

26 現博物館展示室の床にあった。鉾山事務所時代 金庫かストーブがあった場所という。

42～45 相川郷土博物館 板石①～④（図版3・4・36）

42 相川郷土博物館 板石①

現博物館展示室の床にあった。鉾山事務所時代、金庫かストーブがあった場所という。

43 相川郷土博物館 板石②

現博物館展示室の床にあった。鉾山事務所時代、金庫かストーブがあった場所という。

44 相川郷土博物館 板石③

現博物館展示室の床にあった。鉾山事務所時代、金庫かストーブがあった場所という。

45 相川郷土博物館 板石④

現博物館展示室の床にあった。鉾山事務所時代、金庫かストーブがあった場所という。

46～54相川郷土博物館 間知石①～⑨（図版4・36）

55 相川郷土博物館 樋（図版5・36）

56～57 相川郷土博物館 井戸枠（図版5・36）

58 相川郷土博物館 井戸蓋（図版5・36）

59 相川郷土博物館 コタツのおとし（図版5・36）

炭を入れる。

60 相川郷土博物館 水槽 (図版 5・37)

相川南沢町の元佐渡支庁長公舎の庭にあったもの (寄贈)。その前の場所は不明である。

61～66 相川郷土博物館 粉挽臼 (図版 6・37)

67・68 粉挽き臼セット (図版 6・37)

68 豆腐用の臼であったものを蕎麦挽き用に目をたてなおしたものという。

69 相川郷土博物館 搗臼 (図版 6・37)

70～72 相川郷土博物館 石流し①～③ (図版 6・37)

73～75 相川郷土博物館 すり鉢①～③ (図版 6・37)

73 相川郷土博物館 すり鉢①

魚のすり身を作るのに使用した。

74 相川郷土博物館 すり鉢②

魚のすり身を作るのに使用した。

75 相川郷土博物館 すり鉢③

魚のすり身を作るのに使用した。

76 相川郷土博物館 重し (図版 6・37)

77 相川郷土博物館 火消壺 (図版 6・37)

余ったオキを入れ、蓋をして消し炭を作る。

78 相川郷土博物館 火消壺蓋 (図版 6・37)

余ったオキを入れ、蓋をして消し炭を作る。

79 相川郷土博物館 火消壺 (図版 6・38)

余ったオキを入れ、蓋をして消し炭を作る。

80 相川郷土博物館 松明台 (図版 6・38)

松脂をたくさん含んだ松材をのせ、明かりをとった。

81・82 相川郷土博物館 地均石①・② (図版 7・38)

81 春先、田の中を引き回し、田の水漏れを防ぐ作業をするのに用いた。

82 春先、田の中を引き回し、田の水漏れを防ぐ作業をするのに用いた。

83 相川郷土博物館 漁具（図版 7・38）

84～92 相川郷土博物館 鉾山臼（図版 7・38）

85 濁川上流より流れてきた。採集資料。採集したのは、2001（平成13）年頃。

86 石臼。濁川（北沢）工事中に出土した。

88 北沢新橋工事中に出土した。

90 以前から博物館にある。

92 北沢新橋改修工事のとき川の右岸（海から見て右側）から出土した。中心の穴に木の軸片が残っている。

93 相川郷土博物館 「竹梅塚」（松尾芭蕉の句碑）（図版 7・38）

江戸時代、佐渡は俳諧が盛んであった。俳聖松尾芭蕉を慕う俳人によって各地に芭蕉の句碑が建てられた。相川には桜塚・竹梅塚・扇塚の三基がある。桜塚は相川一町目の永宮寺にあると伝えられる。

竹梅塚は相川南沢町の長明寺の近くで見つかった。「もろこしや かどにいつかの たけにうめ」と読める。扇塚の所在と句は不明である。

佐渡市相川下山之神町（図版 8・39-94～97）（第 1・8～10図）

94 儒者 圓山溟北先生 墓（図版 8・39）

自然石の台石の上に角柱形の塔身がのっている。塔身正面には俗名、裏面には生前の経歴を刻む。

1816（文化13）年生まれ。1836（天保7）年、江戸へ出て、経史を修める。その後、帰郷。1855（安政2）、修教館の教授となり、1876（明治9）年に修教館が廃止されると家塾（学古塾）で門弟の教育に努めた。

学古塾からは、鶴飼郁次郎、森知幾、山本悌二郎、萩野由之、岩木拵、柏倉一徳、高田慎蔵、長谷川清、浅香周次郎などたくさんの人材を輩出している。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集 2 墓と石造物』 p 732～733

95 大平 淡 墓（図版 8・39）

切石の台石を据えているが、角柱形の塔身は転落している。塔身頂部は表面が剥離している。塔身正面には法名を刻み、側面に年月を刻む。

先祖は土佐国出身。1601（慶長5）年、佐渡へ渡り、相川に住んで、代々医を業とした。四代目道悦は、益田恂岡とともに佐渡の薬草を調査し、それをもとに「佐州産物帳」を編纂。この功によって佐渡奉行所付の医師となった。ここにあげた大平淡は九代目昌清であるといわれている。

塔身は台座から転落して、頂部は剥離している。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集 2 墓と石造物』 p 731～732

96 厳常寺坂 石祠・地藏（図版39）

96-1は厳常寺坂中腹、法泉寺への入口付近にある。祠の中に石仏群を収める。右柱・左柱の正面には「念仏講中・・・・」やその世話人名を刻む。

96-2は厳常寺坂の登り口にある。祠は石製でなく、コンクリート製である。祠の中には丸彫りの地藏を5体、半肉彫りの地藏1体ほどを収める。

97 厳常寺坂 石段（図版39） 佐渡市指定文化財（記念物史跡）

濁川を境に、陣屋に向かう帯刀坂と対象に、下山神台地に通じる石段道が厳常寺坂である。

石段に沿って、左側は地役人天野氏邸跡のみごとな石垣、総源寺末寺の長泉寺跡、その奥が日蓮宗法泉時と続く。右側は浄土宗厳常寺跡、法泉寺墓地跡、厳常寺墓地跡、長泉寺墓地跡と今は荒廃した石垣を残すだけである。

寺院や墓地が集まっていた跡だけに、石段の両側には今も地藏が多い。138段の坂は昔のままで、両側は小高い丘の樹林に囲まれて、いつも陽のあたらない感じである。

役人が、東照宮や大山祇神社・八幡神社に詣でるのに陣屋からの最短距離に開いた道と思われる。

全長225.2mのこの石段は、また庶民信仰の坂道として、下山神台地への唯一の歴史を語るみちである。

参考文献 『相川町の文化財』 p 88

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 280～287

大山祇神社（図版8・39・40-98～101）（第1・8～10図）

98 神官 安岡氏霊神（図版8・39）

安岡家の先祖は石見国の出身で、1605（慶長10）年に佐渡奉行大久保長安が建立した金銀山総鎮守大山祇神社の社人として招かれ佐渡へ渡った。石塔の造立年代は不明だが、文化・文政期頃と思われる。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 677

99 大山祇神社 石灯籠（図版8・39）

神社鳥居奥の敷石左右に建っており、一対を成す。竿の正面に「奉献石灯籠 二基」と刻む。

100 大山祇神社 石垣（図版40）

大山祇神社社殿の裏は、山であり、さらに標高を上げていく。社殿裏の山を土留めしている石垣である。石の大きさは一定で、切石を用い、表面はピシャン仕上げを施している。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 280～287

101 大山祇神社 手洗鉢（図版8・40）

大山祇神社と安岡氏宅との間にある池の端にあて、台石もなく、底部が土に埋まっている。大山祇神社の手洗鉢。正面に「安永八年 奉納 井坂亦兵衛源信□」と刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 115～117

青嶽山 総源寺（図版 8・9・40・41-102～108）（第 1・8～10・12図）

102 佐渡奉行 篠山十兵衛景義 墓（図版 8・40）

自然石の台石の上に角柱形の塔身がのっている。塔身正面に俗名を刻む。

幕臣新村孫三郎の次男として生まれ、篠山家の養嫡子となり、篠山家の跡を継いだ。御勘定吟味方改役、評定所留役、関東郡代支配、摂津国西成代官、御勘定吟味役を歴任し、1816（文化13）年、佐渡奉行となった。

1817（文化14）年に佐渡に来島したが、体調が思わしくなく、着任後4か月余りで亡くなった。

墓地は3.2m四方に土盛りし、中央に石英安山岩の自然石を置き、その上に飾りのない簡素な造りをした塔身に俗名を配し、裏面には遺徳を偲んだ碑文を刻んである。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 714～715

103 佐渡鉾山供養塔（図版 8・40）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面に「供養塔」と刻む。

1934（昭和9）年に佐渡鉾山が事故死した従業員の冥福を祈って建立したものである。合葬墓。

104 佐渡奉行 鈴木伝市郎正恒 墓（図版 8・40）

幕府御勘定吟味役から、1828（文政11）年に佐渡奉行となる。

在任前半は、鳥越間歩で新鉾を掘り当て、中尾間歩の水貫工事を完成させるなど積極策を展開させる。

しかし、在任後半は、災害と冷害による凶作、津波、相川の大火に見舞われ、世情が不安定となった。

1835（天保6）年、持病の腹痛が悪化、1836（天保7）に亡くなった。

墓所を区画する周囲の敷石もなく、質素な造りである。角柱形の塔身は三段に重ねた台石の上にのせ、正面に俗名を、右面に法名と年月を刻むが、左面と裏面には彫りがない。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 718～719

105 佐渡奉行 飯塚伊兵衛英長 墓（図版 9・40）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が正方形に近い。塔身正面・右側面・左側面・裏面ともに額を縁取りする。正面には俗名を刻み、右側面には家紋・法名を、左側面には年月を刻む。

元二の丸御留守居役の後、1788（天明8）年、佐渡奉行となった。在任中は三度、来島した。

また、鉾石製錬・精錬を買石達に委託して奉行所の人員を削減し、節約した財源を金銀山の経営に充当するようにしたが、十分な効果をあげられなかった。佐渡来島中の1794（寛政6）年に亡くなった。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 711～712

106 地役人 根本与左衛門 墓（図版 9・41）

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』には地輪のみ写っている。近年修復されたものらしいが、空風水火各輪は別人のものかもしれない。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 165

107 比丘尼 織田清音尼 五輪塔（図版 9・41）

各輪に「空」「風」「火」「水」「地」と刻む。

織田清音尼は、相川水金町の楼閣で「遊郭の開祖」と言い伝えてきた人物である。相川水金町は宝暦年間（1751～1764）に遊女町の起源や由来について佐渡奉行所への書き上げを残しているが、清音尼に触れたものはない。

従って、清音尼の遊郭開祖説は、江戸時代の初期に相川柄杓町に住んだ比丘尼を思い出しながら、幕末に造られた伝説である。清音尼は「上相川」にあった相川奈良町の妙音寺の願主と伝わる。妙音寺は相川下山之神町の総源寺へ合寺された。この五輪塔は清音尼のものと伝わっている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 176

108 地役人 内藤兵衛門室 墓（図版9・41）

各輪に「佉」「伽」「羅」「婆」「阿」と刻む。また、地輪正面には法名及び年月も刻む。

内藤家の先祖は、毛利家に仕えていたが、1607（慶長12）年に佐渡へ渡ってきた。初代の内藤次郎右衛門は1618（元和4）年より佐渡奉行所役人となり、以後、代々地役人^{じかた}を務めた。初代より地方（＝農村部）との関係が密で、新田開発に力を入れた。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 184

相栄山 大乘寺（図版9・41～51-109～111）（第1・8・9図）

109 大乘寺 四国八十八箇所石仏（図版9・41～51）

大乘寺本堂の裏山へと上がってゆく石段を登ると堂がある。堂をとりまいて切石の台石があり、91体の石仏がのっている。石仏の本体は光背を背負い、半肉彫りの座像等である。石仏の数から、四国八十八箇所石仏をかたどったと思われる。表面は風化が著しく、銘文等は判読できない。これらの造立年代を示すものも見当たらない。本書では、堂への入口を起点に、反時計回りに各石仏に番号をつけ、それを枝番号として例えば「109-1」「109-91」というように表示した。

110 岡林伝右衛門義見 墓（図版9・51）

空輪と風輪が欠落して見当たらない。現存する各輪に一字ずつ種字を刻む。また、地輪正面は風化が著しく、銘文を判読できないが、蓮華文も刻んでいるのが確認できる。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 172～173

111 商人 山本重右衛門 墓（図版9・51）

各輪に種字を刻む。また、地輪正面には蓮華文も刻んでいる。

八幡宮（図版9・51-112）（第1・8～10図）

112 八幡宮 手洗鉢（図版9・51）

上面に対し、底面が狭く、立ち上がり広がって見える。

正面に「奉献」と刻む。右側面に年号、左側面に施主名を刻む。

法栄山 法泉寺（図版9・10・51・52-113～116）（第1・8～10図）

113 地役人 川野伊兵衛 墓（図版9・51）

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面には額を縁取りし、法名及び年月を刻む。左右に笠塔婆や板石形塔婆が四基並んでいる。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 1 6

114 地役人 水品安右衛門 墓（図版9・52）

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面には額を縁取りし、法名等を刻む。塔身正面根部には蓮華文を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 4 8

115 地役人 水品安右衛門一族 墓（図版9・52）

切石の台石・台座の上に角柱形の塔身が立つ。塔身正面に額を縁取りし、法名を刻む。左面・裏面には当家の由緒が彫られている。

116 地役人 須田富守 墓（図版10・52）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座に塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取り、法名・年月・俗名を刻む。

須田家の先祖は甲州出身で、武田家の滅亡後、甲府綱重に仕えたが、二男と三男は佐渡へ渡り、三男六右衛門が佐渡奉行所役人となった。富守は三代目。

1744（延享元）年に伊東玄基に、それまで集めていた諸家の記録や家蔵史料を示して、『佐渡名勝志』を編述させた。また、1722（享保7）年には、江戸上納金銀輸送旅行の一部始終を日記風に記した「江戸日記」を残している。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 7 0 4

万宝院跡（図版10・52-117）（第1・8・12図）

117 法印自顕 碑（図版10・52）

「上相川」へ上がる茶屋坂の南側土手上の僅かな平地に、かつて寺か修験の場があったらしく、今も数体の石地藏が立ち並んでいる。この平坦地は「万宝院」という寺院の跡である。その北側に転倒していた墓塔である。角柱形の塔身正面に法名及び年月を刻む。

専照寺跡（図版10・52・53-118～126）（第1・8・12図）

118 四体合墓 釈 大安 他 墓（図版10・52）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面には法名を刻み、右側面に年月、左側面に年月・法名を刻む。四体合墓（二代?）か。

119 釈 善立 墓（図版10・52）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面は額を縁取りし、法名

を刻む。塔身右側面には年月、左側面には「松島氏」と刻む。

松島氏の総墓と並んでいる。

120 釈 尼照念 墓（図版10・52）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、法名を刻む。塔身右側面には俗名、左側面には年月を刻む。

相川大工町佐藤家の惣墓に並ぶ無縁墓。記された没年は惣墓のそれより20年程古い。

121 釈 現善 墓（図版10・52）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面には法名を、右側面には年月、左側面には施主名を刻む。

没年月日が1名しかなく建立名が刻まれたものである。

122 富田家 墓（図版10・52）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りして「元祖之墓」と刻み、右側面には年月を、左側面には施主名を刻む。

旧道（掘割坂道）の寺標より8m程登った位置で寺屋敷面より2m上がって北向きに立っている。

九右衛門なる人物が後に建立したものではなかろうか。1850年と幕末である。

123 佐藤家 墓（図版10・53）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、「惣墓」と刻む。右側面には年月及び法名を、左側面には施主名を刻む。台石の重厚さにかかわらず地形により傾いている。

124 伊藤家 墓（図版10・53）

切石を組み合わせた台石をもつ。カマボコに似た形の塔身がある。塔身正面には「伊藤氏」と刻む。幕末に既に惣墓が存在していることが窺える。

125 釈 了空 墓（図版10・53）

空輪・風輪・火輪・水輪は欠落して見当たらない。また、地輪正面には法名・年月も刻む。法名「釈」は浄土真宗特有と見られる。

126 専照寺跡 寺標（図版10・53）

当寺は開基が1615（元和元）で浄土真宗。自然石の平滑面を利用して刻まれているが、面が二重になっている所を巧みに書いている。

妙音寺跡（図版10・53-127・128）（第1・8・12図）

127 妙音寺跡 地藏（図版10・53）

光背を背負い、地藏菩薩の立像を半肉彫りする。台座等は見当たらない。

電柱〔上町14〕の脇。妙音寺跡で、送電柱の脇に現存する。電柱の根掘りで移動したらしい土に埋ま

っていた。

128 千峯雄條居士 墓（図版10・53）

角柱形の塔身正面は額を縁取りし、法名を刻む。塔身左右側面に年月等を刻む。127の地藏尊と並んで倒れていた墓。

佐渡市上相川町（図版10・54-129～132）（第1図）

129 比丘尼 声信院殿観室清音尼禅尼 墓（図版54）

伝承 織田信長の息女が熊野尼となり、一族を連れて相川の柄杓町に移り住み、一世を風靡した清音尼の墓と伝えられる。かつては「声信院殿観室清音禅尼」と読まれたという。（麓三郎 『佐渡金銀山史話』）

現在は風化が激しく、判読できない。

130 方屋西岸信士・信山浄仰信士 墓（図版10・54）

角柱形の塔身正面は額を縁取りし、法名を刻む。塔身左右側面に年月を刻む。父子墓か。

131 正受院三誉相心居士・功德院性誉妙法大師 墓（図版10・54）

角柱形の塔身正面は額を縁取りし、法名を刻む。塔身左右側面に年月等を刻む。地藏尊の脇に横転していた碑で、建立場所は不明。

132 上相川町 笠塔婆（図版10・54）

上相川（番所跡）沢北側の急斜面の中断を削平し、一族の墓地を設けたようである。数基の基礎が見受けられる。植林（杉）端に位置し、標高約250m。台座は五基を数えるが、塔身は倒れているので分からない。五輪塔の水輪が転んでいる。

関東稲荷（図版10・11・54-133～136）（第1・8・10・12図）

133 関東稲荷 石塔（図版10・54）

関東稲荷社殿に向かって右側にある。扁平な石に魚の文様を刻んだものや、扣石を転用したものを下部に積み、その上に塔身がのっている。表面の刻字等ははっきりしない。

134 関東稲荷 石段（図版54）

関東稲荷は濁川砂岩の相川五郎右衛門町にある。濁川の川岸から急斜面の中腹にある社殿へと上ってゆく石段は切石を積んで造られている。

135 関東稲荷 石灯籠（図版11・54）

参道石段の左右に同形のものが建っており、一対を成す。竿の正面に「御神燈」、竿の裏に「石工 忠五郎」と刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 349～351

136 関東稲荷 手洗鉢（図版11・54）

社殿へと続く石段の登り口にある。正面に「文政十三・・・中尾間歩 大舗 若者中 世話人 間之山 栄治郎」と刻む。

関東稲荷に近い間の山の若者中が寄進した手洗鉢で、作業の安全繁栄を祈願したものであろう。

称名寺跡（図版11・55-137～139）（第1・8・10・12図）

137 浄西・妙喜 墓（図版11・55）

切石の台石を据えている。連弁を象った台座に角柱形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、年月・法名を刻む。塔身左右側面は年月等を刻む。

138 浄信・妙賢・妙諦 墓（図版11・55）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、法名を刻む。塔身右側面は年月を刻み、左側面には人名を刻む。祖先の追善供養として三体の法名が刻まれたのであろう。

139 古河家父母 墓（図版11・55）

切石の台石を据え、角柱形の塔身がのっていたらしいが、塔身は倒れている。塔身正面は法名・左右側面は年月と施主名を刻む。

佐渡市相川宗徳町（図版55-140）（第1・8・10・12図）

140 相川宗徳町 石橋（アーチ橋）（図版55）

濁川（北沢）にかかっている。切石をアーチ状に積む「アーチ橋」である。

140-1は、切石アーチ積1段のうえ、野面石乱積みとする。

アーチ部の切石は幅約30cm×高さ約24cmとし、中央キーストーンではアーチ部一般切石より高さの大きい幅約30cm×高さ約48cmの切石を用いる。野面石は短径約21cmから24cm、長径約39cmから45cmとする。石目地は石灰質の材料を用い、山形目地とする。これは大間港の護岸に用いられている工法と類似する。アーチ裏側は全面モルタル塗りで補修が施され、一部剥離が見られる。

140-2は140-1と同様の構造とし、切石アーチ積1段のうえ、野面石乱積みとする。アーチ部の切石は幅約24cm×高さ約36cmとし、中央キーストーンも同じ切石を用いる。

野面石は短径約12cmから21cm、長径約33cmから39cmとする。石目地はモルタル補修が施されている。アーチ裏側には「佐渡鉦山 卅七年十一月」と刻まれた銘板が取り付けられていた。

妙法山 覚性寺跡（図版11・55・56-141～143）（第1・8・10・12図）

ここにとりあげた3つの石塔は「無宿の墓」という通称で呼ばれる。個々の石塔に関する具体的な経緯等・あるいは「無宿人」とはどういう人たちが、については他の文献を参照していただくこととしたい。

141 覚性寺跡 題目塔婆（図版11・55）

切石の台石をもつ。角柱形の塔身正面には髭題目を刻み、台座正面には「江戸」と刻む。

参考文献 『いしほとけ』第10号

『佐渡相川郷土史事典』p110

142 覚性寺跡 無宿人供養塔 (図版11・56)

切石の台石をもつ。カマボコに似た形の塔身がある。塔身正面を縁取りして窪め、題目と戒名を刻む。

参考文献 『いしほとけ』第10号

『佐渡相川郷土史事典』p110

143 覚性寺跡 無宿人連名供養塔 (図版11・56)

切石の台石をもつ。カマボコに似た形の塔身がある。塔身及び台石に戒名等を刻む。

参考文献 『いしほとけ』第10号

『佐渡相川郷土史事典』p110

佐渡市相川諏訪町 (図版11・56-144～146) (第1・8・10・12図)

144 相川諏訪町 丸彫地藏 (図版56)

145の庚申塔の隣にある。コンクリート製の覆屋に丸彫りの地藏菩薩の立像・座像を収める。

145 相川諏訪町 庚申塔 (図版11・56)

自然石の塔身の正面に「庚申塚」と刻む。

146 相川諏訪町 馬頭観音 (図版11・56)

石祠の中に収まっている。光背を背負い、馬頭観音の座像を半肉彫りする。

紫雲山 万照寺 (図版12・56-147・148) (第1・8・10・12図)

147 流人 大岡源右衛門 墓 (図版12・56)

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身の正面には法名及び年月を刻み、裏面には俗名を刻む。

慶安の事変で由比正雪の片腕となった丸橋忠弥に、長屋を槍の道場として貸していたことが発覚し、息子達とともに、1651(慶安4)、佐渡へ流されてきた。佐渡では相川諏訪町で槍の道場を開き、自活したが、1657(明暦3)年に病死した。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p174

『佐渡相川郷土史事典』 p118

148 流人 大岡源三郎 墓 (図版12・56)

切石の台石を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面は法名を刻み、塔身右側面には俗名を刻む。

大岡源右衛門の息子。由比正雪が駿府へ出るのに、箱根の関所を通過できたのは、源三郎が関所手形を用意してやったからという疑いがかかっていた。父・弟とともに1651(慶安4)年、佐渡へ流されてきた。

佐渡では相川諏訪町で槍の道場を開き、自活した。

しかし、1655（承応4）年に春日崎で自害した。春日崎には槍術の門弟一同が築いたとされる円形の土塚が残っている。

墓塔は、石質が安山岩。頭部はずんぐり角を丸めた角柱状の塔身で、浄土真宗に多い簡単な造りである。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 174

相川大工町 北野神社（図版12・57・58-149～152）（第1・8・10・12図）

149 北野神社 狛犬（図版12・57）

相川大工町北野神社鳥居手前に、阿・吽の一對を配す。ともに切石を組み合わせた台石の上に座る。鳥居正面に向かって右側にあるのが阿像、左側にあるのが吽像である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 349～351

150 北野神社 鳥居（図版12・57）

右柱正面には施主名を刻み、左柱正面には年号を刻む。

151 北野神社 手洗鉢①（図版12・57）

鳥居手前の参道左脇にある。正面に「盥嗽」と刻む。右側面には施主名を刻む。年代は不明。

152 北野神社 手洗鉢②（図版12・58）

鳥居手前、参道右脇にある。正面に「奉納」と刻む。右側面に「文政九・・・世話人 藤兵衛」と刻む。

称名山 大福寺（図版12・58-153）（第1・8・10・12図）

153 遊女 リカ 墓（図版12・58）

遊女墓である。切石の台石を据えている。連弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのっている。塔身正面に年月・法名等を刻む。塔身右側面に施主名を、左側面に俗名等を刻む。

参考文献 『いしほとけ』第2号

日没山 西念寺跡（図版12・58-154～157）（第1・8・10・12図）

154 西念寺跡 石仏（図版12・58）

西念寺跡にある小さな堂に収まっている。156の石塔の向かいにある堂である。光背を背負い、如意輪観音の半伽思唯像を半肉彫りする。台石正面に「二十二夜」と刻む。

155 喜多平八 墓（図版12・58）

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面には額を縁取りし、法名及び俗名当を刻む。塔身根部には蓮華文を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 194

156 西念寺跡 名号塔 (図版12・58)

切石の台石を据えている。連弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面には六字名号を刻み、塔身裏には年月と「下相川石工 三浦弥兵次」と刻む。

157 西念寺跡 手洗鉢 (図版12・58)

西念寺跡の杉植林の中に残っている手洗鉢である。台石は寄せ集めた切石を組み合わせている。正面には「奉献 清浄水」と刻む。左側面銘文から回遊修業者の寄贈と思われる。年号から幕末の作と思われる。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 117～118

巖照山 蓮光寺 (図版13・58-158) (第1・8・10・12図)

158 佐渡奉行 本目隼人親英 墓 (図版13・58)

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身の正面には俗名を、右側面には法名、左側面には年月を刻む。

幕府御目付から、1778 (安永7) 年に佐渡奉行となり、来島した。在任中は江戸無宿の佐渡送りを受け入れ、坑内の水替えに使役した。これは幕末まで続くことになる。その他、新坑の開発や古坑の再開に積極的に取り組むが良鉱に恵まれず、景気を大きく回復することはできなかった。1781 (安永10) 年、在任中になくなった。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 708

佐渡市相川大床屋町 (図版13・59-159) (第1・8・10・12図)

159 相川大床屋町 石祠・地藏 (図版13・59)

相川大床屋町を出発し、相川左門町へと上ってゆく「くろ坂」の登り口付近にある。祠の中には丸彫りの地藏を2体ほど収める。右柱の正面に「羽田町塩屋町念仏講中……」と刻む。

参考文献 『いしほとけ』第3号

大神宮 (図版13・59-160・161) (第1・8～10・12図)

160 大神宮 鳥居 (図版13・59)

右柱正面には「施主 鍵買石仲間」と刻み、左柱正面には年号を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 113～114

161 大神宮 石灯籠 (図版13・59)

社殿手前に左右一対で建っている。竿の正面に「大神宮御神燈」と刻む。火袋は異石で、後に造られている。

佐渡奉行所跡 (図版13～16・59～61-162～204) (第1・8～10図)

佐渡奉行所は、相川湾を眺望する舌状の台地上にあった。1603 (慶長8) 年、大久保長安は相川金の銀山が栄えると、半田清水ヶ窪 (現広間町) の田地を、山師山崎宗清より買い取って鶴子 (佐和田町) にあ

った陣屋（佐渡奉行所）を1604（慶長9）年相川へ移した。

数奇屋風の茶室なども造ったといわれているが、数度の火災にあい、その都度縮小された。1859（安政6）年に再建された奉行所は、明治以降佐渡県庁、相川県庁、郡役所、新潟県支庁、旧制相川中学校として利用されたが、1942（昭和17）年12月焼失した。現在の佐渡奉行所は1995（平成7）年より復原工事が始まり、2001（平成13）年4月より一部が公開されている。

参考文献 『相川町の文化財』 p 14

162 佐渡奉行所跡検出 敷石（図版13・59）

本書で「土台石」と分類した石を両端に並べ、その間に板石を敷き詰める。

1994（平成6）年から2000（平成12）年にかけて行われた発掘調査で検出された敷石。佐渡奉行所の大御門から御役所玄関までである。これは1858（安政5）年の火災後に敷設されたものと考えられ、1942（昭和17）年の火災で当時の旧制相川中学校が焼失するまで使われていた。

参考文献 『相川町埋蔵文化財調査報告第3』 p 33

163～165 佐渡奉行所跡出土 硯（図版14・60）

佐渡奉行所跡の寄勝場地区から出土した。

参考文献 『相川町埋蔵文化財調査報告第3』 p 272

166～178 佐渡奉行所跡出土 硯（図版14・60）

佐渡奉行所跡の高台地区から出土した。

参考文献 『相川町埋蔵文化財調査報告第3』 p 92

179 佐渡奉行所跡出土 碁石（図版14・60）

佐渡奉行所跡高台地区の武器庫の周辺から出土した。

参考文献 『相川町埋蔵文化財調査報告第3』 p 95

180～184 佐渡奉行所跡出土 砥石（図版14・60）

佐渡奉行所跡の高台地区から出土した。

参考文献 『相川町埋蔵文化財調査報告第3』 p 94

185～188 佐渡奉行所跡展示 扣石（図版15・60）

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 313～318

185 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、Na26である。）

186 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、Na28である。）

187 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、Na27である。）

188 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、Na14である。）

189～204 佐渡奉行所跡展示 鉾山臼（図版15・16・60・61）

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 313～318

189 相川郷土博物館より移転した。新材木町より出土。

190 相川郷土博物館より移転した。

191 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 16である。）

192 相川郷土博物館より移転した。

193 相川郷土博物館より移転した。実際に動くようにするために軸を入れた。

（相川郷土博物館における整理Noは、No 2である。）

194 相川郷土博物館より移転した。新材木町より（相川郷土博物館における整理Noは、No 11である。）

195 相川郷土博物館より移転した（相川郷土博物館における整理Noは、No 15である。）。

196 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 13である。）

197 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 12である。）

198 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 3である。）

199 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 1である。）

200 相川郷土博物館より移転した。

201 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 436である。）

202 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 9である。）

203 相川郷土博物館より移転した。（相川郷土博物館における整理Noは、No 6である。）

204 相川郷土博物館より移転した。新材木町より出土。（相川郷土博物館における整理Noは、No 4である。）

妙耀山 法久寺跡（図版16・17・62-205～207）（第1・8・12図）

205 佐藤治右衛門 墓（図版16・62）

塔身正面に輪郭をとり戒名等を刻む。基部に蓮弁の陰刻がある。現在は塔身のみである。『佐渡相川の

歴史 資料集2 墓と石造物』の記載には「宝珠は潰れたように横に広がり、先端が尖っている。笠の屋根はまっすぐ四方に下がり、軒口は内斜めに切り、上下共平行に両端にのび、軒反りはない」とある。

佐藤家の先祖は羽州の出身で慶長年間に来島した。代々、小判師、御米蔵銀掛、下戸御番所付の両替屋を務めている。1868（明治元）年、松栄と改姓し、廻船業に転身。北海道・大坂・江戸などに交易した。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 218

『佐渡相川郷土史事典』 p 316

206 法久寺跡 情死の墓（図版16・62）

心中墓である。

切石の台石を据えている。連弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのっている。塔身正面は法名を刻み、塔身右側面には年月を、左側面には施主名を刻む。以下、参考文献より引用した記述である。

兵十郎、花世の墓

「二十六日夜（享保八年）、庄右衛門町嘉左衛門二代伊右衛門、年式拾三。諏訪町忠右衛門女房はつ、年三十一。上寺町法久寺にて心中相果申候」（検死記録）

参考文献 『佐渡国略記』上巻 p 333

207 法久寺跡 題目塔（図版17・62）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身の正面には髭題目・願文・寺名を刻み、右側面には年月等を刻む。

旧道に面し、南東を向いて建っていて、北西の強風を受ける。塔の左面は剥離が激しい。

光栄山 瑞仙寺（図版17・62-208～213）（第1・8・10・12図）

208 森川重兵衛 墓（図版17・62）

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、法名を刻む。塔身根部には蓮華文を刻む。塔身左右側面には年月を刻む。寛文を寛永と彫り違えた珍しい例である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 203

209 地役人 石井三郎右衛門 墓（図版17・62）

切石の台座を据え、板石形の塔身がのる。塔身正面には額を縁取りし、髭題目・法名・年月を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 418～419

210 山師 味方但馬 墓（図版17・62）

塔身は断面長方形である。塔身正面には額を縁どる。文字は風化がひどくて判読できない。笠、宝珠は欠落して見当たらない。五代目の墓かと思う。

先祖は、関が原の戦いを機に浪人となり、佐渡に渡ったという。

1605（慶長10）年以降に、有力山師として資料に登場する。1618（元和4）年、相川銀山最大の採掘地である割間歩の排水に成功して多大な出鉱を得た。江戸時代を通して相川の山師衆筆頭の役目を代々務めた。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 234

211 商人 笹井治左衛門 墓（図版17・62）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取り、髭題目・法名・蓮華文を刻み、右側面には施主名を刻む。笠の下部には垂木彫りを施し、宝珠等は欠落している。

笹井家の先祖は石見国より1614（慶長14）年頃に来島した。相川庄右衛門町に住み、山方の商売をしたという。その後、沢根に移って操業を続けた。この笹井治左衛門は、沢根笹井家の基を作った人である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 198

『佐渡相川郷土史事典』 p 307

212 瑞仙寺 題目願文碑（図版17・62）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのる。塔身には髭題目と願文を刻み、塔身左右側面、裏面にもそれぞれ銘文を刻む。

213 瑞仙寺 題目塔（図版17・62）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面に髭題目を刻む。

得栄山 善行寺跡（図版18・63-214）（第1・8・10・12図）

214 普門院日體聖人 墓（図版18・63）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面には年月と法名を刻む。県内唯一の妙宣寺（真野）の五重の塔を建立し、そのことで追放された聖人の墓である。

延命山 相運寺（図版18・63～76-215～218）（第1・8・10・12図）

215 相運寺 四国八十八箇所石仏（図版18・63～72）

相運寺山門をくぐると左奥に堂が建っている。山門をくぐって左に曲がり、階段を登りつめると、堂をとりまいて切石の台石があり、88体の石仏がのっている。先述した階段の上がり口には石塔があり、世話人名・石工名を刻み、明治十五年・明治十一年の年号も刻む。

各石仏は蓮弁を象った台座にのる。石仏本体は光背を背負い、半肉彫りの座像等である。石仏の数は四国八十八箇所石仏を象ったものである。台石の正面には寄進者の住所及び氏名を刻む。

216 相運寺 西国三十三所観音（図版18・72～76）

215の石仏群へと上がってゆく階段の中腹に別の平坦面があり、その平坦面の端をなぞるように切石の台石が置かれ、33体の石仏がのっている。

各石仏は蓮弁を象った台座にのり、石仏本体は光背を背負い、半肉彫りの座像等である。石仏の数は西国三十三所観音を象ったものである。台石の正面には寄進者の住所及び氏名を刻む。

217 相運寺 宝篋印塔（図版18・76）

相運寺裏墓地にある。宝篋印塔で笠股が派手に開く型式で江戸末期のものであろう。年号がない。

218 相運寺 石灯籠（図版18・76）

本堂の玄関前に建っている。全体を円形に処理されている。相川でも数少ない灯籠。角形火口、円窓は

趣がある。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 111～113

南龍山 大超寺跡 (図版18・76-219・220) (第1・8・10・12図)

219 山師 小川金左衛門室 墓 (図版18・76)

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、法名・年月等を刻む。

左右に五輪塔が二基、笠塔婆が一基存在し、一列に並んでいる。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 242

220 大超寺跡 阿弥陀三尊種字塔婆 (図版18・76)

台石・台座は土中に埋まっているため確認できない。板石形の塔身正面には上方に阿弥陀三尊の種字を配し、その下に五大種字・施主名等を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 151

佐渡市相川下寺町 (図版18・77-221～223) (第1・8～10・12図)

221 相川下寺町 如意輪観音 (図版18・77)

寺町に至る石段を上がりきった場所、石段の東側に小さな堂が建っており、そこに他の多くの石仏とともに収まっている。収まっている石仏の中ではひときわ高い台石を据え、石仏本体がのっている。石仏本体は光背を背負い、半肉彫りの半伽思唯像である。

222 相川下寺町 宝塔観音 (図版18・77)

寺町に至る石段の中腹、石段の東側にある。切石を組み合わせた台石にのっている。丸彫りの座像である。凝灰岩質の石材を用い、木彫に近い作風である。時代は江戸時代前期の可能性はある。

223 寺町に至る石段 佐渡市指定文化財 (記念物 史跡) (図版77)

相川江戸沢町を出発し、相川下寺町へと上ってゆく石段は切石を積んで造られている。

古くは石坂とも呼んだ。寺坂と記す資料もある。17世紀の中頃(明暦年間)までは、石段はなかった。『佐渡相川志』によると、相川小六町に住む遊郭の楼主が寄進したものと言いついていたらしい。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 494

相川下寺町 泊藤山 観音寺 (図版19・77-224) (第1・8・10・12図)

224 地役人 太田九左衛門 墓 (図版19・77)

各輪ともに表面は風化が著しく、銘文を判読できない。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 188

鉄壁山 銀山寺跡 (図版19・77-225) (第1・8・10・12図)

225 銀山寺跡 石塔 (図版19・77)

銀山寺跡入口に立つ石塔。切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面は額を縁取りし、寺名・「聖観世音□□□」と刻む。右側面・左側面にも人名・年月を刻む。

大嶺山 高安寺跡（図版19・77-226～229）（第1・8～10・12図）

226 流人 小倉実起室 供養塔（図版19・77）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取り、蓮弁文を刻む。額の内は風化が激しく、判読できない。塔身右側面には年月を刻む。宝珠等は欠落して見当たらない。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 145～146

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 313～318

227 流人 小倉実起 供養塔（図版19・77）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取り、蓮弁文を刻む。額の内は風化が激しく、判読できない。塔身右側面には年月を刻む。宝珠等は欠落して見当たらない。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 145～146

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 228

228 海士商人 磯西茂左衛門 墓（図版19・77）

各輪に「空」「風」「火」「水」「地」と刻む。また、地輪正面には年号等も刻む。

先祖は慶長年間に、石見国・出雲国より海士（海女）とともに来島した。相川海士町は贈答用のノシアワビを生産する海士の町として成立した。磯西家は刀根家とともに、これらを確保する役割があった。

海士のアワビやナマコを集荷し、加工販売する役目を両家がしており、引き換えに佐渡奉行所より扶持米が与えられていたから、座商人のような仕事をしていた。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 77～78

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 162～163

229 地役人 稲垣七左衛門式高 墓（図版19・77）

空輪と風輪は欠落して見当たらない。現存する各輪に「火」「水」「地」と刻む。また、地輪正面には法名及び年月も刻む。

山中斜面にある稲垣家の墓地に二基の五輪塔が寄り添って立っている。基壇部は崩れかけて不安定である。築造場所から移動したことを窺わせる。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 417

昌安寺跡（図版19・78-230）（第1・8・10・12図）

230 塔身の上部に刻まれた印字が、カクレキリシタンの表示であるとの説により記録したものである。三基は同一の墓地である。年号を欠くものは宝永期前後と推測する。

隣接する墓地にはここに上げた「花屋」を冠する墓標があり、同家は五丁目嘉兵衛とある。

230-1 傑叟妙英信女・月叟是江信士 墓（図版19・78）

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取り、法名等を刻む。

230-2 秋室祐月信士 花屋妙春信女 墓（図版19・78）

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取り、法名等を刻む。

230-3 不應妙法信女 墓（図版19・78）

切石の台石を据えている。連弁を象った台座に塔身から上の部分がのっている。塔身正面は額を縁取り、法名及び年月を刻む。宝珠等は欠落して見当たらない。

医王山 真如院（図版19・78-231）（第1・8・10・12図）

231 遊女 ヲカルの墓（図版19・78）

切石の台座に塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面・右側面・左側面は額を縁取りする。塔身正面は法名を刻み、左右側面には年月、俗名等を刻む。宝珠等は見当たらない。

以下、参考文献より引用した記述である。

冬光妙寒信女 明和八年 水金町ヲカル 過去帳「水金町の娼妓、抱主ニギャクタイサレ、死シタリトノ事。」（明治の頃らしい住職の落書きがしてあった。）

参考文献 『佐渡金山』 磯部欣三 著
『いしほとけ』第2号

定善寺跡（図版19・78-232）（第1・8・10・12図）

232 地役人 永井次芳 墓（図版19・78）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取りし、法名を刻む。左右側面は年月を刻む。

地役人高野信治の嫡子であるが、母の生家永井の養子となり跡を継いだ。諸帳面改役、手形改役、御目付役、小木番所定役、目付山方役を歴任した。

彼が編纂した『佐渡風土記』は佐渡奉行所の保存文書や記録類を整理して、国はじめの古伝、流人、上杉渡海などを上巻に、1589（天正17）年から1750（寛延3）年までの事跡を中・下巻として二編三巻にまとめたもので、佐渡五大史書の一つに数えられる。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 706～707
『佐渡相川郷土史事典』 p 513

廣龍山 法然寺（図版19～21・78～81-233～253）（第1・8・10・12図）

233 法然寺 千日念仏地藏（図版19・78）

法然寺の山門を入ると右側にある。本体は、頭光をつけた一石丸彫りの座像であろう。最下部には、五輪塔の地輪を思わす台石があるが、その正面に向かって左側面に銘文を有し、「相川志」や「佐渡国寺社帳」のなかに記されている造立の趣旨とあっていて、法界寺末寺となった法円寺開基の僧が、慶長年間に千日念仏成就した供養塔として寛永年間に造立されたものであるとされる。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 4 3 3～p 4 3 4

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 1 5 2～1 5 3

234 法然寺 地藏菩薩（図版20・78）

法然寺の山門を入ると左側に4体の石仏が並んでいるが、そのうちの一つである。切石の台石に石仏がのっている。台石には銘文を刻む。石仏は丸彫りの地藏菩薩の座像である。

235 法然寺 聖観音菩薩（図版20・78）

法然寺の山門を入ると左側に4体の石仏が並んでいるが、そのうちの一つである。切石の台石に石仏がのっている。台石には銘文を刻む。石仏は丸彫りの聖観音菩薩の座像である。

236 法然寺 阿弥陀如来（図版20・78）

法然寺の山門を入ると左側に4体の石仏が並んでいるが、そのうちの一つである。切石の台石に石仏がのっている。台石には銘文を刻む。石仏は丸彫りの阿弥陀如来の座像である。

237 法然寺 地藏菩薩（図版20・79）

法然寺の山門を入ると左側に4体の石仏が並んでいるが、そのうちの一つである。切石の台石に石仏がのっている。台石には銘文を刻む。石仏は丸彫りの地藏菩薩の座像である。

238 地役人 松木八郎右衛門 墓（図版20・79）

現在は集積塚となり、坂頭に集められている。銘文は明確に読める。板石形の塔身正面は、額を縁取り、塔身上部には家紋、根部には蓮華文を刻む。額の内は法名及び年月等を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 1 1

239 佐渡奉行 大熊善太郎嘉住 墓（図版20・79）

境内山門右手に幅2.5m、奥行き3mの玉垣に囲まれて建っている。切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのる。塔身正面には俗名を刻み、右側面には法名、左側面には年月を刻む。

武蔵国の出身。1852（嘉永5）年に佐渡奉行となった。在任中は、直営の間歩がふるわず、請負山がわずかに活況を呈していたものの、天保末期から目立ち始めていた坑夫の不足が次第に深刻化し、採掘の障害となったが、積年の弊を解決することはできなかった。1853（嘉永6）年、相川で亡くなった。

一方、1849（嘉永2）年に、外海府大野亀沖に異国船が現れたため、役人の武芸奨励や海岸防備に努めたといわれている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 7 2 7～7 2 8

240 地役人 蔵田茂樹 墓（図版20・79）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのる。塔身正面は法名を、左右側面には年月等を刻む。

和歌を好んだ父茂三兵衛堯民の影響を受けて国学を志した。1852（嘉永2）年、佐渡を訪れた宮部鼎蔵・吉田松陰も、この人を頼って逗留したという。

著書は多く、1830（文政13）年、相川年中行事を記した「笑美草」、1831（天保2）、佐渡巡村記「いさこの浜つと」、1839（天保10）産金上納のための江戸道中日記「野山の夢」などが歌集とともに名著とい

われている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 728～729
『佐渡相川郷土史事典』 p 248

241 陶工 黒沢金太郎 墓 (図版20・79)

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面は額を縁取りして法名を刻み、右側面には年月、左側面には施主を刻む。

黒沢家は代々金銀山の買石を業としていたが、祖父が金銀密売事件に関係して、死罪となり(1761年)、買石業をやめさせられた。

金太郎は寛政年間に先進窯業地で製陶の技術を習い、帰島後に島内にある陶土と釉薬原料を探し求め、施釉陶器の焼成に成功した。これは佐渡における施釉陶器の最初といわれる。叔父の影響で浄土宗に帰依し、晩年は念仏三昧に入ったという。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 720～721
『佐渡相川郷土史事典』 p 250～251

242 伝山師 大坂庄右衛門 墓 (図版20・79)

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座に塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面・右側面・左側面には額を縁取りする。塔身正面は法名を刻み、左右側面には年月を刻む。

1693(元禄6)年の銘がある大坂姓の人物の墓。大坂姓の人々がすべて同族とは限らないが、江戸時代初期の山主に大坂庄右衛門がいる。相川諏訪町より道遊の割戸にいたる間の窪地一帯を間山といっているが、ここに多くの山主町が形成されていた。宗徳町・嘉左衛門町・清右衛門町・五郎右衛門町・庄右衛門町などがある。このうち、庄右衛門町は、大坂庄右衛門の形成した山主町であると伝えられる。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 226

243 地役人 田中六兵衛 墓 (図版20・79)

各輪に一字ずつ種字を刻む。また、地輪正面には年月及び法名も刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 161

244 佐渡奉行 伊丹播磨守康勝 供養塔 (図版20・79)

空輪と風輪が落下しているが、所在は確認できる。各輪に一字ずつ種字を刻む。また、地輪正面には年月及び法名も刻む。

1635(寛永12)年から1653(承応2)年まで18年間佐渡奉行を務めた。1635(寛永2)年から1636(寛永3)年の間、佐渡にいたがそれ以後は根岸与左衛門・岡林伝右衛門・三鬼猪兵衛・奥野七郎左衛門など数人の留守居(目代)を相川に派遣し、自らは江戸にしながら支配した。

在任中は、幕庫からの融資、水上輪導入による鉱山の排水、羽州最上米の買い入れによる米価の安定など鉱山振興策をとった。

郷村支配では、1649(慶安2)年に、刈高制をやめ、石高制に変更した。また、1647(正保4)年の相川大火で、佐渡奉行所の他多くを焼失、1649(慶安2)年の洪水で諸間歩が水没、1650(慶安3)年には小比叡騒動と、諸事件に見舞われた。この五輪塔は、佐渡在勤衆が供養塔として建てたと思われる。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 80

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 170～171

245 地役人 鳥井嘉左衛門 墓 (図版21・79)

各輪に一字ずつ種字を刻む。また、地輪正面には年月及び法名も刻む。火輪軒端の一部が欠落している。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 217

246 地役人 辻守遊 墓 (図版21・80)

各輪に一字ずつ種字を刻む。また、地輪正面には法名も刻む。地輪右側面には年月を、左側面には俗名等を刻む。

辻家の先祖は甲斐国出身で、武田家滅亡後、佐渡へ来島し、代々地役人を務めた。

辻守遊は前田六兵衛の次男として生まれたが、辻家の養子となり、跡を継いだ。19歳で佐渡奉行所に出仕し、32歳で留守居役となり、隠居するまで37年間勤めた。

役務の一方、和歌・連歌を好んだ。空輪の先端が尖り、刻まれた文字は深くあざやかに残っている。左右に一族の五輪塔が並ぶ。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 702～703

247 地役人 大村弥左衛門以貞 (空・風輪欠落) 墓 (図版21・80)

空輪と風輪が欠落して見当たらない。現存する各輪には種字一字を刻む。また、地輪正面には法名も刻む。地輪右側面には年月を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 251

248 雪峰道心禅定 一石五輪塔 (図版21・80)

一石五輪塔の形状をした供養塔である。

地輪を方柱とし、法語を刻む。下部は地面にかくれている。

249 地役人 田中従太郎 (葵園) 墓 (図版21・80)

田中家の先祖は甲斐国出身。

田中従太郎は、初めは西川恒山について学んだが、1819 (文政2) 年、江戸詰めとなったのを機に林述斎の門に入って学を修めた。帰郷後は目付役・地方掛頭取・学問所預・山方役・広間役を歴任した。

在任中、米価の高騰で庶民が困るのを心配して備荒のために「広恵倉」を建て市民の救済をはかり、また土風を正すため相川広間町に講堂・医学所・武術所・孔廟を建て修教館と名付けて地役人子弟の教育に当たった。

1838 (天保9) 年の佐渡一国騒動では、広恵倉の運営方法が攻撃されて下獄したが、無罪となり出獄。

この人の著書には「佐渡志」「佐渡奇談」がある。死後、門人は「弘道」の名をおくった。

凝灰岩の面をとらない自然石の基礎の上に厚い楕円形のやや頂部の尖った墓塔を乗せている。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 469

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 723～724

250 医師 長谷川元良夫妻 墓 (図版21・80)

長谷川元良は、漢方医 長谷川元庵の長男として生まれる。長崎で蘭方医学を学び、帰国して相川南沢

町に病院を設立した。また、相川広間町に「相川洋学校」を開設。1874（明治7）年、東京医学校の教授に迎えられて上京、1876（明治9）年には、山形県立病院済生館の院長に迎えられて、医師の養成と病院経営に当たった。

1878（明治11）年に新築した済生館病院（山形県）は現在、国指定文化財になっている。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 562

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 734～735

251 法然寺 石灯籠 一對（図版21・80）

法然寺本堂裏の墓地に建っており、一對を成す。竿の正面に「石灯籠」と刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 239

252 法然寺 手洗鉢（図版21・80）

法然寺の山門をくぐると右側にある。覆屋で囲み、さらに蓮弁には金帯で保護されている。内側はセメントで修復されている。台座正面に「講中」と刻み、台座裏に年号と施主名を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 350

253 法然寺 水槽（図版21・81）

法然寺の山門をくぐると右奥にある。正面に「奉納 門主心願成就」、左側に施主名を刻む。

栄久山 法輪寺（図版21・22・81・82-254～260）（第1・8・10・12図）

254 棟梁 茂三衛門夫妻 墓（図版21・81）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面は額を縁取りし、法名・年月・俗名等を刻む。

新しく墓石に巡らした縁石がなければ名声にそぐわない小型で目立たない存在である。

255 地役人 野原文仙 墓（図版21・81）

自然石の台石を据えている。切石の台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面は「文仙君之墓」と刻み、右側面には年月を、裏面には句を刻む。

代々町同心を務める佐渡奉行所下級役人であった。画を谷文晁に学び、加藤文琢や石井文海と並び称されたが、作品はほとんど残っていないため画風などはわからない。また、霞庵と号して俳諧を江戸の成田蒼虬に学び、蕉風派を広げるのに貢献した。

扁平の自然石の上に台石を据え、塔身が乗る。輪郭のない碑面に薬研彫りで太く「文仙君之墓」と刻む。俳諧に名を残したらしく、後面に辞世の句が刻まれている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 726

256 地役人 山中長右衛門 墓（図版21・81）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座に塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面・右側面・左側面には額を縁取りする。塔身正面は法名を刻み、左右側面には年月を刻む。

法輪寺本堂裏手のけわしい斜面を登った林の中に山中一族の墓がある。山中家は佐渡奉行所広間役を出

すこともあり、ある程度格式のあった家である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 214

257 蓮心院 墓（図版22・81）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座に塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面・右側面・左側面は額を縁取りする。塔身正面には法名を刻み、右側面には年月を刻む。周辺にない大きさが目立つため、計測したものである。

258 山師 味方与次右衛門 墓（図版22・81）

各輪に「妙」「法」「蓮」「華」「経」と刻む。また、地輪正面には年月等も刻み、裏面には石工名を刻む。

江戸時代前期の有力な山主。初代与次右衛門は青盤間歩を稼行。二代目は左沢に大切山という大型の坑道を掘ったことで有名。代々相川左門町に住み、のちに相川中京町に移った。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 644～645

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 138～139

259 地役人 万歳由道 墓（図版22・81）

切石の台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面には「東所先生」、右側面には法名、左側面には年月、裏面には「万歳子行墓」と刻む。

先祖は大和国の出身。佐渡奉行所では目付役を務めた。1856（安政3）年、幕府は異国船に備えるため、わが国初の洋式帆船を建造し佐渡に配備することになった。奉行の命を受け、水主を率いて帆船を回送中、能登沖で暴風雨に遭い、能登国千ノ浦に避難するとき海に落ち、亡くなった。乗組員・船は無事であった。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 735

260 法輪寺 江戸小屋場中寄進 石灯籠（図版22・82）

法輪寺山門をくぐると右前方に建っている。笠の上に小さな五輪塔をのせる珍しい石灯籠である。竿の正面に「常夜塔」、竿の左側面に「江戸小屋場中 世話人 八蔵」と刻み、江戸無宿人が寄進した灯籠とわかる。

参考文献 『いしほとけ』第3号

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 111～115

長性山 本敬寺跡（図版22・82-261）（第1・8・10・12図）

261 地役人 丸田金右衛門 墓（図版22・82）

各輪に「□」「法」「□」「華」と刻む。また、地輪正面には法名・年月等も刻む。墓石は整理され集合墓石群の左端に置かれている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 179

栄光山 本典寺（図版22・23・82・83-262～272）（第1・8・10・12図）

262 商人 山田吉左衛門 開基塔（図版22・82）

切石の台石を据え、台座に該当する部位を置かずに、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長

方形である。塔身正面は額を縁取りする。塔身正面には題目を刻み、右側面には年月等を刻む。

山田吉左衛門は元和期（1615～1624）の銀山の繁栄で巨財を蓄える機会をつかんだ。本業は鉛座・小判座の請負人であったが、両替商も営んでおり、佐渡奉行所役人、銀山の山師、寺社などの注文を受けて京・大坂から高級品、塩、酒、紙などの日用品を能登・敦賀方面より買付け商人の手を経て持ち込んだ。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 685～686

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 108～109・154～155

263 金銀改所役人 浅香伊右衛門 墓（図版22・82）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身の断面は長方形である。塔身正面は額を縁取りする。正面に髭題目及び法名・年月・蓮華文を刻む。浅香一族の墓石列の最奥端に位置している。

1621（元和7）年、それまで筋金の形で江戸へ送っていた金を、佐渡で小判にまで吹き立てることになり、幕府の金銀改役 後藤庄三郎は、1622（元和8）年に手代として佐渡に派遣されたのが、佐渡における浅香家の始まりである。

その後、代々この役目を務め、幕末に至った。明治維新以後も相川に住み、佐渡の近代史に重要な役割を果たした。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 220

264 地役人 近藤庄兵衛室 墓（図版22・82）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取りし、法名及び年月を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 241

265 佐渡奉行 萩原源八郎乗秀 墓（図版22・82）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座に塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面・右側面・左側面は額を縁取りする。塔身正面は法名を刻み、右側面には年月、左側面には俗名等を刻む。

萩原重秀の子である。1734（享保19）年、佐渡奉行となって来島した。在任中は、他国より買入れていた鉱山用木炭を佐渡で焼かせたものに切り換えるとともに、鶴子銀山の排水工事を計画するなど、経費節減や環境整備を図った。また、農村部では新田開発を進めた。

在島中の1735（享保20）年、相川で亡くなった。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 703～704

266 地役人 野田又左衛門室 墓（図版23・82）

切石の台石を据えている。蓮弁を象った台座の上に塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が六角形である。塔身は各面に額を縁取りし、法名及び俗名を刻む。

267 地役人 野田又左衛門 墓（図版23・82）

空輪と風輪が倒れている。各輪に「妙」「法」「蓮」「華」「経」と刻む。また、地輪正面には法名及び年月も刻む。地輪右側面には俗名を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 145

268 佐渡奉行 萩原重秀 供養塔 (図版23・82)

各輪に「妙」「法」「蓮」「華」「経」と髭文字で刻む。また、地輪には法名及び年月も刻む。

幕府勘定奉行在任中の1690(元禄3)年より佐渡奉行を兼務した。1691(元禄4)年に3か月間佐渡にいたが、それ以外の期間は用人や留守居役を指図して政務をとった。在任中は目先の収支を度外視して積極的な鉱山経営を行い、総額11万3千両を江戸から送った。

事業としては南沢疎水坑道が特筆される。

また、一国検地を実施して、13万国余りを検出して地方支配を確立した。

膨大な投資を受けて鉱山は活況を呈し、相川の町は潤った。

萩原の死が伝わると、供養塔が建てられた。佐渡ではこの時代を「近江守様時代」と称賛する。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 701
『佐渡相川郷土史事典』 p 144

269 商人 山田吉左衛門 墓 (図版23・83)

各輪ともに風化が著しく、銘文を判読できない。262の記述参照。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 685～686

270 本典寺 法界万霊塔 (図版23・83)

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面は髭題目・「法界萬霊 本典寺」、左右側面には年月・人名等を刻む。

271 本典寺 万部塔 (図版23・83)

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面は髭題目・「萬部塔」と刻み、右側面には年月等、左側面には講中名を刻む。1832(天保3)年に講中が建立した萬部塔である。

272 本典寺 手洗鉢 (図版23・83)

本典寺本堂入口手前にある。正面には年号と施主名を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 148

長光山 妙円寺 (図版23・83-273・274) (第1・8・10・12図)

273 川上伊右衛門 墓 (図版23・83)

板石形の塔身正面は額を縁取り、法名及び年月等を刻む。

墓石はすでに整理され、集合墓群の中にある。

274 妙円寺 石段 (図版83)

妙円寺は間切川(南沢)右岸の相川下寺町にある。間切川(南沢)の川岸から段丘上にある境内へと上ってゆく石段は、切石を積んで造られている。

覚鷲山 妙輪寺跡 (図版23・24・83・84-275～278) (第1・8・10・12図)

275 地役人 藤沢虎之助 墓 (図版23・83)

板石形の塔身正面は、額を縁取り、題目・法名・年月等を刻む。塔身正面根部は、蓮華文を刻む。
既に墓石は倒され、墓地の一角に横積みされている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 0 9

276 地役人 前田浅之丞 墓 (図版24・83)

切石の台石・台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取りし、髭題目・法名・年月を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 1 3

277 地役人 金光十兵衛武重 墓 (図版24・84)

板石形の塔身正面は、額を縁取りし、額の内に髭題目・法名等を刻み、塔身正面根部に蓮華文を刻む。右側面には施主名を刻む。倒伏していたので、元の位置は不明。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 3 0

278 地役人 山西篤之進 墓 (図版24・84)

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取り、題目・法名・年月を刻む。中央に亀裂が生じ、剥落直前である。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 4 6

妙法山 蓮長寺 (図版24・84-279～281) (第1・8・10・12図)

279 地役人 真砂弥右衛門 墓 (図版24・84)

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は額を縁取り、額のうちに題目及び法名を刻む。塔身正面根部に蓮華文を刻む。右側面には年月等を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 0 0

280 地役人 真砂弥右衛門 五輪塔 (図版24・84)

各輪に「妙」「法」「蓮」「華」「経」と刻む。また、地輪正面には法名及び年月も刻む。地輪裏面には施主名を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 1 6 9

281 地役人 下山平左衛門 五輪塔 (図版24・84)

各輪に「妙」「法」「蓮」「華」「経」と刻む。また、地輪には法名及び月日も刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 1 9 7

金龍山 広源寺 (図版24・84-282・283) (第1・8～10・12図)

282 広源寺 四万日念仏講地藏 (図版24・84)

「広源寺には何も記録は残っていないが、先達となった佐藤理三郎が子どもを亡くしたので、他の人々の無病息災で成人することをも祈願して講中をつくってまつたのであろうと聞いている。」との話である。

四万日の念仏をあらわした地藏である。

参考文献 『いしほとけ』第3号・新聞記事

283 広源寺 手洗鉢（図版24・84）

広源寺本堂前庭の墓地にある。円形の手洗鉢で、外面には蓮弁を彫り出す。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 115～116

吹雲山 長明寺（図版24・84-284）（第1・8・10・12図）

284 山師 下田清左衛門 墓（図版24・84）

甲斐国から慶長年間に佐渡へ渡り、左沢に銀山を見立てた。これは後の世に「清次間歩」と呼ばれる。下田清次は後、清左衛門と名を変える。清次間歩は今は坑口がどこにあるかわからないが、江戸時代中期頃は青盤・鳥越・中尾・弥十郎（鶴子）などと並んで、十指に数えられた有力間歩で、1816（文化13）年には御直山として再開発が始まっている。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 389

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 146～147

阿弥陀堂（図版24・85-285・286）（第1・8～10図）

285 阿弥陀堂 阿弥陀如来（図版24・85）

阿弥陀如来の座像である。土地の人たちは「長坂の阿弥陀さん」とか「中山の阿弥陀さん」と呼んでいる。「中山の阿弥陀さん」というわけは、もとは中山旧道の峠にあったためで、峠のお地藏さんが里へ下ろされるときに、里へ出されて安置されたものであるためという。

参考文献 『いしほとけ』第6号

286 阿弥陀堂 花生（図版24・85）

阿弥陀如来の前に置かれている花生である。安山岩を竹の根部の形に彫り出す。上部を穿孔し、草花を挿せるようにしている。

佐渡市相川塩屋町（図版24・85-287）（第1・8～10図）

287 相川町道路元標（図版24・85）

角柱形の塔身正面に「相川町道路元標」と刻む。

元は長坂の降り口にあったが、道路拡幅により浜側へ移った。近世からの慣習により、新潟—相川線、相川—赤泊港線の県道起点となった。

参考文献 『新潟県歴史の道調査報告書第12集』 p 12～14

普照山 廣永寺（図版25・85-288）（第1・8～10図）

288 修教館教授 丸岡南陔 墓（図版25・85）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身の正面には俗名を刻む。

丸岡家は代々醤油醸造を家業としていた。1867（慶応3）年、修教館の教授となり、1871（明治4）年佐渡県を廃して相川県が置かれると漢学校の教頭に推挙され、また雑太郡の学務監督も命ぜられた。

1884（明治17）年、佐渡中学校の教頭として単身で赴任したが、1886（明治19）年下宿先で亡くなった。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 638～639

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 730～731

『佐渡碑文集』 p 19

佐渡市相川江戸沢町（図版85-289）（第1・8～10・12図）

289 相川江戸沢町 石橋（アーチ橋）（図版85）

間切川（南沢）にかかっている。この橋を渡ると塩竈神社に出入りできる。切石をアーチ状に積む「アーチ橋」である。

塩竈神社（図版25・26・85～87-290～298）（第1・8～10・12図）

290 塩竈神社 狛犬（図版25・85・86）

社地入口に阿・吽の一對を配す。ともに、入口両側の石垣の上に座る。社地に向かって右側にあるのが阿像、左側にあるのが吽像である。

291 塩竈神社 庚申講中碑（図版25・86）

台石は土中に埋もれているためか確認できない。自然石の塔身正面を楕円形に縁取りして平滑にし、そこに「庚申講中」及び構成員の名等を刻む。庚申塔に並んで建てられている。

292 塩竈神社 庚申塔（図版25・86）

293 蓮華院 墓（図版25・86）

台石・台座は土中に埋もれているためか確認できない。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取りする。塔身正面は法名・年月等を刻む。笠・宝珠等は欠落して見当たらない。

294 塩竈神社 鳥居（図版25・86）

右柱正面には施主名を刻み、左柱正面には「天保十一・・・・・・下戸村石工伝之助」と刻む。

295 塩竈神社 石灯籠（図版25・86）

塩竈神社鳥居の手前左右に建っており、一對を成す。竿の正面に「一丁目浜町 氏子中」と刻み、竿の裏に「石工 宇兵衛」と刻む。

296 塩竈神社 石灯籠（図版25・86）

社殿手前左右に建っており、一對を成す。竿は風化が激しく、文字を判読できない。

297 塩竈神社 敷石（図版86）

塩竈神社入口から社地に入り、階段を上がると右奥に社殿があるが、その社殿へまっすぐに続く敷石。本書で「土台石」と分類した石を両端に並べ、その間に板石を敷き詰める。

298 塩竈神社 手洗鉢（図版26・87）

社地入口を入り、階段を登ると、つきあたりにある。正面に「嗽盥」と刻み、右側面に年号、左側面に施主名を刻む。屋根に覆われ、現在も使用されているもので、表面も良好に保たれている。他にも、境内に自然石を削ったものがあるが、使用されていない。

長栄山 大安寺（図版26～28・87・88-299～312）（第1・8～10・12図）

299 大安寺 聖観世音菩薩（図版26・87）

蓮弁を象った台座にのっている、丸彫りの聖観音菩薩立像である。左手には蓮華をもち、右手で印を結ぶ。透かし彫りになっている部位もあるなど、木彫に極めて近い彫法である。

300 大安寺 浄金妙福地藏（図版26・87）

大安寺山門前の参道左側脇にまつられている。「もとは浄土宗安養寺にあったものが享保年間に大安寺へ移設された」という記述が『佐渡相川志』にある。半肉彫りの立像で、右手に錫杖、左手には宝珠を持つ。

像の下部、向かって右側に「浄金禅定門」、左側に「妙福禅定尼」と刻む。石材は安山岩で、佐渡小泊産の石と思われる。室町時代末から江戸時代初期の作と言われている。

参考文献：『佐渡相川志』

『佐渡相川郷土史事典』 p 397

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 142～143

301 商人 佐渡屋六兵衛 墓（図版26・87）

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身正面は種字・法名・年月を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 186

302 佐渡奉行 岡松八右衛門久綱 墓・石灯籠（図版26・87）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身の正面に額を縁取りし、家紋・法名を刻み、右側面には年月、左側面には「岡松氏」と刻む。

幕府の御納戸頭と御勘定吟味役を兼務していたが、1810（文化7）年に佐渡奉行となり、佐渡へ赴任した。在任中は、休坑中の間歩を再開し、需用品は困窮している上相川の商人から買い上げる等の景気回復策をとった。1812（文化9）年秋、病に倒れ、翌年58歳で亡くなった。

佐渡へ赴任する道中を描いた絵巻が市指定文化財（「佐渡奉行所関連絵図（佐渡奉行赴任絵図）」）となっている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 712～713

303 相川音頭作者 中川赤水 墓（図版26・87）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。塔身正面には法名を、左右側面には年月及び俗名を刻む。

中川赤水の本名は「中川扇助」である。吹分所職人を本業としながら、相川音頭の作に励んだ。相川音頭は七・七・七調に綴った歌物語で盆踊りによくうたわれた。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 516～517

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 725～726

304 地役人 井上家 墓（図版26・87）

切石の台石・台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身は額を縁取るが、表面の風化が激しく、銘文は判読できない。宝珠等は見当たらない。

305 山師 （推定）大阪甚内 墓（図版26・88）

大阪甚内については、鎮目の仕置十年の御直山の覚の中に、向山日向平御直山山主中西庄平衡、大阪甚内となって現れる。近世初頭以来の相川の有力山師の一人である。慶長文書に大阪甚内としては名前が出ないようである。この宝篋印塔の左側に並ぶ宝篋印塔の前部に「大阪甚内」と刻んであるので、同族の墓と推定した。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 140

306 佐渡奉行 大久保長安 逆修塔 国指定文化財「佐渡金山遺跡（大久保長安逆修塔）」

（記念物 史跡） （図版27・88）

大久保長安は甲州武田家猿楽師大蔵太夫の次子で、武田家滅亡後、徳川家康の幕下となった。1603（慶長8）年に佐渡金銀山の支配を命ぜられ、没年の1613（慶長18）年まで佐渡奉行（代官）の地位にあった。逆修塔とは、死後の供養をするために、生前に建てておく供養塔である。

1603（慶長8）年佐渡奉行に任じられ、直山制と呼ばれる直営形態で鉱山を経営して、金銀山開発の礎を築いた。

石見（島根県）、伊豆（静岡県）の金銀山奉行も兼ねていて、金銀増産の功績は大きく、徳川家康の信任もあつかったが、死後、所領を没収され、一族は処刑された。

逆修塔は、長安が建立した大安寺に自分の今後の冥福を祈って生前に仏事を行った構築物である。越前（福井県）の勺谷石で造った宝篋印塔で、戒名と慶長16年の年号が入っている。

参考文献 『佐渡相川の歴史資料集2 墓と石造物』 p 255～

『佐渡相川郷土史事典』 p 120～122

307 河村彦左衛門 供養塔 国指定文化財「佐渡金山遺跡（河村彦左衛門供養塔）」（記念物 史跡）（図版28・88）

各輪に一字ずつ種字を刻む。また、地輪正面には法名・俗名・年月等を刻む。地輪左側面には石工名を刻む。

上杉景勝の家臣で、佐渡代官として佐渡を支配していた。景勝の会津移封後も、佐渡の国情に詳しいことから佐渡にとどまり、金銀山の開発につとめた。

1600（慶長5）年佐渡一国検地をおこなった。1602（慶長7）年、家康に排斥されて佐渡を去り、村上で1608（慶長13）年に没した。

供養塔は均整のとれた堂々たる巨石による五輪塔で、慶長13年の年号が入っている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 132

『佐渡相川郷土史事典』 p 203～204

308 棟梁 水田与左衛門 五輪塔（図版28・88）

各輪に一字ずつ種字を刻む。地輪正面にはまた、法名及び年月も刻む。地輪左側面には名号及び俗名を刻む。『佐渡年代記』によると、初代佐渡奉行大久保長安の求めに応じて、佐渡奉行所建設に当たる大工の棟梁を務めた。完成後も佐渡に留まり、子孫を土着させた。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 650

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 180～181

309 地役人 田島四郎右衛門 五輪塔（図版28・88）

空輪と風輪が欠落して見当たらない。現存する各輪も表面の風化が著しく、銘文を判読できない。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 158

『佐渡相川郷土史事典』 p 463

310 大安寺 無縫塔（図版28・88）

無縫塔のうちでも、（イ）第2類とされる形である。塔身正面に「開山歴代上人」と刻む。また、周囲には同形の塔がいくつも巡る。これらは、この寺の歴代住職個人の無縫塔であろう。

311 浄永 石塔（図版28・88）

大安寺境内の、歴代上人石塔の一隅にある。正面に向かって右側面に「慶長捨六・・・」の銘がある。正面に向かって左の側面には「・・・願主浄永」と刻まれているが、「浄永」という人物は記録に表れていない。石塔は破損が大きいものの、数少ない佐渡の慶長年石塔の一つである。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 396～397

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 136

312 代官 宗岡佐渡寄進 名号石塔（図版28・88）

自然石の台石に角柱形の塔身がのっている。塔身の正面には題目・年月・寄進者等を刻む。

宗岡は、佐渡来島前は毛利氏の下で石見国大森銀山の代官を務めていた。1603（慶長8）年に佐渡奉行大久保長安の目代として来島し、金銀山に関することを担当した。1613（慶長18）年に没し、佐渡市沢根の専得寺に葬られた。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 660

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 134～135

佐渡市相川一丁目裏町（図版28・89-313）（第1・8～10・12図）

313 尚齒会 顕頌碑（図版28・89）

角柱形の塔身の正面に碑文を刻む。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 398～399

『佐渡碑文集』 p 15

宝聚山 玉泉寺 (図版28・89-314～317) (第1・8～10・12図)

314 住職 長遠院日実 墓 (図版28・89)

台石・台座は土中に埋まっているためか確認できない。板石形の塔身下部も土中に埋まっている。正面は額を縁取り、「長・・・・」と刻む。表面が風化してほとんど剥落している。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 149

315 地役人 高田六郎兵衛 墓 (図版28・89)

各輪に髭文字で「妙」「法」「蓮」「華」「経」と刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 187

316 □真院妙久 墓 (図版28・89)

各輪に髭文字で「妙」「法」「蓮」「華」「経」と刻む。また、地輪正面には法名及び年月も刻む。地輪左側面には施主名を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 95

317 地役人 久保家 墓 (図版28・89)

各輪に髭文字で「妙」「法」「蓮」「華」「経」と刻む。また、地輪正面には法名及び年月も刻む。地輪左側面には施主名を刻む。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 189

金刀比羅神社 (図版28・29・89・90-318～321) (第1・8・10・12図)

318 金刀比羅神社 狛犬 (図版28・89)

鳥居亀腹の脇に阿・吽の一對を配す。ともに切り石を組み合わせた台石の上に座る。鳥居正面に向かって右側にあるのが阿像、左側にあるのが吽像である。

中型の狛犬であるが、背中に亀甲文様のうろこ文を彫り出しているのが目を引く。ここでは阿・吽を雄雌にあて、また、阿像は口を開け、吽像は口を閉じている。

参考文献 『いしほとけ』第6号

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 117～118

319 金刀比羅神社 石灯籠 (図版89)

社殿手前左右に建っており、一對を成す。社殿に向かって右側のものには1846(弘化3)年銘があり、また、「相川廻船持中」の寄附によって建てられたものである。石材は小泊か椿尾産の安山岩である。全長4mを越す大形の石灯籠である。

参考文献 『いしほとけ』第6号

320 金刀比羅神社 敷石 (図版89)

金刀比羅神社鳥居の手前へまっすぐに続く敷石。本書で「土台石」と分類した石を両端に並べ、その間に板石を敷き詰める。水金沢石と思われる石材を用いている。

321 金刀比羅神社 手洗鉢（図版29・90）

社殿に向かって右側にある石灯籠の手前にある。内面底部はコンクリートにより補修されている。破損状況は不明。正面に年号、施主名等を刻む。

願王山 来迎寺跡（図版29・90-322）（第1・8～10・12図）

322 地役人 原田久通 墓（図版29・90）

集合墓の一角に立っている。角柱形の塔身正面、右側面、左側面に額を縁取る。塔身正面は法名を刻み、左右側面には年月を刻む。

佐渡奉行所役人原田重始の長男として生まれた。奉行所役人として、筋金所役・勘定役・地方役・目付役・山方役・広間役助・広間役となる。奉行所役人西川明雅の『佐渡年代記』編纂事業を引きつぎ、完成させた。また、川路聖謨奉行が原田に命じてつくらせたのが、『佐渡四民風俗』である。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 576

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 724

帰命山 弾誓寺（図版29・90-323～325）（第1・8・10・12～14図）

323 佐渡奉行 角南主膳国寛 墓（図版29・90）

切石の台座を据え、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身は風化が著しく、表面の様子が判然としない。宝珠等は欠落して見当たらない。

1753（宝暦3）年、佐渡奉行になり、1754（宝暦4）年来島した。1753年（宝暦3）年は、寛延年間に起きた農民騒動の後始末が終わり、これが契機となって佐渡に代官が置かれ、金山をはじめとして相川府外の地域は代官が支配することとなったため、奉行の佐渡支配は間接的なものとなり、直接の支配権は、相川町方の行政と佐渡一国の寺社および公事に関することだけとなった年である。このため、在任中は、代官制移行への円滑化に務めた。また、金山支配の代官所を相川羽田浜町に新築した。在任中の1755（宝暦5）年になくなった。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 705～706

324 弾誓寺 笠塔婆（図版29・90）（第14図）

切石の台石を据え、台座に該当する部位を置かずに、塔身から上の部分がのっている。塔身は断面が長方形である。塔身正面は額を縁取りし、法名等を刻む。笠は大きく破損し、宝珠等は見当たらない。

325 コレラ死亡者供養塔（図版29・90）（第14図）

石祠の中に丸彫り地藏1体と供養塔を収める。右柱の正面に「明治十六歳癸亥建之」と刻み、左柱の正面に施主名を刻む。

1879（明治12）年にコレラにかかって死亡した272人を供養する。病原菌が特定されて、対策が採られるようになるのは1883（明治16）年である。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 292

佐渡市相川下戸町（図版91-326）（第1図）

326 相川下戸町 石堀（図版91）

凝灰岩製の切石を積んで堀に仕上げた光景は、相川の町でもおなじみである。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 285

大日堂（図版29・91-327・328）（第1・8・10・13図）

327 海士町大日堂 馬頭観音（図版29・91）

大日信仰につきもの牛と地蔵を配している。厨子に納まっている。

参考文献 『いしほとけ』第6号

328 海士町大日堂 八字名号塔（図版29・91）

切石の台座の上に角柱形の塔身がのる。塔身正面は額を縁取り、「南無大師遍照金剛」と刻むが、剥落が著しい。塔身右側面には名号を、左側面には年月及び施主等を刻む。

善知鳥神社（図版29・91・92-329～331）（第1・8・10・11・13図）

329 善知鳥神社 狛犬（図版29・91）

鳥居をくぐり、まっすぐ社殿へと向かう参道に入る所両脇に阿・吽の一對を配す。ともに切石を組み合わせた台石の上に座る。台石には「・・・・・・小泊石工・・・・・・」と刻む。社殿に向かって右側にあるのが阿像、左側にあるのが吽像である。

330 善知鳥神社 石垣（図版91）

善知鳥神社社殿の裏は、海成段丘であり、急な斜面となっている。社殿裏の急斜面を土留めしている石垣である。石の大きさは不ぞろいであるが、切石を用い、表面は平に仕上げている。

参考文献 『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 280～287・304

331 善知鳥神社 手洗鉢（図版29・92）

善知鳥神社に合祀された明神社の水鉢。口縁を肉薄に彫りあげた大形小判型である。寄進人佐藤治右衛門正秀家の「佐藤丸紋章」を中央に大きく陰刻してあり右部には山の文字を配して出身地を表わす等、元禄時代の優雅さが感じられる。排水穴は右側に、溢水溝は右側手前に彫っている。台座はない。水道配管のため手を加えられている。

相川下戸村 北野神社（図版29・92-332）（第1・8・10・11・13図）

332 北野神社 百萬遍供養塔（図版29・92）

風化が激しく、欠落、剥離している。右上は欠落、左上は剥離。

熊野神社（図版30・92・93-333～339）（第1・8・10・13図）

333 熊野神社 狛犬（図版30・92）

鳥居をくぐり、社殿の手前に阿・吽の一對を配す。ともに自然石の台石の上に座る。社殿に向かって右側にあるのが阿像、左側にあるのが吽像である。風化が激しく、表面が剥落している。

334 熊野神社 青面金剛塔（図版30・92）

切石の台石を据えている。角柱形の塔身の正面に「種字 庚申青面金剛」と刻む。

335 熊野神社 庚申塔（図版30・92）

自然石の台石を据えている。自然石の塔身正面に「庚申塔」と刻む。

336・337 熊野神社 石塔・石灯籠（図版30・92）

石塔の台石等は地中に埋もれているためか確認できない。

角柱形石塔は小型のもので番所蔵の人足の寄贈。塔身正面に「奉 御米蔵 人足仲間」、左側面に「六十二人」と刻む。人足62人は何を祈願したのだろう。

灯籠は社殿手前、社殿に向かって左隅あたりに建っている。

灯籠は横転していて基礎がなかった。宝珠も欠落して見当たらない。銘に弘化5年3月（1848）とある。

338 熊野神社 旗棹の台石（図版30・93）

熊野神社社地入口を入るとすぐの場所に一對設置しているうちの一つである。板を挿し込むためのホゾ穴を二つ穿つ。

339 熊野神社 手洗鉢（図版30・93）

神社入口を入り、社殿に向かって左側に覆屋がある。その中に収まっている。正面は「奉献」と刻む。側面に銘文があるも、覆屋があるので読めない。

観音堂（図版30・93-340～342）（第1・8・10・13図）

340 観音堂 十一面観音（図版93）

石造の十一面観音座像であるが、何年か前に有志が金色や黒色に彩色したという。現在ではこの観音堂を管理する人手が薄くなり、観音堂の管理を担っている広源寺の敷地内に小さな堂を建て、そこに移動した。

参考文献 『いしほとけ』第6号

341 観音堂 中山（相川下戸村）の六地藏（図版30・93）

海士町の六地藏ともいう（中山峠の六地藏ではない）。相川海士町から旧道中山峠への赤坂を登ると観音堂があり、その道筋に並んで石造の六地藏がまつられている。左右柱正面に刻まれた銘から、1761（宝暦11）年の建立で、寛延百姓一揆で処刑された義民、辰巳村太郎右衛門・椎泊村弥次右衛門ら、および地役人たちの供養のために立てられた六地藏であることがわかる。横手には、1801（享和元）年銘の念仏車もある。

参考文献 『いしほとけ』第6号

『佐渡相川郷土史事典』 p 527

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 252～253

342 観音堂 中山の念仏車（図版30・93）

笠塔婆形で頂部に地藏を安置した精巧な造りである。塔身部に三界万霊と刻字し、その上に車輪の設置場所がある。以下、参考文献より引用した記述である。

天和二年（1682）加賀源右衛門愛ニ念仏車ヲ立ツ。往来ノ者は是ヲ回ス。後ニ東換ス。源右衛門後ニ入道シテ無心坊ト言フ。

参考文献 『いしほとけ』第6号

『佐渡相川志』 p 144

中山旧道 市指定文化財（記念物 史跡）（図版30・31・94-343～347）（第1・8・10・13・14図）

小木街道中（相川札の辻～小木御番所）のうち、「相川札の辻」（相川羽田町）から沢根の「相川小路」までの道は、中山街道と呼ばれている。

佐渡金銀山が全盛であった慶長・元和の頃は、青野峠を越えて相川へ通じる道路が使われていたが、寛永期に入って、奉行所を中心とした下町が栄えるようになると、それまでの山越え道ではなく、勾配のゆるやかな道が求められるようになり、1628（寛永5）年頃には、中山街道が開かれることになった。

それ以後、1885（明治18）年に掘割新道ができるまでの約260年間、国中と相川を結ぶ往環道として、利用されてきた。

江戸から着任する佐渡奉行も、唐丸籠で金山へ送られてきた水替無宿も、国中からの商人も年貢米を運んだ牛も、みなこの道を通った。

こともなく 佐渡の中山 またこゆる けふの帰りも いのちなりけり

天保の一国騒動のあと始末を終えて、江戸へ帰るとき、川路三左衛門奉行は中山峠でこの歌を詠んだ。

路傍には、念仏車、寛延一揆処刑者供養六地藏、獄門場跡、刑場跡、峠の茶屋跡、キリシタン塚、船手役加藤一族の墓、ゲイギ塚、一理塚など、この道を利用した人々によって刻まれた数多くの歴史がのこっている。

343 中山旧道 庚申塔（図版30・94）

自然石の台石を据えている。自然石の塔身正面に「庚申塔」と刻む。

344 中山旧道 徳本上人六字名号塔（図版31・94）

塔身の頭部は平面と綾線を丸めた様に見える。題目を刻んだ輪郭は深めで、上部雲形下部は直線である。刻字は明らかに残されているが、石の風化欠落部分が多く読みにくい。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 527

345 中山旧道 題目願文碑（図版31・94）

切石の台石・台座を据え、角柱形の塔身がのっている。台石正面、右側面、左側面、裏面に施主名等の人名を刻む。塔身正面は額を縁取り、髭題目を刻み、塔身右側面、左側面、裏面にもそれぞれ銘文を刻む。以下、参考文献より引用した記述である。

下寺町円徳時十二世日巖石塔、享保戊戌年六月朔日宝永年中加賀常信法華首題五千部ノ塚。上寺町覚性寺開基覚性院日儀延宝三己卯年十月二十三日没シ爰ニ葬ル。『佐渡相川志』P144

参考文献 『いしほとけ』第6号

『佐渡相川郷土史事典』 p 5 2 7

『佐渡相川志』 p 1 4 4

346 中山旧道 名号塔 (図版31・94)

街道の通行人の安全を願う意味か、刑場に近いので冥福を祈願か。書体は相川柴町の専光寺跡入口の碑と似ている。台座から離れて横転しているので、計測も不可能の部分がある。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 5 2 7

347 船手役 加藤一族 墓 (図版31・94)

各輪ともに風化が著しく、銘文を判読できない。

『佐渡相川志』では佐渡奉行所の船手役を「加藤孫左衛門政俊組」と書いている。加藤家ではこの「孫左衛門」を家の呼び名として受け継いだらしい。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 1 8 1

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 1 3 7

泊藤山 観音寺 (図版31・94-348・349) (第1・8・11図)

348 流入 小倉実起 墓 (図版31・94)

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身は表面が風化してほとんど剥落している。

勅命に背いた罪で、1681(天和元)年、謫男公連・次男季伴とともに佐渡に流されてきた。相川だけでなく国中の富豪、役人達からも招かれて、風雅の交わりをもった。贈答の詩歌が多く残されている。1684(貞享元)年に死亡。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 1 4 5～1 4 6

『佐渡相川の歴史 資料集2 墓と石造物』 p 2 0 7

349 流入 小倉公連 墓 (図版31・94)

切石の台座を据え、板石形の塔身がのっている。塔身は表面が風化してほとんど剥落している。

小倉実起の長子。勅命に背いた父に連座して、1681(天和元)年、父と弟季伴とともに佐渡に流されてきた。島内の富豪、役人達とは風雅の交わりをもったらしく、『佐渡名勝志』には、実起の漢歌九首と和歌三首、公連の漢詩三首と和歌八首、季伴の漢詩二首、和歌一首が記録されている。父実起の死の半年後、1684(貞享元)年に死亡。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 1 4 5

佐渡市相川鹿伏 (図版31・94-350) (第1・8・11図)

350 春日崎 灯明台 (図版31・94)

1628(寛永5)年に、沖を通る船の安全を図るために設置された。この辺は岩礁が多く、事故が多発したため、三月から九月まで毎日点灯して事故を防止した。現在の石積みは江戸後年に築き直したのであるが、石の切り方や積み方を見ると古くはない。現在では、おけさ踊りの写真の背景になるなど観光面で利用されている。

参考文献 『佐渡相川郷土史事典』 p 1 7 4～1 7 5

4. 付録

新潟県指定有形文化財（考古資料）
「佐渡奉行所跡出土品一括」（471点）

2000（平成12）年 3月24日指定

所在地：新潟県佐渡市相川長坂町16番地 佐渡市教育委員会

所有者・管理者：佐渡市教育委員会

佐渡奉行所は1604（慶長9）年に初代奉行の大久保長安により設置され、1868（明治元）年に廃止されるまでの約260年間、江戸幕府の佐渡一国支配と佐渡金山経営の拠点として機能した。

1994（平成6）年に「佐渡金山遺跡」の一部として国史跡に指定され、1994～98（平成6～10）年にかけて保存整備事業に伴い発掘調査された。

発掘調査では、大御門から役所玄関に至る石畳や役所礎石の一部、武具土蔵礎石、井戸などの遺構、陶磁器、瓦、木製品などの生活用具とともに、多数の金銀精錬関連遺物が出土した。このうち鉛の延べ板、荷札木簡、蓋状・棒状土製品、羽口（鞆の送風口）、扣石、石磨、舂（鉾石の粉碎過程に使用する容器）、桶、笊、カラミ（鉾石を溶錬する際に生ずる滓）の金銀精錬関連遺物計471点が県考古資料に指定された。特に、下磨に物配り（大きな溝）が穿たれている石磨（通常物配りは上磨に存在）、四角い穴がある扣石の形態は佐渡特有と考えられている。

鉾山関連遺跡の調査例は全国的にも未だ少なく、出土遺物も極めて少ないため、佐渡奉行所跡出土の金銀精錬関係遺物は、わが国における近代以前の精錬技術を考察する際の貴重な資料といえる。

〔財〕新潟県埋蔵文化財調査事業団2004〕

ここには、県指定文化財となった金銀精錬関連遺物の内、石製のものの一覧を掲載している。

この一覧表の原本は、文化財指定を新潟県教育委員会に申請した際、申請書に添付したものである。

石材名は、原本に記載してある名称をそのまま記した。

原本記載の石材名を、本書冒頭の凡例に当てはめた場合の対照を示す。

球顆状流紋岩＝流紋岩＝吹上石

花崗岩質礫岩＝礫岩＝片辺礫岩

扣石（はたきいし）

No.	番号	出土地	長径cm	短径cm	高cm	石 材	扣 穴個	形態	残存	備 考
1	1	土抗1-9	38.0	34.0	28.0	玄武岩質安山岩	角6	角穴	3/4	角に丸底の痕跡あり
2	3	土抗20-11	41.0	34.0	27.0	玄武岩質安山岩	角6	角穴	3/4	角に丸底の痕跡あり
3	7	土抗45-51	34.0	22.0	9.0	玄武岩質安山岩	丸1	丸穴	1/4	
4	12	D-4-43	40.0	36.0	24.0	玄武岩質安山岩	丸4	丸穴	4/4	
5	14	D-4-49	43.0	41.0	30.0	玄武岩質安山岩	丸8	丸穴	3/3	
6	15	D-4-50	48.0	38.0	20.0	玄武岩質安山岩	丸6	丸穴	3/5	
7	16	D-4-51	51.0	37.0	32.0	安山岩	丸3	丸穴	1/2	
8	18	E-4-2	40.0	40.0	32.0	玄武岩質安山岩	丸2 角8	丸角混在	3/4	
9	21	E-4-5	48.0	36.0	20.0	玄武岩質安山岩	丸4	丸穴	3/5	
10	26	E-4-90	39.0	26.0	28.0	玄武岩質安山岩	角4	角穴	3/4	角に丸の痕跡あり
11	32	E-4-216	38.0	21.0	31.0	玄武岩質安山岩	角4	角穴	1/2	角に丸底の痕跡あり
12	33	E-4-256	25.0	24.0	29.0	玄武岩質安山岩	角2	角穴	3/5	
13	35	E-4-342	35.0	25.0	30.0	玄武岩質安山岩	角8	角穴	1/2	角に丸底の痕跡あり
14	39	E-4-346	42.0	35.0	28.0	玄武岩質安山岩	丸2	丸穴	2/3	
15	40	E-4-347	22.0	22.0	14.0	白石英	丸2	丸穴	1/3	
16	41	E-4-450	40.0	25.0	28.0	玄武岩質安山岩	角3	角穴	2/3	角に丸底の痕跡あり
17	43	E-4-452	30.0	30.0	32.0	玄武岩質安山岩	角6	角穴	2/3	角に丸底の痕跡あり
18	44	E-4-453	40.0	30.0	27.0	玄武岩質安山岩	丸4	丸穴	2/3	
19	48	E-4-i-8	35.0	28.0	32.0	玄武岩質安山岩	角6	角穴	3/5	
20	49	F-4-54	46.0	26.0	32.0	玄武岩質安山岩	角6	角穴	3/5	
21	50	F-4-55	38.0	36.0	36.0	玄武岩質安山岩	角5	角穴	3/5	角に丸底の痕跡あり
22	52	F-4-57	45.0	29.0	35.0	玄武岩質安山岩	角3	角穴	3/5	
23	55	F-4-63	43.0	30.0	35.0	玄武岩質安山岩	角5	角穴	3/5	
24	56	F-4-75	50.0	30.0	28.0	玄武岩質安山岩	丸6	丸穴	2/3	
25	57	F-4-86	36.0	30.0	30.0	玄武岩質安山岩	丸2 角3	丸角混在	3/5	
26	59	F-4-88	40.0	26.0	30.0	玄武岩質安山岩	丸3 角2	丸角混在	3/5	
27	62	F4-32	38.0	29.0	26.0	玄武岩質安山岩	丸4 角4	丸角混在	3/5	
28	64	F4-101	37.0	35.0	30.0	玄武岩質安山岩	角9	角穴	2/3	角に丸底の痕跡あり
29	66	F4-113	40.0	35.0	28.0	玄武岩質安山岩	丸6	丸穴	2/3	
30	73	F4-120	40.0	40.0	38.0	玄武岩質安山岩	角12	角穴	2/3	
31	76	F4-123	30.0	25.0	25.0	玄武岩質安山岩	角3	角穴	1/4	角に丸底の痕跡あり
32	79	D-5-41	31.0	27.0	23.0	玄武岩質安山岩	角3	角穴	1/3	角に丸底の痕跡あり
33	83	E5-01	30.0	26.0	34.0	玄武岩質安山岩	角6	角穴	3/5	
34	85	E5-03	32.0	28.0	30.0	玄武岩質安山岩	角4	角穴	3/5	
35	86	E-5-8	40.0	26.0	34.0	玄武岩質安山岩	角4	角穴	3/5	
36	88	E-5-128	45.0	37.0	23.0	玄武岩質安山岩	角5 角穴	3/5		
37	92	E-5-132	36.0	31.0	30.0	玄武岩質安山岩	角4 角穴	3/5		
38	97	H-5-581	65.0	35.0	33.0	玄武岩質安山岩	丸6 丸穴	3/4		
39	98	H-5-582	60.0	35.0	25.0	玄武岩質安山岩	丸2 丸穴	2/3		
40	99	H-5-583	40.0	22.0	23.0	玄武岩質安山岩	丸1 角1	丸角混在	2/5	
41	101	H-5-585	42.0	32.0	34.0	玄武岩質安山岩	丸6	丸穴	2/3	

石磨（上磨）

No.	番号	出土地	径cm	高cm	石 材	柄穴 個	物配 本	回転痕	供給cm孔	残存状況	備 考
1	1	土抗1-1	48.0	20.0	球顆状流紋岩	穴現2 溝現2	不明	有	14.0	2/3	
2	4	土抗1-7	36.0	11.0	流紋岩	溝現2	不明	有	不明	1/2	
3	20	土抗8-1	37.0	22.0	球顆状流紋岩	溝現2	無	有	8.0	1/2	
4	22	土抗9-2	37.0	9.0	球顆状流紋岩	溝現1	無	有	7.0	1/2	
5	25	土抗10-2	不明	22.0	流紋岩	不明	不明	無	5.0	1/2	
6	26	土抗10-3	40.0	6.0	球顆状流紋岩	溝現1	不明	有	7.0	1/2	
7	28	土抗10-5	40.0	15.0	流紋岩	穴現2溝現2	不明	有	8.0	1/2	
8	49	土抗20-20	40.0	17.0	球顆状流紋岩	穴現2	不明	有	9.0	1/2	
9	66	土抗27-3	34.0	10.0	流紋岩	溝現3	不明	有	5.5	1/2	
10	72	土抗38-3	37.0	14.0	流紋岩	溝現2	不明	有	不明	1/2	
11	82	土抗43-2	42.0	25.0	球顆状流紋岩	穴現3	不明	有	10.5	1/2	
12	89	土抗45-1	30.0	11.0	球顆状流紋岩	溝現2	不明	有	4.0	1/2	
13	90	土抗45-2	44.0	6.0	流紋岩	溝現3	不明	有	6.0	1/2	
14	93	土抗45-5	38.0	7.0	流紋岩	溝現2	不明	有	8.5	1/2	
15	122	土抗53-2	48.0	24.0	流紋岩	穴現2	不明	無	9.5	1/2	
16	125	土抗55-2	38.0	14.0	球顆状流紋岩	穴現2	不明	有	7.5	1/3	
17	128	井戸1-1	60.0	21.0	球顆状流紋岩	穴現2	不明	有	11.0	3/5	
18	129	井戸2-51	40.0	27.0	流紋岩	穴現2	不明	有	不明	1/2	
19	130	井戸2-52	38.0	26.0	球顆状流紋岩	溝現3	不明	有	6.5	2/3	
20	131	井戸2-53	40.0	11.0	流紋岩	穴現2	不明	有	8.0	1/2	
21	132	井戸2-54	40.0	11.0	球顆状流紋岩	溝現3	不明	有	8.0	1/2	
22	133	井戸2-55	36.0	9.0	流紋岩	溝現3	不明	有	9.0	1/2	
23	134	井戸2-56	44.0	7.0	流紋岩	溝現2	不明	有	8.5	1/3	
24	135	井戸2-57	36.0	14.0	球顆状流紋岩	穴現2	不明	有	8.0	1/2	
25	190	D-4-7	44.0	7.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	7.0	1/2	
26	220	D-4-44	44.0	11.0	礫岩	溝現 1	不明	有	不明	1/2	
27	224	E-4-i-1	34.0	24.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	8.5	1/2	
28	229	E-4-i-7	36.5	17.0	流紋岩	穴現 2 溝現 1	不明	有	8.0	1/3	
29	235	E-4-4	40.0	16.0	流紋岩	溝現 3	不明	有	8.5	1/2	
30	237	E-4-19	44.0	15.0	球顆状流紋岩	穴現 1	現 1	有	9.0	1/2	
31	239	E-4-21	39.0	30.0	球顆状流紋岩	穴現 2	不明	有	6.0	1/2	
32	241	E-4-23	36.0	7.5	球顆状流紋岩	穴現 1	不明	有	5.5	1/2	
33	248	E-4-30	43.0	8.0	球顆状流紋岩	溝現 3	不明	有	7.0	1/2	
34	271	E-4-62	38.0	21.0	球顆状流紋岩	溝現 3	不明	有	不明	2/3	
35	272	E-4-63	35.0	11.0	球顆状流紋岩	溝現 2	無	有	6.5	2/3	
36	294	E-4-94	37.0	16.0	球顆状流紋岩	溝現 3	不明	有	7.0	2/3	
37	303	E-4-108	38.0	13.5	球顆状流紋岩	穴現 2	不明	有	8.0	1/3	
38	313	E-4-127	42.0	9.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	9.0	1/2	

No.	一覽番号	出土地	径cm	高cm	石 材	柄穴 個	物配本	回転痕	供給cm孔	残存状況	備 考
39	348	E-4-175	43.0	16.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	5.0	1/2	
40	350	E-4-177	39.0	8.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	6.5	1/2	
41	381	E-4-215	43.0	10.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	5.0	1/2	
42	403	E-4-285	36.0	12.0	流紋岩	穴現 3	3	有	5.5	1/2	
43	405	E-4-287	44.0	8.0	流紋岩	溝現 2	1	有	7.5	1/2	
44	459	E-4-367	50.0	17.0	球顆状流紋岩	穴現 3	無	有	10.5	4/5	
45	460	E-4-368	39.0	14.0	流紋岩	溝現 2	現 2	有	5.5	3/5	
46	461	E-4-369	不明	20.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	5.5	1/2	
47	485	E-4-393	38.0	6.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	6.0	1/2	
48	550	E4-09	40.0	24.0	球顆状流紋岩	溝 4	無	有	5.5	完 形	
49	551	E4-10	43.0	17.0	球顆状流紋岩	穴現 2	不明	有	9.0	3/5	
50	552	E4-11	48.0	12.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	10.0	2/5	
51	595	F-4-53	45.0	31.0	球顆状流紋岩	穴現 3	無	無	9.0	完形	
52	596	F-4-61	40.0	6.5	流紋岩	穴現 2	不明	有	7.0	1/2	
53	598	F-4-64	40.0	6.5	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	不明	1/2	
54	599	F-4-66	37.0	21.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	6.0	1/4	
55	616	F4-501	38.0	24.0	流紋岩	溝現 3	無	有	8.5	4/5	
56	617	F4-502	40.0	20.0	球顆状流紋岩	溝 4 無	不明	6.0	完形		
57	619	F4-504	36.0	23.0	球顆状流紋岩	不明	不明	不明	7.0	1/2	
58	620	F4-505	38.0	20.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	不明	6.0	1/2	
59	624	F4-509	43.0	20.0	球顆状流紋岩	溝現 3	無	有	9.0	4/5	
60	625	F4-510	37.0	19.0	流紋岩	穴現 3	不明	有	8.5	1/2	
61	626	F4-511	38.0	22.0	球顆状流紋岩	穴現 2	不明	有	8.0	2/5	
62	627	F4-512	38.0	22.0	球顆状流紋岩	無	不明	有	5.5	3/5	
63	628	F4-513	38.0	15.0	球顆状流紋岩	穴現 3	不明	有	9.0	1/2	
64	629	F4-514	34.0	4.5	流紋岩	溝現 2	不明	有	7.5	1/2	
65	633	F4-518	33.0	11.0	流紋岩	溝現 3	不明	有	5.0	1/2	
66	634	F4-519	36.0	9.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	8.0	1/2	
67	635	F4-520	40.0	7.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	6.0	1/2	
68	636	F4-521	40.0	8.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	6.0	1/2	
69	638	F4-523	38.0	6.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	8.0	1/2	
70	699	F4-600	41.0	28.0	球顆状流紋岩	溝現 2	無	有	6.0	2/3	
71	700	F4-601	39.0	21.0	球顆状流紋岩	不明	不明	有	6.0	完形	
72	701	F4-602	44.0	19.0	球顆状流紋岩	穴現 1	不明	有	12.0	2/3	
73	702	F4-603	38.0	15.0	球顆状流紋岩	穴現 1	不明	有	10.0	1/2	
74	704	F4-605	38.0	14.0	球顆状流紋岩	穴現 2 溝現 2	不明	有	5.0	1/4	
75	705	F4-606	38.0	16.0	球顆状流紋岩	穴現 2 溝現 2	不明	有	不明	1/2	
76	707	F4-608	40.0	9.0	球顆状流紋岩	穴現 1 溝現 2	不明	有	10.0	1/2	
77	708	F4-609	40.0	8.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	10.0	2/5	

No.	番号	出土地	径cm	高cm	石 材	柄 穴 個	物配 本	回転痕	供給cm孔	残存状況	備 考
78	715	F4-616	38.0	8.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	7.0	1/2	
79	792	D-5-10	35.0	13.0	流紋岩	溝現 1	不明	有	7.0	1/2	
80	799	D-5-17	34.0	6.5	流紋岩	溝現 3	現 1	有	不明	1/2	供給孔に鉄
81	800	D-5-22	42.0	7.5	流紋岩	溝現 2	不明	有	7.5	1/2	
82	814	D-5-43	43.0	7.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	7.5	1/2	
83	822	D-5-57	38.0	11.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	不明	1/2	
84	830	D-5-72	35.0	9.0	球顆状流紋岩	溝現 3	不明	有	7.5	1/2	
85	831	D-5-73	38.0	9.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	7.0	1/2	
86	841	E-5-1	38.0	6.0	流紋岩	穴現 2	不明	有	8.0	1/2	
87	852	E-5-33	34.0	7.0	球顆状流紋岩	無	無	有	5.0	完形	
88	853	E-5-34	41.0	9.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	8.5	1/2	
89	854	E-5-35	34.0	12.5	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	7.0	1/2	
90	919	E-5-100	37.0	30.0	球顆状流紋岩	無	不明	有	5.0	1/2	
91	958	E-5-159	40.0	18.0	球顆状流紋岩	溝 4	1	有	不明	完形	
92	969	E-5-170	33.0	9.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	4.5	1/3	
93	1013	E-5-233	38.0	15.0	球顆状流紋岩	穴 4	3	有	3.0	完形	
94	1014	E-5-234	40.0	13.0	球顆状流紋岩	穴現 1	不明	有	7.0	1/2	
95	1015	E-5-235	38.0	19.0	球顆状流紋岩	穴現 1	不明	有	6.5	1/2	
96	1021	E-5-241	43.0	7.5	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	8.5	1/2	
97	1051	E-5-272	36.0	7.5	球顆状流紋岩	溝 4	1	有	8.0	完形	
98	1053	E-5-274	37.0	13.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	7.0	1/2	
99	1054	E-5-275	40.0	22.5	球顆状流紋岩	穴 4	3	有	9.0	完形	
100	1056	E-5-277	34.0	11.5	球顆状流紋岩	穴 4 溝 4	無	不明	5.5	完形	船12号 中立木杵有
101	1057	E-5-278	34.5	21.0	球顆状流紋岩	溝 4	3	有	6.0	完形	船12号中
102	1066	H 5 -201	46.0	18.0	球顆状流紋岩	穴現 2	不明	有	9.0	1/3	
103	1067	H5-204	46.0	35.0	流紋岩	穴現 1	現 1	有	不明	1/2	
104	1068	H5-205	38.0	15.0	流紋岩	溝現 2	不明	有	8.5	1/2	
105	1069	H5-206	40.0	22.0	球顆状流紋岩	溝現 2	不明	有	5.0	2/3	
106	1070	H5-208	35.0	10.0	流紋岩	不明	不明	有	7.5	2/3	
107	1071	H5-554	48.0	33.0	球顆状流紋岩	穴現 3	不明	有	9.0	1/3	
108	1071	H-5-555	40.0	9.0	球顆状流紋岩	溝現 1	不明	有	不明	2/5	
109	1084	H5-567	40.0	7.0	流紋岩	溝現 3	不明	有	9.0	1/3	

石磨（下磨）

No.	番号	出土地	径cm	高cm	石 材	物配 本	回転痕	軸径cm		備 考
1	2	土抗1-4	33.0	12.0	花崗岩質礫岩	不明	有	5.0	1/2 残	
2	5	土抗10-6	45.0	18.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	
3	11	土抗20-19	39.0	5.0	花崗岩質礫岩	無	有	4.6	2/3 残	軸に鉄片付着
4	12	土抗23-1	41.0	15.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	
5	16	土抗30-1	37.0	13.0	花崗岩質礫岩	無	有	5.0	1/2 残	軸に鉄片付着
6	22	土抗42-24	44.0	15.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.5	2/3 残	
7	32	井戸2-1	40.0	30.0	花崗岩質礫岩	無	有	4.5	完形	
8	33	井戸2-2	34.0	22.0	花崗岩質礫岩	無	有	5.5	2/3 残	軸中に木芯
9	34	井戸2-3	44.0	19.0	花崗岩質礫岩	1	有	5.0	2/3 残	軸と回転面が非直角
10	35	井戸2-4	48.0	13.0	花崗岩質礫岩	不明	有	不明	1/3 残	軸と回転面が非直角
11	36	井戸2-5	44.0	11.0	花崗岩質礫岩	1	有	6.0	2/3 残	
12	44	井戸2-13	40.0	30.0	花崗岩質礫岩	無	不明	3.5	完形	
13	54	F-3-1	52.0	25.0	花崗岩質礫岩	現1	有	5.5	1/2 残	
14	55	F-3-2	40.0	19.0	花崗岩質礫岩	不明	有	5.5	1/4 残	
15	59	F-3-13	46.0	25.5	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	
16	70	E-4-j-7	40.0	13.0	花崗岩質礫岩	1	有	5.0	1/2 残	軸に鉄芯付着
17	72	E-4-7	35.0	17.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.5	2/3 残	
18	119	E-4-156	52.0	16.0	花崗岩質礫岩	現1	有	不明	1/3 残	裏面に回転痕と物配有
19	147	E-4-260	45.0	19.0	花崗岩質礫岩	無	有	6.5	4/5 残	軸に鉄の腐食有
20	148	E-4-261	40.0	23.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	
21	152	E-4-265	40.0	18.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	
22	153	E-4-266	41.0	24.0	花崗岩質礫岩	1	有	3.5	1/2 残	
23	173	E-4-348	50.0	19.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.5	1/2 残	
24	206	E4-1	48.0	10.0	花崗岩質礫岩	2	有	4.5	完形	
25	218	F-4-5	51.0	18.0	花崗岩質礫岩	1	有	3.5	2/3 残	裏面に回転痕と物配有
26	241	F4-77	40.0	11.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.5	2/3 残	
27	243	F4-79	50.0	27.0	花崗岩質礫岩	2	有	4.0	3/4 残	
28	245	F4-81	46.0	22.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.5	1/2 残	軸穴上下に有
29	246	F4-82	45.0	35.0	花崗岩質礫岩	不明	有	7.0	2/3 残	軸穴上下に有
30	248	F4-84	50.0	20.0	花崗岩質礫岩	現1	有	5.0	1/2 残	
31	250	F4-86	33.0	13.0	花崗岩	不明	有	4.0	1/2 残	
32	252	F4-103	38.0	5.0	花崗岩質礫岩	1	有	5.5	1/2 残	軸穴上下に有
33	253	F4-104	45.0	15.0	花崗岩質礫岩	不明	有	5.0	1/2 残	
34	255	F4-106	40.0	19.0	花崗岩質礫岩	無	有	3.5	4/5 残	軸に鉄片付着
35	256	F4-107	44.0	41.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	
36	258	F4-109	43.0	21.0	花崗岩質礫岩	1	有	5.0	2/3 残	軸に鉄片付着
37	261	F4-201	48.0	17.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	
38	263	F4-203	50.0	35.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	2/3 残	

No.	番号	出土地	径cm	高cm	石 材	物配 本	回転痕	軸径cm		備 考
39	274	F4-214	44.0	14.0	花崗岩質礫岩	現1	有	5.5	2/3 残	軸に鉄片付着
40	277	F4-218	不明	26.0	花崗岩	1	有	5.0	1/2 残	上下に軸穴有
41	278	F4-219	50.0	29.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.5	完形	両面に回転痕有
42	281	F4-301	49.0	21.0	花崗岩質礫岩	1	有	6.0	2/3 残	軸に鉄片付着
43	282	F4-302	42.0	20.0	花崗岩質礫岩	無	有	4.5	4/5 残	軸に木片付着
44	283	F4-303	48.0	18.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.5	2/3 残	
45	284	F4-304	42.0	22.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.5	1/3 残	
46	285	F4-305	42.0	17.0	花崗岩質礫岩	2	有	4.3	1/2 残	
47	294	F4-314	46.0	27.0	花崗岩質礫岩	1	有	3.5	2/3 残	
48	315	G-4-1	41.0	19.0	花崗岩質礫岩	1	有	2.5	4/5 残	
49	326	D-5-24	43.0	32.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.0	1/2 残	
50	331	D-5-47	44.0	16.0	花崗岩質礫岩	1	有	5.0	2/3 残	
51	336	D-5-65	43.0	11.0	花崗岩質礫岩	無	有	6.0	1/2 残	
52	337	D-5-66	48.0	12.0	花崗岩質礫岩	1	有	5.5	2/3 残	
53	340	D-5-69	46.0	21.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.5	2/3 残	
54	341	D-5-70	44.0	15.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.0	1/2 残	軸に腐食物有
55	344	E-5-2	42.0	20.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	1/3 残	
56	347	E-5-15	44.0	18.0	花崗岩質礫岩	現1	有	6.0	1/2 残	
57	348	E-5-16	49.0	13.5	花崗岩質礫岩	不明	有	6.0	1/2 残	
58	351	E-5-19	52.0	16.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.5	1/2 残	
59	363	E-5-31	44.0	21.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.5	1/2 残	
60	374	E-5-137	50.0	27.0	花崗岩質礫岩	1	有	4.0	1/2 残	
61	376	E-5-156	44.0	9.0	花崗岩質礫岩	不明	有	5.0	1/2 残	
62	391	E-5-223	46.0	28.0	花崗岩質礫岩	現1	有	4.5	1/2 残	
63	401	E-5-282	37.0	32.0	花崗岩質礫岩	無	有	3.0	完形	
64	403	E-5-284	40.0	24.0	花崗岩質礫岩	不明	有	2.5	1/2 残	船12号の中
65	405	E-5-286	44.0	27.0	花崗岩質礫岩	無	有	3.0	完形	船12号の中・軸に木芯有
66	408	H-5-100	48.0	17.0	花崗岩質礫岩	1	有	5.0	2/3 残	
67	409	H5-101	48.0	22.0	花崗岩質礫岩	現1	有	3.5	2/3 残	軸に鉄棒の残有
68	410	H5-102	44.0	19.0	花崗岩質礫岩	無	有	2.5	完形	面と軸非直角
69	411	H5-103	48.0	25.0	花崗岩質礫岩	2	有	3.5	2/3 残	面と軸非直角
70	415	H5-107	44.0	11.0	花崗岩質礫岩	無	有	3.5	2/3 残	

まとめにかえて

ここにあげた多種多様な石造物を、筆者が短期間でまとめる力量などあろうはずもない。

本書では、事実の記録と既存文献の紹介に努め、また、対象とする石造物の範囲をできるだけ広くして、汎用性をもたせたつもりである。ひとまず、資料作りという意味では最低限の責任は果たせただろうか。

佐渡金銀山遺跡分布調査の一端を成す報告書として、今後、相川の歴史調査及び各自の興味関心を満たすために活用されれば、幸いである。

山積する課題は、認識しながらも、ここで、筆を置くことにする。

引用・参考文献

- 相川町 1996『第三次 相川町総合開発計画 平成3年度～平成12年度』
- 相川町 2004『佐渡金銀山近代遺化産保存管理計画（その1）業務委託報告書』
- 相川郷土博物館 1961『相川郷土博物館報第2号』
- 相川郷土博物館・立教大学博物館学教室 1969
『相川郷土博物館報第6号 佐渡浜端・夫婦岩洞穴遺跡の調査』
- 相川郷土博物館 1986『金太郎窯発掘調査報告書』
- 相川郷土博物館 1987『開館三十周年記念特別展報告書 路』
- 相川郷土博物館 1992『展示解説カード』
- 県立相川高等学校 1973『相川高校五十年史』
- 町立相川小学校蔵 1889『相川小学校沿革史』
- 相川町史編纂委員会 1973「墓と石造物」『佐渡 相川の歴史 資料集2』
- 相川町史編纂委員会 1978「佐渡一国天領」『佐渡 相川の歴史』
- 相川町史編纂委員会 1995『佐渡相川の歴史 通史編 近・現代』
- 相川町史編纂委員会 2002『佐渡相川郷土史事典』
- 相川町教育委員会 1983『馬場遺跡 新潟県佐渡郡相川町北片辺馬場遺跡発掘調査報告』
- 相川町教育委員会 1985『北片辺城跡 新潟県佐渡郡相川町北片辺 北片辺城跡発掘調査報告』
- 相川町教育委員会 1993『金山の町佐渡相川 伝統的建造物群保存地区保存対策調査報告書』
- 相川町教育委員会 1994『史跡佐渡金山遺跡保存管理計画策定書』
- 相川町企画振興課 1995『相川町HOPE計画』
- 相川町教育委員会 1995『佐渡金山奉行所跡保存整備基本計画』
- 相川町教育委員会 2001 a『相川町埋蔵文化財調査報告第3 佐渡金山遺跡（佐渡奉行所跡）
（陣屋・役所・役宅・御金蔵・寄勝場）』
- 相川町教育委員会 2001 b『相川町埋蔵文化財調査報告第5 佐渡金山遺跡（後藤役所跡）
一般県道白雲台乙羽池相川線大間工区改良工事発掘調査報告』
- 相川町教育委員会 2002 a『相川町埋蔵文化財調査報告書 第6 佐渡金山遺跡（佐渡奉行所跡）』
- 相川町教育委員会 2002 b『相川町埋蔵文化財調査報告書 第4 佐渡金山遺跡（北御役所）』
- 相川町教育委員会 2002 c『相川町の文化財 平成13年 改訂版』
- 相川町教育委員会 2003『佐渡金銀山 間歩分布調査・寺社調査報告書』
- 飯山 弘 1964「相川町米屋町発見のたたき石」『佐渡文化 第1号』
- 磯部欣三 1968「遊女の墓」『いしほとけ』佐渡石仏会
- 今村啓爾 1990「鉾山白からみた中・近世貴金属鉾業の技術系統」
『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』
- 上原真人 1998『歴史発掘11 瓦を読む』講談社
- 大橋康二 1988「日本のこころ63 古伊万里」『別冊 太陽』平凡社
- 大橋康二 1993『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』ニューサイエンス社
- 大橋康二 1994『古伊万里の文様 初期肥前陶磁器を中心に』理工学社
- 岡村道雄 1998『歴史発掘 ①石器の盛衰』講談社
- 萩野由之・山本静古・山本修之助 1978「佐渡碑文集」『佐渡叢書 第十二巻』佐渡叢書刊行会
- 小野田政雄 1986『粟島の板碑文化』粟島浦村教育委員会

- 金沢和夫 1993『図説佐渡島 自然と歴史と文化』p26・27 (財)佐渡博物館
- 堅木宜弘 1998「小木町長者ヶ平遺跡採集の尖頭器」『越佐補遺些第3号』越佐補遺些の会
- 金井透 1993「金銀山の都市相川の成立と展開」『金山の町佐渡相川』相川町教育委員会
- 金沢和夫・小菅徹也・山本 仁 1964「相川町片辺周辺文化財調査報告書」『佐渡文化 第1号』
- 金沢和夫 1966「二見半島考古歴史調査報告第1号 製塩遺跡」『相川郷土博物館報第5号』
- 金沢市 2003『金沢市文化財紀要200 野田山墓地』
- 北村誠一 他 1986『民族文化双書4 佐渡の石臼』未来社
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』
- 教育財団文庫 1901『県有不動産簿』
- 教育財団文庫 1913『相川区裁判所沿革史』
- 教育財団文庫 1951『相川警察署沿革』
- 計良勝範 1968「大久保石見守長安の逆修塔」『いしほとけ 創刊号』佐渡石仏会
- 計良勝範 1969「相川の石仏」『いしほとけ 第3号』佐渡石仏会
- 計良勝範 1968「佐渡の石仏あらまし」『いしほとけ 第2号』佐渡石仏会
- 計良勝範 1978「江戸水替無宿の墓」『いしほとけ 第10号』佐渡石仏会
- 計良勝範 佐渡のお地藏さん 29 (新聞記事)
- 計良勝範 1993『図説佐渡島 自然と歴史と文化』p22 (財)佐渡博物館
- 計良勝範 2002「佐渡島の石工在銘資料」『日本の石仏 第104号』
- 計良勝範 2004「相川歴史講座 佐渡の石仏石塔 ―石に神がやどる―」
- 庚申懇話会 1985『石仏研究ハンドブック』雄山閣出版
- 庚申懇話会 1993『石仏調査ハンドブック』雄山閣出版
- 小菅徹也 1966「二見半島考古歴史調査報告第1号 二見半島における鉱工業」
- 小菅徹也 1995「佐渡の金・銀山」『中世の風景を読む4 日本海交通の展開』新人物往来社
- 小菅徹也 2000「石見銀山と佐渡金銀山」『佐渡歴史民俗叢書1 日本の中の佐渡』両津市郷土博物館
- 小林巖雄 神蔵勝明 1993『図説佐渡島 自然と歴史と文化』p220～231 (財)佐渡博物館
- 斎藤本恭 2001「佐渡金山と奉行所」『金山史研究第2集 平成10年度公開講座の記録』
- 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
- 坂井秀弥 1990「佐渡二見半島送り崎製塩遺跡の土器と炉状遺構」『新潟考古学談話会会報第5号』
- 新潟考古学談話会
- 坂井秀弥 鶴間正昭 春日真実 1991「佐渡の須恵器」『新潟考古第2号』新潟県考古学会
- 坂井友二 2002『金井町のいしぶみ』金井町教育委員会
- 坂詰秀一 1991『図録・歴史考古学入門事典』柏書房
- 佐藤俊策 1993『図説佐渡島 自然と歴史と文化』p14～15 (財)佐渡博物館
- 佐藤俊策 1994「相川・鶴子のやきもの」『第14回 全国天領ゼミナール記録集』金井町教育委員会
- 佐藤利夫 1993「金銀山の都市相川の成立と展開」『金山の町佐渡相川』相川町教育委員会
- 佐渡郡教育会 1935『佐渡年代記』
- 佐和田町文化財保護審議会 1981『佐和田町の石塔類調査 第一集』
- 島根県教育委員会・太田市教育委員会 2002『石見銀山遺跡石造物調査報告書2 石見銀山 龍昌寺跡』
- 島根県教育委員会・太田市教育委員会 2003
- 『石見銀山遺跡石造物調査報告書3 石見銀山 安養寺・大安寺跡・大龍寺跡・奉行代官墓所外』

- 高橋元輔 他 1989『金井町の石仏』金井町教育委員会
- 田中圭一 1964「銀山初期の集落について」『相川郷土博物館報第3号』相川町教育委員会
- 田中圭一 1968「鉱山都市相川の成立と展開」『佐渡相川誌』県立佐渡高等学校
- 田中圭一 1986『佐渡金銀山の史的研究』刀水書房
- 田中圭一 1993『近世商業文化史論 帳箱の中の江戸時代史（下）』刀水書房
- 田中聡 2000「鎌倉時代の佐渡」『佐渡歴史民俗叢書1 日本の中の佐渡』両津市郷土博物館
- 新潟県教育委員会 1996『新潟県埋蔵文化財調査報告書第76集 磐越自動車道関係発掘調査報告書
江内遺跡』
- 新潟県教育委員会 1998『新潟県歴史の道調査報告書第12集 相川街道 松ヶ崎街道』
- 新潟県教育委員会 2001『新潟県埋蔵文化財調査報告書第105集 北陸自動車道
上越市春日・木田地区発掘調査報告書 木田遺跡』
- 新潟県教育委員会 2000『新潟県埋蔵文化財調査報告書第98集 県営ほ場整備事業関連発掘調査報告書
平田遺跡』
- 新潟県教育委員会 2001『新潟県埋蔵文化財調査報告書第107集
日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ 正尺A遺跡』
- 新潟県考古学会 1999『新潟県の考古学』高志書院
- 新潟県石仏の会 2002『越後・佐渡 石仏の里を歩く』高志書院
- 新潟県農地部 1999『土地分類基本調査 佐渡島』
- (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2004『埋文にいがたNo49』
- 中川喜代治・金沢和夫・上林章造 1966「二見半島考古歴史調査報告第1号 古墳と塚」
『相川郷土博物館報第5号』
- 羽生令吉 1998「ト占風習」『図説 佐渡の歴史』郷土出版社
- 羽茂町史編纂委員会 1993「通史編 近世の羽茂」『羽茂町誌 第三巻』
- 羽茂町史編纂委員会 1997『佐渡羽茂の民間信仰 羽茂町誌別冊 堂と講・野の石仏』
- 東大和市史編纂委員会 1997「中世～近世からの伝言」『東大和市史資料編6』
- 藤井三好 1998「テーブルスピーチ/石工の村 一 小泊・椿尾」
『第14回全国天領ゼミナール記録集』金井町教育委員会
- 佛教石造文化財研究所 2001『石造文化財』雄山閣
- 麓三郎 1951『佐渡金銀山史話』三菱金属鉱業株式会社
- 祝勇吉 1981『石仏を中心とした佐渡めぐり』
- 真島俊一 1993「近世の相川鉱山」『金山の町佐渡相川』相川町教育委員会
- 見附市教育委員会 1995『見附市埋蔵文化財調査報告第15 元屋敷遺跡Ⅰ 見附南部地区農業集落排水事業
汚水処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 文部省 1994『文部省告示第73号』
- 山本 仁 1966「二見半島考古歴史調査報告第1号 中世の二見」『相川郷土博物館報第5号』
- 両津市文化財調査審議会 1992『両津市文化財調査報告 第十集 狛犬』

350	349	348	347	346	345	Na
相川鹿伏	相川鹿伏 407	相川鹿伏 407	沢根村	相川下戸村 269 2	相川下戸村 269 2	所在地
春日崎	泊藤山 真言宗 観音寺	泊藤山 真言宗 観音寺	中山旧道	中山旧道	中山旧道	寺社・施設名
春日崎 灯明台	流人 藤原公連 墓	流人 藤原実起 墓	中山旧道 船手役 加藤一族 墓	中山旧道 名号塔	中山旧道 題目願文碑	固有な名
石灯籠	板石形石塔	板石形石塔	五輪塔	自然石石塔	角柱形石塔	分類
寛永五年 (1628)	貞享元年 (1684)	貞享元年 (1684)	元和四年 (1618)		天明八年 (1788)	記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	石材
416 × 35 × 35	124 × 27 × 12	131 × 30 × 12	151 × 35 × 35	176 × 137 ×	226 × 36 × 36	寸法
風化激しい	風化激しい	風化激しい 〔塔身〕 〔正面〕 □□□□□□氏墓		〔塔身〕 〔正面〕 〔台石〕 〔正面〕 世話人 下戸村 羽田村 馬町 果物屋中	〔塔身〕 〔右〕 〔正面〕 〔台石〕 〔左〕 〔裏〕 〔正面〕 〔左〕 〔裏〕 〔台石〕 予州□□人助 願主□□小倉住人 諸同住人□□ 諸国□□参□□豎立 改崇廿有一人当所世話人 平岡喜市 鈴木宗兵衛 金子安次郎 森川仁助 奥□与助	銘文

344	343	342	341	340	No
相川下戸村 522	相川下戸村 522	相川下戸村 221 1	相川下戸村 221 1	相川下戸村 221 5	所在地
中山旧道	中山旧道	観音堂	観音堂	観音堂	寺社・施設名
中山旧道 徳本上人六字名号塔	中山旧道 庚申塔	観音堂 中山の念仏車	観音堂 中山の六地藏	観音堂 十一面観音	固有名
自然石石塔	庚申塔	念仏車	石神・石仏 石祠	石神・石仏	分類
文政三年 (1820)	天保三年 (1832)	享和元年 (1801)	宝暦十一年 (1761)	宝暦十一年 (1761)	記年銘
凝灰岩	凝灰岩	安山岩		安山岩	石材
331×82×48	160×60	184×30×23			寸法
<div>左</div> <div>裏</div> <div>台石</div> <div>塔身</div> <div>文政三 徳譽浄源</div> <div>星四月 仏生日 造立之</div>	<div>正</div> <div>裏</div> <div>塔身</div> <div>庚申塔 天保三 十一月 大願主 京寛</div> <div>南無阿 彌陀仏 徳本 花押</div>	<div>正</div> <div>左</div> <div>右</div> <div>塔身</div> <div>享和元 三万靈 願主 立山</div> <div>奉建立 供養六 地藏尊 上来意 世者為 志面々 現当二 世</div>	<div>正</div> <div>左柱</div> <div>右柱</div> <div>種字</div> <div>晨朝入 諸地獄 合離若 六地藏 建立之 意趣為 度衆生 今世後 世能引 導</div> <div>宝暦十 一年辛 巳歲沢 根村曼 荼羅 未年死 罪流罪 恕者有 縁無縁 法界萬 靈 仏 果菩提</div> <div>八月吉 祥日 願 主甚可 同即心</div>	<div>正</div> <div>台石</div> <div>海士町中 世話人</div>	銘文

339	338	337	336	335	334	333	332	331	No
相川下戸村 132 3	相川下戸村 132 3	相川下戸村 132 3	相川下戸村 132 3	相川下戸村 132 3	相川下戸村 132 3	相川下戸村 132 3	相川下戸村 363	相川下戸村 415	所在地
熊野神社	熊野神社	熊野神社	熊野神社	熊野神社	熊野神社	熊野神社	北野神社	善知鳥神社	寺社・施設名
熊野神社 手洗鉢	熊野神社 旗棹の台石	熊野神社 石灯籠	熊野神社 石塔	熊野神社 庚申塔	熊野神社 青面金剛塔	熊野神社 狛犬	相川下戸村 北野神社 百萬遍供養塔	善知鳥神社 手洗鉢	固有名
手洗鉢	旗棹の台石	石灯籠	角柱形石塔	庚申塔	石神・石仏	狛犬	分類不能	手洗鉢	分類
		弘化五年 (1848)			文政元年 (1818)		天保七年 (1836)	元禄四年 (1691)	記年銘
安山岩	凝灰岩	安山岩	安山岩		凝灰岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	石材
62 × 108 × 75	70 × 80 × 20	76 × 20 × 20	45 × 20 × 20	105 × 60 × 20	136 × 27 × 26	5250 × 4345 × 7254	128 × 68 × 56	72 × 120 × 80	寸法
(正面) 奉獻 左右裏は確認できない		(左)(正面) 卒 御神灯 弘化五年申三月	(正面) 塔身 奉 御米蔵 人足仲間 (左) 六十二人	(正面) 塔身 庚申塔	(左)(正面)(右) 塔身 文政元寅天 種子庚申青面金剛 七月二十四日 (左) (正面) (右) 台石 高橋庄兵衛 伊藤金四郎 藤井長兵衛 田畑半左衛門 渡辺次郎兵衛 金井権四郎 金井権四郎 畑六次郎 近藤米次郎		(正面) 塔身 天保七丙 中年錢座講中 光明神咒一百萬遍供養塔 □月大吉祥日 世話人 茂市郎	(正面) 元禄四曆霜月吉祥日 施主 相川住 佐藤治右衛門	銘文

330	329	328	327	326	325	No.
相川下戸村 415	相川下戸村 415	相川海士町 445	相川海士町 445	相川下戸町 59	相川羽田村 484 1	所在地
善知鳥神社	善知鳥神社	大日堂	大日堂	幅野家	コレラ塚	寺社・施設名
善知鳥神社 石垣	善知鳥神社 狛犬	海士町大日堂 八字名号塔	海士町大日堂 馬頭観音	相川下戸町 石堀	コレラ死亡者 供養塔	固有名
石垣	狛犬	角柱形石塔	石神・石仏	石堀	石祠	分類
		文化三年 (1806)			明治十六年 (1883)	記年銘
	安山岩	凝灰岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	石材
	178(呬) ×80 ×30	144 ×32 ×15	60 ×25 ×10		196 ×195 ×86	寸法
	千 当山……	<div>阿一白石</div> <div>(右)</div> <div>奉獻狛犬</div> <div>一雙使当</div> <div>国羽茂群</div> <div>小泊石工</div> <div>以造之</div> <div>(左)</div> <div>呬一白石</div> <div>四月</div> <div>佐州</div> <div>……</div>	<div>塔身</div> <div>(右)</div> <div>南無阿弥陀仏</div> <div>(正面)</div> <div>南無大師遍照金剛</div> <div>文化三年</div> <div>寅年</div> <div>夷町</div> <div>与左衛門</div> <div>世話人</div> <div>□□□□</div>		<div>右柱</div> <div>(正面)</div> <div>明治十六歲癸亥建之</div> <div>左柱</div> <div>(正面)</div> <div>施主 相川三町目 松栄治作</div> <div>供養塔塔身</div> <div>(正面)</div> <div>南無阿弥陀仏</div> <div>虎列刺病死亡</div> <div>三百七十三人各壺</div> <div>南無妙法蓮華經</div> <div>供養塔</div>	銘文

324	323	322	321	320	319	No.
相川四町目8	相川四町目8	相川五郎左衛門町12-2	相川五郎左衛門町28	相川五郎左衛門町28	相川五郎左衛門町28	所在地
天台宗 婦命山 彈誓寺	天台宗 婦命山 彈誓寺	浄土宗 願玉山 来迎寺跡	金刀比羅神社	金刀比羅神社	金刀比羅神社	寺社・施設名
彈誓寺 笠塔婆	佐渡奉行 角南主膳国寛墓	地役人 原田久通墓	金刀比羅神社 手洗鉢	金刀比羅神社 敷石	金刀比羅神社 石灯籠	固有な名
笠塔婆	笠塔婆	角柱形石塔	手洗鉢	敷石	石灯籠	分類
	宝暦五年 (1755)	安政三年 (1856)	文久三年 (1863)		弘化三年 (1846)	記年銘
安山岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	安山岩他	安山岩	石材
127 × 34 × 30	158 × 42 × 42	67 × 34 × 25	68 × 105 × 76	2614 × 235	513	寸法
(正面) 塔身 ……靈位	風化が激しく判読できない	(左) 塔身 (右) 安政三丙辰五月九日 (正面) 法性院達譽慧聲久通居士 音聲院法譽慧壽妙心大姉 慶応三年十卯二月八日	(正面) 文久三季癸亥 奉納 市町 若者中		(正面) 卒 (左) 常夜塔 弘化三丙午年十月吉日 当山十□□□建立 (正面) 基壇 寄附 廻船持中 金子大間権工門 山田從門 石見忠吉 菊池忠吉 高野谷助 野口栄吉 磯西茂吉 小林右工門 高野善平 土岡源七 風岡源七 賀庄五郎	銘文

318	317	316	315	314	No.
相川五郎左衛門町28	相川五郎左衛門町3-2	相川五郎左衛門町3-2	相川五郎左衛門町3-2	相川五郎左衛門町3-2	所在地
金刀比羅神社	日蓮宗 寶聚山 玉泉寺	日蓮宗 寶聚山 玉泉寺	日蓮宗 寶聚山 玉泉寺	日蓮宗 寶聚山 玉泉寺	寺社・施設名
金刀比羅神社 狛犬	地役人 久保家 墓	□真院妙久 墓	地役人 高田六郎兵衛 墓	住職 長遠院日実 墓	固有 有名
狛犬	五輪塔	五輪塔	五輪塔	板石形石塔	分類
	寛文三年 (1663)	元禄八年 (1695)	寛文二年 (1662)	寛永十年 (1633)	記年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
110(呬)×65×26 114(阿)×66×26	153×41×41	119×33×33	131×43×43	78×35×12	寸法
	(正面) 水輪 (正面) 空輪 華 妙 (左) (正面) 地輪 (正面) 風輪 經 法 施主 寛文三 癸卯年 久保三太夫 (正面) 火輪 蓮	(正面) 水輪 (正面) 空輪 華 妙 (左) (正面) 地輪 (正面) 風輪 經 法 施主 元禄八 乙亥曆 川島仁平 七月十三日 (正面) 火輪 蓮	(正面) 水輪 (正面) 空輪 華 妙 (正面) 地輪 (正面) 風輪 經 法 (正面) 火輪 蓮	(正面) 塔身 長 風化が激しく判読困難	銘文

313	312	311	310	309	308	No
相川一丁目 裏町512	相川江戸沢町 114	相川江戸沢町 114	相川江戸沢町 114	相川江戸沢町 114	相川江戸沢町 114	所在地
相川幼稚園	浄土宗 長栄山 大安寺	浄土宗 長栄山 大安寺	浄土宗 長栄山 大安寺	浄土宗 長栄山 大安寺	浄土宗 長栄山 大安寺	寺社・施設名
尚園会 顕彰碑	代官 宗岡佐渡寄進 名号石塔	浄永 石塔	大安寺 無縫塔	地役人 田島四郎右衛門 五輪塔	棟梁 水田与左衛門 五輪塔	固有名
角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	無縫塔	五輪塔	五輪塔	分類
	慶長四年 (1599)	慶長十六年 (1611)	慶長十六年 (1611)	正保三年 (1646)	明暦四年 (1658)	記年銘
	凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩	安山岩	安山岩	石材
134 × 61 × 30	256 × 31 × 31	123 × 22 × 21	386 × 33 × 33	90 × 31 × 31	181 × 38 × 38	寸法
<div>塔身</div> <div>(正面)</div> 白鳳上人相川観音寺前住善点茶及插花 渡辺欽斎翁善書畑野人 安藤世彦翁夷里諏訪舊祠官善書及謡舞 海老名義明翁善倭歌及連歌羽茂人 土屋松溪翁大野人好学善書 名畑喜叟石田人善謡及舞 中村春彦翁善倭歌湊里人 氏江元彦翁羽茂人以刀工著善棋入品初級 山本雪亭翁新町人善書及棋々則入品二級 広橋蓬翁小木人善書 飯島梧翁相川人善謡及舞 羽生致孝翁善倭歌羽茂人	<div>塔身</div> <div>(正面)</div> 種子 南無阿弥陀仏 慶長十四年 西暦今月 寄進 宗岡佐渡守	風化が激しく判読できない <div>塔身</div> <div>(正面)</div> 開山歴代上人	風化が激しく判読できない <div>塔身</div> <div>(正面)</div> 開山歴代上人	風化が激しく判読できない <div>塔身</div> <div>(正面)</div> 開山歴代上人	<div>空輪</div> <div>(正面)</div> 種子 <div>風輪</div> <div>(正面)</div> 種子 <div>火輪</div> <div>(正面)</div> 種子 <div>水輪</div> <div>(正面)</div> 種子 <div>地輪</div> <div>(正面)</div> 種子 <div>(左)</div> 俗名 <input type="checkbox"/> 法界 <input type="checkbox"/> 六月十五日 水田与左衛門 <input type="checkbox"/> 南無阿陀 <input type="checkbox"/>	銘文

No	所在地	寺社・施設名	固有名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
307	相川江戸沢町 114	浄土宗 長栄山 大安寺	国指定文化財 (記念物 史跡) 佐渡金山遺跡 河村彦左衛門 供養塔	五輪塔	慶長十三年 (1608)	安山岩	304 × 91 × 91	(左) (正面) 種字 廐以右志者為俗名河村彦左衛門 逝去広岳院殿清口浄栄大禪定 門頓証大菩提也 千時慶長十三戊申稔今月施主敬白 □□□□ 小泊村 大工 惣左衛門
306	相川江戸沢町 114	浄土宗 長栄山 大安寺	国指定文化財 (記念物 史跡) 佐渡金山遺跡 佐渡奉行 大久保長安 逆修塔	宝篋印塔	慶長十六年 (1611)	凝灰岩 安山岩	150 × 42 × 42	(基礎) (正面) 逆修 大久保石見守殿 法廣院殿一の□□ 于時慶長拾六亥曆
305	相川江戸沢町 114	浄土宗 長栄山 大安寺	山師 (推定) 大坂甚内 墓	宝篋印塔		安山岩	189 × 30 × 30	
304	相川江戸沢町 114	浄土宗 長栄山 大安寺	地役人 井上家 墓	笠塔婆		安山岩	95 × 27 × 23	風化が激しく判読できない
303	相川江戸沢町 114	浄土宗 長栄山 大安寺	相川音頭作者 中川赤水 墓	角柱形石塔	弘化四年 (1847)	安山岩	144 × 26 × 21	(右) 弘化四丁 十二月二十五日 行年 六十五 六代目 中川赤水墓 (正面) 順我院 □□□□ 居士 天保 □□□□ 大姉 (左) 天保 □□□□ 十二月十九日 行年 六十 □□□□ 中川 □□□□
302	相川江戸沢町 114	浄土宗 長栄山 大安寺	佐渡奉行 岡松八右衛門久稠 墓	角柱形石塔	文化十年 (1813)	安山岩	227 × 42 × 44	(塔身) (右) 文化十癸酉年二月七日 (正面) ○岡松院殿本譽久稠覚明大居士 (左) 岡松氏

301	300	299	298	297	296	295	294	293	No
相川江戸沢町 14	相川江戸沢町 14	相川江戸沢町 14	相川江戸沢町 182	相川江戸沢町 182	相川江戸沢町 182	相川江戸沢町 182	相川江戸沢町 182	相川江戸沢町 182	所在地
浄土宗 長栄山 大安寺	浄土宗 長栄山 大安寺	浄土宗 長栄山 大安寺	塩竈神社	塩竈神社	塩竈神社	塩竈神社	塩竈神社	塩竈神社	寺社・施設名
商人 佐渡屋六兵衛 墓	大安寺 浄金妙福地藏	大安寺 聖観世音菩薩	塩竈神社 手洗鉢	塩竈神社 敷石	塩竈神社 石灯籠	塩竈神社 石灯籠	塩竈神社 鳥居	蓮華院 墓	固有名
角柱形石塔	石神・石仏	石神・石仏	手洗鉢	敷石	石灯籠	石灯籠	鳥居	笠塔婆	分類
			天保十二年 (1841)		文政 (1818) (1830)	天保十三年 (1842)	天保十一年 (1840)	寛文二年 (1662)	記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩他	安山岩	凝灰岩	凝灰岩	安山岩	石材
160 × 35 × 22	158 × 68 × 42	73 × 22 × 38	56 × 91 × 55	3362 × 154	343 × 28 × 28	194 × 34 × 34	300 × 380 × 24	86 × 32 × 12	寸法
(正面) 塔身 蓮馨 □□□□ □□二年	(正面) 浄金禪定門 妙福禪定尼		(左)(右)(正面) 天保十二丑年五月吉祥日 嗽盥 羽田町 老町目 若者中		塔身風化が激しく判読できない	(左)(右)(正面)(裏) 竿 □□兵衛 大□与四平 寺田□治 一町目浜町 氏子中 天保十三□□ 石工 宇兵衛	(正面) 左柱 右柱 塩竈宮 氏子中 天保十一 庚子年五月吉日 下戸村石工 伝之助	(正面) 塔身 寛文二壬寅年 蓮華院玉譽寶善大信士靈 □□□□	銘文

292	291	290	289	288	287	286	285	284	No
相川江戸沢町 1812	相川江戸沢町 1812	相川江戸沢町 1812	相川江戸沢町	相川羽田町 716	相川塩屋町 26	相川長坂町 3411	相川長坂町 3411	相川中寺町	所在地
塩竈神社	塩竈神社	塩竈神社		浄土真宗 普照山 広永寺	佐渡市役所 相川支所	阿弥陀堂	阿弥陀堂	浄土真宗 吹雪山 長明寺	寺社・施設名
塩竈神社 庚申塔	塩竈神社 庚申講中碑	塩竈神社 狛犬	相川江戸沢町 石橋	修教館教授 丸岡南陔 墓	相川町道路元標 (もとは長坂下の交差点にあった)	阿弥陀堂 花生	阿弥陀堂 阿弥陀如来	山師 下田清左衛門 墓 (裏山から本堂前に移築、平成16年度)	固有 有名
庚申塔	庚申塔	狛犬	石橋	角柱形石塔	角柱型石塔	花生	石神・石仏	宝篋印塔	分類
	文政六年 (1823)			明治十九年 (1886)				寛永八年 (1631)	記 年 銘
凝灰岩	安山岩	安山岩	安山岩 頁岩他	安山岩	花崗岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
80 × 43 × 31	105 × 106 × 72	49(阿) × 45 × 38	300 × 275 × 180	152	64 × 25 × 25	28 × 17 × 17	142 × 96 × 68	209 × 28 × 28	寸 法
(正面) 塔身 種 字 庚申	(正面) 塔身 文政六癸未年 八月吉日 庚申講中 一丁目中山善三郎 羽田町和木甚之助 足立弥兵衛 山崎吉次 大工町佐藤福四郎 町左衛門			(正面) 塔身 南陔先生之墓 配川島氏之墓	(正面) 塔身 相川町道路元標			(裏) 基礎 (正面) 基礎 寛永八年四月二十四日 釋為田浄念靈施主 敬白 俗名 加州住 下田清左衛門	銘 文

283	282	281	280	No.
相川南沢町 145	相川南沢町 145	相川下寺町 21 1 2	相川下寺町 21 1 2	所在地
浄土宗 金龍山 広源寺	浄土宗 金龍山 広源寺	日蓮宗 妙法山 蓮長寺	日蓮宗 妙法山 蓮長寺	寺社・施設名
広源寺 手洗鉢	広源寺 四万日念仏講地藏	地役人 下山平左衛門 五輪塔	地役人 真砂弥右衛門 五輪塔	固有な名
手洗鉢	石神・石仏	五輪塔	五輪塔	分類
			承応元年 (1652)	記年銘
凝灰岩	安山岩	凝灰岩	凝灰岩	石材
21 × 50	154 × 52	189 × 36 × 36	137 × 33 × 33	寸法
	(裏) (左) (正面) (右) 白石	(正面) 水輪 (正面) 空輪	(正面) 水輪 (正面) 空輪	銘文
	石工 細工人 末蔵	華	華	
	中講仏念 人上譽浄	妙	妙	
	夜行念仏 大先達 世話人 佐藤理三郎	(正面) 地輪 (正面) 風輪	(裏) (正面) 地輪 (正面) 風輪	
	(左) 大工町	法 (正面) 蓮	法 (正面) 蓮	
	萬平母 高田吾吉母 高田勝之助母 富田長五郎母 佐藤理三郎母 叩八母 おたま おた津	經 □□法院□□□□ 三月九日	經 智徳院□□□□ 五月 智性院妙□□□□ 承応元年五月三日 施主 真砂弥右衛門 敬白	
	次助町 持田磯右衛門 中村弥平母 おしむ おす□			
	上相川大吉母 山之内お乃ふ おもむ			
	鳥越 石権ノ女中衆			

No.	所在地	寺社・施設名	固有な名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
279	相川下寺町19	日蓮宗 妙法山 蓮長寺	地役人 真砂弥右衛門 墓	板石形石塔	延宝二年 (1674)	安山岩	113 × 34 × 9	〔塔身〕 〔右〕 〔正面〕 南無妙法蓮華經 延宝二年寅十二月二日 □□院蓮乗□□ 妙性院日清
278	相川下寺町13	日蓮宗 覚鷲山 妙輪寺跡	地役人 山西篤之進 墓	板石形石塔	元禄五年 (1692)	安山岩	116 × 36 × 13	〔塔身〕 〔正面〕 南無妙法蓮華經 元禄五年壬申正月二十六日 速得院蓮成日道靈二代目 成就院妙身日得靈二代目妻 元禄十六癸未三月二十八日
277	相川下寺町13	日蓮宗 覚鷲山 妙輪寺跡	地役人 金光十兵衛武重 墓	板石形石塔	元禄八年 (1695)	安山岩	84 × 30 × 13	〔塔身〕 〔右〕 〔正面〕 施主 金光十兵衛 南無妙法蓮華經 定明院道遊日意
276	相川南沢町149-1	日蓮宗 覚鷲山 妙輪寺跡	地役人 前田浅之丞 墓	板石形石塔	元禄元年 (1688)	安山岩	162 × 28 × 12	〔塔身〕 〔正面〕 南無妙法蓮華經 元禄元年 十月朔日 浄性院妙意日恵
275	相川下寺町13	日蓮宗 覚鷲山 妙輪寺跡	地役人 藤沢虎之助 墓	板石形石塔	貞享二年 (1685)	安山岩	109 × 30 × 16	〔塔身〕 〔正面〕 南無妙法蓮華經 貞享二年 四月廿九日 浄光院妙祐靈位
274	相川下寺町1-2	日蓮宗 長光山 妙円寺	妙円寺 石段	石段		安山岩		
273	相川下寺町1-2	日蓮宗 長光山 妙円寺	川上伊右衛門 墓	板石形石塔	元禄七年 (1694)	安山岩	74 × 26 × 11	〔塔身〕 〔正面〕 妙法 元禄七年戊辰 清流院妙潤日正 七月廿二日

272	271	270	269	268	267	No
相川下寺町 6	相川下寺町 6	相川下寺町 6	相川下寺町 6	相川下寺町 6	相川下寺町 6	所在地
日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	寺社・施設名
本典寺 手洗鉢	本典寺 万部塔	本典寺 法界万霊塔 山号改め栄光山となる 「寺社帳」より	商人 山田吉左衛門 墓	佐渡奉行 荻原重秀 供養塔	地役人 野田又左衛門 墓	固有 有名
手洗鉢	角柱形石塔	角柱形石塔	五輪塔	五輪塔	五輪塔	分類
寛永五年 (1628)	天保三年 (1832)	文政元年 (1818)	寛永十八年 (1641)	正徳三年 (1713)	寛永四年 (1627)	記年銘
安山岩	凝灰岩	凝灰岩	安山岩	安山岩	凝灰岩	石材
55× 105× 60	207× 44× 21	210× 42× 21	152× 45× 45	191× 50× 50	199× 45× 45	寸法
(正面) 寛永五辰年七月造主山田吉左衛門	(右) 塔身 天保三年 壬辰八月如意日 普光山 日朋代 (正面) 南無妙法蓮華經萬部塔 (左) 甲子講中	(右) 塔身 文政元戌季 当山現住日明 花押 (正面) 南無妙法蓮華經 普光山 法界萬霊 本典寺 (左) 六月吉祥日 山田氏 本間氏 田中氏	風化が激しく判読できない	(正面) 水輪 華 (右) 地輪 (正面) 空輪 妙 (正面) 風輪 法 (正面) 火輪 蓮 荻原氏墓所 正徳三癸巳九月二十六日 至誠院重玄日秀居士	(正面) 水輪 華 (右) 地輪 (正面) 空輪 妙 (正面) 風輪 法 (正面) 火輪 蓮 野田又左衛門 寛永四〇十二月廿三日 水月宗松靈	銘文

266	265	264	263	262	261	260	No
相川下寺町 6	相川下寺町 6	相川下寺町 6	相川下寺町 5 1 3	相川下寺町 6	相川下寺町 21 1 2	相川下寺町 13	所在地
日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 栄光山 本典寺	日蓮宗 長性山 本敬寺跡	日蓮宗 栄久山 法輪寺	寺社・施設名
地役人 野田又左衛門室 墓	佐渡奉行 萩原源八郎乗秀 墓	地役人 近藤庄兵衛室 墓	金銀改所役人 浅香伊右衛門 墓	商人 山田吉左衛門 開基塔	地役人 丸田金右衛門 墓	法輪寺 江戸小屋場中 寄進 石灯籠	固有名
笠塔婆	笠塔婆	笠塔婆	笠塔婆	笠塔婆	五輪塔	石灯籠	分類
享保七年 (1722)	享保二十年 (1735)	元禄十三年 (1700)	寛文三年 (1663)	寛永三年 (1626)	明暦二年 (1656)	天保十四年 (1843)	記年銘
凝灰岩	凝灰岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	石材
191 × 40 × 40	291 × 40 × 40	145 × 25 × 12	168 × 32 × 21	189 × 48 × 26	156 × 44 × 44	372 × 57 × 57	寸法
(左) (正面) 塔身 一 本真院妙心 野田氏妻女塔	(左) (正面) 塔身 享保二十年四月廿五日 妙法覚院哲岸日到居士 萩原源八郎乗秀行歳四十	(正面) 塔身 元禄十三年四月 元真如院妙月日耀靈 四月十七日	(正面) 塔身 南無妙法蓮華經 寛文三年四月五日 本種院具日靈 顯寿院妙遠日長大姉 元禄五年六月拾日	(正面) 塔身 寛永三年七月十三日 南無妙法蓮華經 本典寺 廟所	(正面) 水輪 華 (正面) 地輪 蓮樹院日善 明暦二年三月九日 元祖 金右衛門	(左) (正面) 竿 維時天保十四年十一月当山二十一世 常夜燈 江戸小屋場中 世話人 八蔵 日蓮代建之	銘文

259	258	257	256	255	254	253	No
相川下寺町 13	相川下寺町 13	相川下寺町 13	相川下寺町 13	相川下寺町 17	相川下寺町 13	相川下寺町 4	所在地
日蓮宗 栄久山 法輪寺	日蓮宗 栄久山 法輪寺	日蓮宗 栄久山 法輪寺	日蓮宗 栄久山 法輪寺	日蓮宗 栄久山 法輪寺	日蓮宗 栄久山 法輪寺	真言宗 広龍山 法然寺	寺社・施設名
地役人 万歳由道 墓	山師 味方与次右衛門 墓	蓮心院 墓	地役人 山中長右衛門 墓	地役人 野原文仙 墓	棟梁 茂三衛門夫妻 墓	法然寺 水槽	固有 有名
角柱形石塔	五輪塔	笠塔婆	笠塔婆	角柱形石塔	角柱形石塔	水槽	分類
安政三年 (1856)	元和四年 (1618)	元禄六年 (1693)	元禄二年 (1689)	嘉永三年 (1850)	安永二年 (1773)		記年銘
凝灰岩	安山岩	安山岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	安山岩	石材
114 × 38 × 38	234 × 61 × 61	237 × 40 × 40	167 × 22 × 21	139 × 43 × 34	90 × 21 × 15	62 × 88 × 65	寸法
(裏) (左) (正面) (右) 塔身 廣観院由道日誠居士 誠心院妙道日観大姉 東所先生 廣観院安政三丙辰年九月廿四日 誠心院明治四十三年十二月九日 万歳子行墓	(正面) 水輪 (空輪) 華 妙 (正面) 風輪 (裏) (正面) 地輪 石工 経 元和四〇〇〇十二月 滋文常 佐	(右) 塔身 元禄六癸酉八月十三日 (正面) 蓮心院妙縁日回信女	(右) 塔身 元禄二年巳 法真放光院蓮春日明霊位 (左) (正面) 三月二十五日	(右) 塔身 嘉永三年庚戌八月朔日 (裏) (正面) 文仙君之墓 霞庵 草まくら見果ぬ月をなごりか南	(正面) 塔身 信受院了達信士 夏月院妙好信女 安永二癸巳年六月六日 長坂町 茂三衛門	(正面) (裏) (左) 奉納 門主心願成就 施主 柴町 能登屋 不明	銘文

No	所在地	寺社・施設名	固有な名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
252	相川下寺町 4-1-4	浄土宗 法然寺	法然寺 手洗鉢	手洗鉢	文政八年 (1825)	凝灰岩	88×90×90	(裏) (正面) 台座 講中 文政八月初冬 忠譽代 寄立
251	相川下寺町 4-1-4	浄土宗 法然寺	法然寺 石灯籠 一对	石灯籠		安山岩	157×34×34 154×35×35	(正面) 竿 石灯籠
250	相川下寺町 4-1-4	浄土宗 法然寺	医師 長谷川元良夫妻 墓	自然石石塔	明治29年 (1896)	凝灰岩	127×59×53	(正面) 塔身 長谷川元良 配 佐藤氏 墓
249	相川下寺町 7-1-2	浄土宗 法然寺	地役人 田中從太郎 (葵園) 墓	自然石石塔	弘化二年 (1845)	凝灰岩	143×61×29	(正面) 塔身 弘道先生墓
248	相川下寺町 4-1-4	浄土宗 法然寺	雪峯道心禪定 一石五輪塔	一石五輪塔		安山岩	117×15×15	(二面) (二面) (二面) 地輪 雪峯道心禪定 三身同□□ 南無阿弥陀仏
247	相川下寺町 4-1-4	浄土宗 法然寺	地役人 大村弥右衛門以貞 (空・風輪欠落) 墓	五輪塔	宝暦十年 (1760)	凝灰岩	115×44×44	(右) (正面) 地輪 種字 宝暦十年六月廿五日 淵譽慈光院無□居士
246	相川下寺町 4-1-4	浄土宗 法然寺	地役人 辻守遊 墓	五輪塔	享保九年 (1724)	凝灰岩	148×46×46	(正面) 水輪 種字 享保九年 一幽院三譽露元居士 辻守遊墓所世寿八十六歳逝
								(正面) 空輪 種字 (正面) 風輪 種字 (正面) 火輪 種字

245	244	243	242	241	240	No
相川下寺町 4 4	相川下寺町 4 4	相川下寺町 4 4	相川下寺町 4 4	相川下寺町	相川下寺町 4	所在地
浄土宗 法然寺 広龍山	浄土宗 法然寺 広龍山	浄土宗 法然寺 広龍山	浄土宗 法然寺 広龍山	浄土宗 法然寺 広龍山	浄土宗 法然寺 広龍山	寺社・施設名
地役人 鳥井嘉左衛門 墓	佐渡奉行 伊丹播磨守康勝 供養塔	地役人 田中六兵衛 墓	伝山師 大坂庄右衛門 墓	陶工 黒沢金太郎 墓	地役人 蔵田茂樹 墓	固有名
五輪塔	五輪塔	五輪塔	笠塔婆	角柱形石塔	板石形石塔	分類
元禄二年 (1689)	承応二年 (1653)	正保三年 (1646)	正徳二年 (1712)	天保十二年 (1841)	嘉永六年 (1853)	記年銘
安山岩	凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩	安山岩	石材
148 × 38 × 38	295 × 80 × 80	159 × 46 × 46	172 × 36 × 30	133 × 26 × 24	146 × 33 × 14	寸法
<div>水輪</div> <div>空輪</div> <div>風輪</div> <div>火輪</div> <div>地輪</div> (正面) 種字 (正面) 種字 (正面) 種字 (正面) 種字 元禄巳天十二月十二日 了源院覺譽貞閑大姉	<div>水輪</div> <div>空輪</div> <div>風輪</div> <div>火輪</div> <div>地輪</div> (正面) 種字 (正面) 種字 (正面) 種字 (正面) 種字 承応二〇六月三日 長巳院蓮譽順斎道哲居士	<div>水輪</div> <div>空輪</div> <div>風輪</div> <div>火輪</div> <div>地輪</div> (正面) 種字 (正面) 種字 (正面) 種字 (正面) 種字 正保三戊七月十七日 念譽□本大信士	<div>塔身</div> (左) (右) (正面) (背面) 正徳二壬辰年正月十四日 圓譽善應信士 元禄六癸酉年十月廿六日	<div>塔身</div> (左) (右) (正面) (背面) 天保十二丑年正月廿六日 專蓮社行譽求道西堂 黒沢氏	<div>塔身</div> (左) (右) (正面) (背面) 嘉永六癸丑年八月廿日 忠諒院慎譽大道居士 蔵田氏 諒清院真譽妙道大姉 明治三庚午年八月廿八日	銘文

239	238	237	236	No.
相川下寺町4	相川下寺町4	相川下寺町4	相川下寺町4	所在地
浄土宗 広龍山 法然寺	浄土宗 広龍山 法然寺	浄土宗 広龍山 法然寺	浄土宗 広龍山 法然寺	寺社・施設名
佐渡奉行 大熊善太郎喜住墓	地役人 松木八郎右衛門墓	法然寺 地藏菩薩	法然寺 阿弥陀如来	固有な名
角柱形石塔	板石形石塔	石神・石仏	石神・石仏	分類
嘉永六年 (1853)	貞享四年 (1687)	天明三年 (1783)	文政八年 (1825)	記年銘
凝灰岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
225 × 44 × 44	95 × 30 × 22	163 × 25 × 18	155 × 38 × 29	寸法
<div>塔身</div> <div>追号 大喜院殿弘誓翁喜住大居士 大熊善太郎藤原喜住之墓 嘉永六年 癸丑年二月廿日</div>	<div>塔身</div> <div>種子 貞享四年 久誓松宅居士靈位 正月十九日</div>	<div>白石</div> <div>明誓結月 飲譽喜相 豊譽妙心 善譽妙心 日本廻国</div> <div>判読できず 天明三〇〇〇 供養導師 八月〇〇日</div>	<div>白石</div> <div>常念仏廻向 千日修行 千本塔婆 萬人講</div> <div>護念經一千部誦誦 黃譽上人 四十八夜 供養塔 別時念仏 誠譽上人 六時禮誦石偈書 念仏億百萬遍 護念經一萬部 三界萬靈 恭放禮拜十萬 施餞鬼一千座 專持名号以 從中無 八世忠譽上人塔 〇〇〇福徳因縁心得往生者 文政八年酉深秋從合三 諸上人 芬陀利上人結衆等 俱会一点 靈口冬朔日結願満足</div> <div>千貫 田地 寄附</div>	銘文

235	234	233	No.
相川下寺町4	相川下寺町4	相川下寺町4	所在地
浄土宗 法然寺 広龍山	浄土宗 法然寺 広龍山	浄土宗 法然寺 広龍山	寺社・施設名
法然寺 聖観音菩薩	法然寺 地藏菩薩	法然寺 千日念仏地藏	固有な名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
天明三年 (1783)	文政八年 (1825)	寛永十四年 (1637)	記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	石材
165 × 25 × 19	213 × 45 × 27	280 × 65 × 47	寸法
<div><div>(裏)</div><div>(正面)</div><div>白石</div></div> <div>天明三 供養導師</div> <div>日本廻国</div> <div>(左)</div> <div>(右)</div> <div>勝譽成願 開譽法水 乘譽願心 妙譽乘光 拾譽妙栄</div>	<div><div>(裏)</div><div>(左)</div><div>(右)</div><div>(正面)</div><div>白石</div></div> <div>講人萬 婆塔本千 行修日千 向廻仏念常</div> <div>(裏)</div> <div>(左)</div> <div>(右)</div> <div>(正面)</div> <div>念仏信百萬遍 誦念仏一萬部 三界萬靈 益禮十萬 施餞鬼一千經 浄土三部大妙 一字三禮石 四十八夜 念仏供養塔 地蔵大士一年三 三萬鉢施離草得榮 毎日是朝入於諸定 浄土三部經 当山代々上人 一百部誦誦 遊化道授苦興 文政八西深秋從会三 回生群品一味菩 忠譽上人 乃至法界平等 至初冬塑日</div>	<div><div>(左)</div><div>(正面)</div><div>白石</div></div> <div>寛永十四年 石切 法円寺 佐州鮎川寺町 種字 住人 千日成就 本國越前府中 道構</div>	

No.	所在地	寺社・施設名	固有名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
232	相川下寺町18	浄土宗 定善寺跡	地役人 永井次芳 墓	笠塔婆	宝暦十四年 (1764)	安山岩	195 × 33.5 × 24	(左) 塔身 (正面) 迎□院天明七丁未歲三月二十四日 諦雄院天譽真榮□□居士 宝暦十四年二月十四日
231	相川下寺町14	真言宗 医王山 真如院	遊女 ヲカルの墓	笠塔婆	明和八年 (1771)	安山岩	96 × 21 × 18	(左) 塔身 (正面) 明和八年辛卯天 種子□光妙寒信女 十二月六日 水金町 ヲカル
230-3	相川下寺町12	曹洞宗 昌安寺跡	不應妙法信女 墓	笠塔婆	延享元年 (1744)	安山岩	124 × 20 × 20	(右) 塔身 (正面) 鵜 延享元年甲子十二月晦日 不應妙法信女 靈位
230-2	相川下寺町12	曹洞宗 昌安寺跡	秋室祐月信士 花屋妙春信女 墓	板石形石塔		安山岩	147 × 23.5 × 10	(正面) 塔身 鏤 秋室祐月信士 花屋妙春信女 位
230-1	相川下寺町12	曹洞宗 昌安寺跡	傑叟妙英信女 月叟是江信士 墓	板石形石塔		安山岩	147 × 23.5 × 10	(正面) 塔身 鵜 傑叟妙英信女 月叟是江信士 之位
229	相川下寺町10 11	曹洞宗 大嶺山 高安寺跡	地役人 稲垣伴右衛門式高 墓	五輪塔	正徳六年 (1716)	凝灰岩	142 × 33 × 33	(正面) 地輪 地 正徳六年丙申六月廿二日 瑞心院華應榮錦大姉
228	相川下寺町10 11	曹洞宗 大嶺山 高安寺跡	海士商人 磯西茂左衛門 墓	五輪塔	正保四年 (1647)	凝灰岩	175 × 50 × 50	(正面) 空輪 空 (正面) 風輪 (正面) 火輪 水 (正面) 地輪 (正面) 火 (正面) 地 正保四□□□□ 白

227	226	225	224	223	222	221	220	219	No.
相川下寺町 10 1	相川下寺町 10 1	相川下寺町 16	相川下寺町 5 1 3	相川下寺町	相川下寺町 11 1 2	相川下寺町 5 1 3	相川中寺町 9	相川中寺町 9	所在地
曹洞宗 大嶺山 高安寺跡	曹洞宗 大嶺山 高安寺跡	浄土宗 鉄壁山 銀山寺跡	曹洞宗 円通山 観音寺		円通寺跡	正法寺跡	浄土宗 南龍山 大超寺跡	浄土宗 南龍山 大超寺跡	寺社・施設名
流人 小倉実起 供養塔	流人 小倉実起室 供養塔	銀山寺跡 石塔 (寺標か)	地役人 太田九左衛門 墓	市指定文化財 (記念物 史跡) 寺町に至る石段 (楼主の寄贈という)	相川下寺町 宝塔観音	相川下寺町 如意輪観音	大超寺跡 阿弥陀三尊種子塔婆	山師 小川金左衛門室 墓	固有 名
笠塔婆	笠塔婆	角柱形石塔	五輪塔	石段	石神・石仏	石神・石仏	板石形石塔	板石形石塔	分類
貞享元年 (1684)	元禄七年 (1694)	天明八年 (1788)	寛文二年 (1662)	明暦 (1655) (1657)			寛永十三年 (1636)	元禄十三年 (1700)	記年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩他	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
108 × 26 × 16	93 × 26 × 13	168 × 26 × 25	112 × 30 × 30	14600 × 180	100 × 62	100 × 34 × 31	215 × 38 × 18	150 × 29 × 10	寸 法
(右) 塔身 (正面) 風化が激しく判読できない	(右) 塔身 (正面) 風化が激しく判読できない	(右) 塔身 (正面) 十六□□□□西譽□□ 聖観世音□□鉄壁山 銀山寺 (左) 天明八□年 三月十八日 法譽妙輪	風化が激しく判読できない				(正) 種子 (裏) 為河内国住人蒼慶淳春信士菩薩也 妙正信女菩薩也 寛永拾三曆七月吉日 小泉治兵衛二親也 施主 敬白	(正) 塔身 (正面) 元禄十三□□□□ 種子 廓譽□□信女靈位 八月十二日	銘 文

218	217	216-33	216-32	216-31	216-30	216-29	216-28	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 石灯籠	相運寺 宝篋印塔	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	固有 名
石灯籠	宝篋印塔	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
								記年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
144 × 27 × 27	221 × 21 × 21	46 × 28 × 29	46 × 26 × 29	45 × 23 × 29	49 × 26 × 29	48 × 27 × 29	49 × 29 × 29	寸法
	(正面) 基礎 寶篋印塔	(正面) 台石 番三卅	(正面) 台石 番二卅 橘村 門□□ 六月十日	(正面) 台石 番一卅 銀山町 野田□□	(正面) 台石 番十三 □□ 大□□	(正面) 台石 番九廿	(正面) 台石 番八廿 □□ 高田□□	銘文

216-27	216-26	216-25	216-24	216-23	216-22	216-21	216-20	No.
相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	固有名称
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
								記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
47×26×29	47×27×29	47×26×29	47×28×29	47×27×29	47×28×29	47×38×29	47×27×29	寸法
<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番七廿 新五郎町 山本□五□	<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番六廿	<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番五廿 □ □ □ 山田□□□	<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番四廿 諏訪町 寺野□平 □女	<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番三廿 銀山町 山本勝□	<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番二廿 大工町 蔵田孝□ 松□□□ 林□右エ□ 仲野□□	<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番一廿 小六町 山□巳□	<div>〔正面〕</div> <div>〔台石〕</div> 番廿 □之山町 □市□□	銘文

216-19	216-18	216-17	216-16	216 -15	216-14	216-13	216-12	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	固有 名
石神・石 仏	石神・石 仏	石神・石 仏	石神・石 仏	石神・石 仏	石神・石 仏	石神・石 仏	石神・石 仏	分 類
								記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
48 × 28 × 29	47 × 27 × 29	48 × 27 × 29	48 × 28 × 29	46 × 26 × 29	47 × 28 × 29	48 × 26 × 29	42 × 27 × 29	寸 法
(正面) 白石 番九十 大工町 高田千□	(正面) 白石 番八十 下戸村 須田巳之□	(正面) 白石 番七十 同 小野金□	(正面) 白石 番六十 坂下 松本喜□	(正面) 白石 番五十 濁川町 大林留五郎	(正面) 白石 番四十 小六町 二丁目 竹田庄□ 田庄□	(正面) 白石 番三十 材木町 同 大山□ 小山□ □□	(正面) 白石 番二十 同	銘 文

216-11	216-10	216-9	216-8	216-7	216-6	216-5	216-4	216-3	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	固有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
									記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
46 × 29 × 29	45 × 27 × 29	40 × 27 × 29	48 × 29 × 29	35 × 27 × 29	46 × 28 × 29	49 × 28 × 29	48 × 30 × 29	47 × 28 × 29	寸法
(正面) 台石 番一十	(正面) 台石 番十 □ 町 門□□□	(正面) 台石 番九	(正面) 台石 番八 羽田町 山□□□	(正面) 台石 番七 下戸町 □□□□	(正面) 台石 番六 四丁目 岩佐□□ 黒田□□	(正面) 台石 番五 同 木原□□	(正面) 台石 番四 同 田□□□	(正面) 台石 番三 同 蔵田□□	銘文

216-2	216-1	215-88	215-87	215-86	215-85	215-84	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 西国三十三所観音	相運寺 西国三十三所観音	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
							記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
50 × 28 × 29	47 × 27 × 29	49 × 36 × 27	41 × 36 × 27	49 × 33 × 27	51 × 34 × 27	51 × 34 × 27	寸法
(正面) 白石 番二第	(正面) 白石 番壹第 世話人 石扣町 本間徳次郎	(正面) 白石 番八十八 大工町 前田長五郎	(正面) 白石 番七十八 □□村 七月 悉院栄善如□大姉 □□□与三平	(正面) 白石 番六十八 一丁目 岩井伸造	(正面) 白石 番五十八 □□町 江口安平	(正面) 白石 番四十八 大工町 富田市兵衛	銘文

215-83	215-82	215-81	215-80	215-79	215-78	215-77	No.
相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有 名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
							記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
46×35×27	50×36×27	50×35×27	49×36×27	48×37×27	51×34×27	34×34×27	寸 法
(正面) 台石 番三十八 上京町 村田三左衛門 間之山 林□三良	(正面) 台石 番二十八 上相川 早川□子	(正面) 台石 番一十八 庄右衛門町 佐藤庄八	(正面) 台石 番十八 □□良町 □□権平	(正面) 台石 番九十七 上京町 村田庄七	(正面) 台石 番八十七 四丁目 伊藤弥市 同 勘佐源七	(正面) 台石 番七十七 下京町 安藤□平	銘 文

215-76	215-75	215-74	215-73	215-72	215-71	215-70	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名称
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
							記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
51 × 35 × 27	45 × 36 × 27	51 × 33 × 27	49 × 36 × 27	49 × 34 × 27	44 × 33 × 27	50 × 36 × 27	寸法
(正面) 台石 番六十七 六右衛門町 田中村 加藤元治 谷川惣三	(正面) 台石 番五十七 坂下 小野金石衛門	(正面) 台石 番四十七 間之山 正木□七	(正面) 台石 番三十七 大工町 同 小林泰造 今井芳造	(正面) 台石 番二十七 小六町 笠井五平	(正面) 台石 番一十七 南澤 本間□□	(正面) 台石 番十七 一丁目浜 渡辺ノブ	銘文

215-69	215-68	215-67	215-66	215-65	215-64	215-63	No.
相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名称
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
							記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
50×34×27	49×34×27	45×35×27	40×37×27	49×35×27	49×36×27	49×34×27	寸法
(正面) 台石 番九十六 三丁目 平岡嘉右衛門	(正面) 台石 番八十六	(正面) 台石 番七十六 四丁目 松村五郎吉	(正面) 台石 番六十六 一丁目 山本久五郎	(正面) 台石 番五十六 坂下 松本喜太□	(正面) 台石 番四十六 同 山田定治郎	(正面) 台石 番三十六 材木町 渡辺浅治郎	銘文

215-62	215-61	215-60	215-59	215-58	215-57	215-56	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有 有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
							記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
37× 34× 27	51× 35× 27	49× 35× 27	32× 34× 27	34× 34× 27	50× 35× 27	47× 35× 27	寸 法
(正面) 台石 番二十六 一丁目 松山李太□	(正面) 台石 番一十六 大工町 山本磯七	(正面) 台石 番十六 五十里 田中徳右□□	(正面) 台石 番九十五 山下甚助	(正面) 台石 番八十五 石扣町 甲賀長□	(正面) 台石 番七十五 □村 坂下□次平 川端□平	(正面) 台石 番六十五 左門町 伊藤辰□	銘 文

215-55	215-54	215-53	215-52	215-51	215-50	215-49	No.
相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	相川中寺町29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名称
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
							記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
48×33×27	49×34×27	50×35×27	47×35×27	46×32×27	41×36×27	48×36×27	寸法
(正面) 台石 番五十五 小六町石扣町 □山本長義	(正面) 台石 番四十五 庄右衛門町 本間つほ	(正面) 台石 番三十五 南澤 上西清□□	(正面) 台石 番二十五 大工町 北村氏	(正面) 台石 番一十五 南澤 上西清八	(正面) 台石 番十五 八月廿一日 当町市平妻 加智妙真大姉	(正面) 台石 番九十四 新□ 八月廿六日 山本国□ 加実智□□	銘文

215-48	215-47	215-46	215-45	215-44	215-43	215-42	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
							記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
49 × 35 × 27	33 × 33 × 27	49 × 58 × 27	47 × 31 × 27	48 × 35 × 27	50 × 35 × 27	49 × 35 × 27	寸法
(正面) 台石 番八十四 南澤 矢田千□□	(正面) 台石 番七十四 治助町 金子甚□	(正面) 台石 番六十四 治助町 白井甚三郎	(正面) 台石 番五十四 須灰谷 小野仙□	(正面) 台石 番四十四 味噌屋町 田中村 河野覚義 中川治之助	(正面) 台石 番三十四 夕白町 釜屋宗義 渡辺□造	(正面) 台石 番二十四 下戸 伊藤庄八□	銘文

215-41	215-40	215-39	215-38	215-37	215-36	215-35	215-34	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名称
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
								記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
49 × 34 × 27	48 × 35 × 27	49 × 35 × 27	60 × 37 × 27	51 × 37 × 27	49 × 36 × 27	51 × 36 × 27	52 × 38 × 27	寸法
(正面) 台石 番一十四 上京町 渡辺マス 中京町 同人	(正面) 台石 番十四 中京町 増井巻造	(正面) 台石 番九卅 勘四郎町 小出権兵衛	(正面) 台石 番八卅 沢根町 清水徳右衛門	(正面) 台石 番七卅 間之山 大野辰三	(正面) 台石 番六卅 上京町 小田庫吉	(正面) 台石 番五卅 同同 宇留間才 山本源平	(正面) 台石 番四卅 同同 宇留間才 山本源平	銘文

215-33	215-32	215-31	215-30	215-29	215-28	215-27	215-26	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
								記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
34 × 31 × 27	61 × 37 × 27	50 × 36 × 27	55 × 34 × 27	55 × 31 × 27	60 × 36 × 27	51 × 35 × 27	48 × 35 × 27	寸法
(正面) 台石 番三卅 橘村 小林兵九郎	(正面) 台石 番二卅 同 □□□□	(正面) 台石 番一卅 大工町 衣沢庫□	(正面) 台石 番卅 間之山 金子善四良	(正面) 台石 番九廿 治助町 田中村 □田栄吉 中川徳平	(正面) 台石 番八廿 同 高田善平	(正面) 台石 番七廿 大工町 菊地万平	(正面) 台石 番六廿 二丁目 松村新□	銘文

215-25	215-24	215-23	215-22	215-21	215-20	215-19	215-18	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有 有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
								記年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
49 × 31 × 27	45 × 37 × 27	38 × 55 × 27	53 × 38 × 27	44 × 36 × 27	44 × 25 × 27	36 × 34 × 27	38 × 35 × 27	寸法
(正面) 台石 番五廿 間之山 堀田□□ 佐々木五平	(正面) 台石 番四廿 同 清水喜作	(正面) 台石 番三廿 四十物町 松山万平	(正面) 台石 番二廿 大工町 富田卒良	(正面) 台石 番一廿 小六町 三丁目 本間幸造 遠藤□造	(正面) 台石 番廿 大工町 本間平四良	(正面) 台石 番九十 大工町 高田勝平	(正面) 台石 番八十 同 上西久□	銘文

215-17	215-16	215-15	215-14	215-13	215-12	215-11	215-10	No.
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
								記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
42× 35× 27	47× 34× 27	50× 36× 27	49× 36× 27	37× 36× 27	38× 36× 27	48× 34× 27	50× 35× 27	寸法
(正面) 台石 番七十 南澤 上西リウ	(正面) 台石 番六十 四十物町 野坂兵左衛門 佐藤増 □□	(正面) 台石 番五十 同 宇留間 □□	(正面) 台石 番四十 □□同 村田 □□ 坂下 □□	(正面) 台石 番三十 橘村 佐々木佑次 □	(正面) 台石 番二十 白雪道題居士 丸山 梅助	(正面) 台石 番一十 同坂下 四十物町 佐之 □	(正面) 台石 番十 橘村 本間源 □	銘文

215-9	215-8	215-7	215-6	215-5	215-4	215-3	215-2	215-1	No
相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	相川中寺町 29	所在地
真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	真言宗 延命山 相運寺	寺社・施設名
相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	相運寺 四国八十八箇所石仏	固有 有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
									記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
50 × 38 × 27	46 × 36 × 27	47 × 34 × 27	38 × 29 × 27	50 × 35 × 27	48 × 33 × 27	53 × 36 × 27	52 × 36 × 27	51 × 35 × 27	寸 法
(正面) 白石 番九 大□ 渡辺竜平	(正面) 白石 番八 間山町 若林権七	(正面) 白石 番七 二丁目浜 石井□□	(正面) 白石 番六 一丁目 ヤイ	(正面) 白石 番五 南澤 渋谷森造	(正面) 白石 番四	(正面) 白石 番三 大間町 高田□郎	(正面) 白石 番二 小六町 本間徳□	(正面) 白石 番一第 石扣町 本間徳治郎 細工人 間之山 寺田□□ 高秀	銘 文

214	213	212	211	No.
相川中寺町11	相川中寺町2	相川中寺町2	相川中寺町2	所在地
日蓮宗 得栄山 善行寺跡	日蓮宗 光栄山 瑞仙寺	日蓮宗 光栄山 瑞仙寺	日蓮宗 光栄山 瑞仙寺	寺社・施設名
普門院日體聖人墓	瑞仙寺 題目塔	瑞仙寺 題目願文碑	商人 笹井治左衛門墓	固有名
角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	笠塔婆	分類
天保二年 (1831)	安政五年 (1858)	安永七年 (1778)	延宝三年 (1675)	記年銘
安山岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	石材
153 × 30 × 27	253 × 46 × 30	125 × 27 × 20	163 × 37 × 22	寸法
<div>塔身</div> <div>(正面)</div> 普門院日體聖人 天保二年卯歲 七月中□八□	<div>塔身</div> <div>(正面)</div> 南無妙法蓮華經	<div>塔身</div> <div>(裏)</div> 奉書写 清涼院妙池日如信女 奉誦誦大乘妙典壹百部 奉唱滿願題目一百部修行 真淨院德延日勤信士 真壽院妙延日行信女 惠教童子 平等利益 <div>(左)</div> 維時 安永七戊戌年 九月中旬五日立之 願主 <div>(正)</div> 南無妙法蓮華經 國家安全 天下太平 天明元年丑年マテ正當五百年也 <div>(右)</div> 仏法繁盛塚原山末頭當寺十九嗣法輪妙院 高祖大菩薩第五百遠忌大恩報謝日快花押 広宣流布入滅 弘安五年午年ヨリ	<div>塔身</div> <div>(右)</div> 施主 越前福井庄住人 笹井次郎兵衛 敬白 <div>(正面)</div> 南無妙法蓮華經 本性院妙尼 口光院日桂忌	銘文

210	209	208	207	206	205	204	No
相川中寺町2	相川中寺町2	相川中寺町2	相川上寺町 18 23	相川上寺町 18 23	相川上寺町 18 23	相川広間町 1 1	所在地
日蓮宗 光栄山 瑞仙寺	日蓮宗 光栄山 瑞仙寺	日蓮宗 光栄山 瑞仙寺	日蓮宗 妙耀山 法久寺参道	日蓮宗 妙耀山 法久寺参道	日蓮宗 妙耀山 法久寺跡	佐渡奉行所跡 鉢山白下白	寺社・施設名
山師 味方但馬 墓	地役人 石井三郎右衛門 墓	(年号刻字ミス。過去帳記述では寛文である。) 森川重兵衛 墓	法久寺跡 題目塔	法久寺跡 情死の墓	佐藤治右衛門 墓	佐渡奉行所跡展示 鉢山白下白	固有 有名
笠塔婆	板石形石塔	板石形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	笠塔婆	鉢山白下	分類
元禄十一年 (1698)	万治二年 (1659)	寛文十二年 (1672)	宝暦十三年 (1763)	享保八年 (1728)	元禄五年 (1693)		記年銘
安山岩	安山岩	凝灰岩	凝灰岩	安山岩	安山岩	流紋岩	石材
111 × 33 × 18	113 × 30 × 13	174 × 33 × 10	213 × 32.5 × 20	138 × 26.5 × 21	100 × 35 × 16	28 × 40	寸法
(左) (正) (右) 塔身 元禄十一戊寅天六月十一日 覚源院寿圓日性 元禄二己巳天八月朔日	(正) 塔身 南無妙法蓮華經 清光院蓮清日耀靈位 萬治二己亥歲 四月二十七日	(左) (正) 塔身 妙法 賢生院宗円信士位 春性院妙湯信女位 寛永十二壬子九月廿八日 三亥正月一日	(左) (正) 塔身 宝暦十三癸未年□月一日 十一祖 天下泰平国家安全 日建 (花押) 南無妙法蓮華經 妙耀山 金銀山繁栄 法久寺 (風化激しく判読不可)	(左) (正) 塔身 享保八年四月二十六日 妙法 奥院道 (欠落) 施主 深遠 (欠落)	(左) (正) 塔身 佐藤氏 敬白 元禄第五壬子 妙法慈天延寿院宗宅日持靈 正月二十五日 □□□□一千部奉説誦菩提祈者也		銘文

203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	No.
相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	相川広間町 1-1-1	所在地
佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	寺社・施設名
佐渡奉行所跡展示 鉾山白下白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白下白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	佐渡奉行所跡展示 鉾山白上白	固有 名
鉾山白 下	鉾山白 下	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	鉾山白 上	分 類
																記 年 銘
流紋岩	礫岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	流紋岩	安山岩	石 材
12×54	12×47	28×59	31×51	71×47	54×49	33×51	28×47	39×48	37×42	21×49	31×39	35×36	19×49	41×31	50×49×20	寸 法
																銘 文

187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	No.
相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	相川広間町 111	所在地
佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡	寺社・施設名
佐渡奉行所跡展示 扣石	佐渡奉行所跡展示 扣石	佐渡奉行所跡展示 扣石	第89図15 佐渡奉行所跡出土 砥石	第89図14 佐渡奉行所跡出土 砥石	第89図13 佐渡奉行所跡出土 砥石	第89図12 佐渡奉行所跡出土 砥石	第89図11 佐渡奉行所跡出土 砥石	第90図11 佐渡奉行所跡出土 碁石	第88図13 佐渡奉行所跡出土 硯	第88図12 佐渡奉行所跡出土 硯	第88図11 佐渡奉行所跡出土 硯	第88図10 佐渡奉行所跡出土 硯	第88図9 佐渡奉行所跡出土 硯	第88図8 佐渡奉行所跡出土 硯	第88図7 佐渡奉行所跡出土 硯	固有 名
扣石	扣石	扣石	砥石	砥石	砥石	砥石	砥石	碁石	硯	硯	硯	硯	硯	硯	硯	分類
																記年銘
安山岩	安山岩	礫岩	その他	砂岩	頁岩	砂岩	頁岩	安山岩								石材
42 × 32 × 13	44 × 35 × 12	29 × 56 × 12.5	8.5 × 4.4 × 0.7	4.5 × 3.9 × 0.5	7.4 × 3.5 × 1.3	12.2 × 3.1 × 2.6	13.2 × 5.4 × 4.8	1.7 × 0.6	11.9 × 5.9 × 1.5	12.0 × 5.8 × 1.6	10.8 × 6.0 × 1.5	13.7 × 6.4 × 2.2	17.8 × 6.4 × 2.2	4.1 × 3.2 × 0.5	8.2 × 4.8 × 1.6	寸法
																銘文

No.	所在地	寺社・施設名	固有名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
171	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第88図-6 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			12.9 × 5.3 × 1.6	
170	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第88図-5 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			7 × 4.1 × 1.6	
169	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第88図-4 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			10.8 × 7.6 × 2.1	
168	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第88図-3 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			5.8 × 4.8 × 1.4	
167	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第88図-2 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			5.0 × 4.4 × 1.2	
166	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第88図-1 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			7.2 × 2.9 × 1.6	
165	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第219図-3 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			7.3 × 4.2 × 1.2	
164	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第219図-2 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			10.0 × 3.1 × 1.7	
163	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	第219図-1 佐渡奉行所跡出土 硯	硯			9 × 6.8 × 2.4	
162	相川広間町 1-1-1	佐渡奉行所跡	佐渡奉行所跡検出 敷石	敷石			1095 × 150	
161	相川夕白町23	大神宮	大神宮 石灯籠	石灯籠	天明二年 (1782)	安山岩	232 × 106 × 103	(裏) (正面) 卒 大神宮御神燈 天明二寅歳 長英法印 七月吉日
160	相川夕白町23	大神宮	大神宮 鳥居	鳥居	安永四年 (1775)	凝灰岩	336 × 448 × 32	(正面) 左柱 (正面) 右柱 施主 鍵買石仲間 安永四年七月二十八日建立之 本願主 長英法印
159	相川大床屋町 43-6		相川大床屋町 石祠・地藏	石祠・石仏	安政四年 (1857)	安山岩 凝灰岩	217 × 195	(正面) 右柱 羽田町塩屋町念仏講中定善寺十六世戒譽代

158	157	156	155	154	153	152	151	No.
相川左門町27	相川左門町28	相川左門町28	相川左門町28	相川左門町28	相川六右衛門町36	相川大工町14	相川大工町14	所在地
浄土真宗 巖照山 蓮光寺	浄土宗 日没山 西念寺跡	浄土宗 日没山 西念寺跡	浄土宗 日没山 西念寺跡	浄土宗 日没山 西念寺跡	浄土真宗 称名山 大福寺	北野神社	北野神社	寺社・施設名
佐渡奉行 本目隼人親英 墓	西念寺跡 手洗鉢	西念寺跡 名号塔	喜多平八 墓	西念寺跡 石仏	遊女リカ 墓	北野神社 手洗鉢②	北野神社 手洗鉢①	固有 有名
角柱形石塔	手洗鉢	角柱形石塔	板石形石塔	石神・石仏	角柱形石塔	手洗鉢	手洗鉢	分類
安永十年 (1781)	文政九年 (1826)	天保十一年 (1840)	寛文八年 (1668)		文久三年 (1863)	文政九年 (1826)		記年銘
安山岩	安山岩	凝灰岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
238 × 38 × 38	50 × 82 × 46	233 × 35 × 32	108 × 30 × 13	121 × 52 × 41	120 × 25 × 18	47 × 66 × 40	36 × 68 × 34	寸法
(左) 東礫院釋英山靈位 (正面) 佐州岳牧本目隼人源親英墓 (右) 安永十年二月三日	(右) 文政九年九月 (正面) 十三世宛響代 清浄水 奉納 (左) 願主 日本廻国六十六部 五兵衛 岩太郎 四〇人権左衛門	(正面) 南無阿弥陀仏 (裏) 天保六年乙未 天保十一年七月如意日造立 下相川 石工 三浦弥兵次	(正面) 種字 俱会 (塔身) 是名院称阿信士 喜多平八	(台座正面) 夜二廿 (塔身)	(左) 間之山 近藤易藏 (正面) 石塔造立施主 水金町海老屋安兵衛 (右) 文久三年 法名 釋尼妙恵 五月九日 俗名 利加	(右) 文政九戌年九月吉日 (正面) 奉納 世話人 藤兵衛	(右) 施主 江戸 哥次郎 (正面) 鹽 嗽 孝八	銘文

No.	所在地	寺社・施設名	固有な名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
144	相川諏訪町28		相川諏訪町 丸彫地蔵	石神・石仏		安山岩	165 × 203 × 120	
145	相川諏訪町28		相川諏訪町 庚申塔	庚申塔	安政二年 (1855)	安山岩	83 × 83 × 55	<div>塔身</div> <div>(正面)</div> 庚申塚 法印諦与謹書 安政二年四月 石碑施 寺田氏 山本氏 山下氏 金子氏 山村氏 河村氏
146	相川諏訪町28		相川諏訪町 馬頭観音	石神・石仏		凝灰岩	100 × 62 × 36	<div>塔身</div> <div>(裏)</div> 大岡源右衛門墓 法名 釋宗夢靈 明暦三酉年四月十七日
147	相川諏訪町17	浄土真宗 紫雲山 万照寺	流人 大岡源右衛門 墓	角柱形石塔	明暦三年 (1657)	安山岩	100 × 22 × 21	<div>塔身</div> <div>(裏)</div> 大岡源右衛門墓 法名 釋宗夢靈 明暦三酉年四月十七日
148	相川諏訪町17	浄土真宗 紫雲山 万照寺	流人 大岡源三郎 墓	角柱形石塔	承応三年 (1654)	安山岩	82 × 30 × 22	<div>塔身</div> <div>(正面)</div> 承応三甲午年 法名 釋俠紅靈 五月十六日 大岡源三郎
149	相川大工町14	北野神社	北野神社 狛犬	狛犬	天保十四年 (1843)	安山岩	142(咩) × 82 × 61	<div>阿台石</div> <div>(正面)</div> 奉 五月□□日 <div>咩台石</div> <div>(正面)</div> 納 天保十四
150	相川大工町14	北野神社	北野神社 鳥居	鳥居	天保三年 (1832)	凝灰岩	281 × 292 × 22.5	<div>左柱</div> <div>(正面)</div> 天保三壬辰年十二月朔日 <div>右柱</div> <div>(正面)</div> 施主 庄右衛門町 松島庄五郎建立之 当山二十二世 法譽靈雲代

No.	所在地	寺社・施設名	固有 有名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
143	相川上寺町11	日蓮宗 妙法山 覚性寺跡	覚性寺跡 無宿人連名供養塔	その他	安永八・九年 (17780)	凝灰岩	116 × 127 × 46	<div> <div> (左) </div> <div> (右) </div> <div> (正面) </div> <div> (背面) </div> <div> (右面) </div> <div> (正面) </div> </div>
142	相川上寺町11	日蓮宗 妙法山 覚性寺跡	覚性寺跡 無宿人供養塔	カマボコ形 石塔	嘉永六年 (1853)	凝灰岩	168 × 212 × 68	<div> (右面) 嘉永六丑歳七月十八日 </div> <div> (正面) </div> <div> (背面) </div> <div> (右面) </div> <div> (正面) </div>

No.	所在地	寺社・施設名	固有な名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
139	相川五郎右衛門町17	浄土真宗 称名寺跡	古河家父母墓	角柱形石塔	天保二年 (1831)	凝灰岩	51×25×22	<div> <div>塔身</div> <div>(右) 天保二卯年九月二十二日 古河政明父母 嶋田善九郎浄賢 法名 釋 嶋田氏 妙秀 (左) 天保五午年十一月二十五日 嶋田氏</div> </div>
140-1	相川宗徳町 112		相川宗徳町 石橋 (アーチ橋①)	石橋				<div> <div>銘板</div> <div>佐渡鉦山 卅七年十一月</div> </div>
140-2	相川宗徳町 112		相川宗徳町 石橋 (アーチ橋②)	石橋	明治三十七年 (1904)		340×170	<div> <div>塔身</div> <div>(右) 願以此功德普及於一切 我等興衆生皆共成仏道 (正面) 南無妙法蓮華經 (左) 一天四海皆歸妙法 (裏) 天下太平國家安穩 天明三癸卯三月浄光院当寺十三世日藝代 石碑数年而破壊新規竿造立再建 天保十五甲辰三月光明院日進代 同二十世</div> </div>
141	相川次助町10	日蓮宗 妙法山 覚性寺跡	覚性寺跡 題目塔婆	角柱形石塔	天保十五年 (1844)	安山岩	310×54×54	<div> <div>台座</div> <div>(正面) 戸江 (左) 差配人 小屋頭 米八 茂助 徳次郎 安太 仁三郎 岩右衛門 伊三 傳七 兵八 仲右衛門 長四郎 下世話共 若者中 喜八 利八 熊助 石工 勘治 守助 大坂重五郎 (裏) 天保十四卯十月廿日 開禪浄悟忌 一會 啓栄法乗忌 天保十四卯十月廿二日 大坂丑之助</div> </div>

138	137	136	135	134	133	132	No.
相川五郎右衛門町17	相川五郎右衛門町17	相川五郎右衛門町25	相川五郎右衛門町25	相川五郎右衛門町25	相川五郎右衛門町25	上相川町	所在地
浄土真宗 称名寺跡	浄土真宗 称名寺跡	関東稲荷	関東稲荷	関東稲荷	関東稲荷		寺社・施設名
浄信 妙賢 墓	浄西 妙喜 墓	関東稲荷 手洗鉢	関東稲荷 石灯籠	関東稲荷 石段	関東稲荷 石塔	上相川町 笠塔婆	固有 有名
角柱形石塔	角柱形石塔	手洗鉢	石灯籠	石段	自然石石塔	角柱形石塔	分類
文化二年 (1805)	寛政九年 (1797)	文政十三年 (1830)	弘化五年 (1848)			享保十六年 (1731)	記年 銘
凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩	凝灰岩	安山岩 凝灰岩他	安山岩	安山岩	石材
107 × 24 × 17	60 × 23 × 13	58 × 77 × 45	202 × 28 × 28	4230 × 215	104 × 31 × 43	76 × 22 × 18.5	寸法
(左) (正面) (右) 塔身 文化二丑年十月十六日 天保四巳年二月二十日 文政十二丑年四月二日 法名 浄信 妙賢 妙諦 すわ町 定八	(左) (正面) (右) 塔身 寛政九巳七月二十八日 文化十年二月二十一日 法名 浄西 寛政九巳七月二十八日 寛政十年十一月五日 すわ町 仙吉	(正面) 文政十三寅歳八月吉日 中尾間歩 大鋪 若者 中 世話人 間之山 栄治郎	(右) (正面) (裏) 世話人 林 辰五郎 末田円助 御神燈 弘化五申歳春三月 石工 忠五郎			(左) (正面) 塔身 (風化が激しく判読できない) 享保十六亥三月十七日	銘文

131	130	129	128	127	126	125	124	No.
上相川町	上相川町	上相川町 186 1	相川奈良町1	相川奈良町1	相川奈良町5	相川奈良町5	相川奈良町5	所在地
			曹洞宗 桐谷山 妙音寺跡	曹洞宗 桐谷山 妙音寺跡	浄土真宗 専照寺跡	浄土真宗 専照寺跡	浄土真宗 専照寺跡	寺社・施設名
正受院三譽相心居士墓 功德院性譽妙法大姉墓	方屋西岸信士墓 信山浄仰信士墓	比丘尼 声信院殿観室清音禪尼墓	千峯雄條居士墓	妙音寺跡 地藏	専照寺跡 寺標	釈了空墓	伊藤家墓	固有名
角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	石神・石仏	自然石石塔	角柱形石塔	カマボコ形 石塔	分類
寛延元年 (1748)	享保九年 (1724)	天保八年 (1837)	文化十二年 (1815)			文化十二年 (1815)	天保五年 (1834)	記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
44×24×15	49×25×15	89×37×18	46×23×16	70×38×14	154×85×90	35×31×30	68×55×46	寸法
(左) (正面) (右) 塔身 三寛延元年正月二日 性寛延三年七月二日 正受院三譽相心居士 功德院性譽妙法大姉 早川氏	(左) (正面) (右) 塔身 享保九辰天五月二十三日 方屋西岸信士 信山浄仰信士 明和八卯年八月九日	風化が激しく判読できない。 「佐渡金銀山史話」には「声信院殿観室清音禪尼」とある	(左) (正面) (右) 塔身 文化十二年亥年二月十八日 大工町 千峯雄條居士 室妙香信女 文化七庚年 正月廿日 清水長□郎		(正面) 塔身 専照寺	(正面) 塔身 法名 文化十二年亥年 釈了空 八月十四日	(左) (正面) (右) 塔身 五月朔日 伊藤氏 天保五年	銘文

123	122	121	120	119	118	No
相川奈良町5	相川奈良町5	相川奈良町5	相川奈良町5	相川奈良町5	相川奈良町5	所在地
浄土真宗 専照寺跡	浄土真宗 専照寺跡	浄土真宗 専照寺跡	浄土真宗 専照寺跡	浄土真宗 専照寺跡	浄土真宗 専照寺跡	寺社・施設名
佐藤家墓	富田家墓	釋 現善墓	釋 尼照念墓	釋 善立墓	四体合墓 釋 大安他墓	固有名
角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	分類
安政五年 (1858)	嘉永三年 (1850)	天保五年 (1834)	天保八年 (1837)	文化十四年 (1817)	天明七年 (1787)	記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
91 × 31 × 30	40 × 30 × 30	44 × 25 × 23	53 × 22 × 15	138 × 31 × 20	69 × 28 × 20	寸法
(左) (正面) (右) 塔身 法名 戊辰 安政五 午 釋立四 惣墓 十一月二十二日 大工町 佐藤柳藏	(左) (正面) (右) 塔身 嘉永三年八月 干此処陀 元祖之墓 富田九右衛門	(左) (正面) (右) 塔身 天保五年三月廿七日 法名 釋 現善位 大工町 佐藤市郎平	(左) (正面) (右) 塔身 大工町 佐藤理三郎娘 俗名おひで 法名 釋 尼照念位 天保八年 六月五日	(左) (正面) (右) 塔身 文化十四年 丑六月九日 法名 釋 善立位 松島氏	(左) (正面) (右) 塔身 天保十一子年四月廿一日 天明七年十月廿八日 法名 釋 尼惠秀位 法名 釋 大安位 寬政十二年八月十日 釋 知善位	銘文

117	116	115	114	113	112	111	110	109-91	No
相川柄杓町 3-2	町相川 27下山之神	町相川 27下山之神	町相川 27下山之神	町相川 27下山之神	町相川 46下山之神	町相川 11下山之神	町相川 11下山之神	町相川 11下山之神	所在地
万宝院跡	日蓮宗 法栄山 法泉寺	日蓮宗 法栄山 法泉寺	日蓮宗 法栄山 法泉寺	日蓮宗 法栄山 法泉寺	八幡宮	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	寺社・施設名
法印自願碑	地役人 須田富守墓	地役人 水品安右衛門一族墓	地役人 水品安右衛門墓	地役人 川野伊兵衛墓	八幡宮 手洗鉢	商人 山本重右衛門墓	岡林伝右衛門義見墓	大乘寺 四国八十八箇所石仏	固有名
角柱形石塔	笠塔婆	角柱形石塔	板石形石塔		手洗鉢	五輪塔	五輪塔	石神・石仏	分類
文久二年 (1862)	延享三年 (1746)			(1689)	嘉永五年 (1852)	慶安四年 (1651)	承応三年 (1654)		記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	板石形石塔	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
50×24×21	148×26×25	147×30×28	72×24×8	元禄二年	75×118×55	172×53×53	140×55×52	49×36×24	寸法
(正面) 塔身 法印自願碑 文久二年正月十一日	(正面) 塔身 延享三年三月十日 妙法含章院文齋日行居士 須田六右衛門富守墓	(正面) 塔身 充滿院日応居士 園林院妙満信女	(正面) 塔身 妙法宗性 妙法宗性 妙法宗性 妙法宗性 妙法宗性	安山岩 塔身 97×32×13 妙法行道院妙泉日行居士 十一月八日 (正面) 元禄二己巳歳	(左) 塔身 嘉永五年八月 奉獻 世話人 高橋 上田	(正面) 水輪 種字 (正面) 地輪 種字 (正面) 風輪 種字 (正面) 火輪 種字	(脇石柱) 「恵日院理元善智居士」とある		銘文

109-90	109-89	109-88	109-87	109-86	109-85	109-84	109-83	109-82	109-81	109-80	109-79	109-78	109-77	109-76	109-75	No.
町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	所在地
相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	寺社・施設名
四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	固有 名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
																記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
49×37×25	49×36×25	49×36×25	41×36×25	49×33×24	51×34×25	51×34×25	46×35×24	50×36×25	50×35×25	49×36×24	48×37×25	51×34×25	34×34×24	51×35×25	45×36×25	寸 法
																銘 文

109-74	109-73	109-72	109-71	109-70	109-69	109-68	109-67	109-66	109-65	109-64	109-63	109-62	109-61	109-60	109-59	No.
町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	所 在 地
相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	寺社・施設名
四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	固 有 名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分 類
																記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
51× 33× 26	49× 36× 25	49× 34× 24	44× 33× 25	50× 36× 24	50× 34× 25	49× 34× 25	45× 35× 24	40× 37× 24	49× 35× 25	49× 36× 25	49× 34× 24	37× 34× 24	51× 35× 25	49× 35× 24	32× 34× 24	寸 法
																銘 文

109-58	109-57	109-56	109-55	109-54	109-53	109-52	109-51	109-50	109-49	109-48	109-47	109-46	109-45	109-44	109-43	No.
町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	町相川下山之神	所在地
相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	寺社・施設名
四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	固有 名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
																記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
34×34×25	50×35×24	47×35×25	48×33×24	49×34×25	50×35×25	47×35×24	46×32×24	41×36×25	48×36×25	49×35×25	33×33×24	49×58×25	47×31×24	48×35×25	50×35×25	寸 法
																銘 文

109-42	109-41	109-40	109-39	109-38	109-37	109-36	109-35	109-34	109-33	109-32	109-31	109-30	109-29	109-28	109-27	No
町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	町11 相川 下山之 神	所在地
相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	相栄山 真言宗 大乘寺	寺社・施設名
四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	四国八十八箇所石仏	固有 名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
																記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石 材
49 × 35 × 24	49 × 34 × 25	48 × 35 × 25	49 × 35 × 25	60 × 37 × 26	51 × 37 × 25	49 × 36 × 24	51 × 36 × 25	52 × 38 × 25	34 × 31 × 24	61 × 37 × 26	50 × 36 × 24	55 × 34 × 25	55 × 31 × 25	60 × 36 × 26	51 × 35 × 26	寸 法
																銘 文

109-26	109-25	109-24	109-23	109-22	109-21	109-20	109-19	109-18	109-17	109-16	109-15	109-14	109-13	109-12	109-11	No.
町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	町相川下山之神 11	所在地
相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	相真言宗 采山 大乘寺	寺社・施設名
四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	四国八十八箇所石仏 大乘寺	固有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	分類
																記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
48×35×24	49×31×25	45×37×25	38×55×24	53×38×26	44×36×25	44×25×23	36×34×25	38×35×24	42×35×25	47×34×24	50×36×26	49×36×24	37×36×25	38×36×25	48×34×24	寸法
																銘文

109-10	109-9	109-8	109-7	109-6	109-5	109-4	109-3	109-2	109-1	108	107	No.
町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町11 相川下山之神	町3 相川下山之神	町3 相川下山之神	所在地
真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	真言宗 相栄山 大乘寺	曹洞宗 青嶽山 総源寺	曹洞宗 青嶽山 総源寺	寺社・施設名
大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	大乘寺 四国八十八箇所石仏	地役人 内藤兵衛門室 墓	比丘尼 織田清音尼 五輪塔	固有名
石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	石神・石仏	五輪塔	五輪塔	分類
										万治三年 (1660)		記年銘
安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	安山岩	石材
50×35×26	50×38×25	46×36×25	47×34×26	38×29×24	50×35×25	48×33×23	53×36×25	52×36×26	51×35×25	139×36×36	232×64×64	寸法
										(正面) 水輪 婆 □ (正面) 地輪 阿 為頓室妙悟大姉 万治三年庚子二月四日	(正面) 空輪 空 (正面) 風輪 風 (正面) 火輪 火	銘文

106	105	104	103	102	101	100	99	No.
町3 相川下山之神	町3 相川下山之神	町3 相川下山之神	町3 相川下山之神	町3 相川下山之神	町7 相川下山之神	町7 相川下山之神	町7 相川下山之神	所在地
曹洞宗 青嶽山 総源寺	曹洞宗 青嶽山 総源寺	曹洞宗 青嶽山 総源寺	曹洞宗 青嶽山 総源寺	曹洞宗 青嶽山 総源寺	大山祇神社	大山祇神社	大山祇神社	寺社・施設名
地役人 根本与左衛門 墓	佐渡奉行 飯塚伊兵衛英長 墓	佐渡奉行 鈴木伝市郎正恒 墓	佐渡鉦山供養塔	佐渡奉行 篠山十兵衛景義 墓	大山祇神社 手洗鉢	大山祇神社 石垣	大山祇神社 石灯籠	固有名
五輪塔	笠塔婆	角柱形石塔	角柱形石塔	角柱形石塔	手洗鉢	石垣	石灯籠	分類
慶安二年 (1649)	寛政六年 (1794)	天保七年 (1836)	昭和九年 (1934)	文化十五年 (1818)	安永八年 (1779)		安永九年 (1780)	記年銘
花崗岩	安山岩	安山岩	花崗岩	安山岩	安山岩		安山岩	石材
57×48×48	285×40×40	226×43×43	179×40×37	208×64×48	48×76×53		185×30×30	寸法
(正面) 地輪 為山宗英居士 敬白 慶安二年三月十日	(左) 塔身 (右) 塔身 龜洞院殿英長良雄大居士 佐渡刺吏 飯塚伊兵衛源英長墓 寛政六年三月十日	(右) 塔身 (正面) 塔身 追号正恒院殿義格良忠大居士 天保七年三月五日 佐渡奉行鈴木伝市郎藤原正恒之墓	(正面) 台石 (右) 台石 当鉦山ニ縁故アル先亡後滅ノ靈骨ヲ是ニ合葬ス 佐渡鉦山 昭和九年十二月	(正面) 塔身 佐渡奉行篠山十兵衛伴景義墓	(正面) 奉納 安永八年 井坂亦兵衛源信		(右) 竿 安永九年庚子年四月 大川内保秋 本昌 須田行雄 倉田行雄 奉獻石灯籠二基	銘文

98	97	96	95	94	93	92	91	No.
町6 相川下山之神	町・相川下山之神 相川坂下町	町39 相川下山之神 12	町12 相川下山之神 1子	町12 相川下山之神 1子	相川坂下町20	相川坂下町20	相川坂下町20	所在地
大山祇神社		法泉寺入口			相川郷土博物館	相川郷土博物館	相川郷土博物館	寺社・施設名
神官 安岡氏霊神	市指定文化財(記念 物史跡) 厳常寺坂	厳常寺坂 石祠・地藏	大平淡 墓	儒者 圓山溟北先生 墓	「竹梅塚」 (松尾芭蕉の句碑)	相川郷土博物館 鉦山白下白	相川郷土博物館 鉦山白下白	固有名
自然石石塔	石段	石祠・石仏 石神・石仏	角柱形石塔	角柱形石塔	句碑	鉦山白下	鉦山白下	分類
承応二年 (1653)		文化十四年 (1817)	明治十一年 (1878)	明治二十六年 (1893)				記年銘
安山岩	安山岩他	凝灰岩	安山岩	安山岩	凝灰岩	流紋岩	凝灰岩	石材
148 × 69 × 43	22500 × 180	170 × 175 × 63	60 × 27 × 30	180 × 60 × 29	53 × 41 × 22	17 × 51	33 × 38	寸法
(正面) 塔身 寛文元年八月二日 元祖麻佐志卦 藤原性安岡氏霊神 二代目真佐志卦 承応二巳年八月十二日		(正面) 左柱 文化十四年丁丑十二月吉日 世話人 若林□右衛門 若林伊勢松 (正面) 右柱 念仏講中 行者 予州 定順	(正面) 塔身 菰塘大平淡 配藏田勝女 (左) 明治十一年二月十六日 (右) 明治□年四月十八日	(裏) 圓山氏以二世儒素任州学教授前後凡五十有年矣本州父学之蔚興有由来也先生諱葆字子光本州湊町人夙以家学著博綜古今文久中閣老村上候傳台命擢列士班賜以世祿其德業有素故也既而王政維新先生首奉朝旨辭世祿家居教授明治二十五年五月三十一日以病没享年七十有五門人建石於湊町妙法寺先塋之次以勒其功德先生晚年奉神道累遷中教正歿贈權大教正 明治廿六年五月三十一日 孝祀男事謹識	(正面) 唐土や 可と荷五日の 竹に梅 はせを			銘文

No.	所在地	寺社・施設名	固有名	分類	記年銘	石材	寸法	銘文
90	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白下白	鉾山白下		礫岩	21×43	
89	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		流紋岩	30×50	
88	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白下白	鉾山白下		凝灰岩	43×48	
87	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		凝灰岩	42×47	
86	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		流紋岩	35×47	
85	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		凝灰岩	26×37	
84	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		流紋岩	15×18	
83	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		安山岩	20×8×8	
82	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		凝灰岩	65×41×17	
81	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉾山白上白	鉾山白上		凝灰岩	58×27×21	
80	高瀬1238-2	相川郷土博物館 (高瀬分館)	相川郷土博物館 松明台	松明台		凝灰岩	25×30	
79	高瀬1238-2	相川郷土博物館 (高瀬分館)	相川郷土博物館 火消壺	火消壺		凝灰岩	身蓋 2510×× 3028	
78	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 火消壺蓋	火消壺蓋		凝灰岩	9×30	
77	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 火消壺	火消壺		凝灰岩	29×31	
76	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 重し	重し		安山岩	17×39	
75	高瀬1238-2	相川郷土博物館 (高瀬分館)	相川郷土博物館 すり鉢③	すり鉢		凝灰岩	16×34	

No.	所在地	寺社・施設名	固 有 名	分 類	記 年 銘	石 材	寸 法	銘 文
74	高瀬 1238 ― 2	相川郷土博物館 (高瀬分館)	相川郷土博物館 すり鉢 ②	すり鉢		凝灰岩	14 × 30	
73	高瀬 1238 ― 2	相川郷土博物館 (高瀬分館)	相川郷土博物館 すり鉢 ①	すり鉢		凝灰岩	16 × 39	
72	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 石流し ③	石流し		凝灰岩	92 × 55 × 14	
71	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 石流し ②	石流し		凝灰岩	82 × 50 × 15	
70	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 石流し ①	石流し		凝灰岩	85 × 50 × 19	
69	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 搗臼	搗臼		凝灰岩	39 × 43	
68	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 粉挽臼 セット	粉挽臼 上下		凝灰岩	下上 1213 × 2929	
67	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 粉挽臼 セット	粉挽臼 上下		凝灰岩	下上 1215 × 4040	
66	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 粉挽臼 下臼	粉挽臼 下		凝灰岩	12 × 35	
65	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 粉挽臼 上臼	粉挽臼 下		凝灰岩	17 × 49	
64	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 粉挽臼 上臼	粉挽臼 上		流紋岩	9 × 28	
63	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 鉦山臼 か 上臼	鉦山臼 上か		凝灰岩	16 × 33	
62	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 粉挽臼 上臼	粉挽臼 上		凝灰岩	18 × 42	
61	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 粉挽臼 上臼	粉挽臼 上		凝灰岩	12 × 30	
60	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 水槽	水槽		安山岩	57 × 162 × 60	
59	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 コタツのおとし	その他		凝灰岩	49 × 42 × 42	

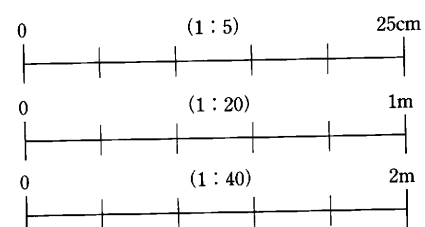
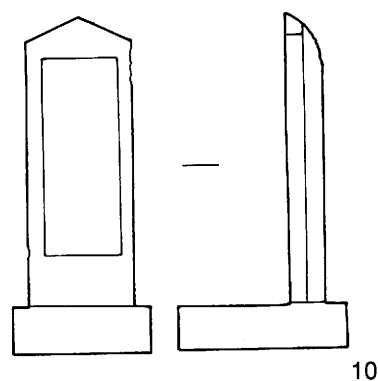
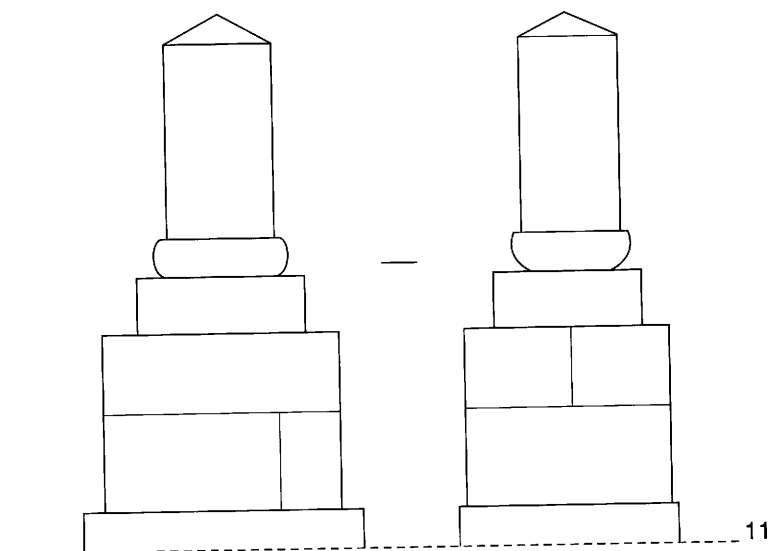
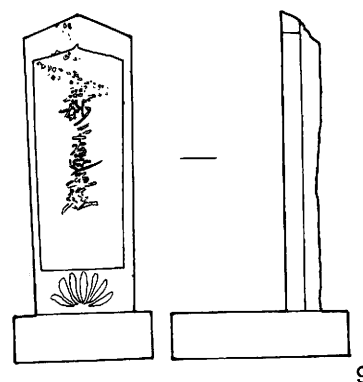
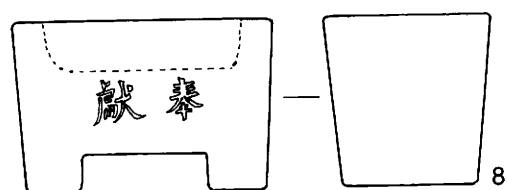
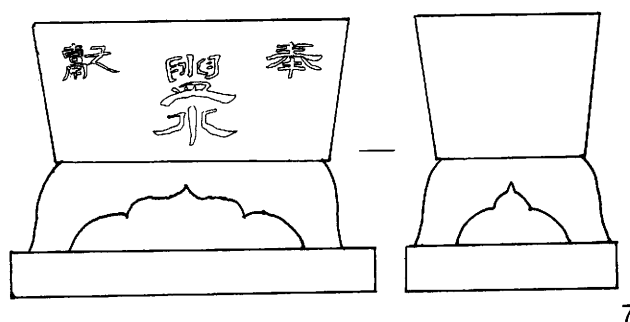
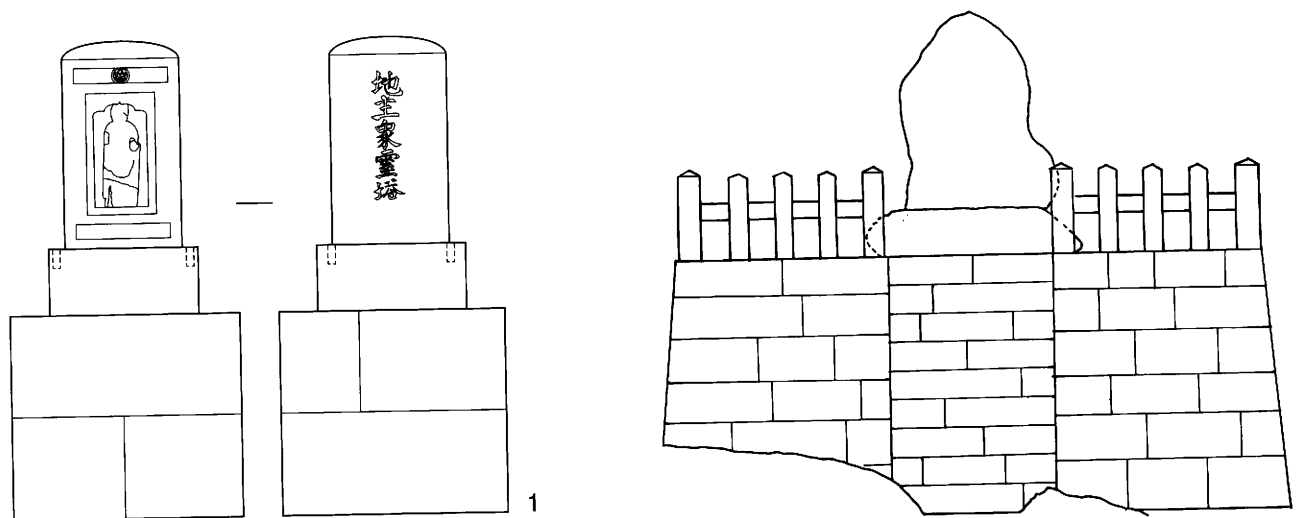
No.	所在地	寺社・施設名	固有 名	分類	記 年 銘	石 材	寸 法	銘 文
58	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 井戸蓋	井戸蓋		安山岩	70×50×7	
57	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 井戸枳 (円形)	井戸枳		凝灰岩	73×73×61	
56	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 井戸枳 (角形)	井戸枳		安山岩	83×86×53	
55	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 樋	樋		凝灰岩	172×36×28	
54	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石⑨	間知石		凝灰岩	44×25×24	
53	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石⑧	間知石		凝灰岩	29×30×20	
52	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石⑦	間知石		流紋岩	49×24×23	
51	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石⑥	間知石		流紋岩	40×25×18	
50	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石⑤	間知石		凝灰岩	33×25×18	
49	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石④	間知石		凝灰岩	49×26×18	
48	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石③	間知石		凝灰岩	32×20×21	
47	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石②	間知石		凝灰岩	52×28×21	
46	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 間知石①	間知石		凝灰岩	43×25×21	
45	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 板石④	板石		安山岩	90×42×15	
44	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 板石③	板石		安山岩	90×47×20	
43	相川坂下町20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 板石②	板石		安山岩	92×72×22	

No.	所在地	寺社・施設名	固有 名	分 類	記 年 銘	石 材	寸 法	銘 文
42	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 板石①	板石		安山岩	63×30×11	
41	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑦	土台石		安山岩	75×12×13	
40	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑩	土台石		安山岩	78×14×11	
39	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑫	土台石		安山岩	53×14×12	
38	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑬	土台石		安山岩	62×16×12	
37	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑭	土台石		安山岩	68×16×11	
36	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑮	土台石		安山岩	73×11×11	
35	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑯	土台石		安山岩	75×16×12	
34	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑰	土台石		安山岩	81×15×12	
33	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑱	土台石		安山岩	74×13×11	
32	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑲	土台石		安山岩	87×17×12	
31	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石⑳	土台石		安山岩	95×16×11	
30	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石㉑	土台石		安山岩	87×15×11	
29	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石㉒	土台石		安山岩	57×15×9	
28	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石㉓	土台石		安山岩	50×14×13	
27	相川坂下町 20	相川郷土博物館	相川郷土博物館 土台石㉔	土台石		安山岩	65×28×21	

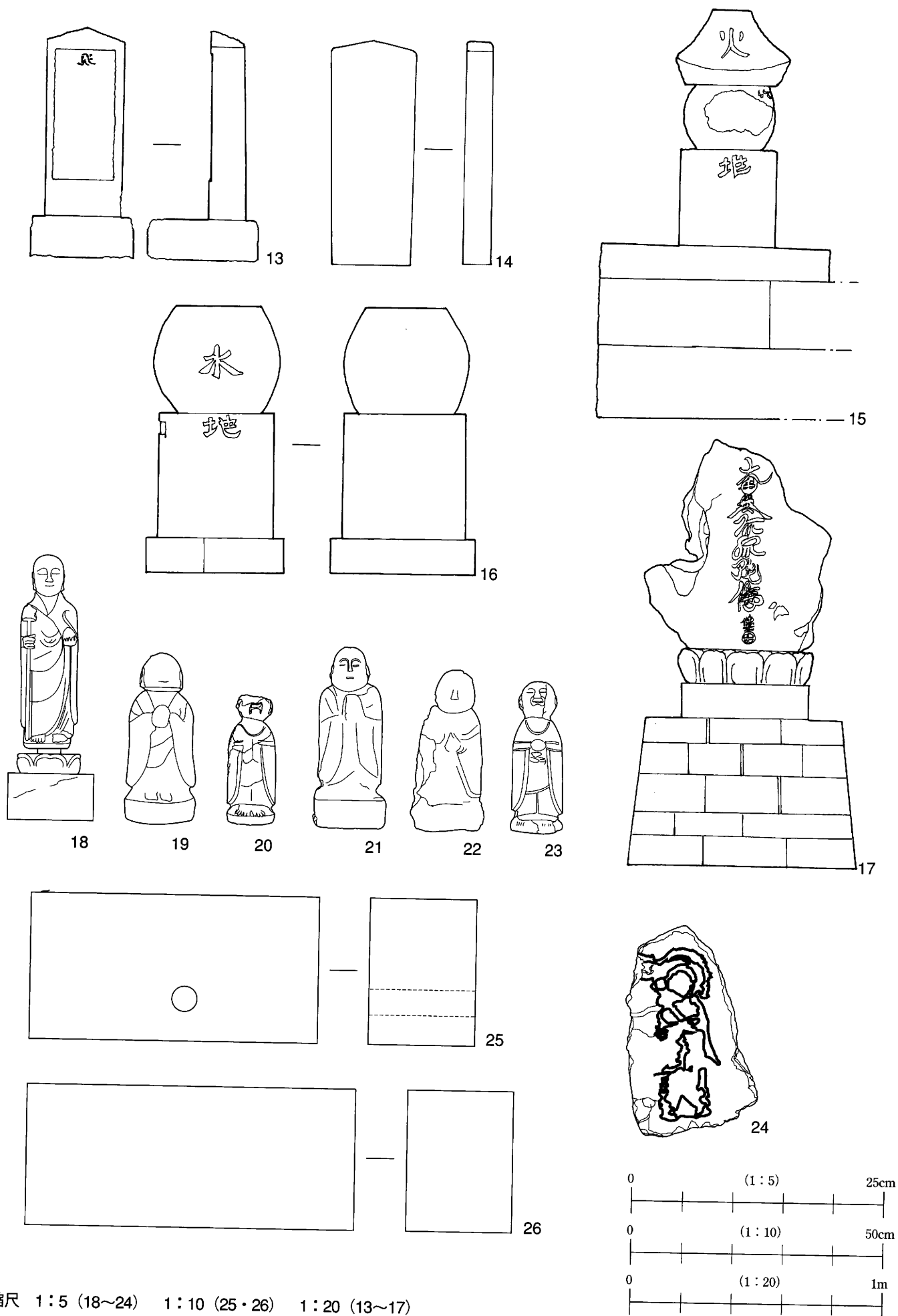
~ 192 ~

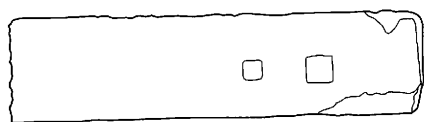
16	15	14	13	12	11	10	9	8	No.
相川柴町 79 13	相川柴町 79 13	相川柴町 79 13	相川柴町 79 13	相川水金町	下相川 285	下相川 285	下相川 285	下相川 322	所在地
浄土宗 水金山 専光寺跡	浄土宗 水金山 専光寺跡	浄土宗 水金山 専光寺跡	浄土宗 水金山 専光寺跡		戸蓮宗 戸河山 本興寺	戸蓮宗 戸河山 本興寺	戸蓮宗 戸河山 本興寺	戸河神社	寺社・施設名
常照院心譽居士 墓	専光寺跡 五輪塔	地役人 和田与右衛門 墓	地役人 和田市左衛門 墓	相川水金町 石橋(アーチ橋)	本興寺 情死の墓	石屋 本間又右衛門 墓	石屋 山本平三郎 墓	戸河神社 手洗鉢②	固有 名
五輪塔	五輪塔	板石形石塔	板石形石塔	石橋	角柱形石塔	板石形石塔	板石形石塔	手洗鉢	分類
延宝五年 (1677)	寛文十年 (1670)	元禄十年 (1697)	元禄五年 (1692)		安政六年 (1859)	元禄十二年 (1699)	元禄五年 (1692)	天保二年 (1831)	記 年 銘
安山岩	安山岩	安山岩	流紋岩	凝灰岩 頁岩	安山岩	流紋岩	流紋岩	安山岩	石 材
105 × 46 × 46	171 × 36 × 38	89 × 34 × 12	91 × 30 × 15	160 × 170 × 285	142 × 28 × 26	92 × 28 × 10	92 × 28 × 10	45 × 68 × 44	寸 法
(正面) 水輪 水 (正面) 地輪 地 延宝五 常照院心譽居士 了源 九月十八日	(正面) 火輪 火 (正面) 地輪 地 寛文十年 〇譽信女 敬白 戊〇八月廿九日	(正面) 塔身 元禄十年 一法〇〇昌譽了全信士靈位 五月二十三日	(正面) 塔身 元禄五年 覺譽〇源居士〇位 申十月九日		(正面) 塔身 安政六年 情死之墓 五月一日 (正面) 水金町宿屋中 台石	(正面) 塔身 本間又右衛門元禄十二〇〇年 玄性院宗〇〇〇〇 三月十三日	(正面) 塔身 南無妙法蓮華經	(正面) 天保二卯年 奉 獻 吉田周明	銘 文

7	6	5	4	3	2	1	No.
下相川 322	下相川 322	下相川 322	下相川	下相川	下相川 852	下相川 1-2	所在地
戸河神社	戸河神社	戸河神社					寺社・施設名
戸河神社 手洗鉢①	戸河神社 石垣	富崎 線彫不動磨崖仏	下相川 石蔵	富崎 鬼瓦・棟石	新潟県指定文化財 (記念物 史跡) 相川鉾山遺跡 鎮目奉行の墓 佐渡奉行 鎮目市左衛門惟明墓	伝真光寺元屋敷 地主衆霊塔	固有名
手洗鉢	石垣	磨崖仏	石蔵	鬼瓦・棟石	自然石石塔	その他	分類
文久四年 (1864)					弘化二年 (1845)	文政八年 (1825)	記年銘
安山岩		安山岩			流紋岩	安山岩 凝灰岩	石材
60.5 × 82 × 48		54 × 36			320 × 424 × 440	124 × 59 × 59	寸法
(正面) 文久四歳在甲子正月出来 奉 盥水 献 当所若者中		(正面) 備中国 良海上人 武州 鏝上人 樵 乞 竹 林			(裏) (正面) 鎮目君之墓 (裏) 君姓 源諱惟明稱市左衛門元 和四年戊午為佐渡奉行寛永 四年丁卯七月十四日卒干州 府寿六十有四年遺命葬于此封 而不碑云 青岳山總源寺僧世 掌持掃故寺主真乘恐後代或 闕其尊崇欲建石以表之与君 之遺愛在州人者謀未成而 化法嗣虎道繼其志建之時 弘化乙巳八月也	(裏) (左) 其佛本願力聞名欲往生 地主衆靈塔 皆悉到彼國自致□退転 文政八乙酉 当地主二代目 野田庄右衛門 三月廿八日 建之 石工 一ノ谷村 仙次郎	銘文



縮尺 1:5 (5) 1:20 (1・7~11) 1:40 (2)





27



34



28



35



29



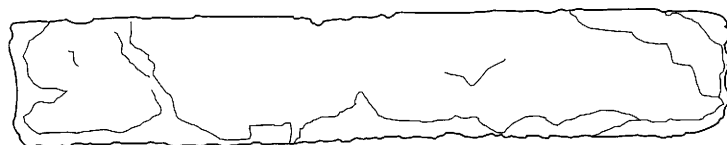
36



30



37



31



38



32



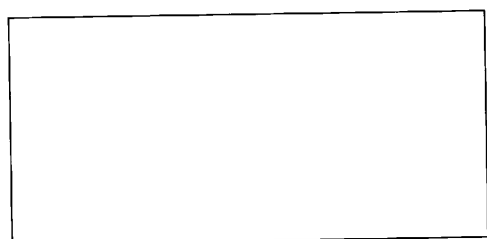
39



33



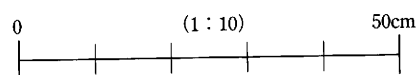
40

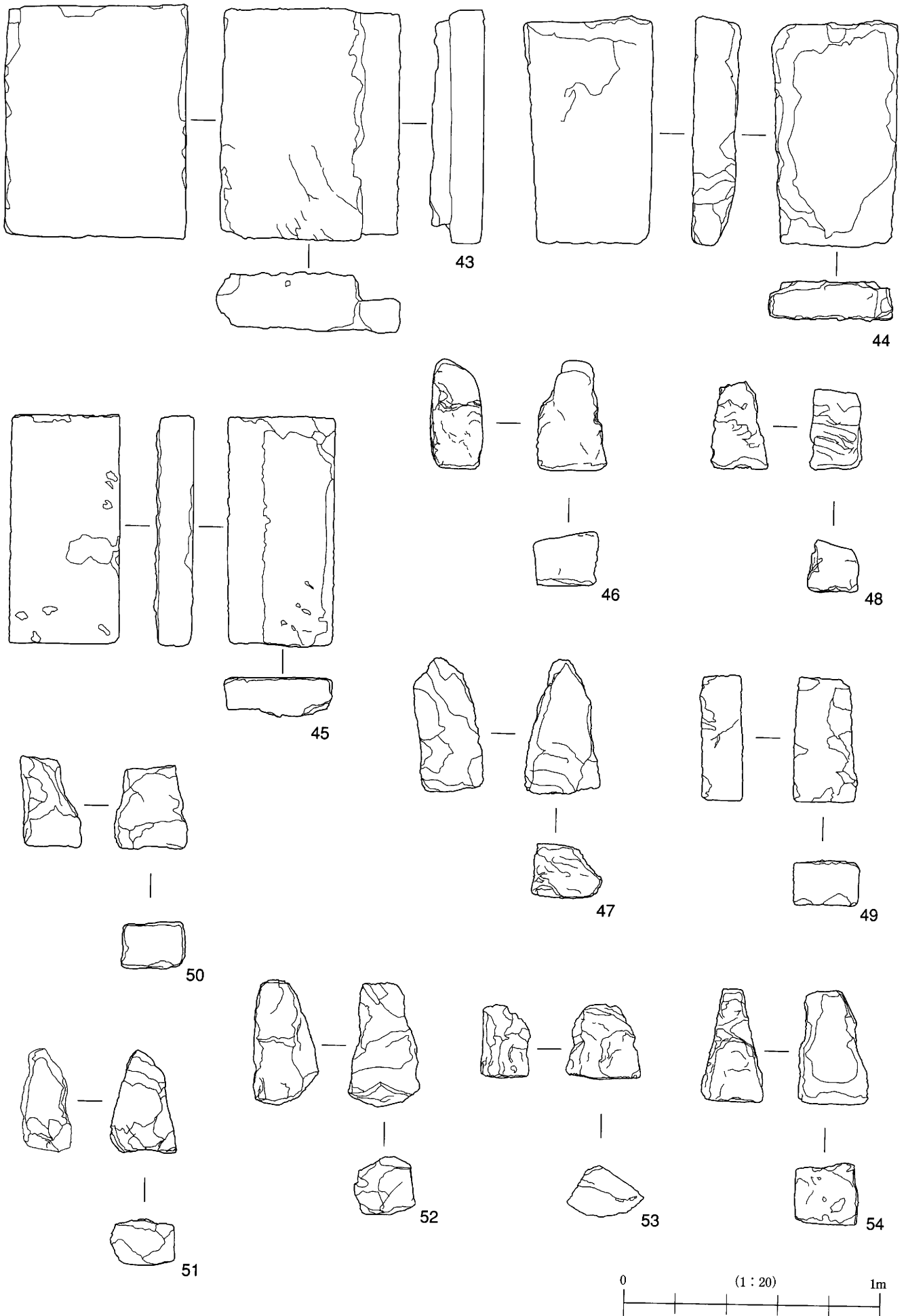


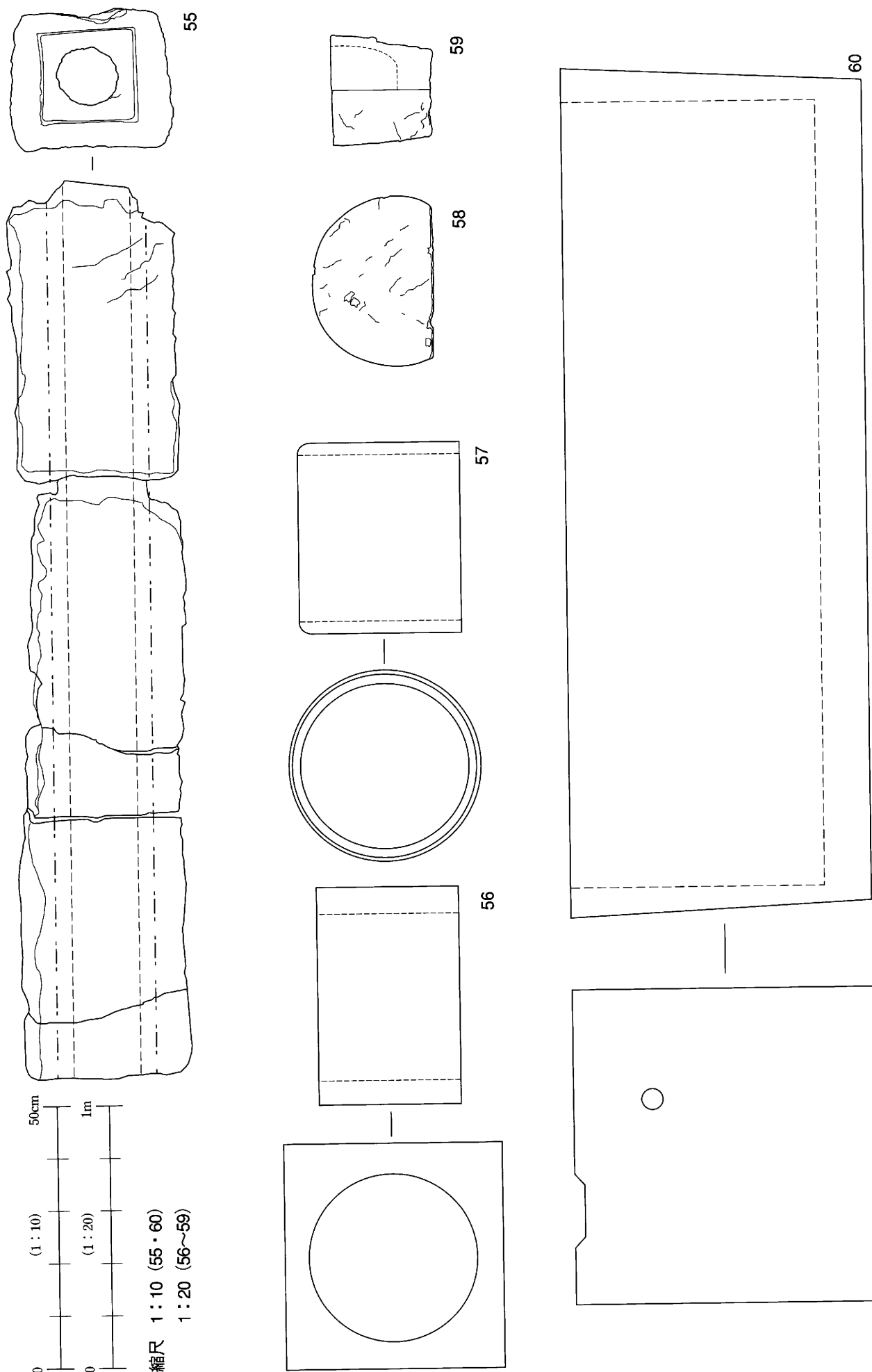
42

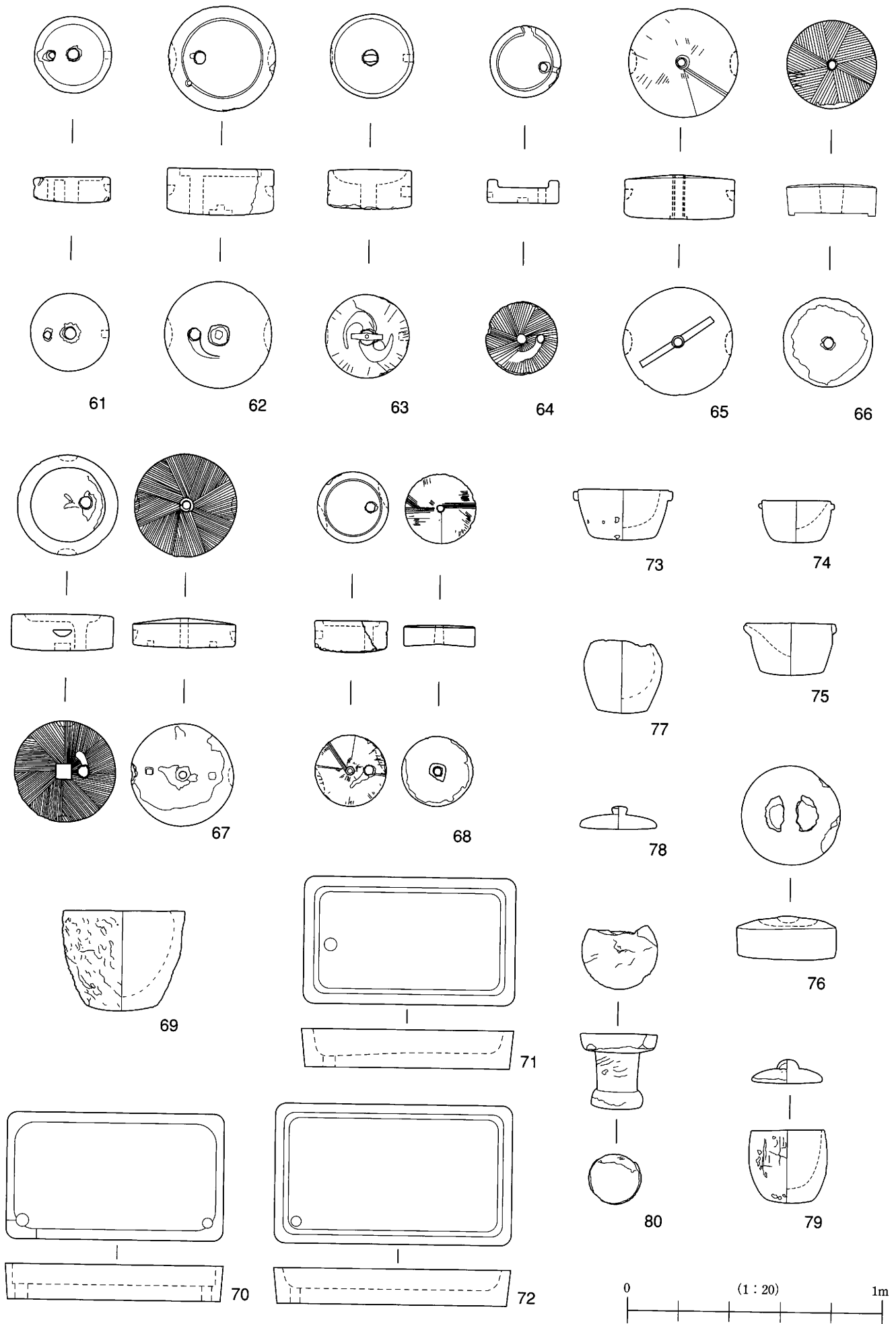


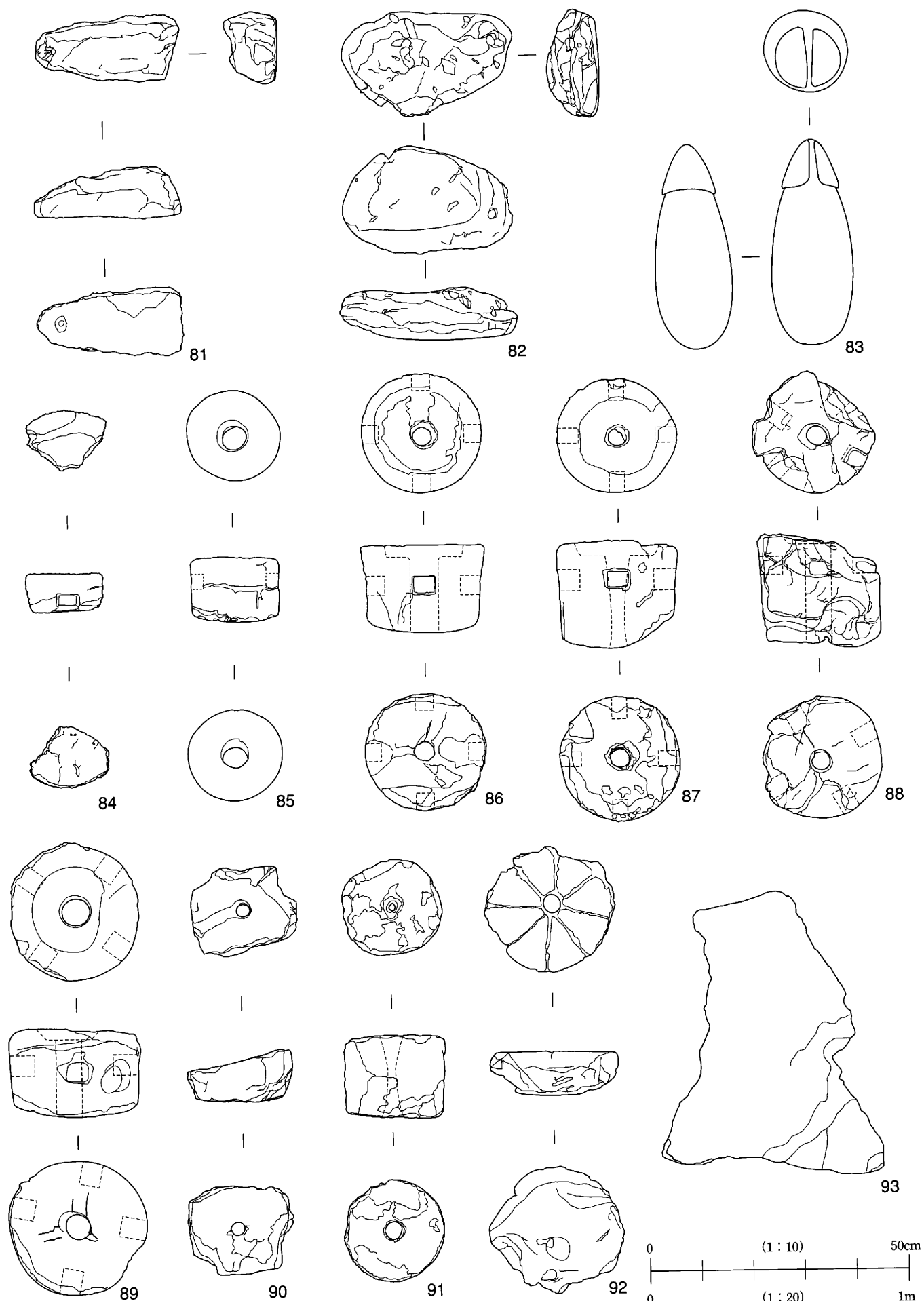
41



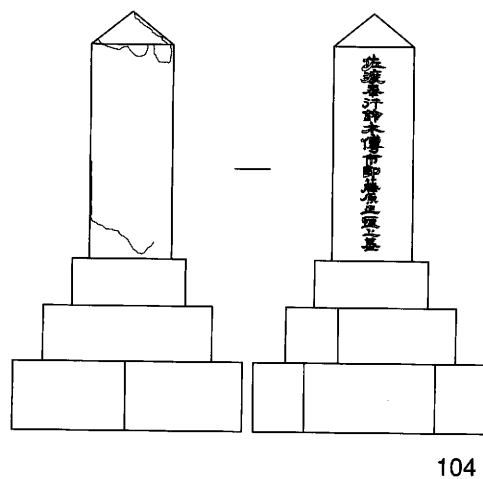
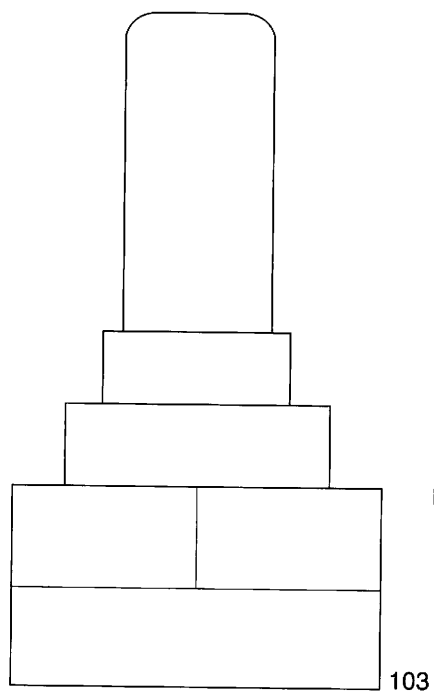
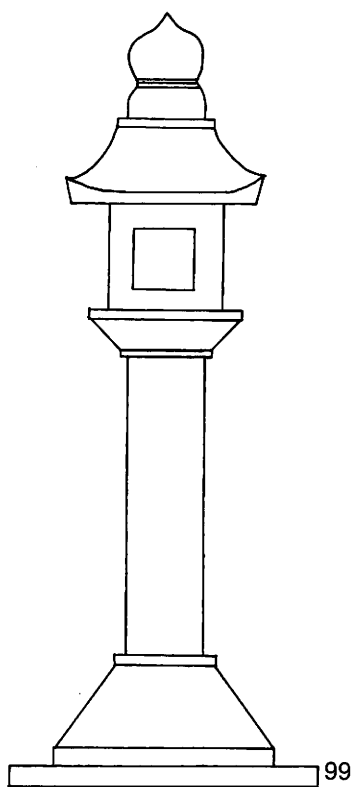
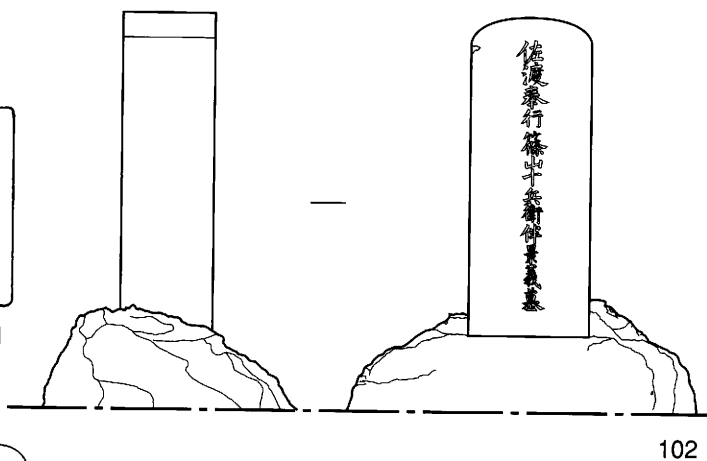
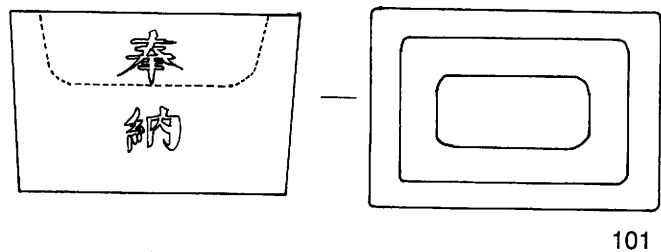
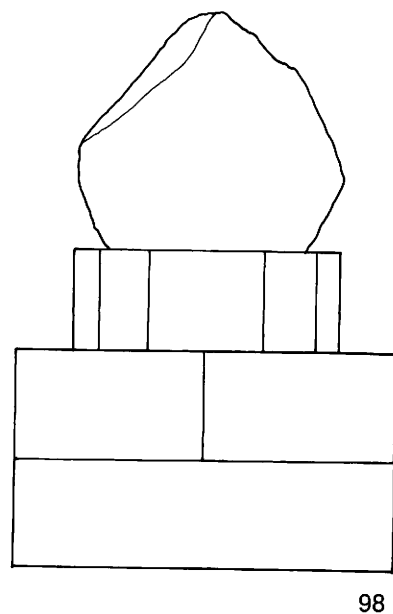
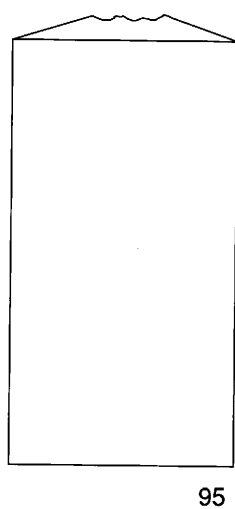
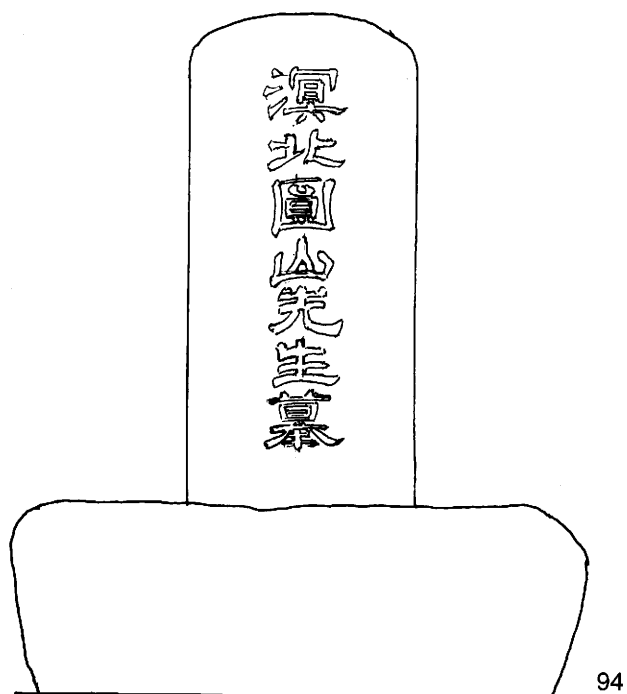




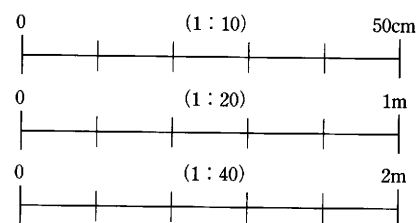


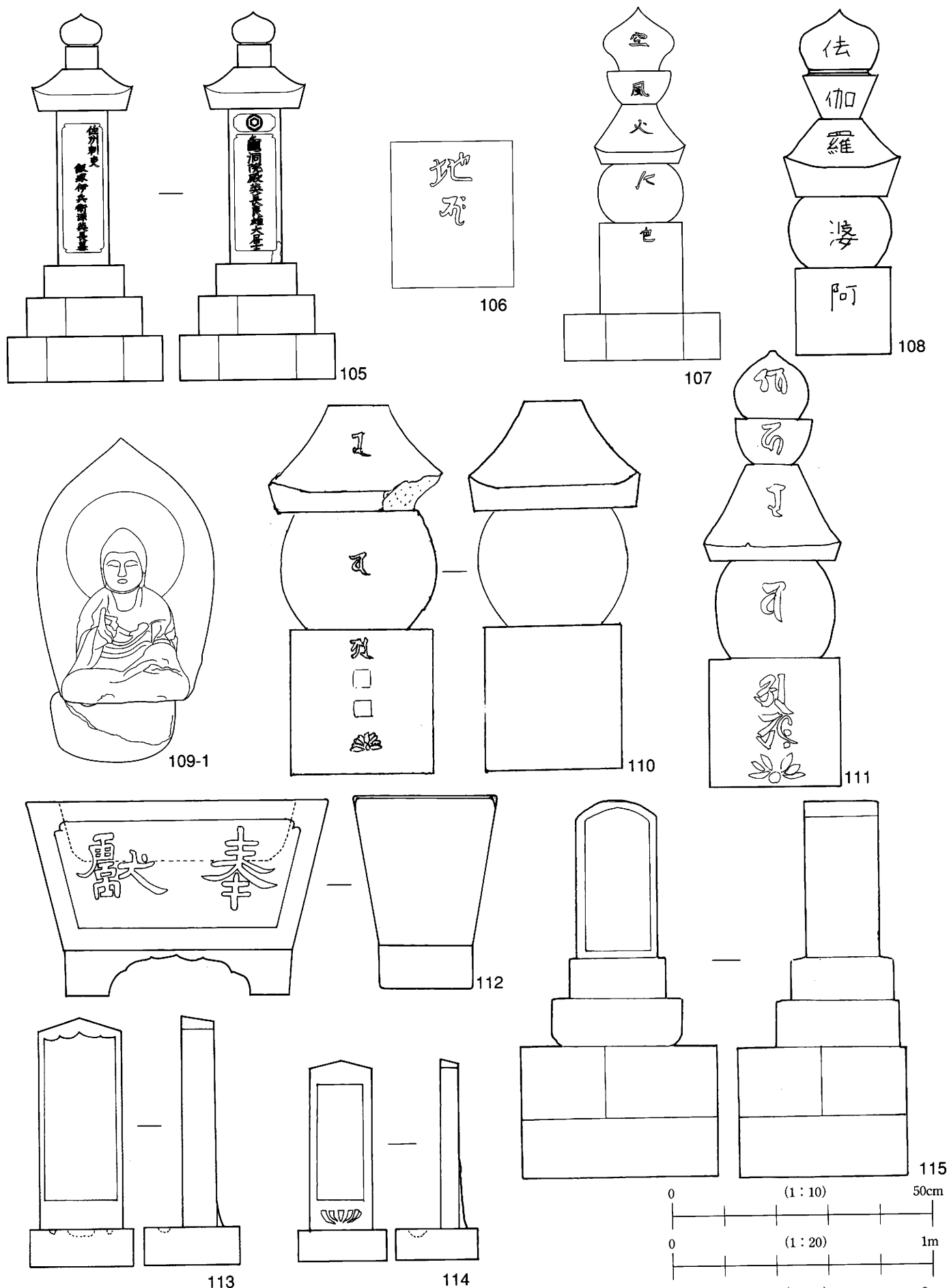


縮尺 1:10 (83・93) 1:20 (81・82・84~92)

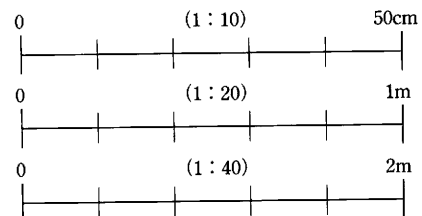


縮尺 1:10 (95) 1:20 (94・98・99・101・103)
1:40 (102・104)



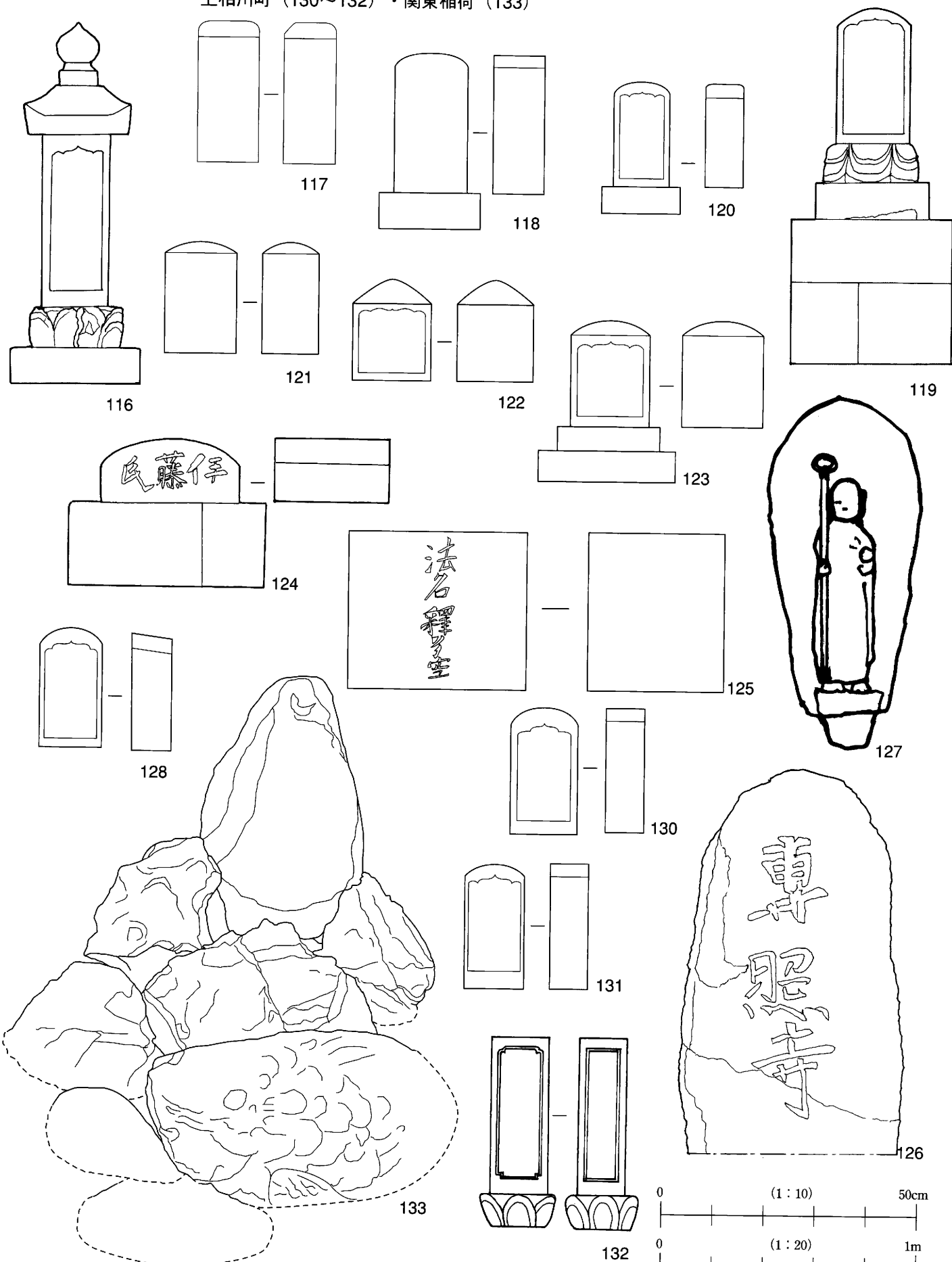


縮尺 1:10 (109) 1:20 (106・108・110~115)
1:40 (105・107)



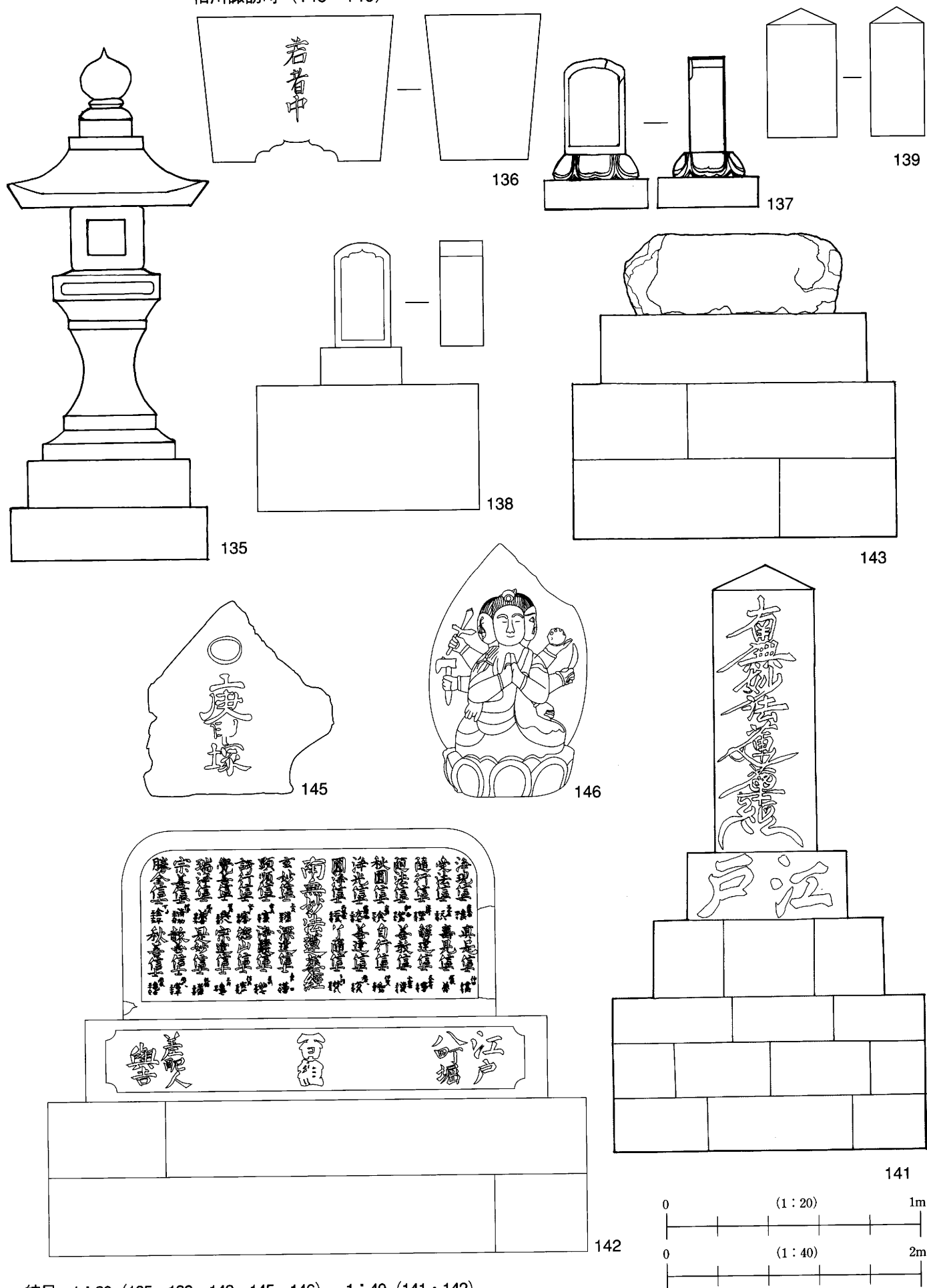
図版10

法泉寺 (116) ・ 万宝院跡 (117) ・ 専照寺跡 (118~126) ・ 妙音寺跡 (127・128) ・
上相川町 (130~132) ・ 関東稲荷 (133)

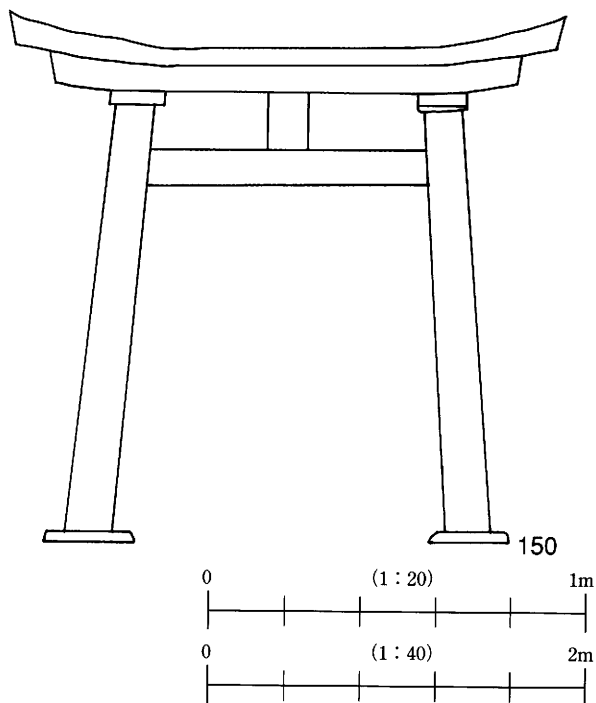
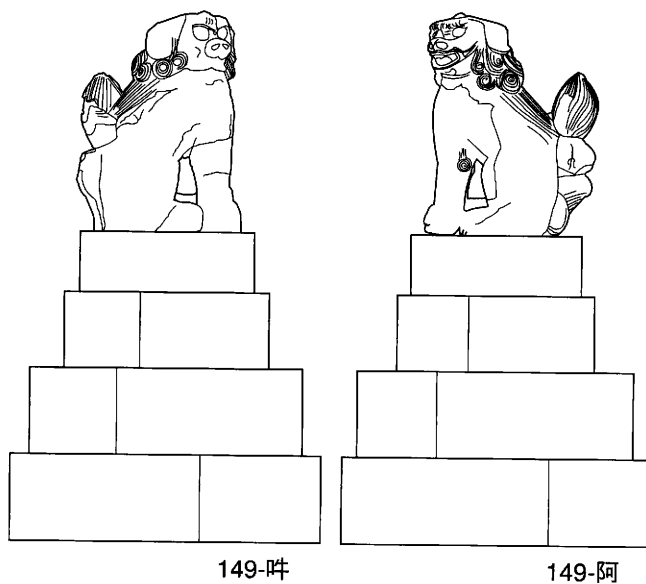
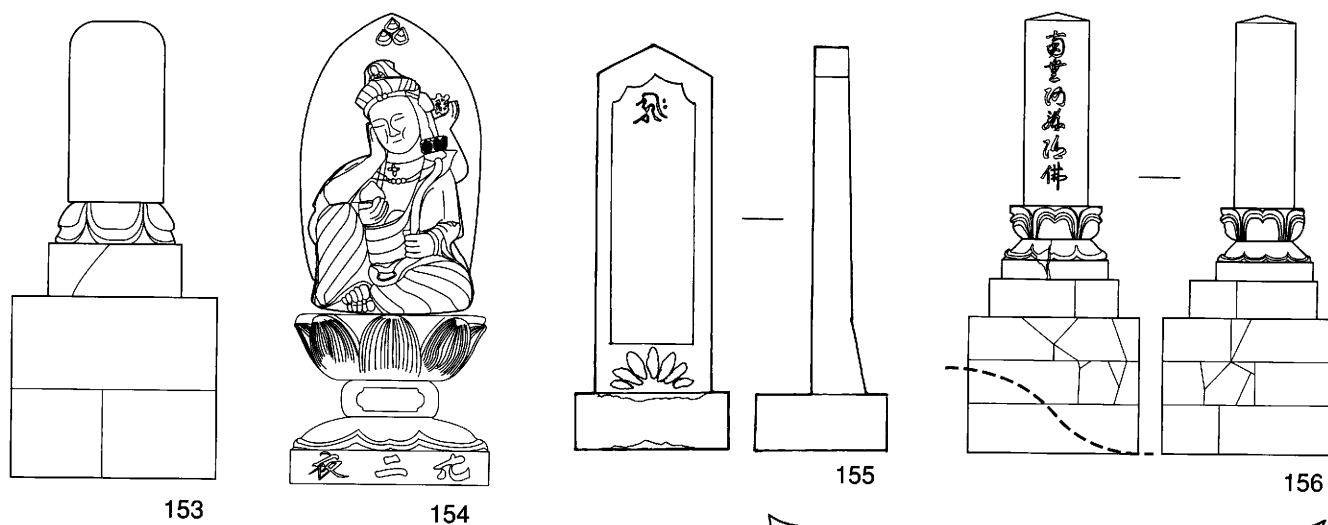
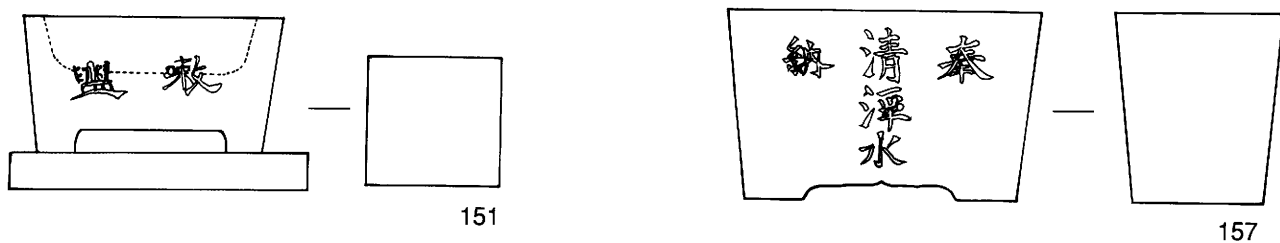
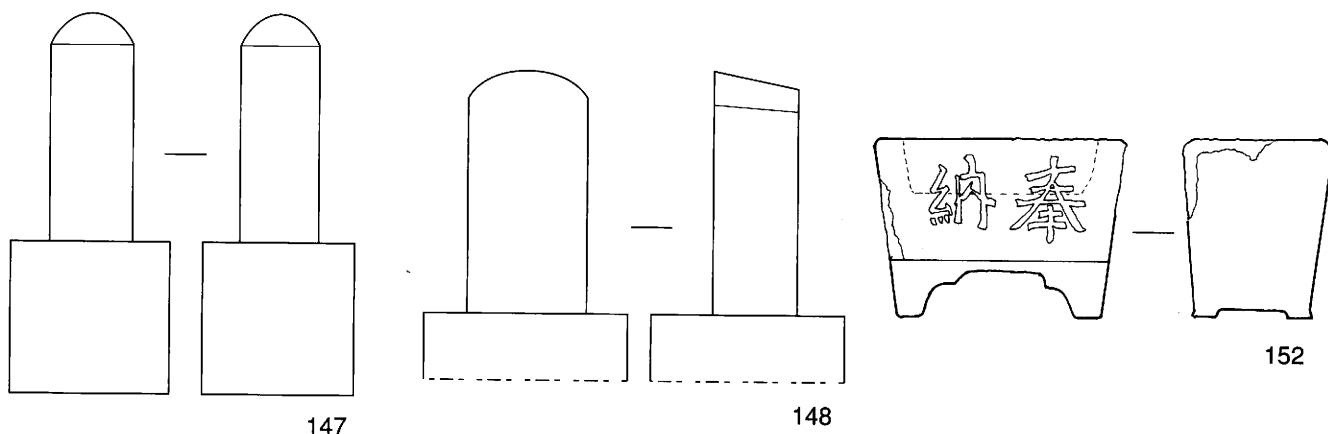


縮尺 1:10 (125・127)

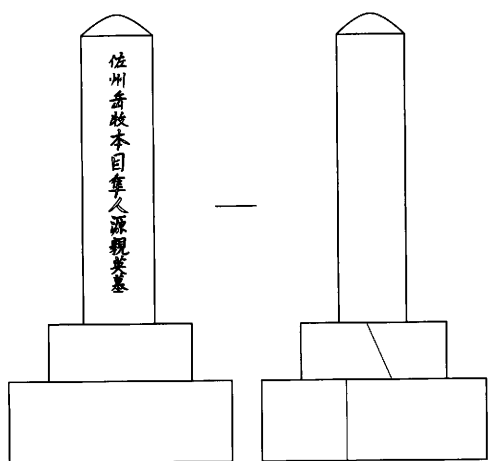
1:20 (116~124・126・128・130~132) 1:40 (133)



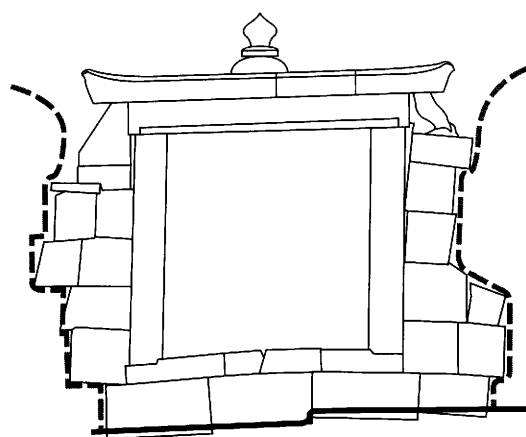
縮尺 1:20 (135～139・143・145・146) 1:40 (141・142)



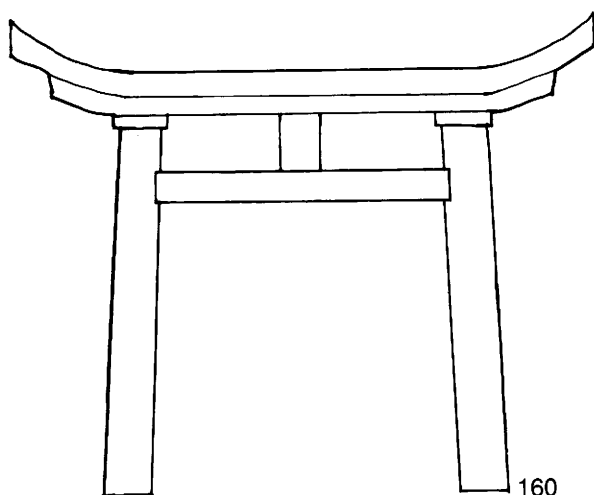
縮尺 1:20 (147～149・151～155・157) 1:40 (150・156)



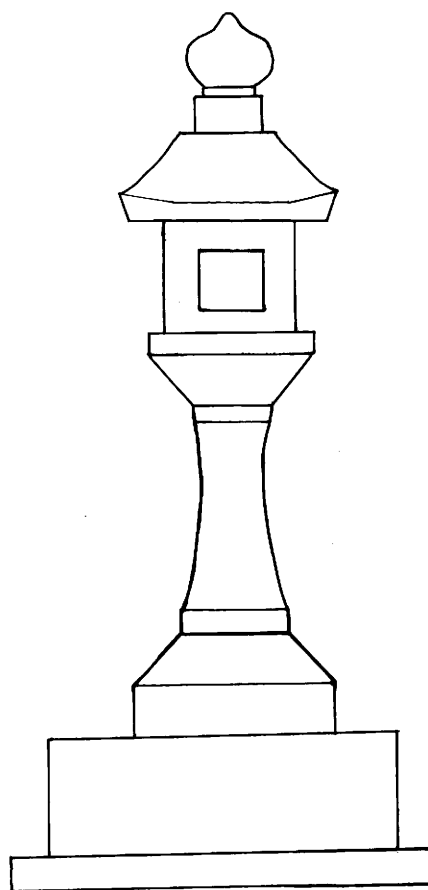
158



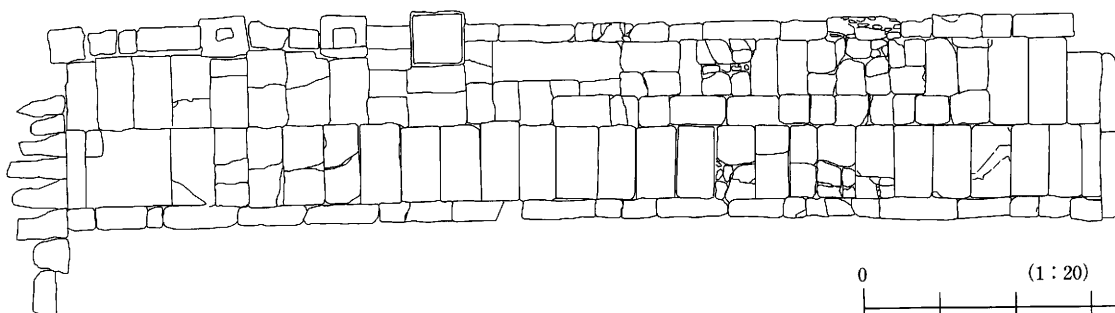
159



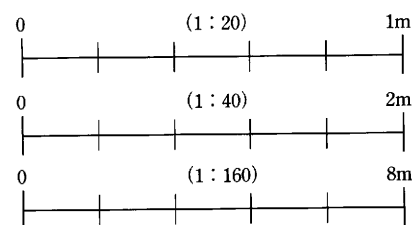
160



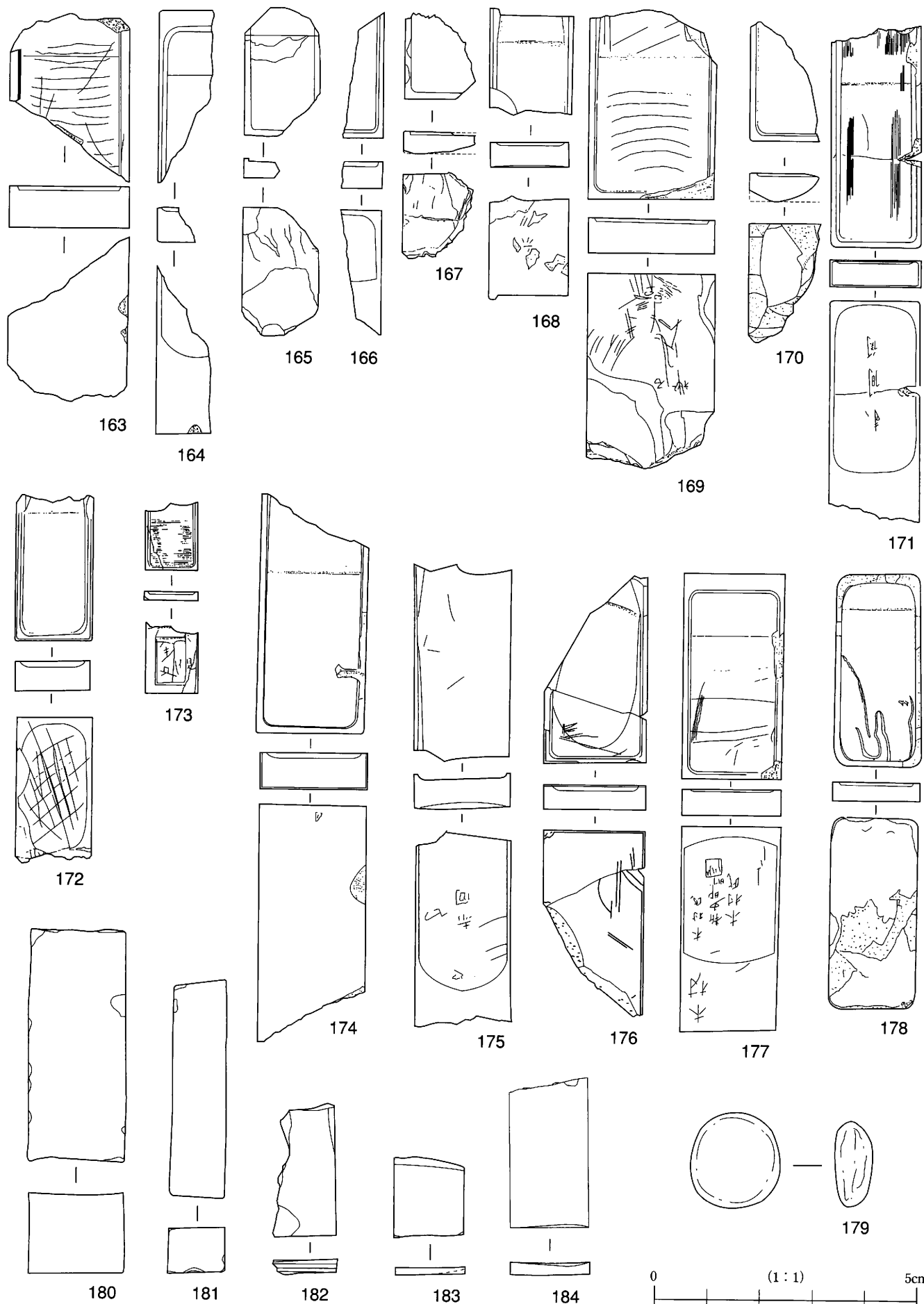
161



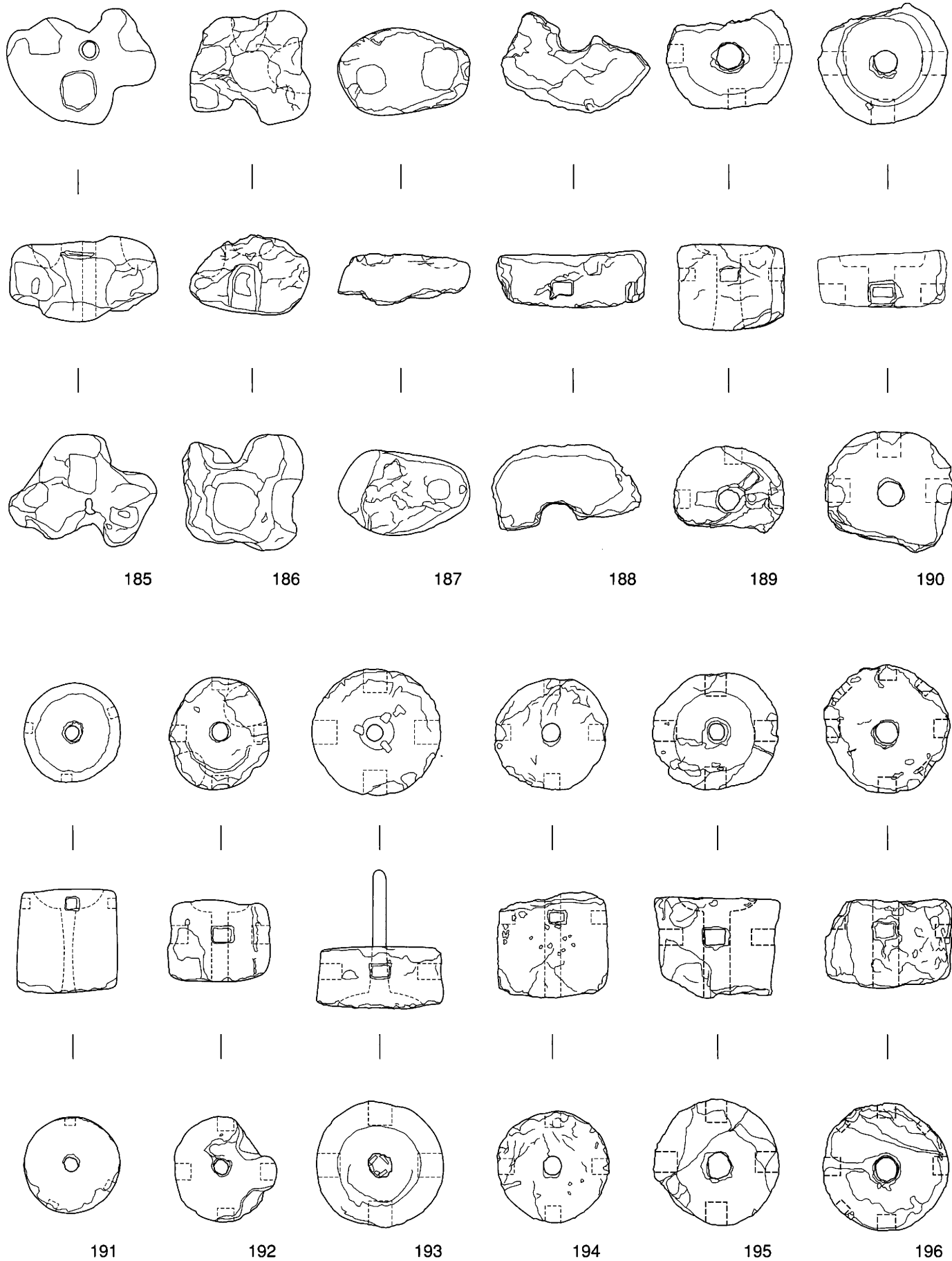
162



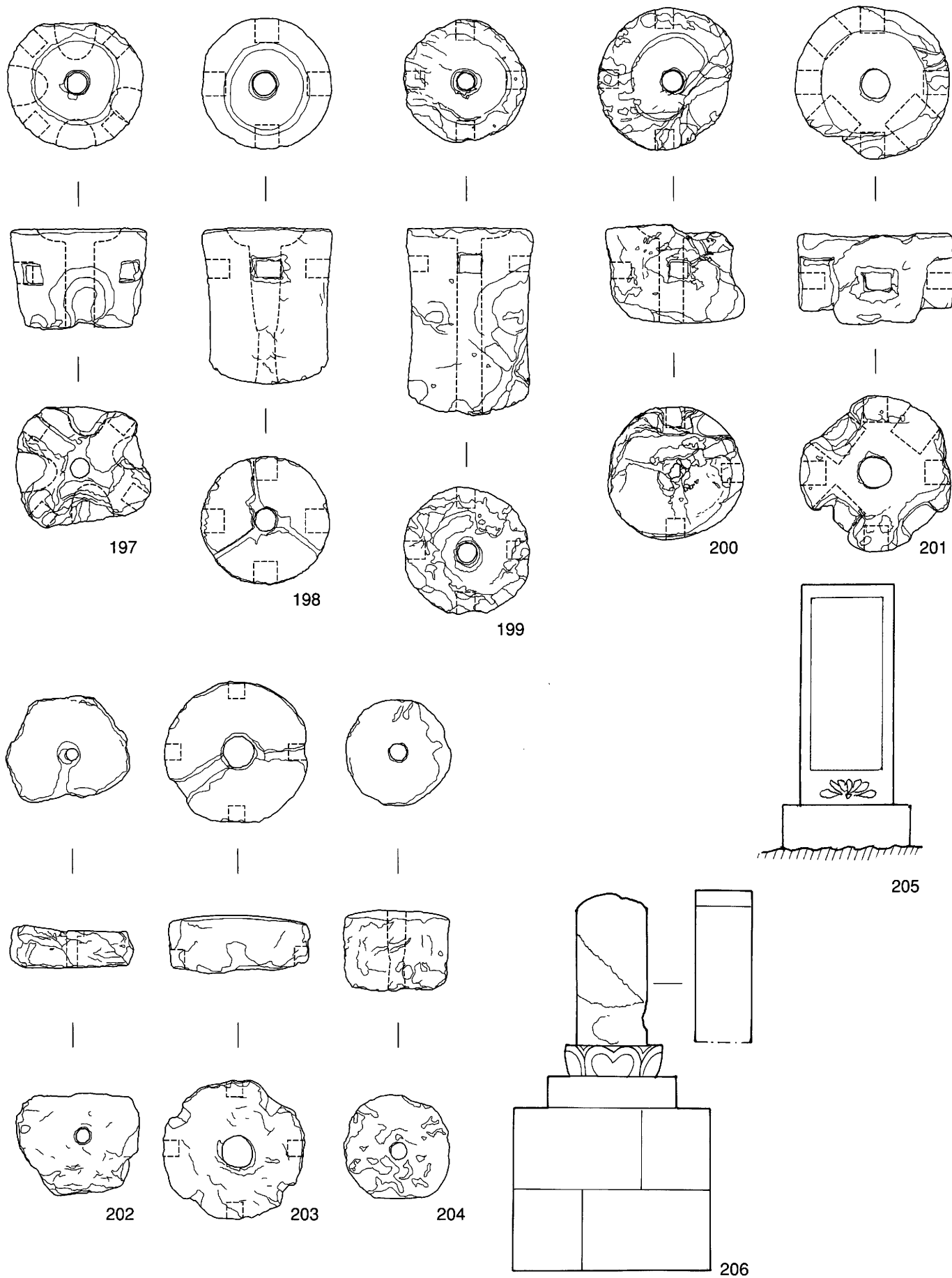
縮尺 1 : 20 (161) 1 : 40 (158~160) 1 : 160 (162)



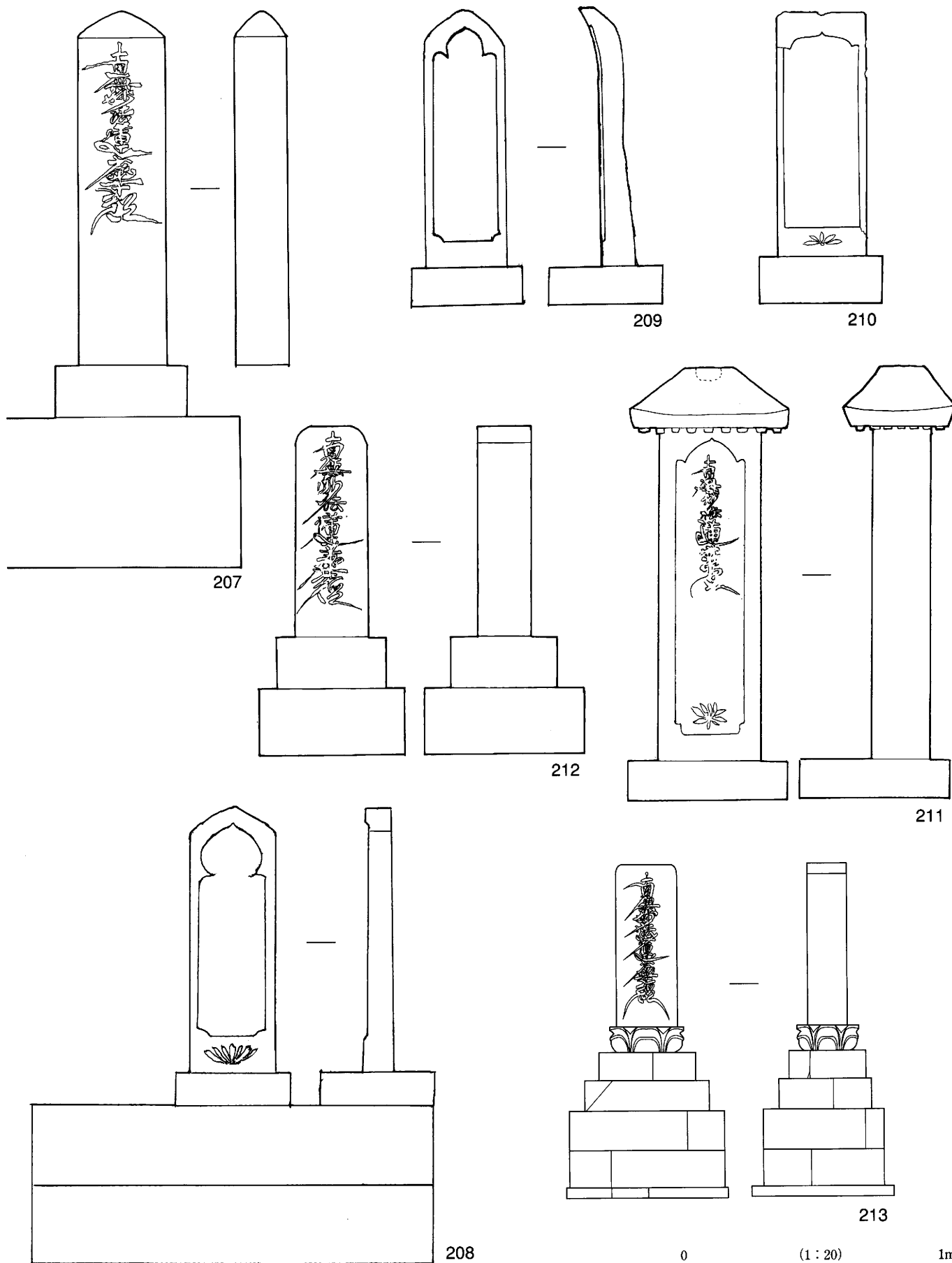
縮尺 1:1 (179) 1:3 (163~178・180~184)



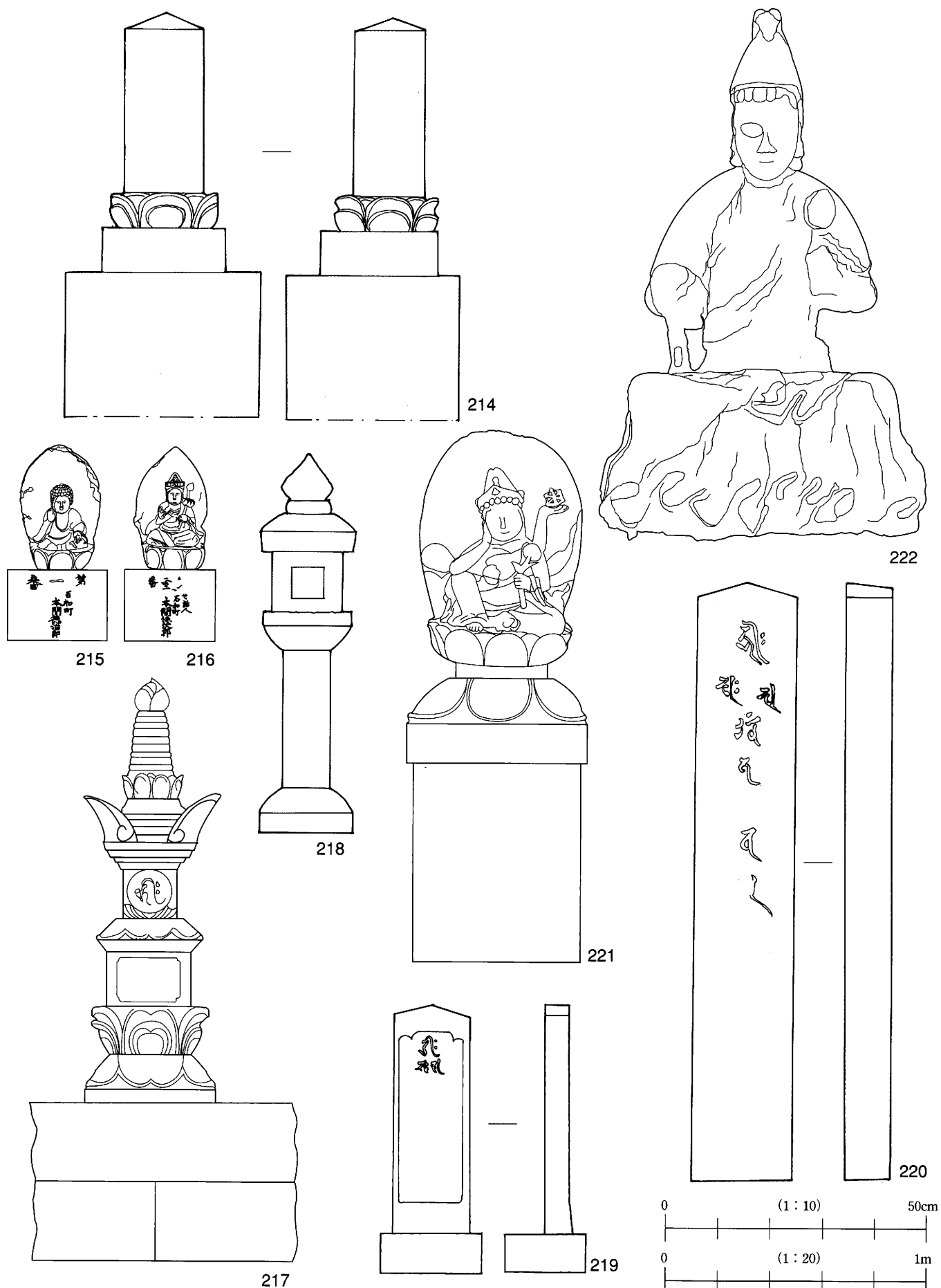
0 (1 : 20) 1m



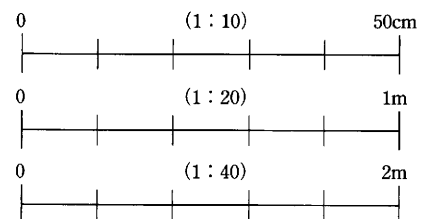
0 (1:20) 1m

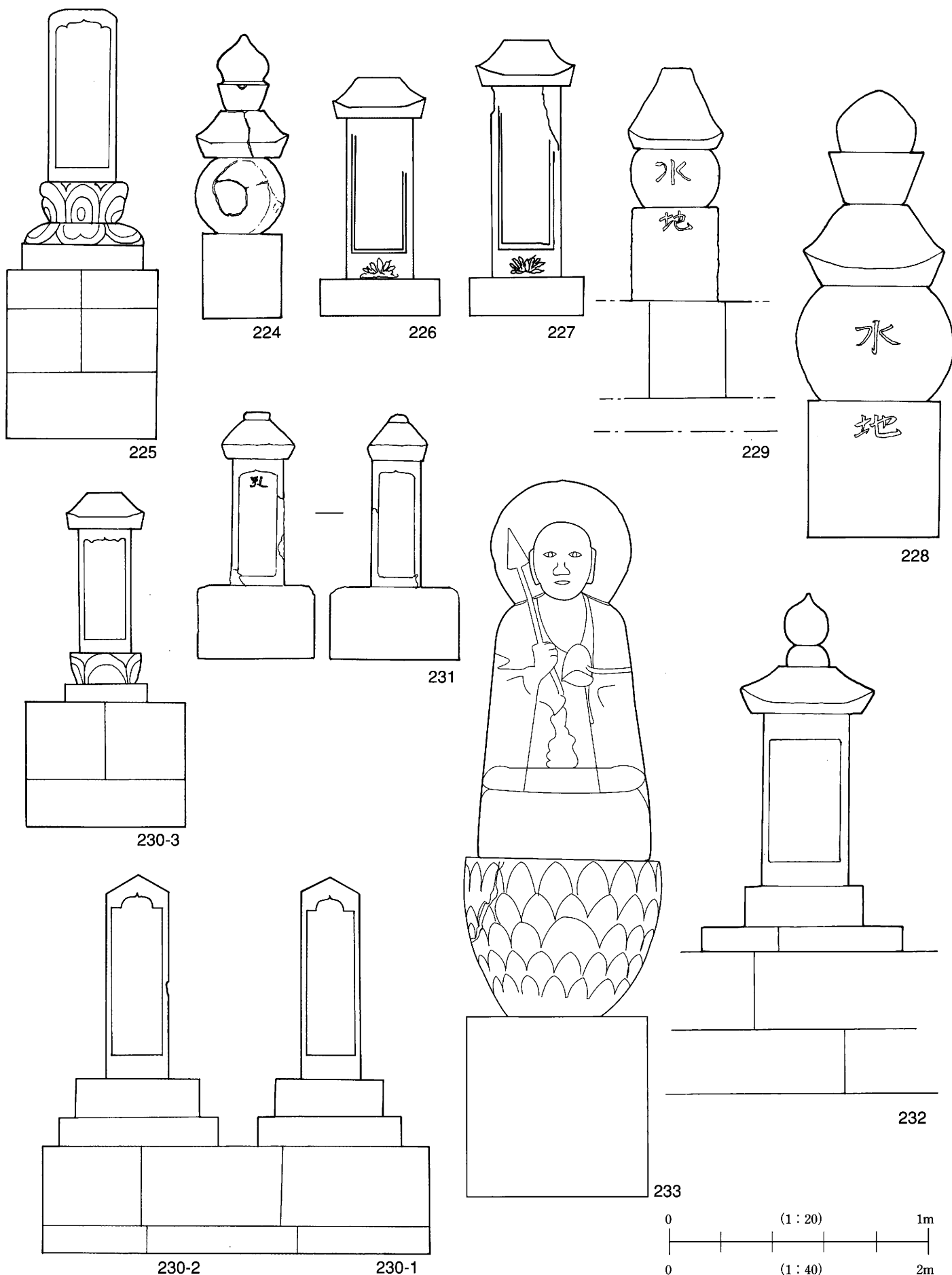


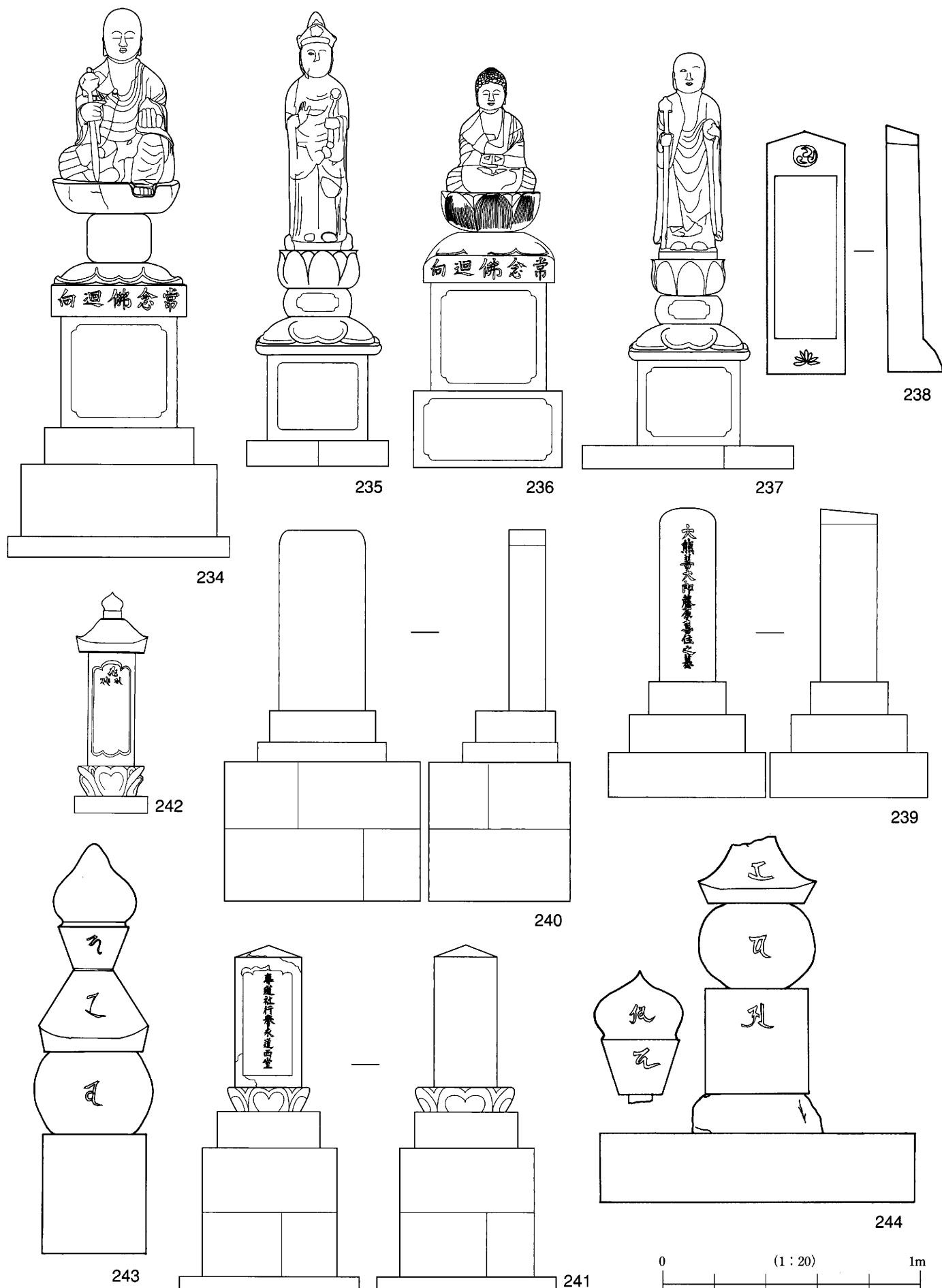
縮尺 1:20 (207~210) 1:40 (211~213)



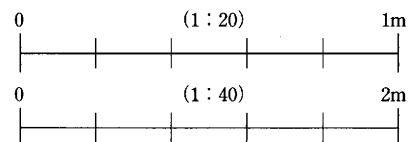
縮尺 1 : 10 (221・222) 1 : 20 (214~216・218・219)
1 : 40 (217・220)

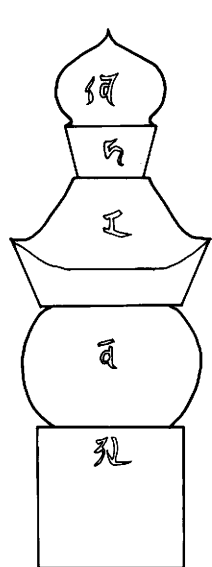




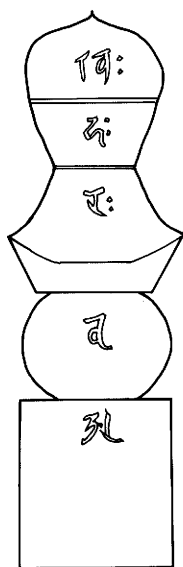


縮尺 1 : 20 (234~238・240・241・243)
1 : 40 (239・242・244)

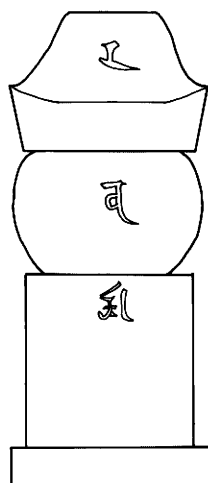




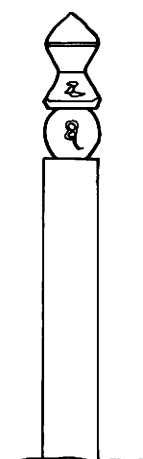
245



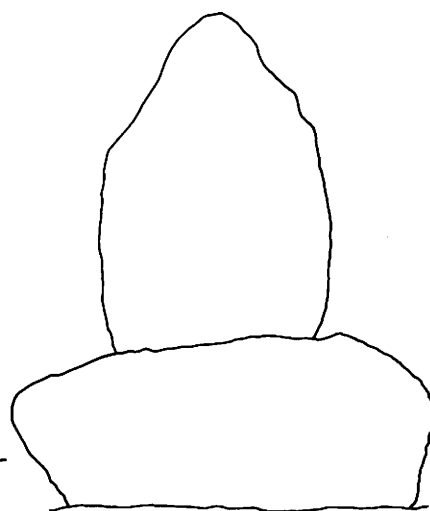
246



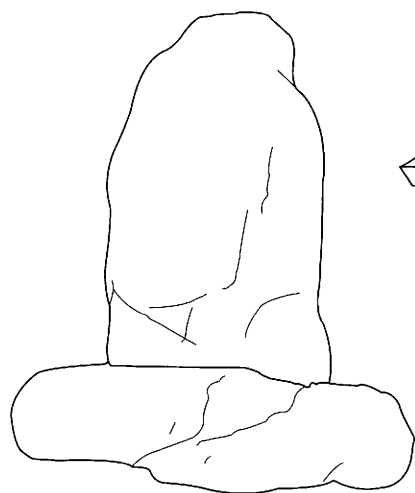
247



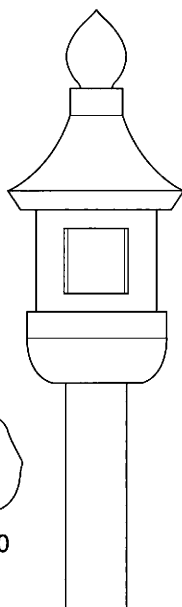
248



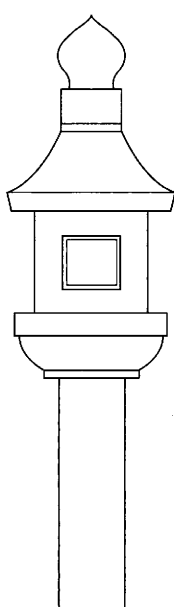
249



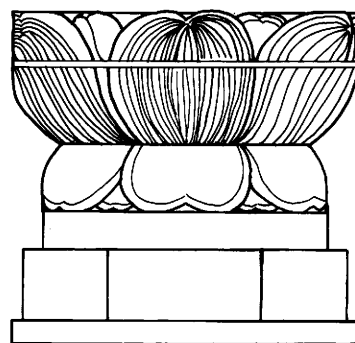
250



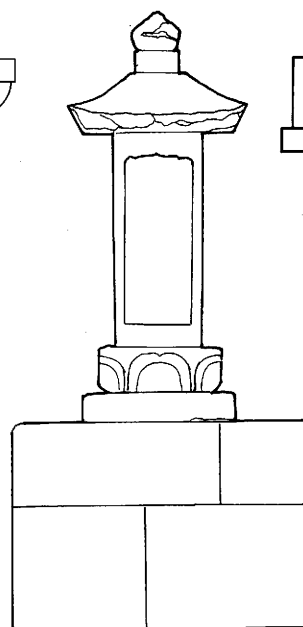
251-1



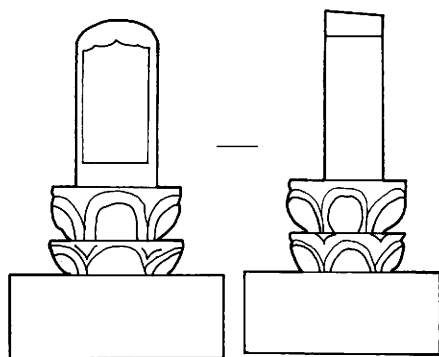
251-2



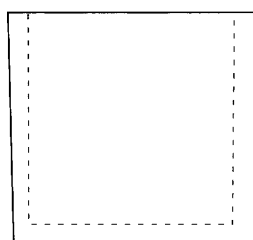
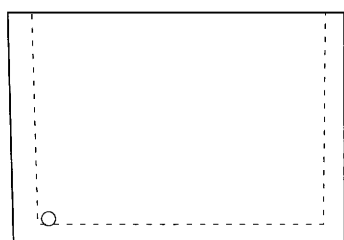
252



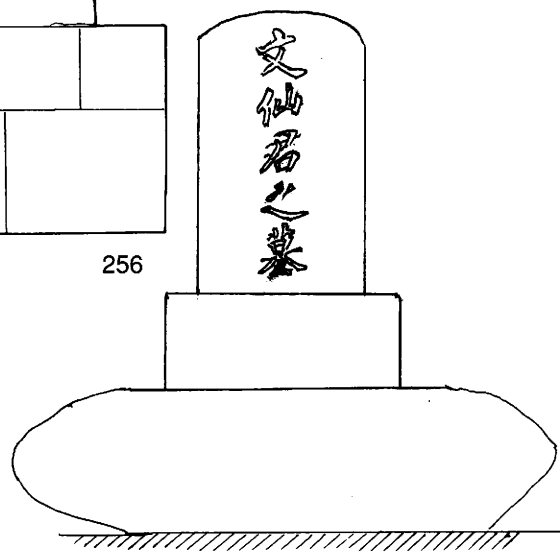
256



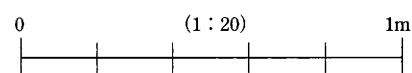
254

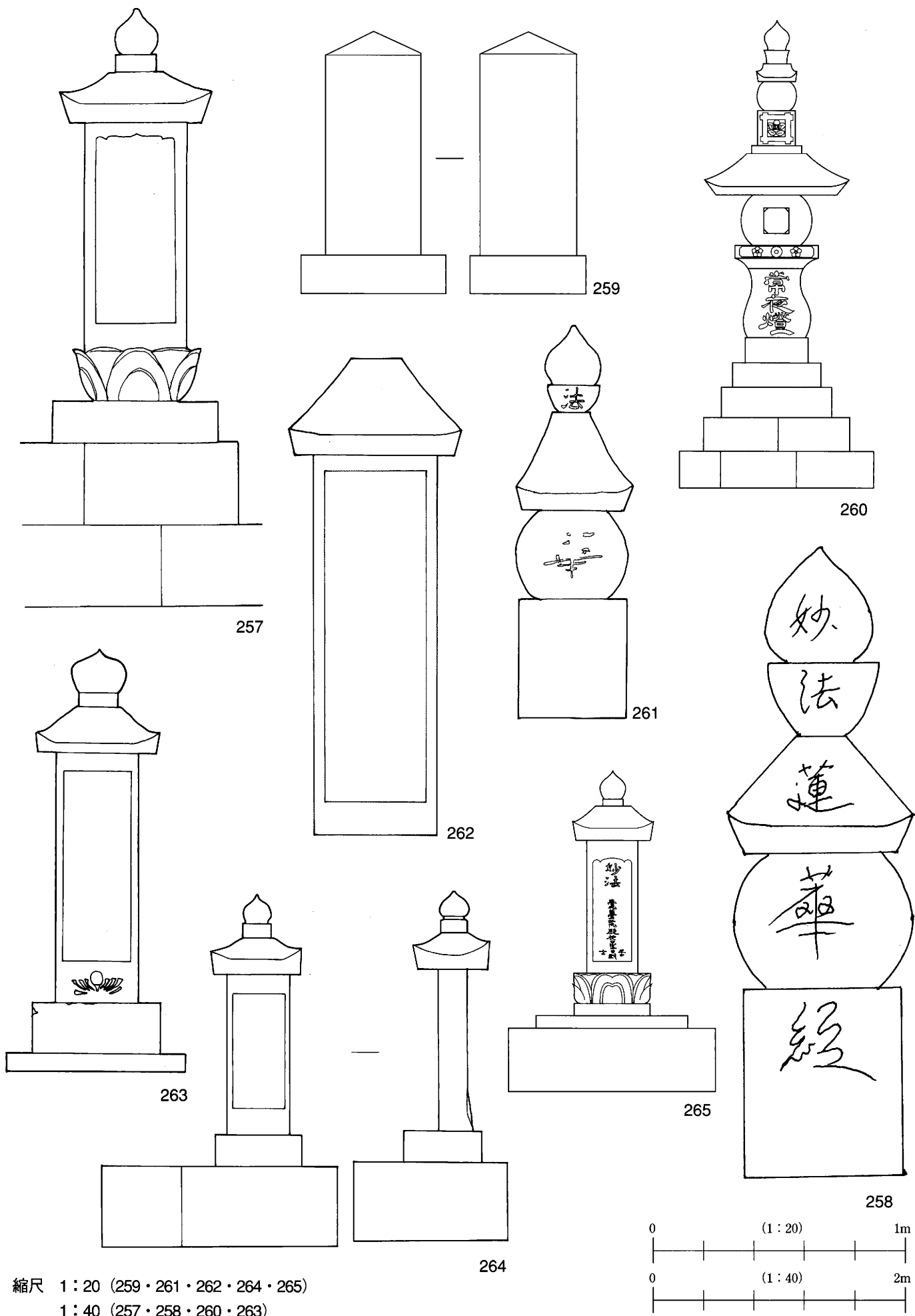


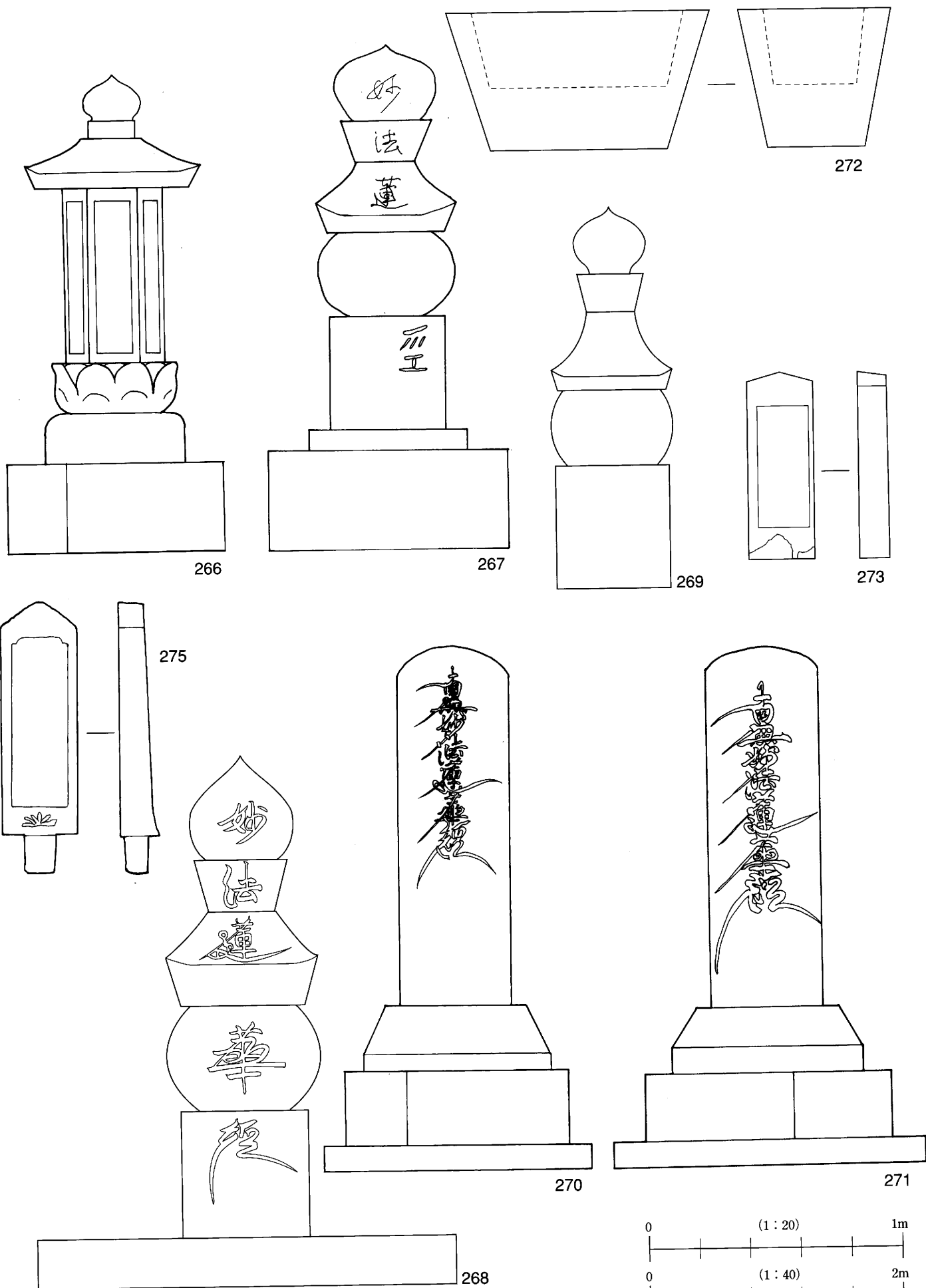
253



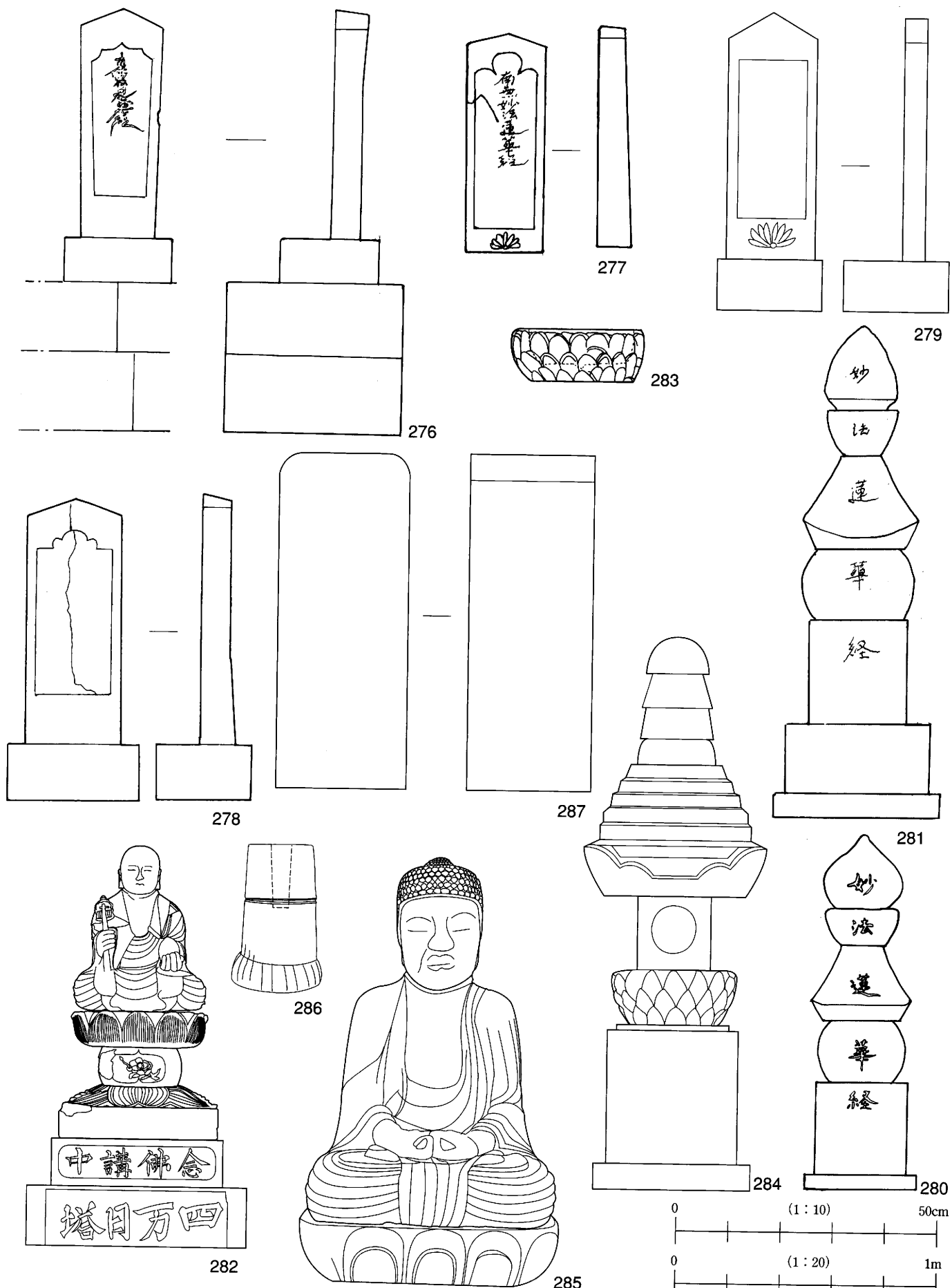
255



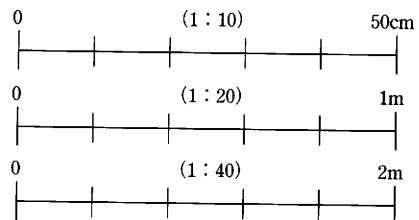


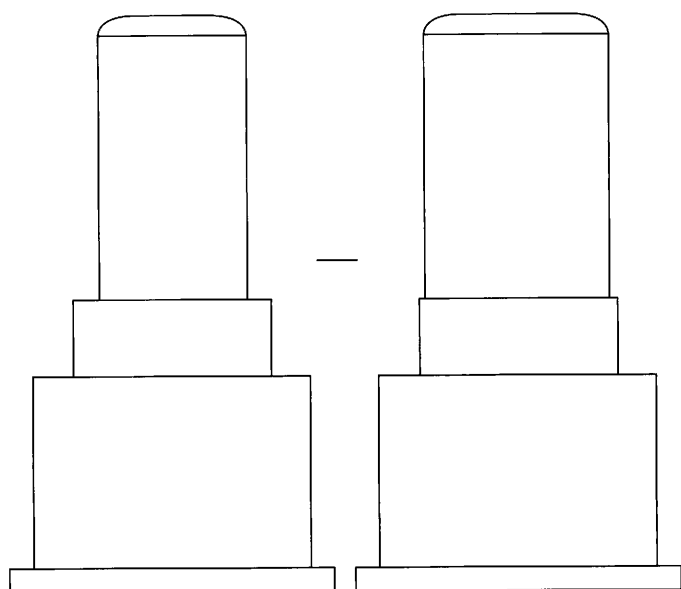


縮尺 1:20 (269~273・275) 1:40 (266~268)



縮尺 1:10 (286・287) 1:20 (276~283)
1:40 (284・285)





288



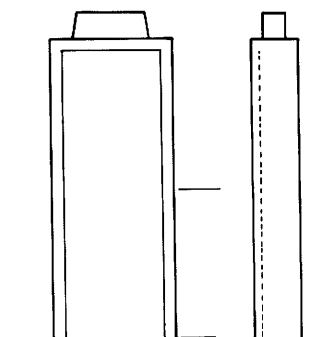
290-阿



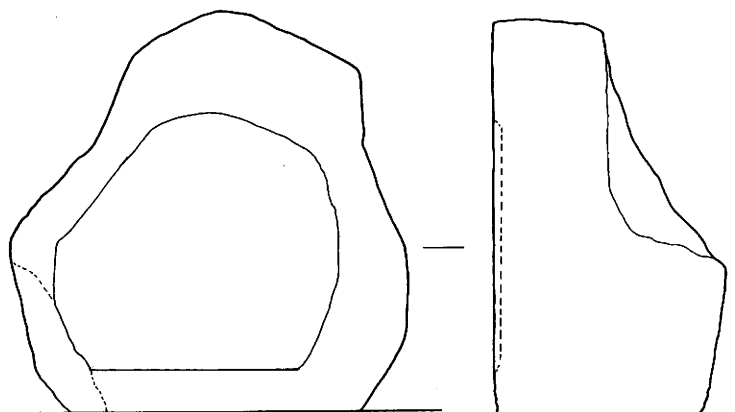
290-吽



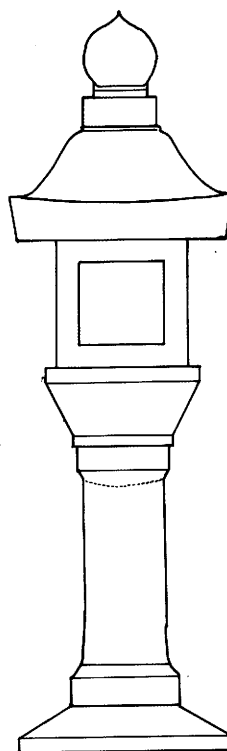
292



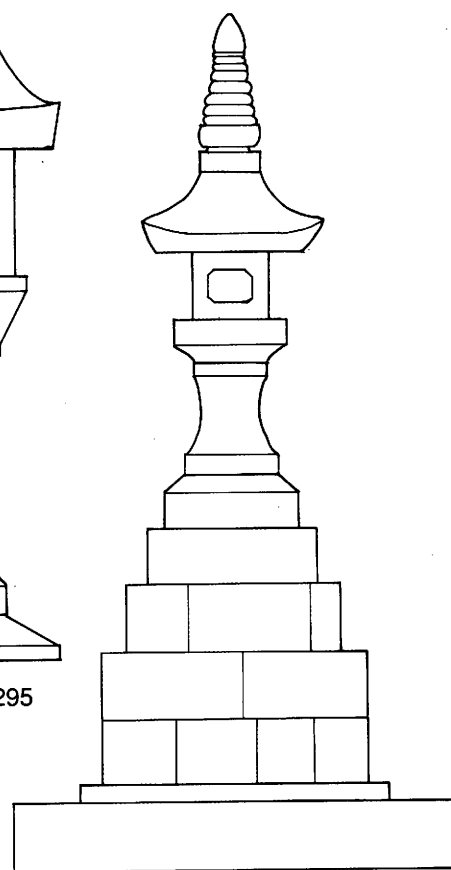
293



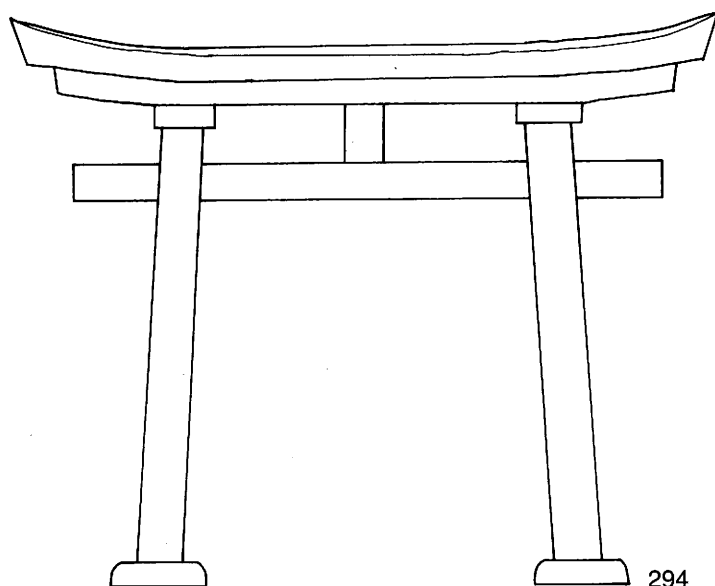
291



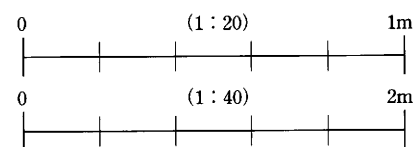
295



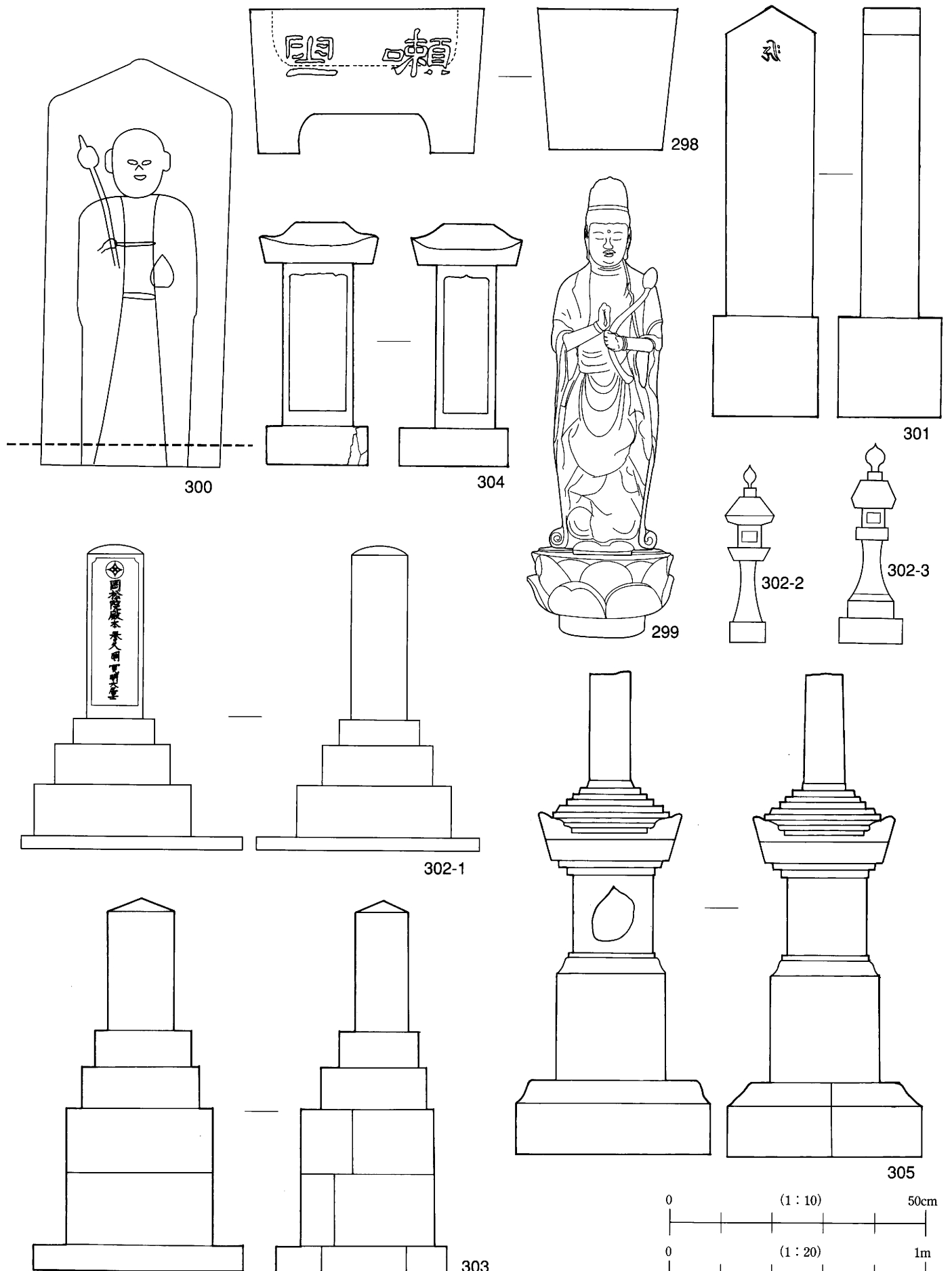
296



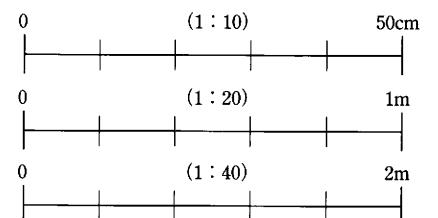
294

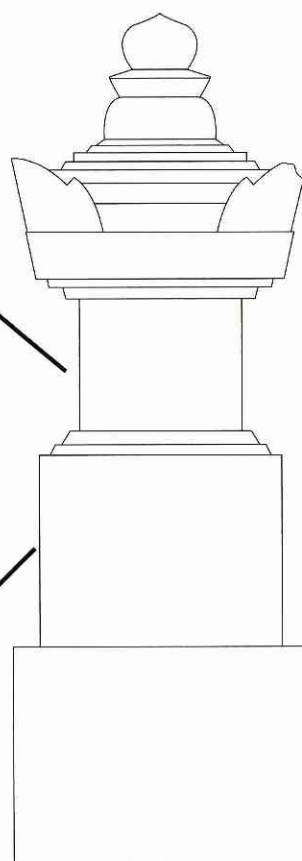
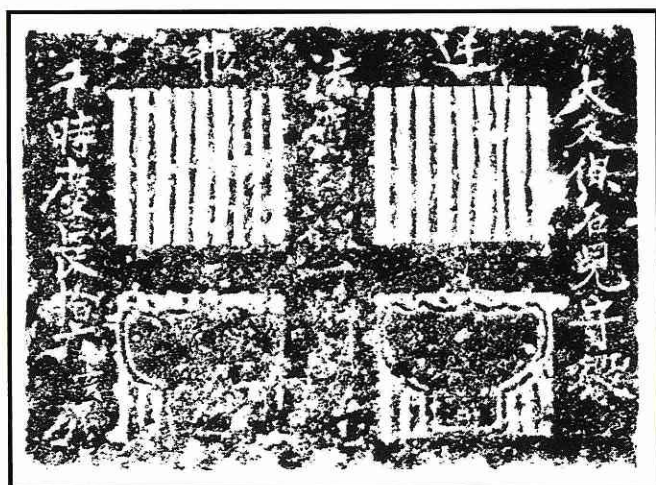
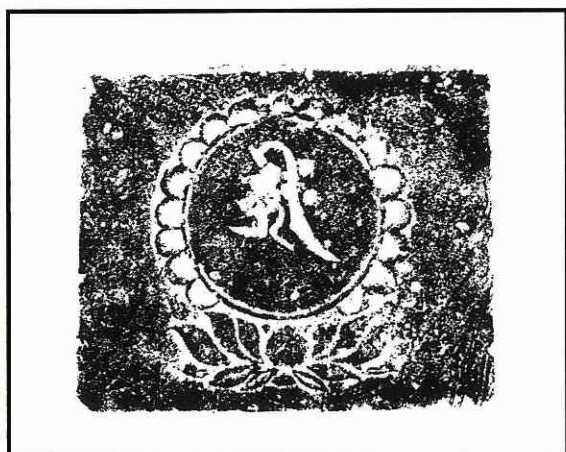
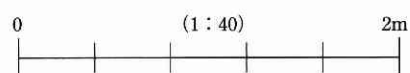
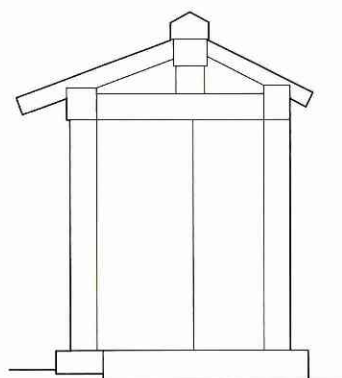
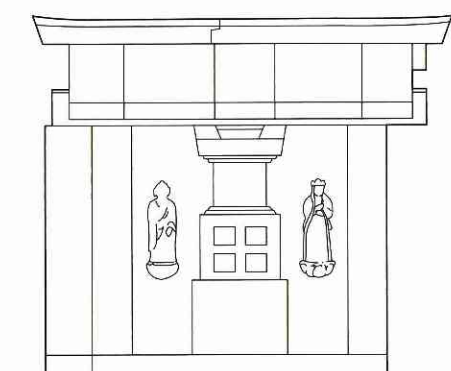


縮尺 1:20 (288・290~293・295) 1:40 (294・296)

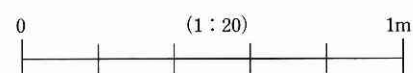


縮尺 1:10 (299) 1:20 (298・300・301・302-2~305)
1:40 (302-1)



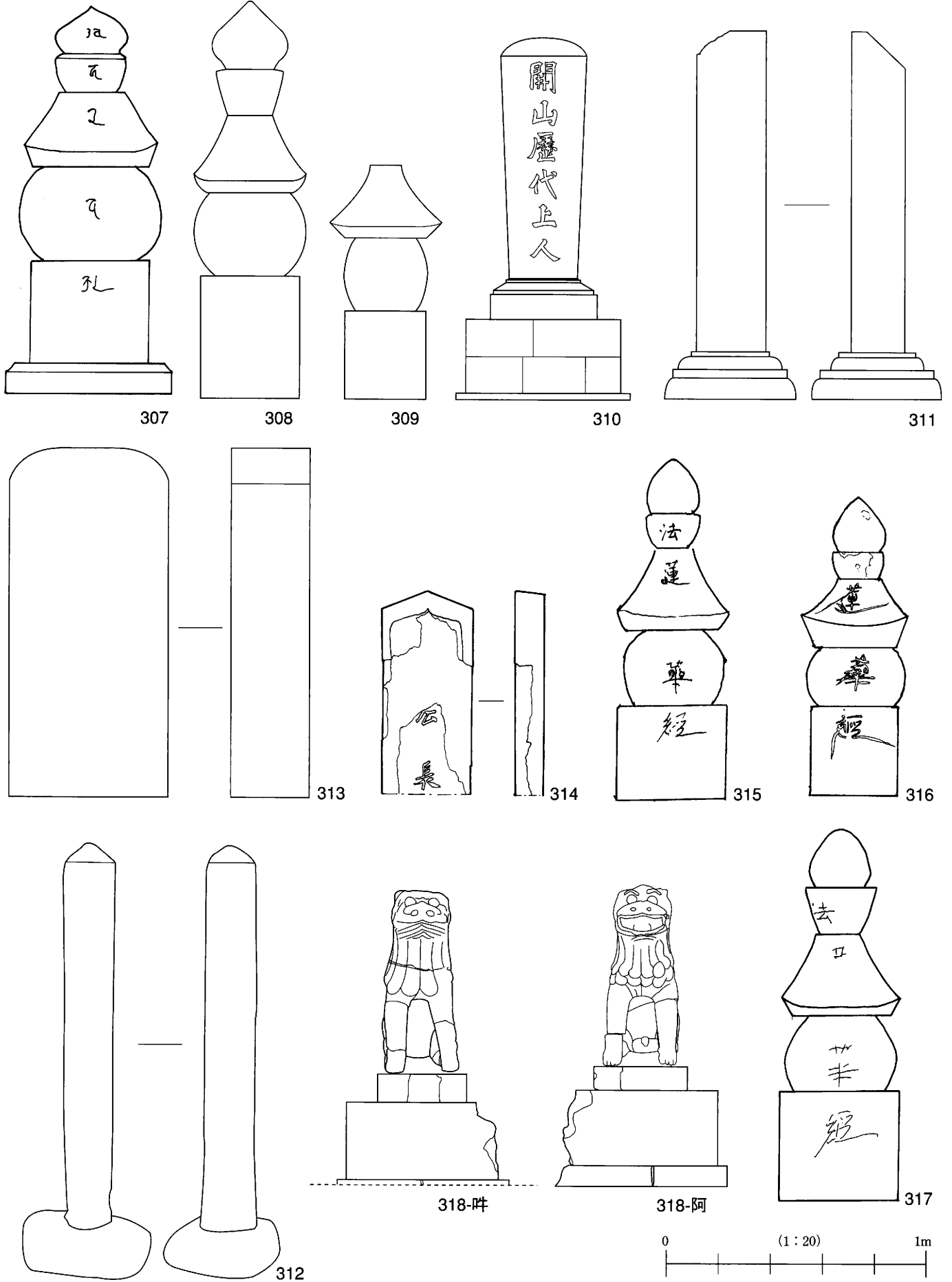


306

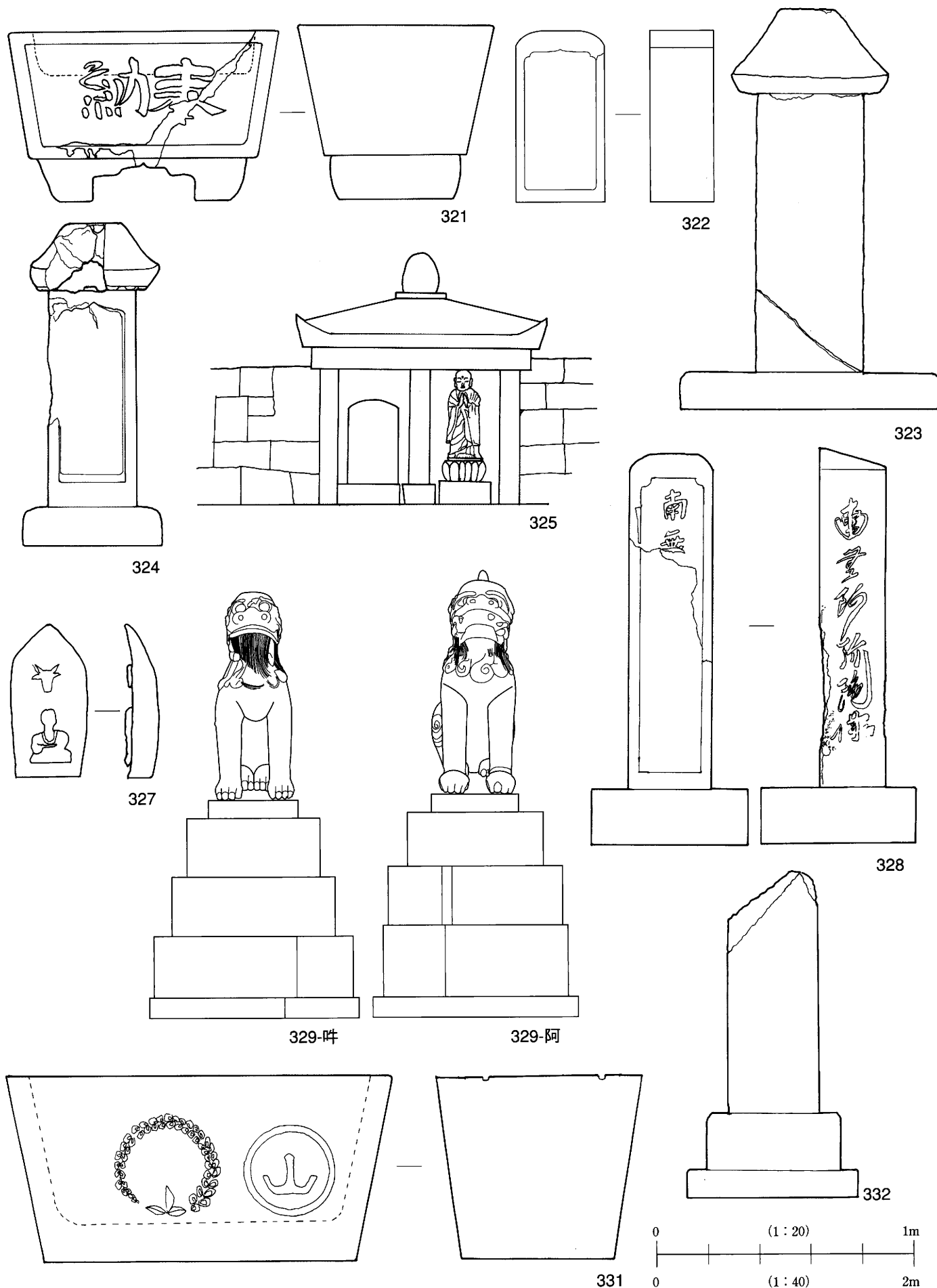


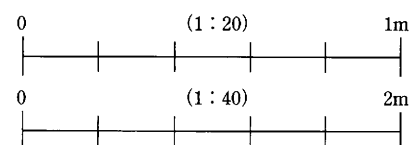
図版28

大安寺 (307~312) ・ 相川一丁目裏町 (313) ・ 玉泉寺 (314~317) ・
金刀比羅神社 (318)

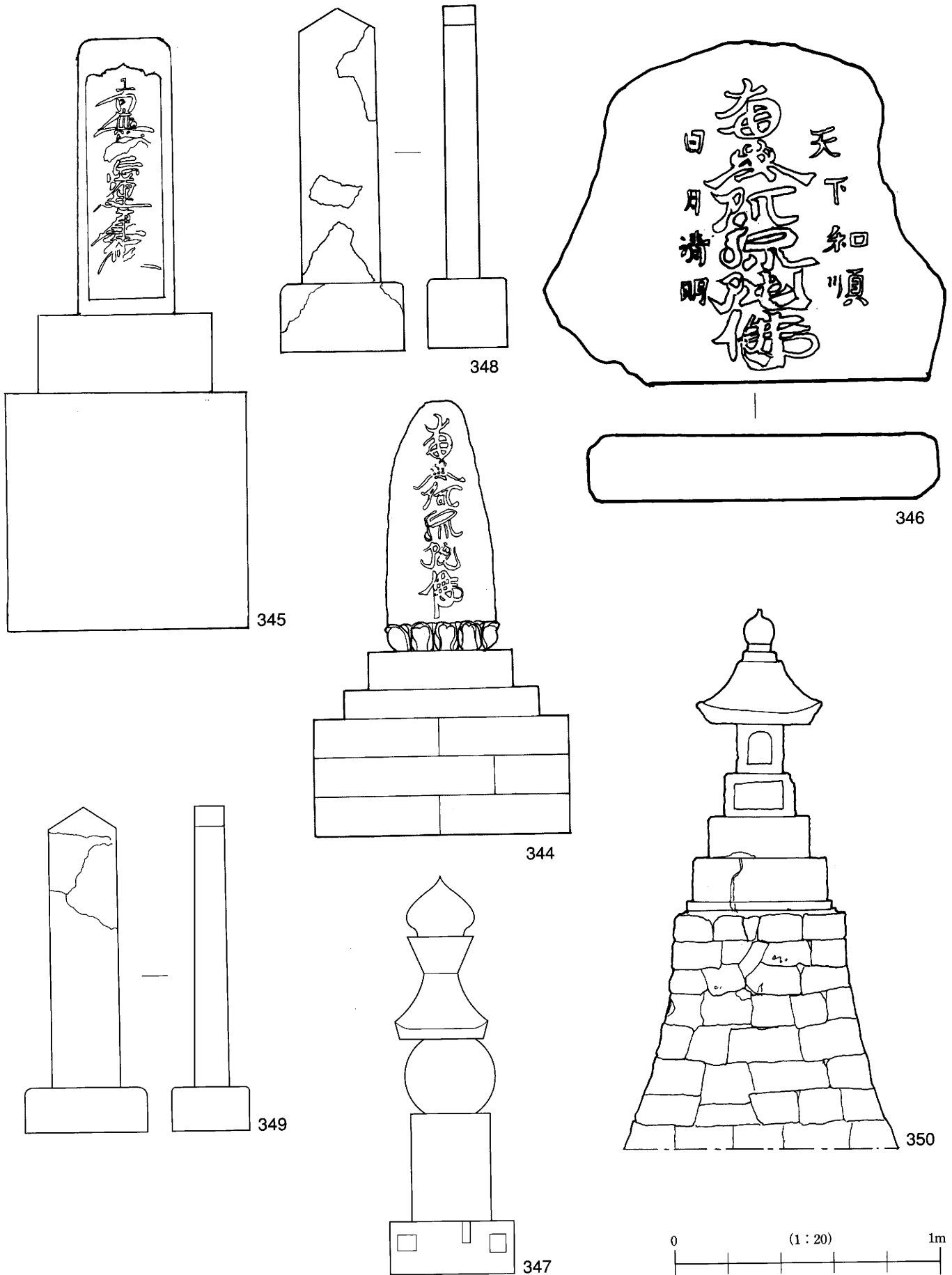


縮尺 1 : 20 (308・309・311・313~318) 1 : 40 (307・310・312)

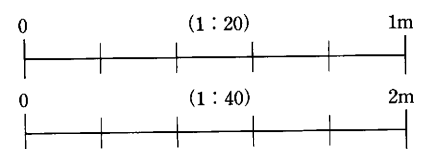




~ 224 ~

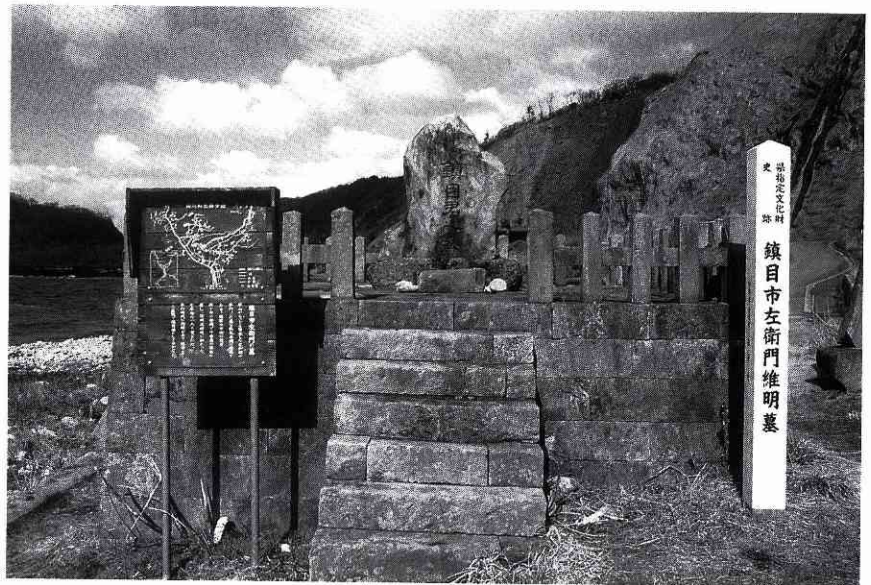


縮尺 1:20 (345~349) 1:40 (344・350)





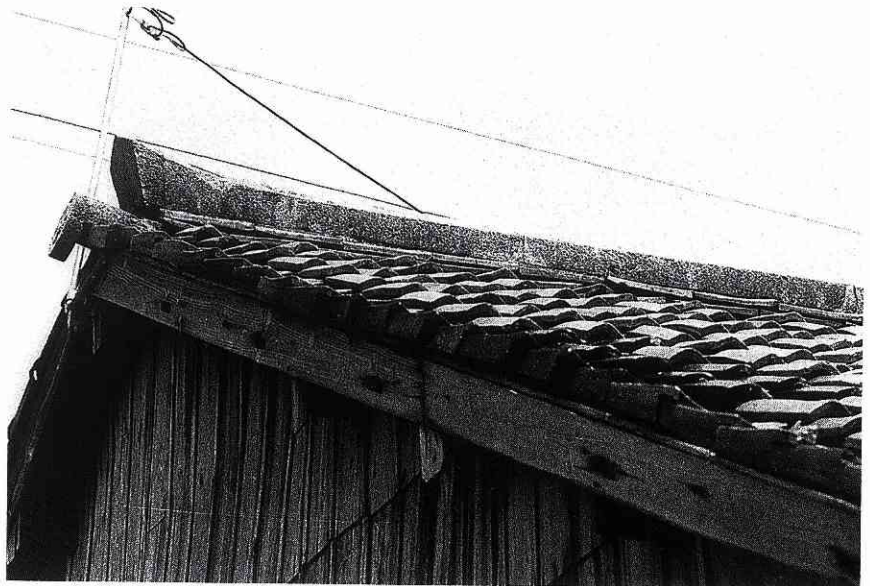
1



2



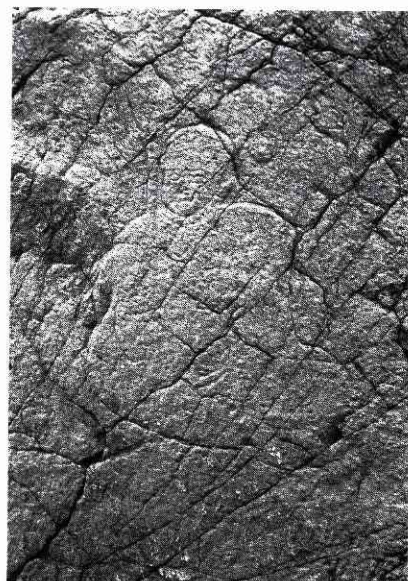
3-1



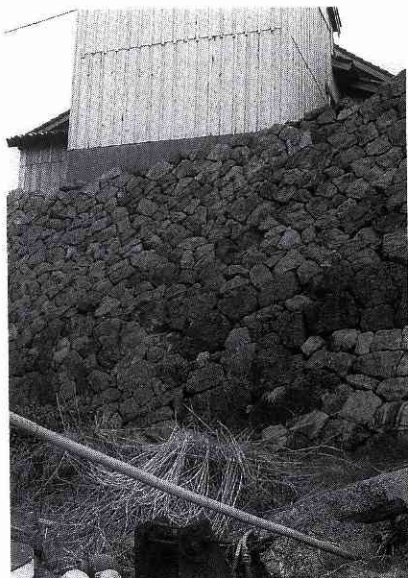
3-2



4



5



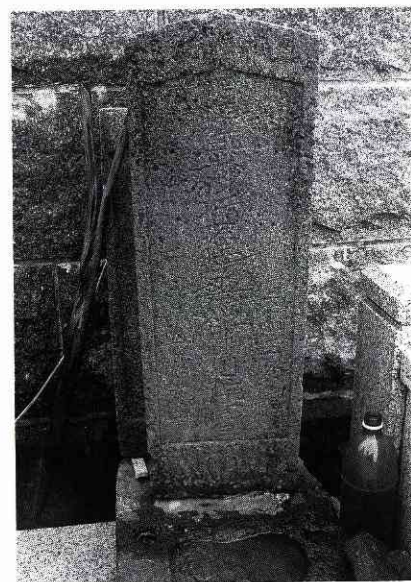
6



7



8



9



10



11



12



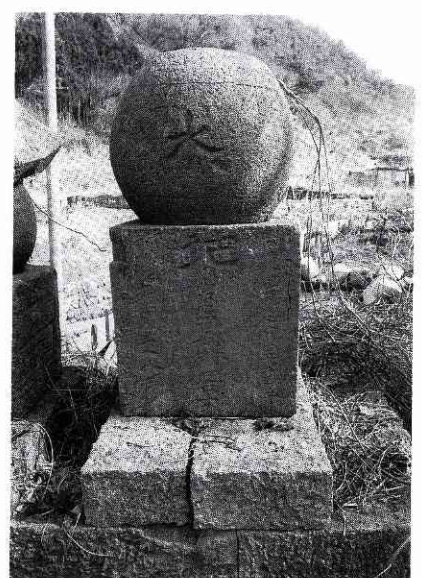
13



14



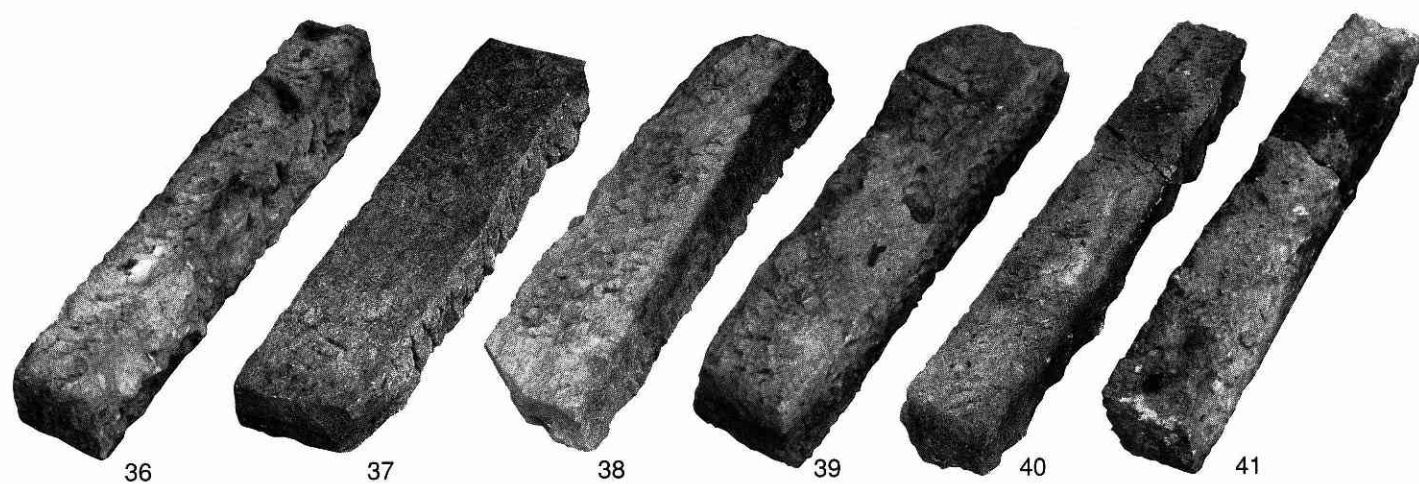
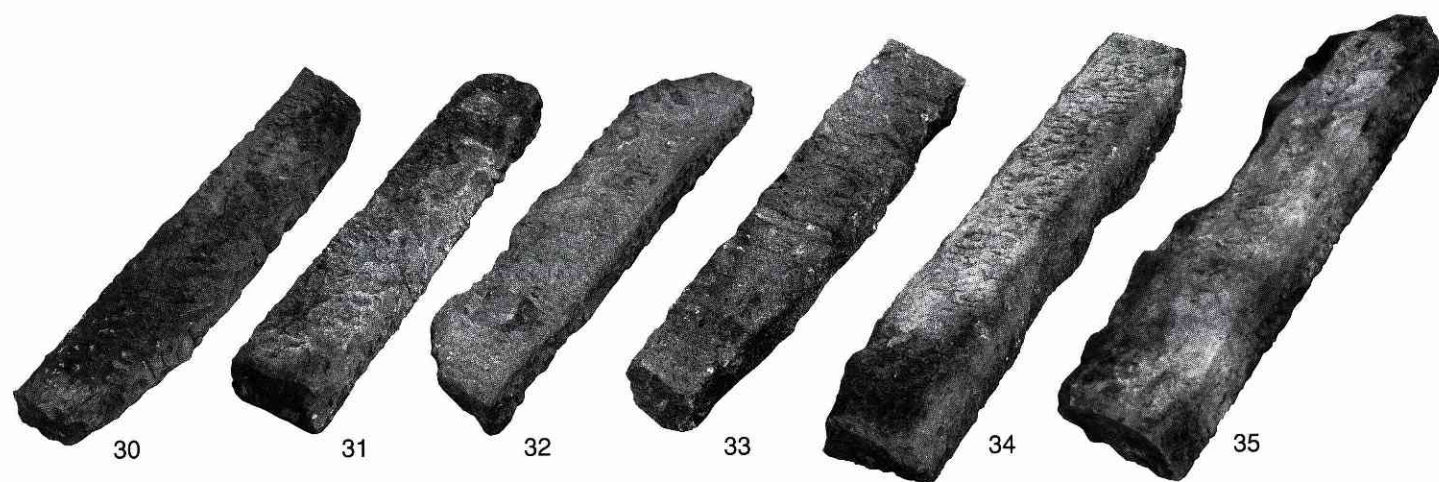
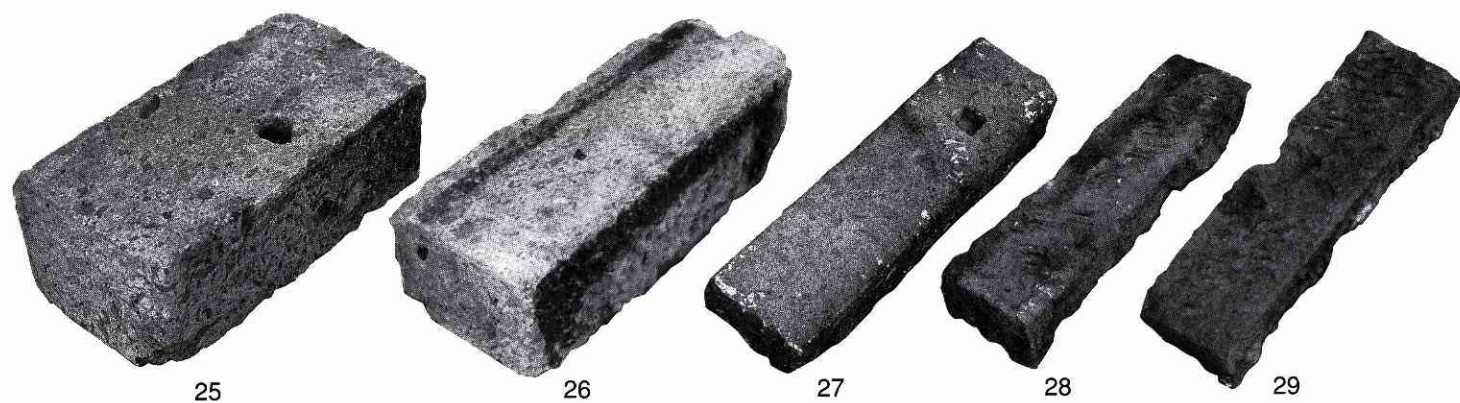
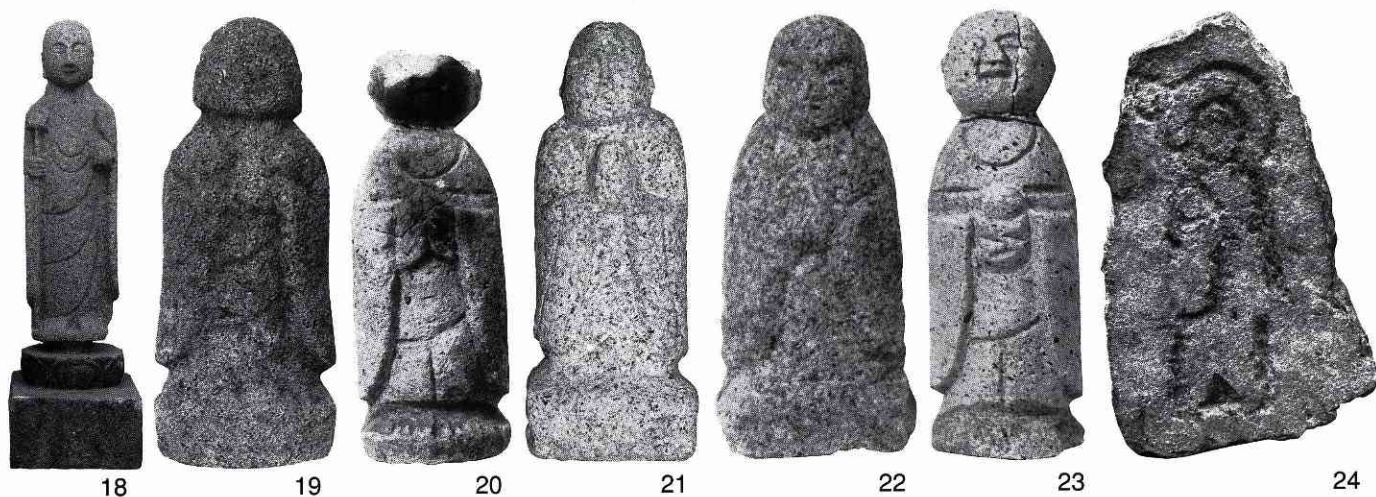
15

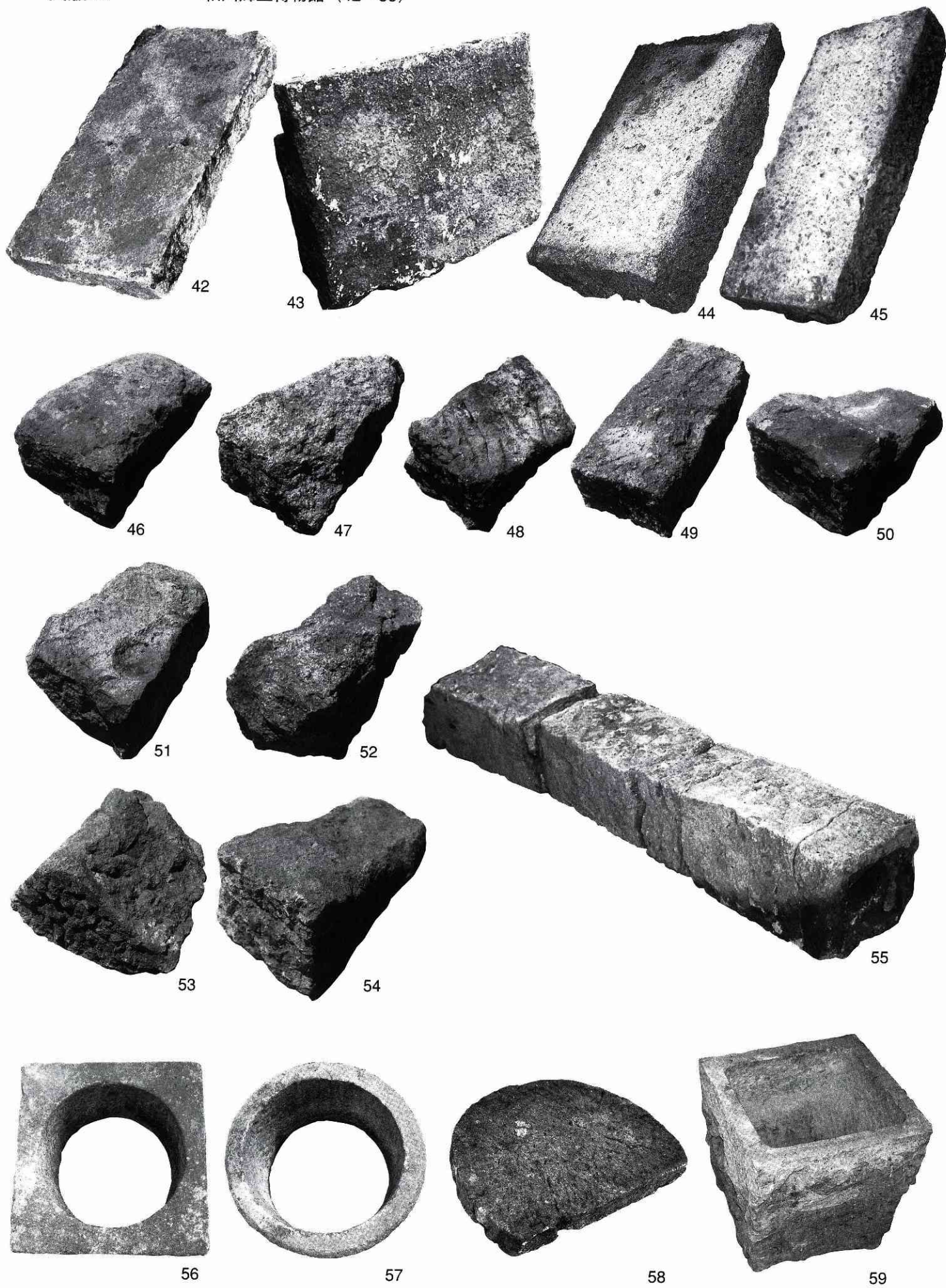


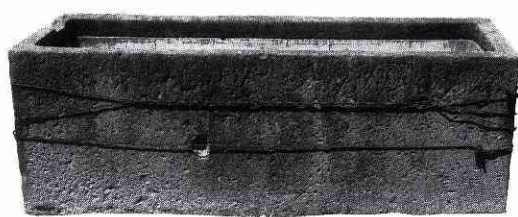
16



17







60



61



62



63



64



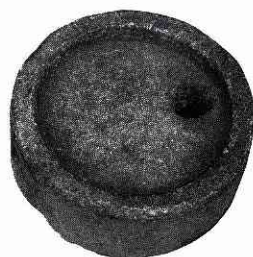
65



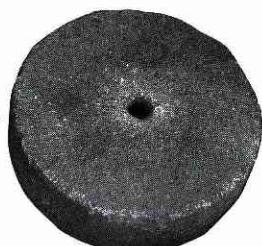
66



67



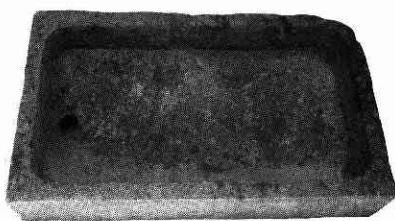
68



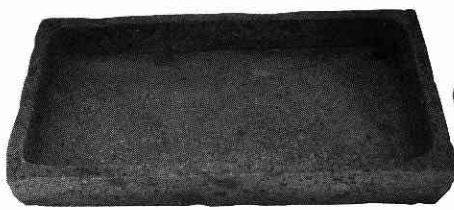
69



70



71



72



73



74



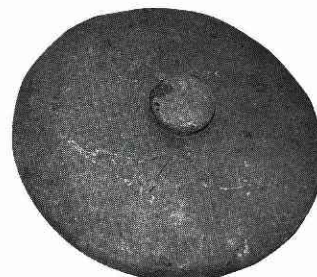
75



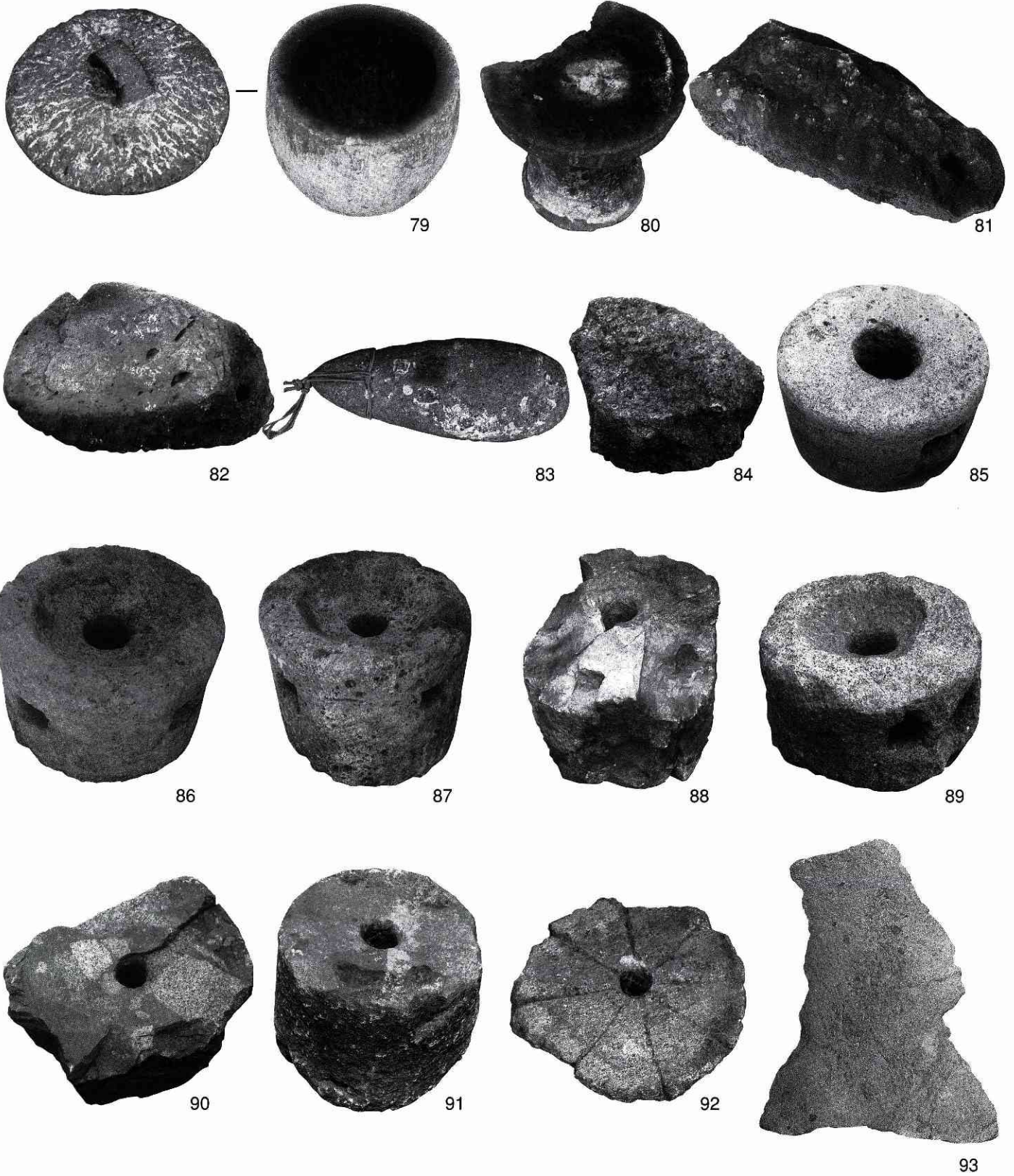
76



77



78

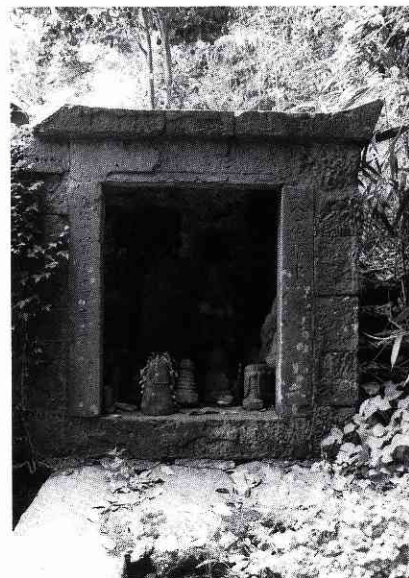




94



95



96-1



96-2



97



98



99



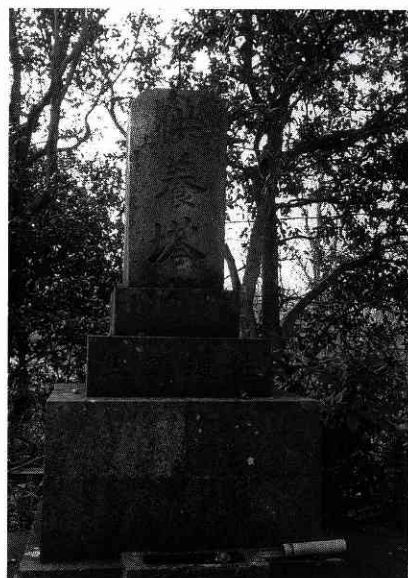
100



101



102



103



104



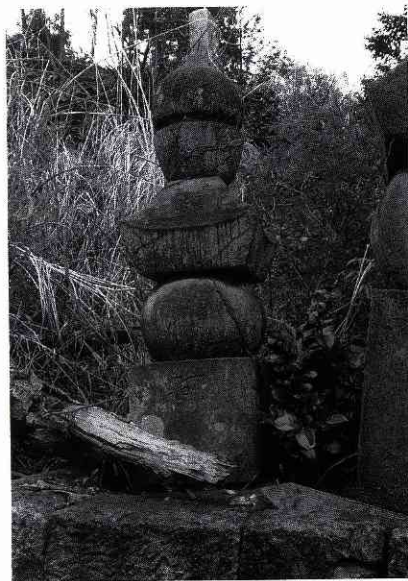
105



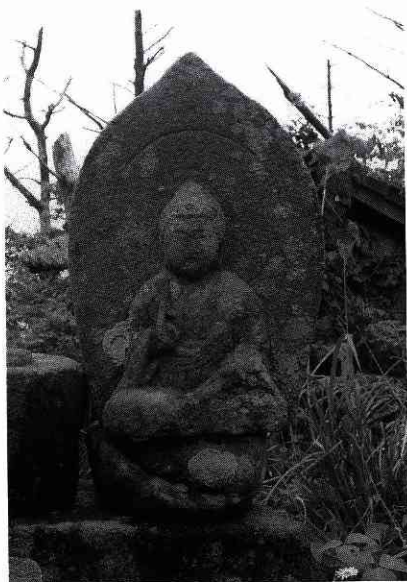
106



107



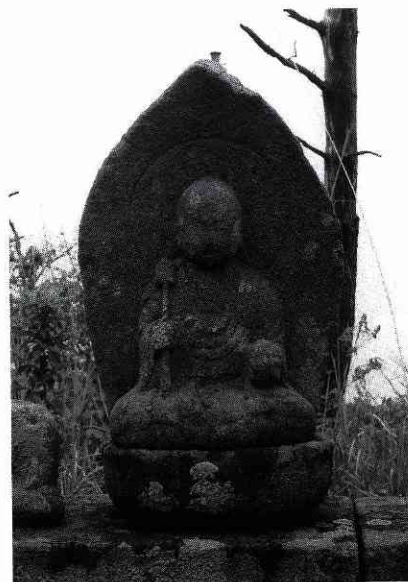
108



109-1



109-2



109-3



109-4



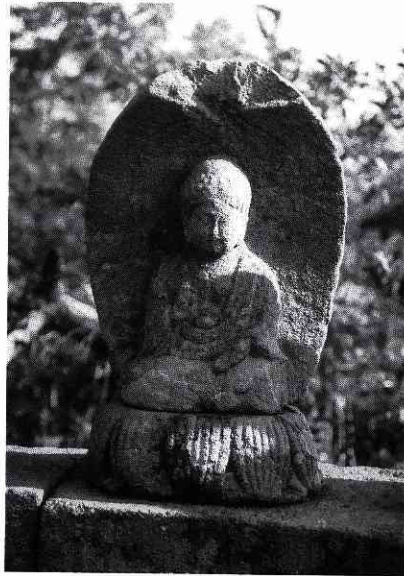
109-5



109-6



109-7



109-8



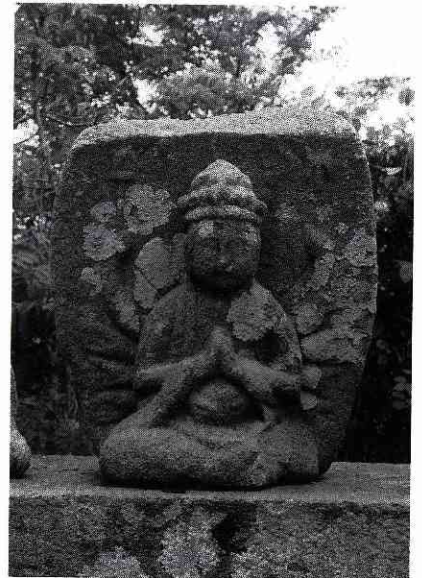
109-9



109-10



109-11



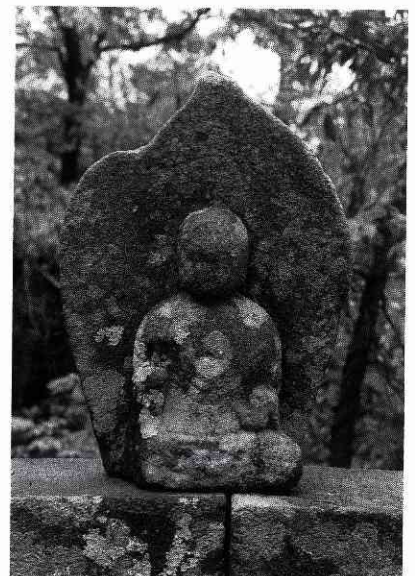
109-12



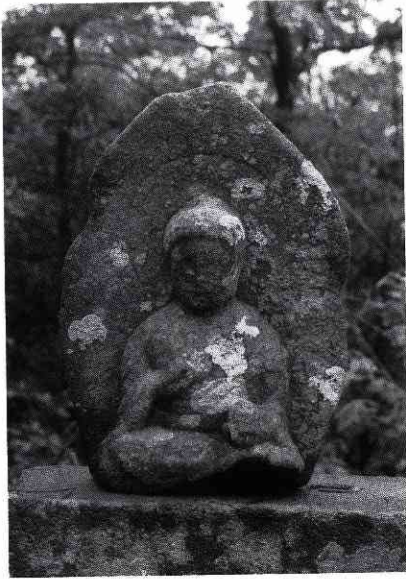
109-13



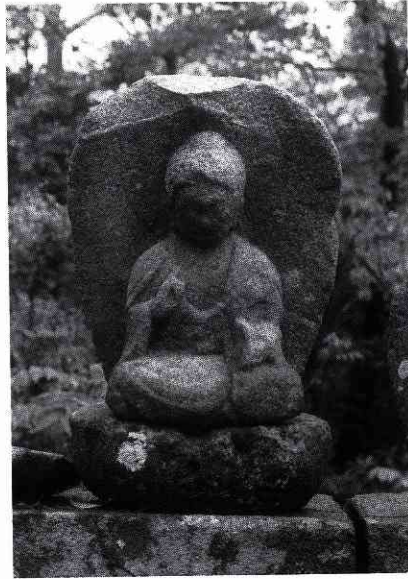
109-14



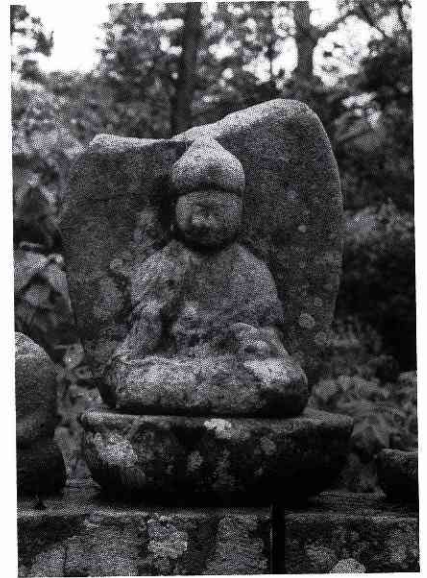
109-15



109-16



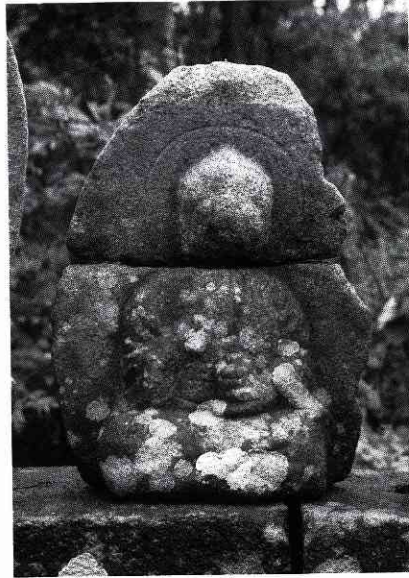
109-17



109-18



109-19



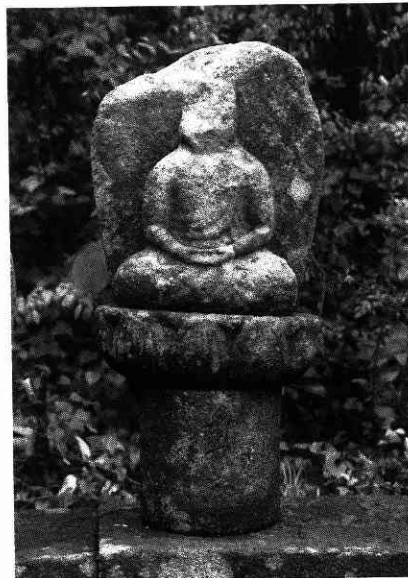
109-20



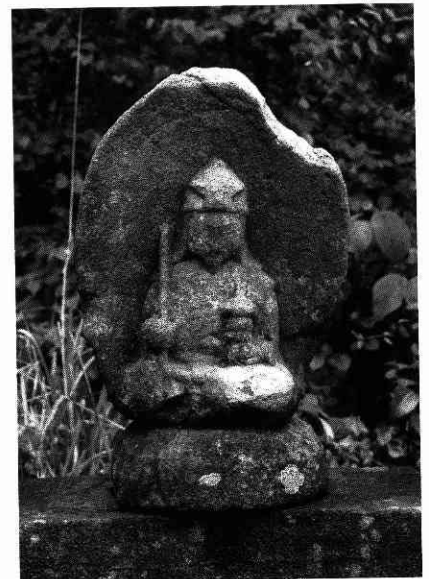
109-21



109-22



109-23



109-24



109-25



109-26



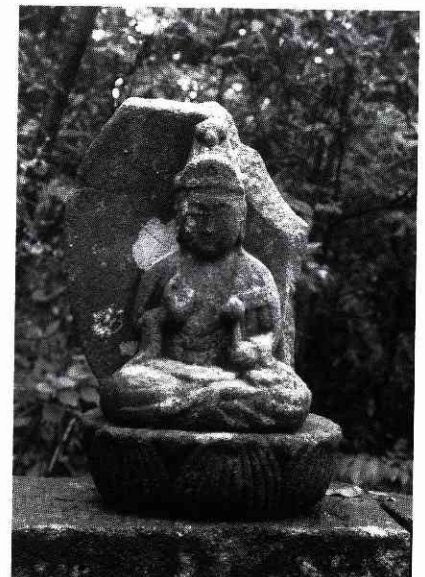
109-27



109-28



109-29



109-30



109-31



109-32



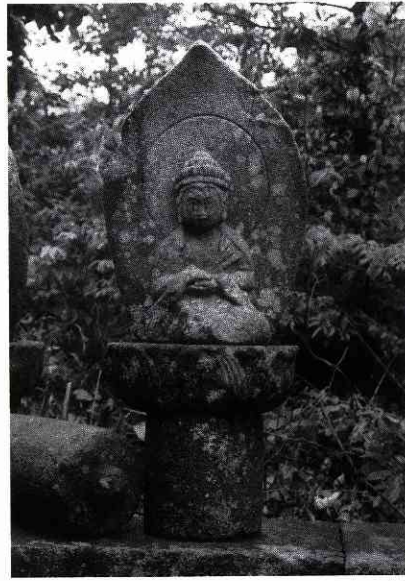
109-33



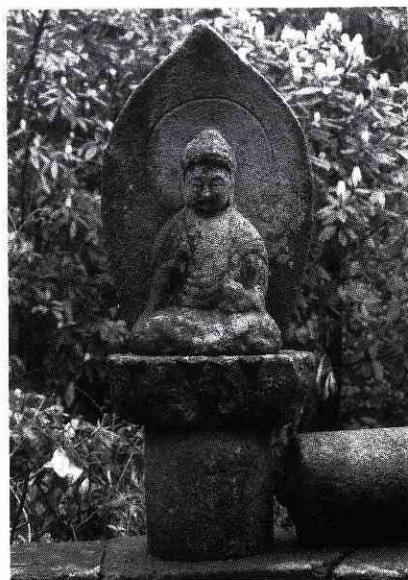
109-34



109-35



109-36



109-37



109-38



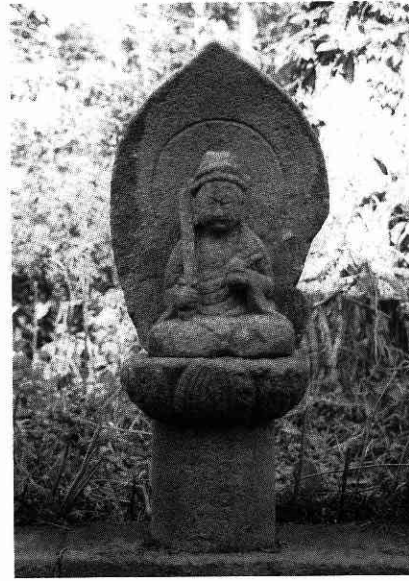
109-39



109-40



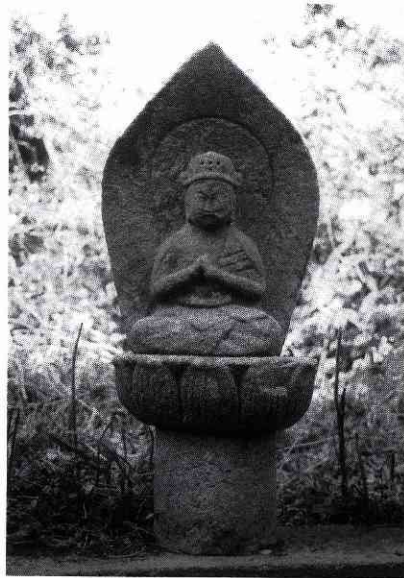
109-41



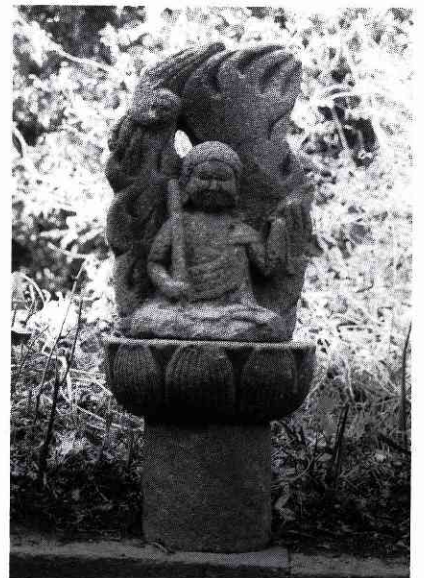
109-42



109-43



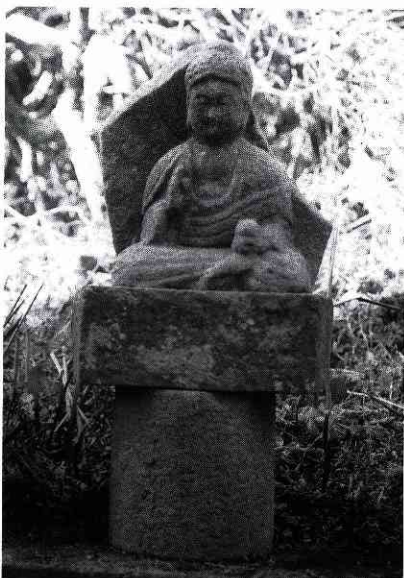
109-44



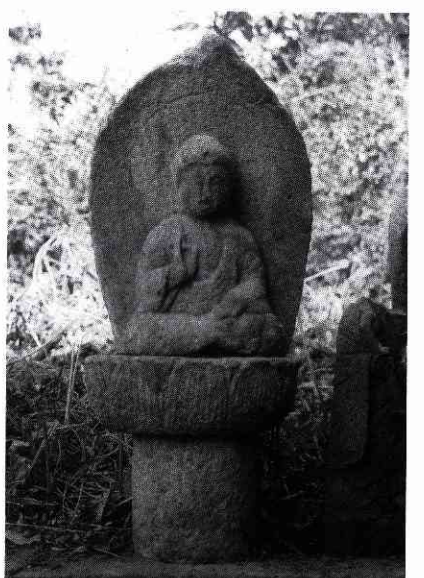
109-45



109-46



109-47



109-48



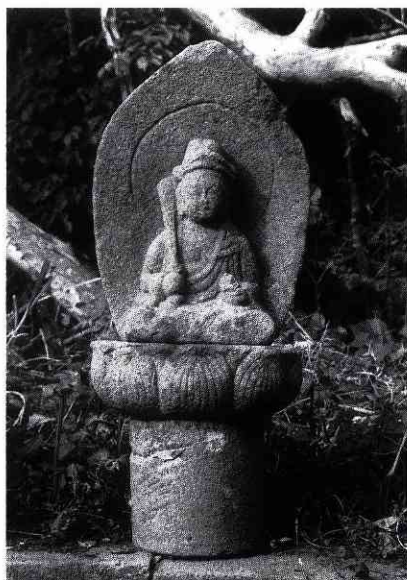
109-49



109-50



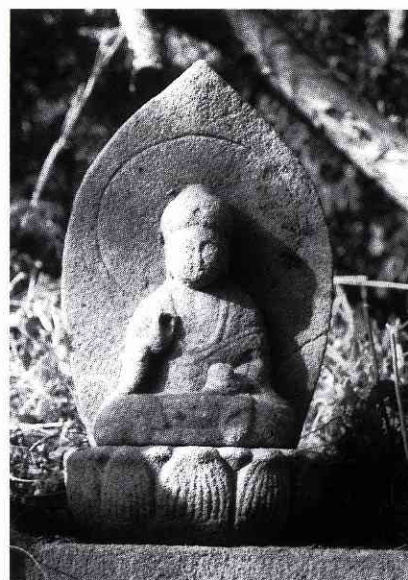
109-51



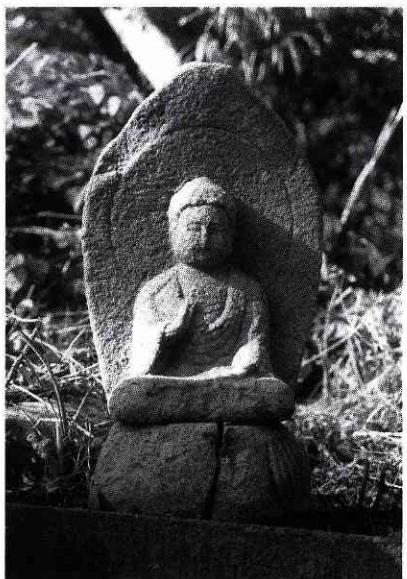
109-52



109-53



109-54



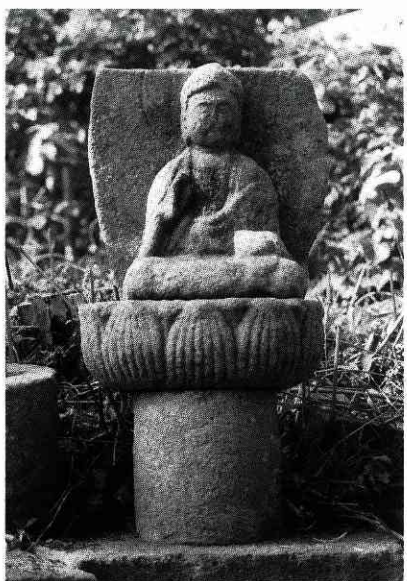
109-55



109-56



109-57



109-58



109-59



109-60



109-61



109-62



109-63



109-64



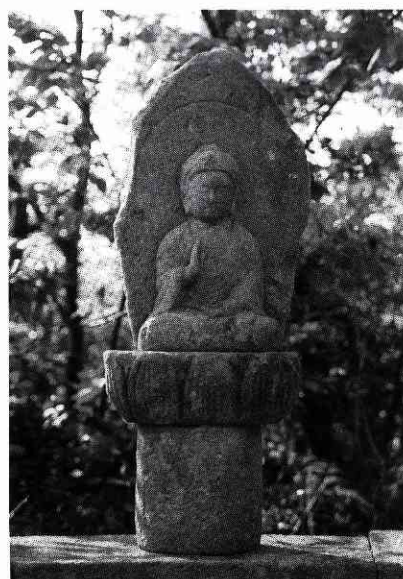
109-65



109-66



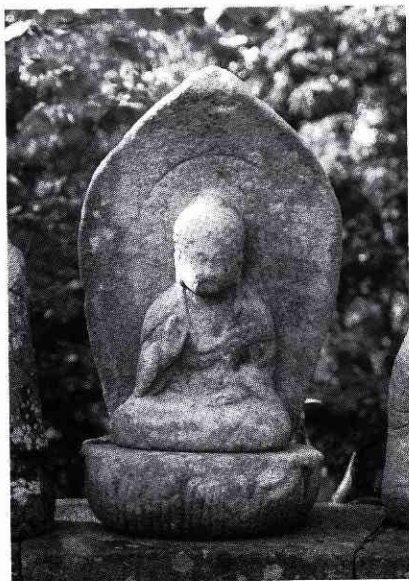
109-67



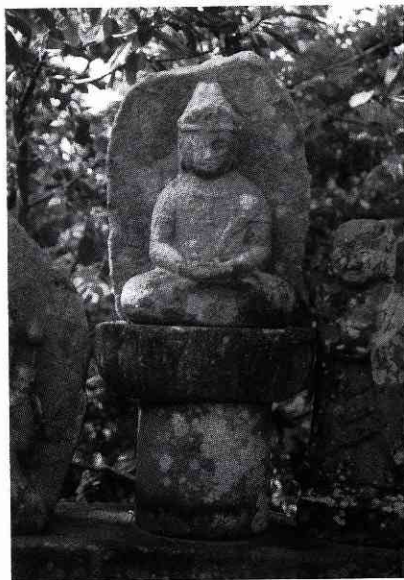
109-68



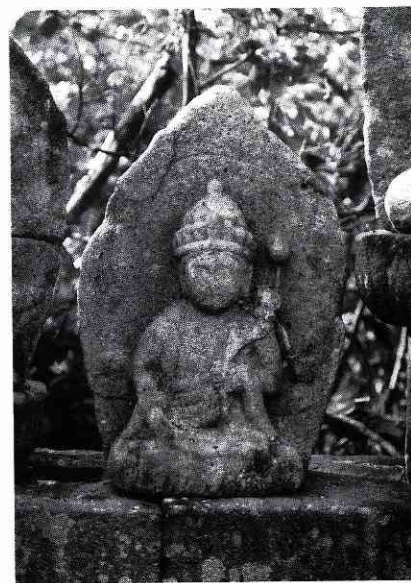
109-69



109-70



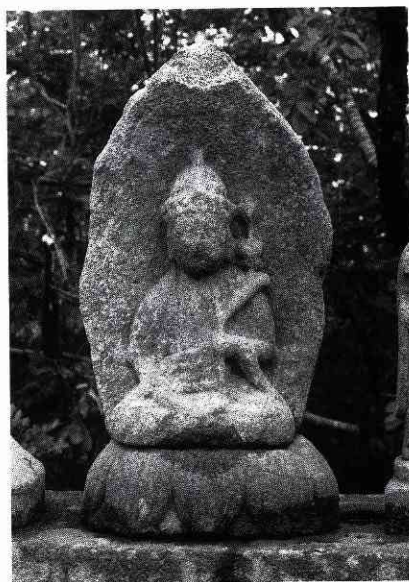
109-71



109-72



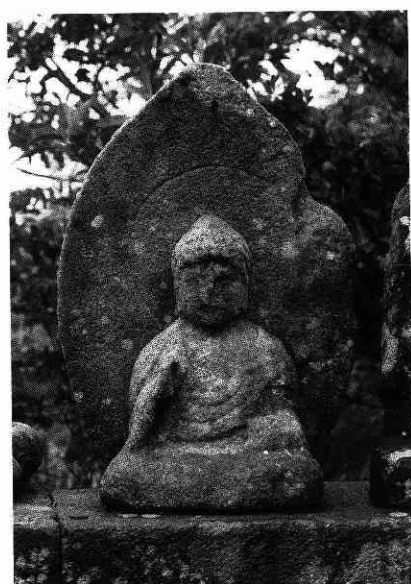
109-73



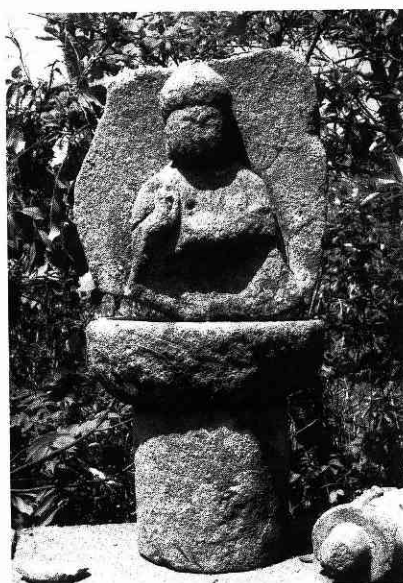
109-74



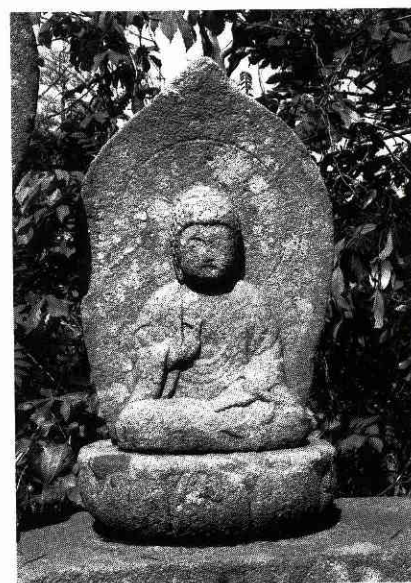
109-75



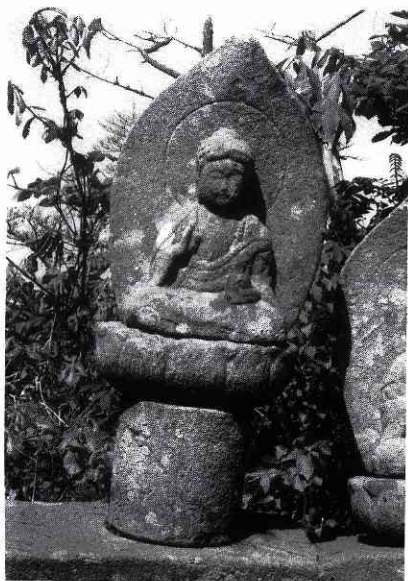
109-76



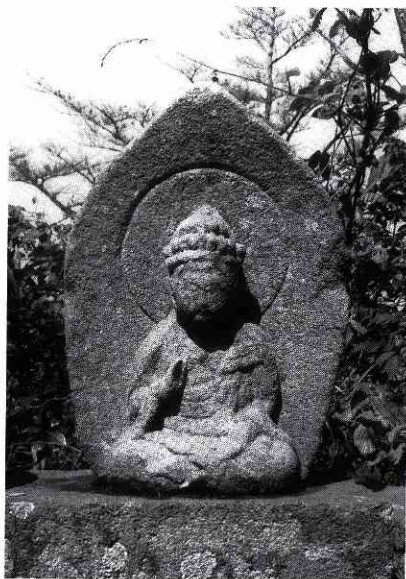
109-77



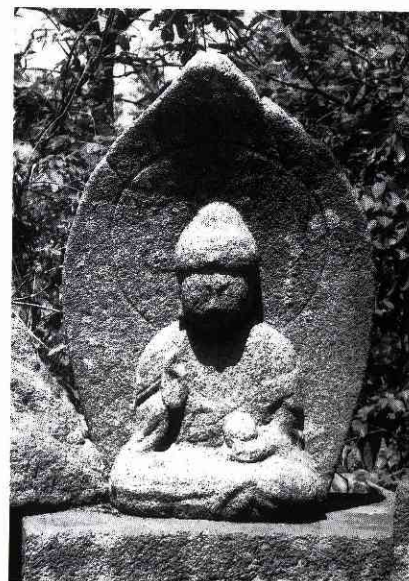
109-78



109-79



109-80



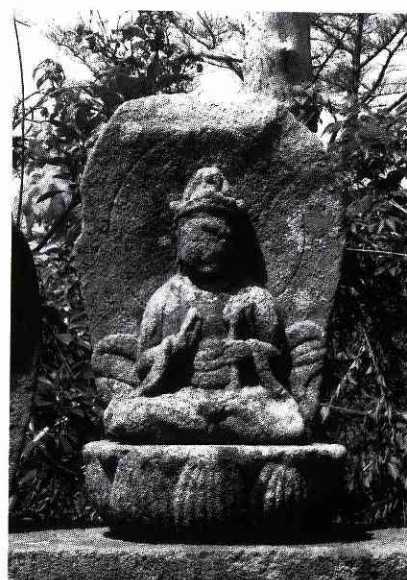
109-81



109-82



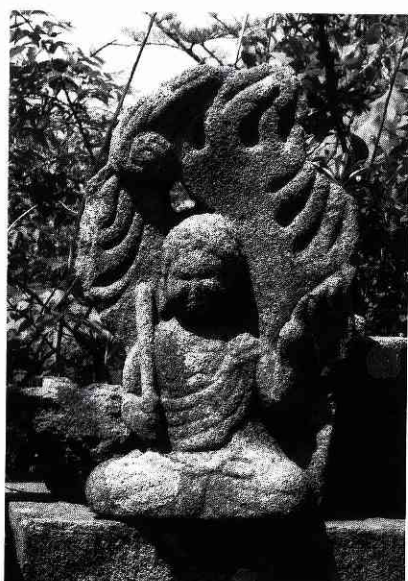
109-83



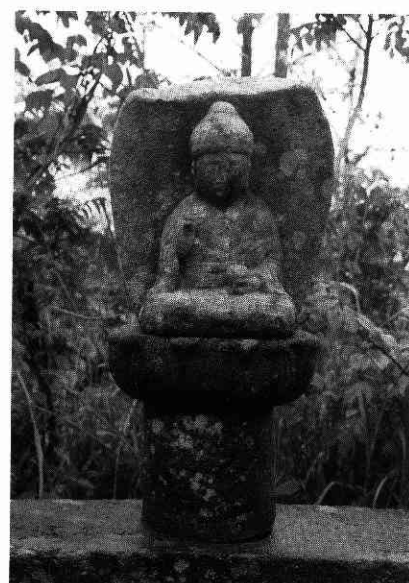
109-84



109-85



109-86



109-87



109-88



109-89



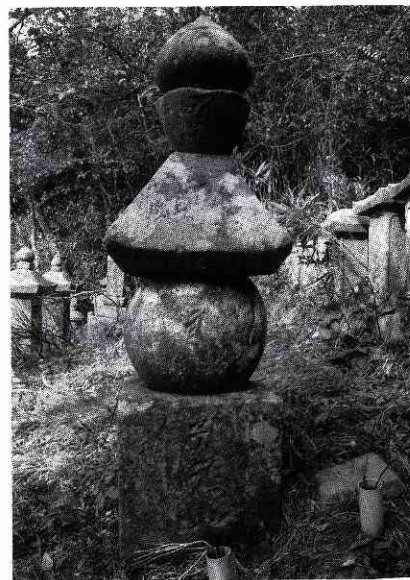
109-90



109-91



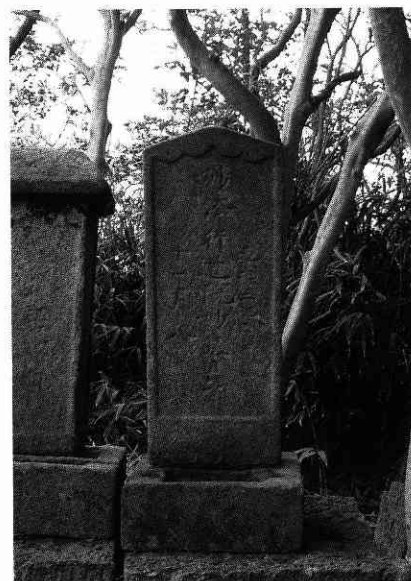
110



111



112



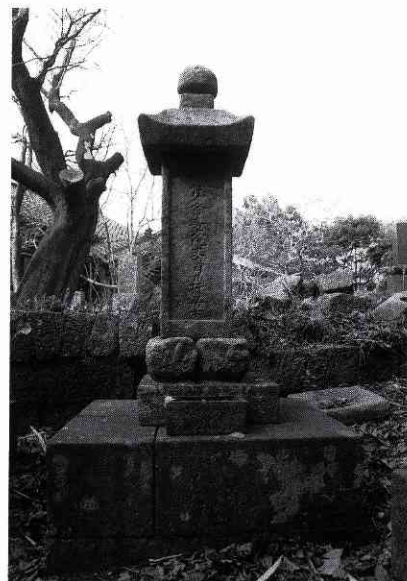
113



114



115



116



117



118



119



120



121



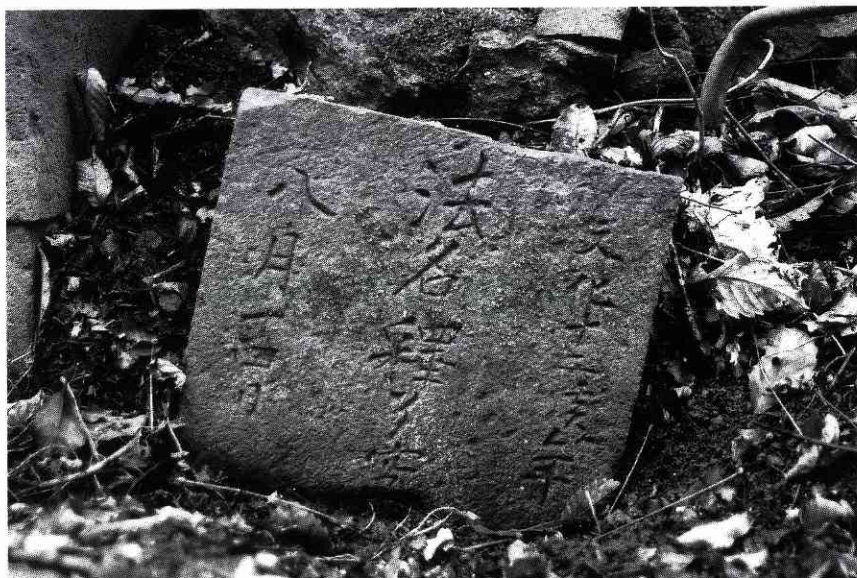
122



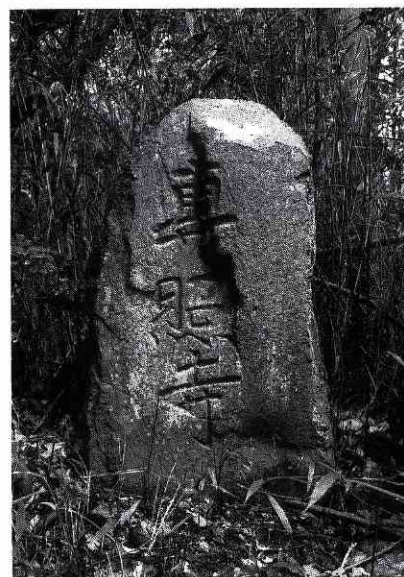
123



124



125



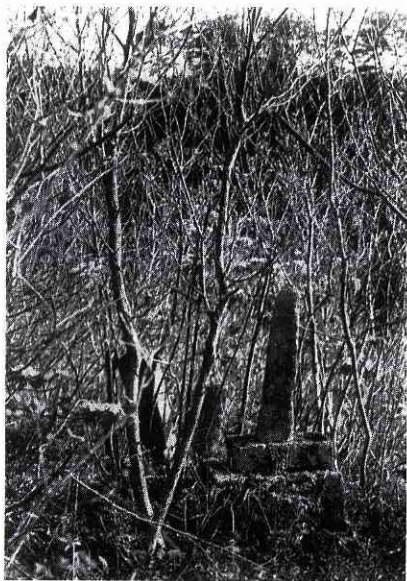
126



127



128



(麓三郎 1951より転載)

129



130



131



132



133



134



135



136



137



138



139



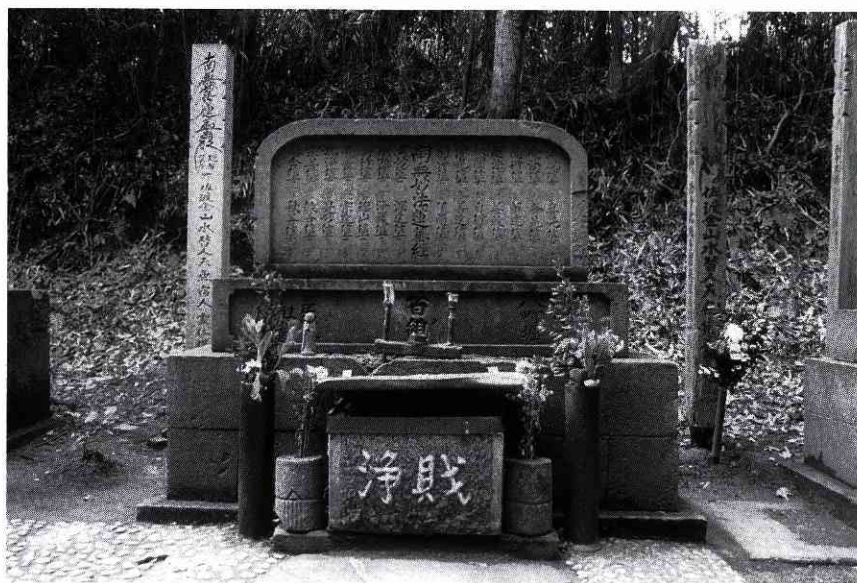
140-1



140-2



141



142



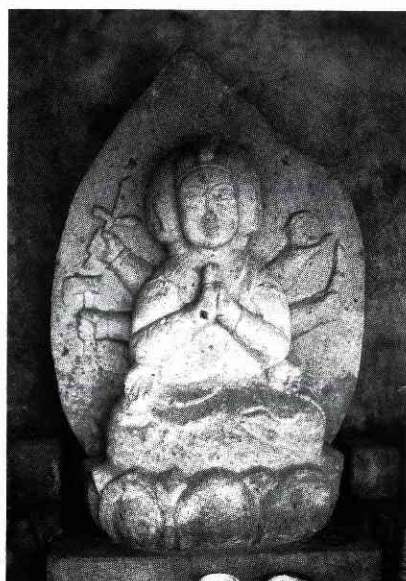
143



144



145



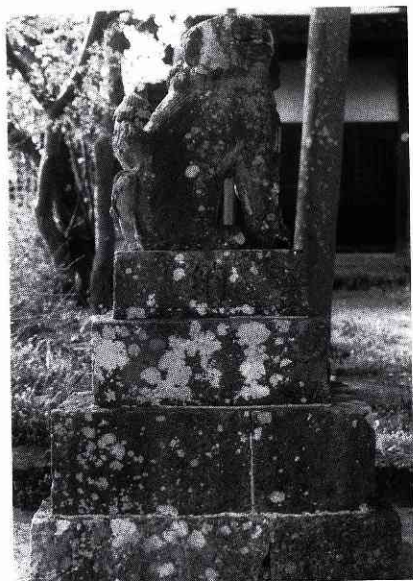
146



147



148



149-吽



149-阿



150



151



152



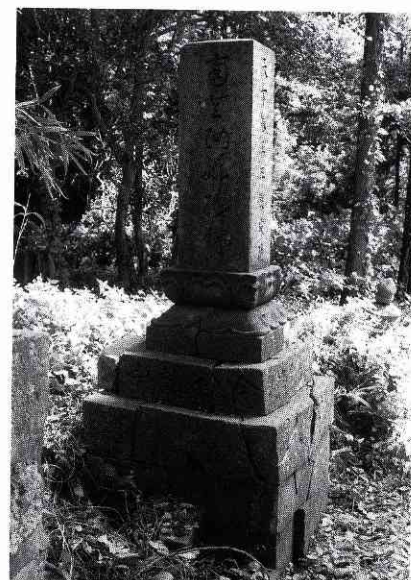
153



154



155



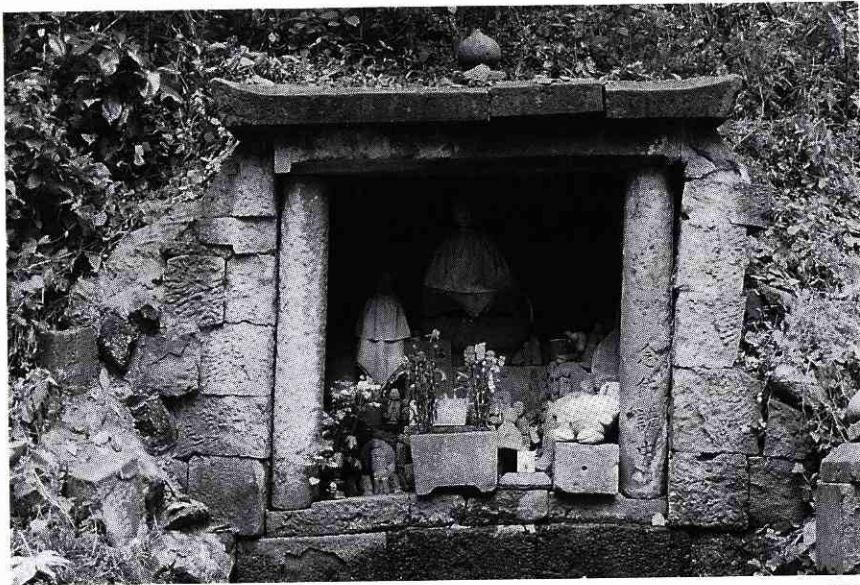
156



157



158



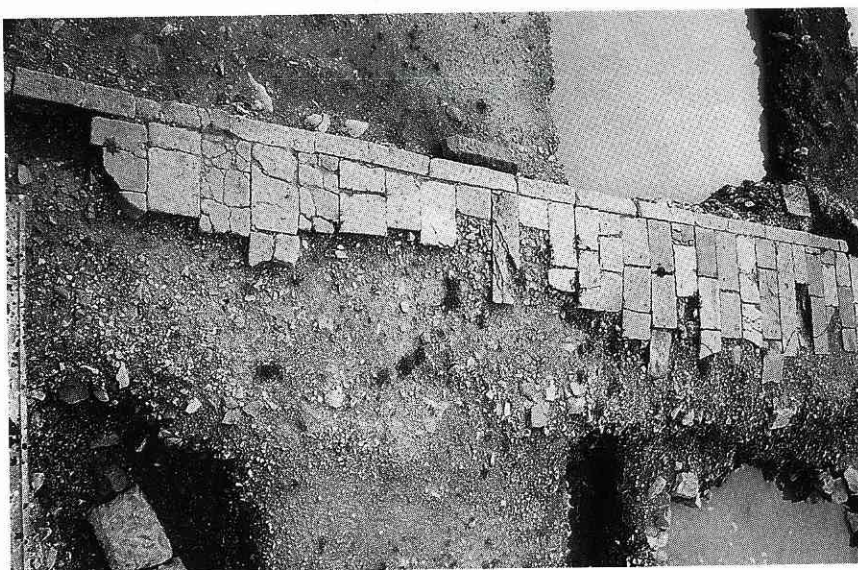
159



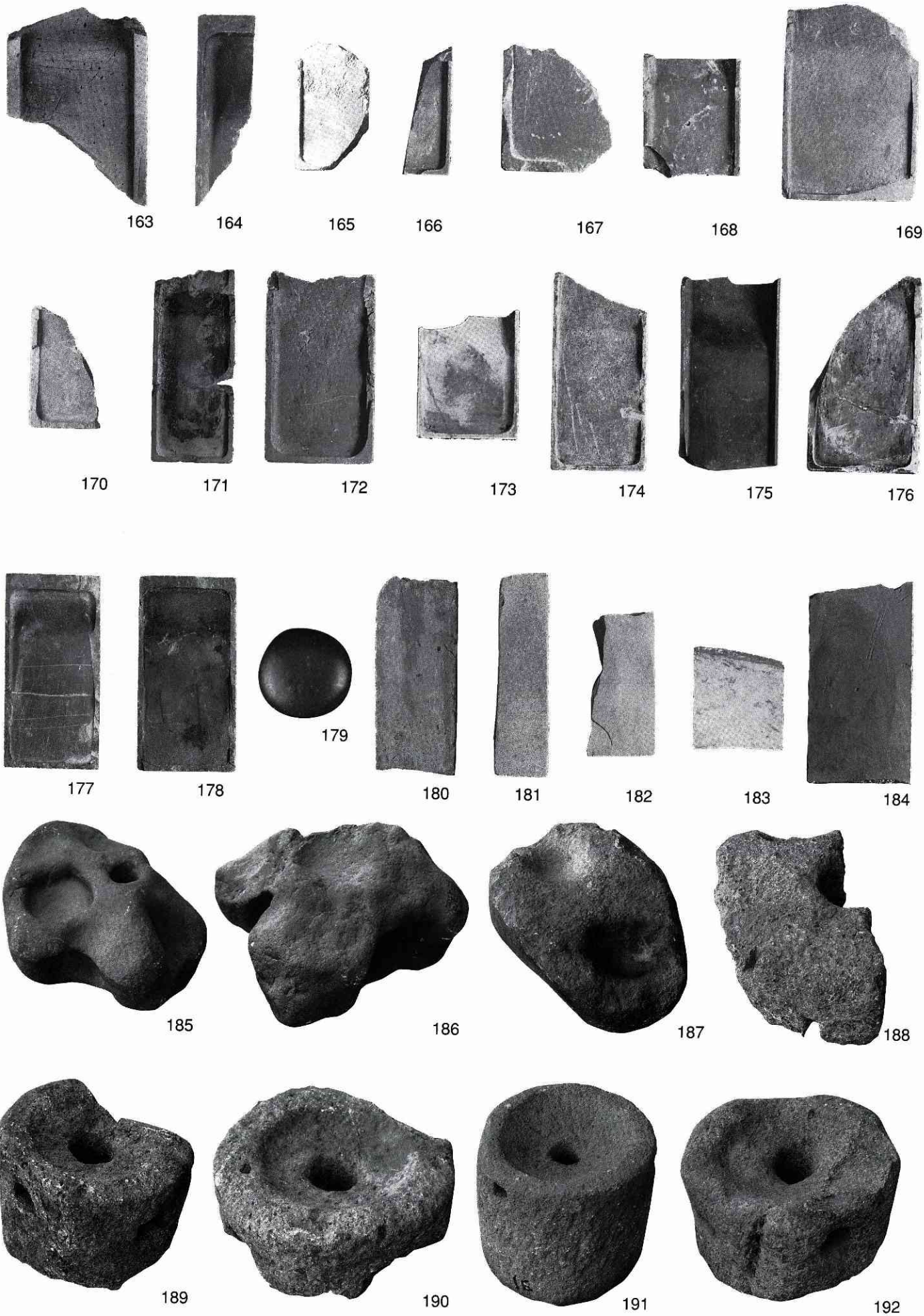
160



161



162





193



194



195



196



197



198



199



200



201



202



203



204



205



206



207



208



209



210



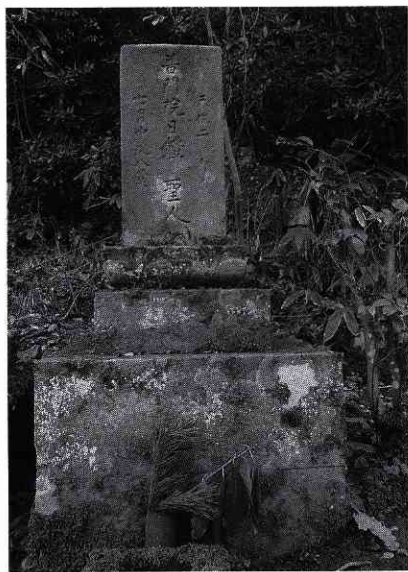
211



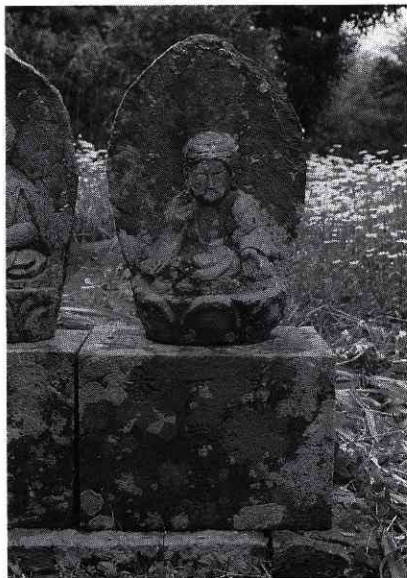
212



213



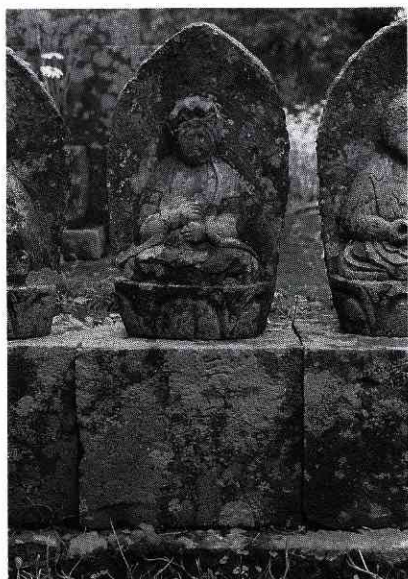
214



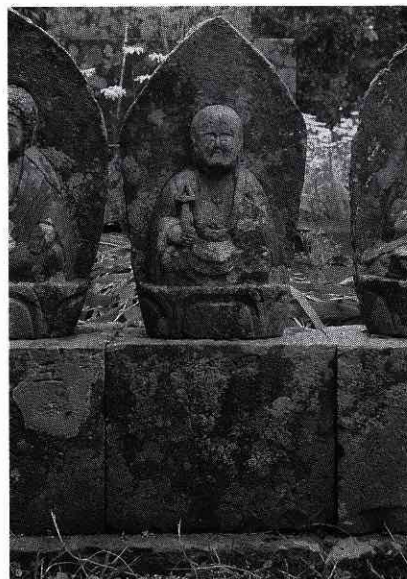
215-1



215-2



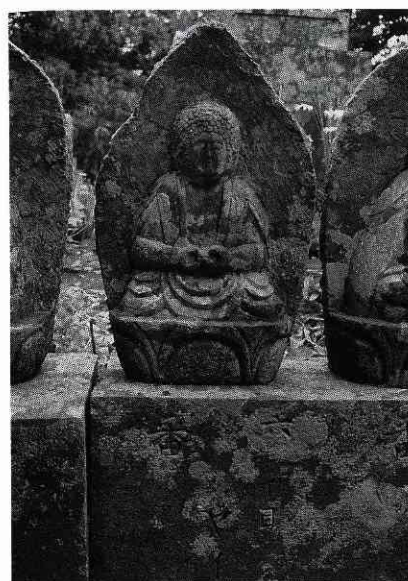
215-3



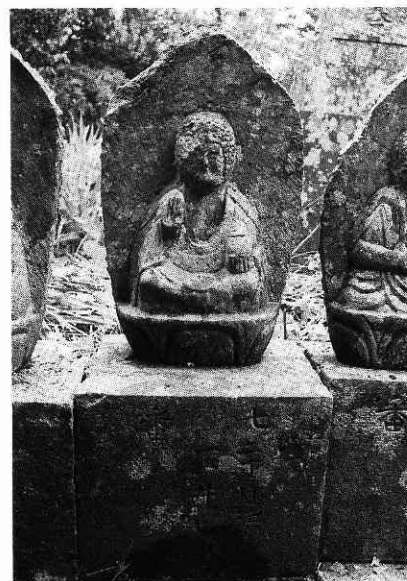
215-4



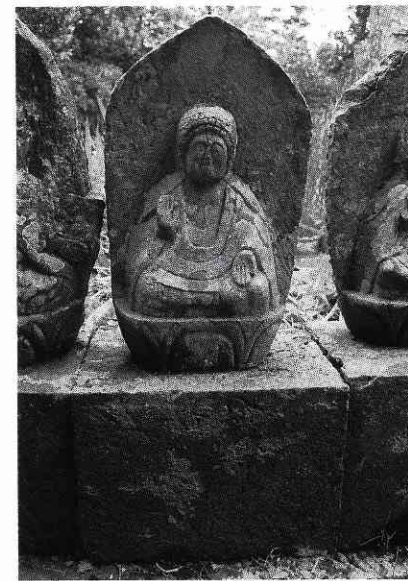
215-5



215-6



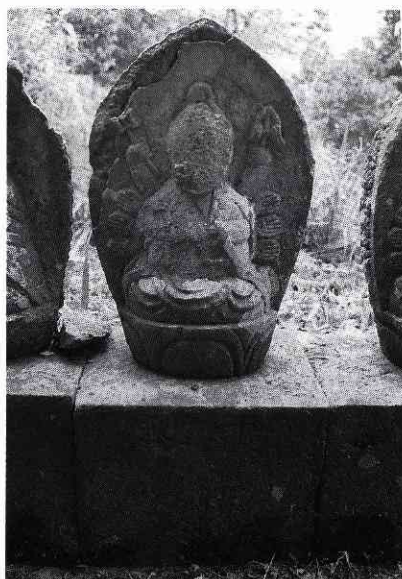
215-7



215-8



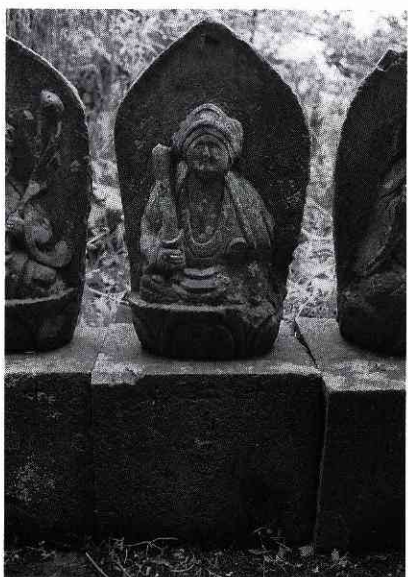
215-9



215-10



215-11



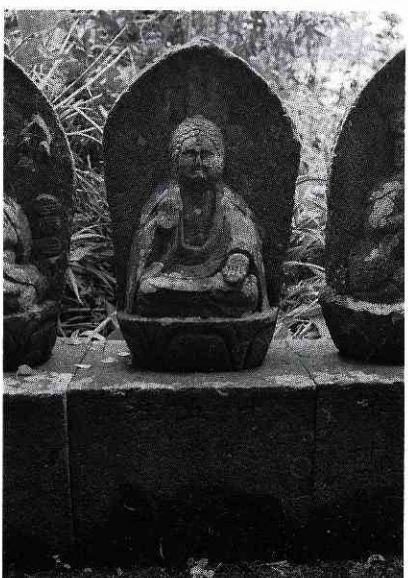
215-12



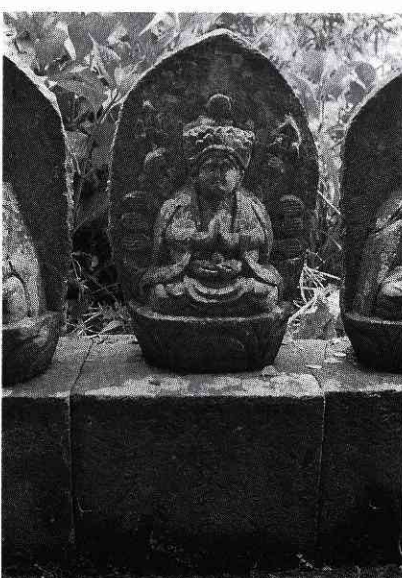
215-13



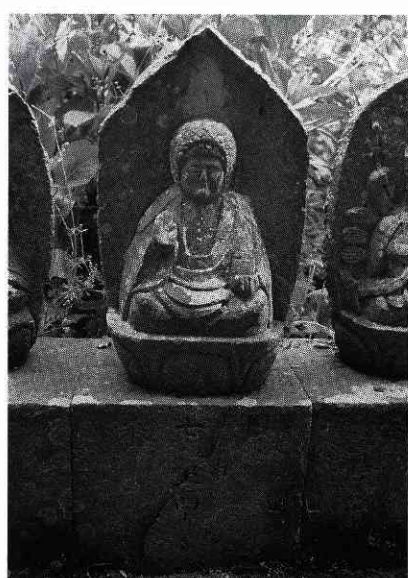
215-14



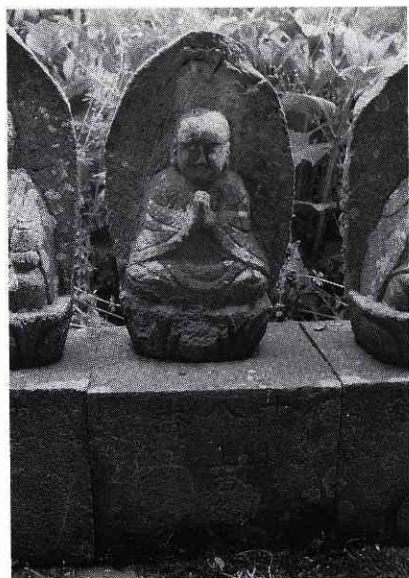
215-15



215-16



215-17



215-18



215-19



215-20



215-21



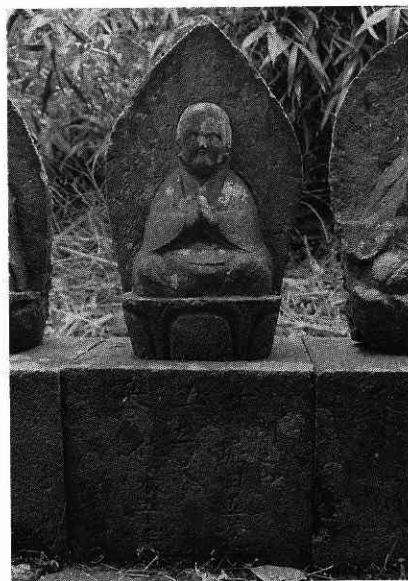
215-22



215-23



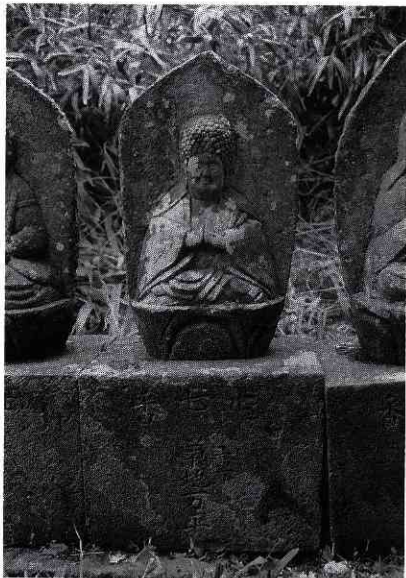
215-24



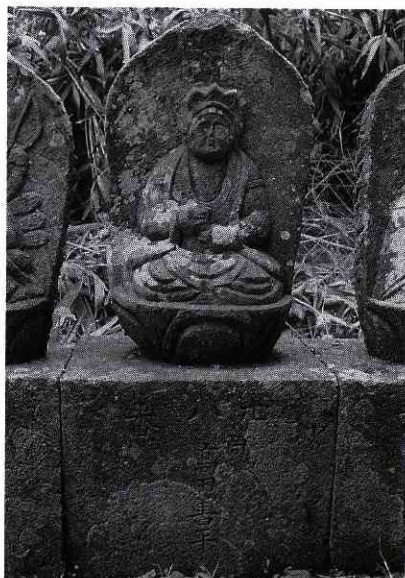
215-25



215-26



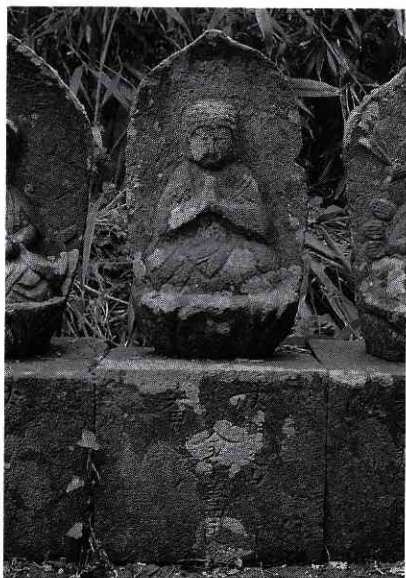
215-27



215-28



215-29



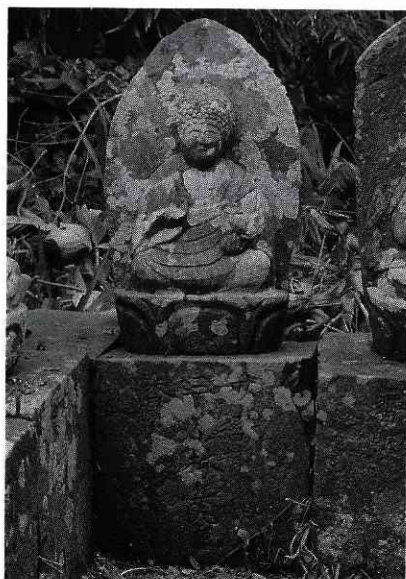
215-30



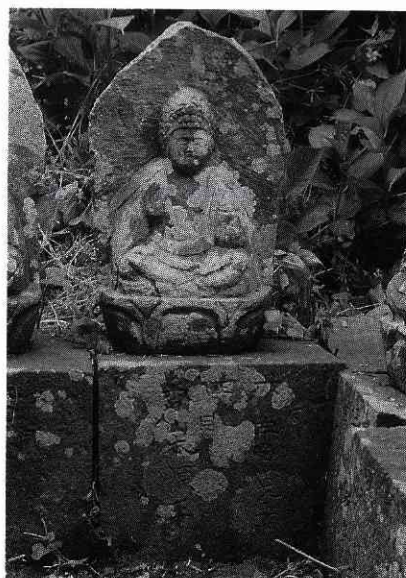
215-31



215-32



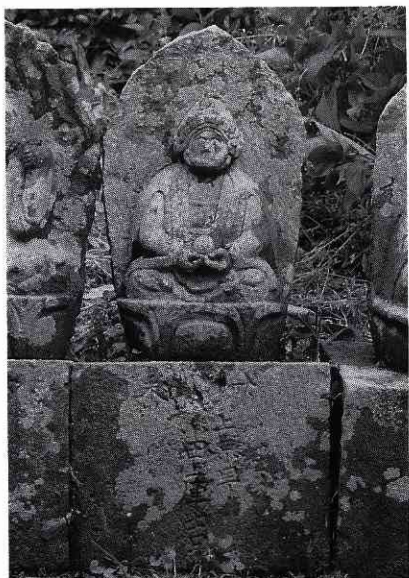
215-33



215-34



215-35



215-36



215-37



215-38



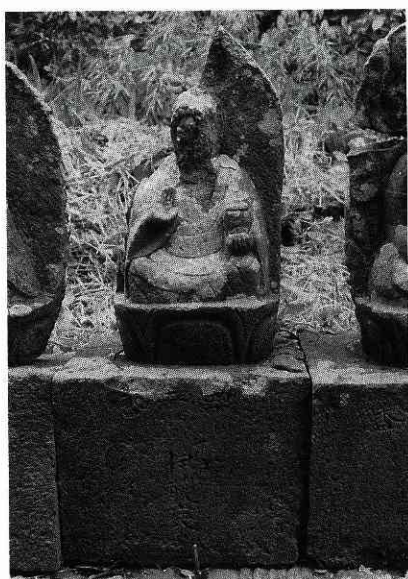
215-39



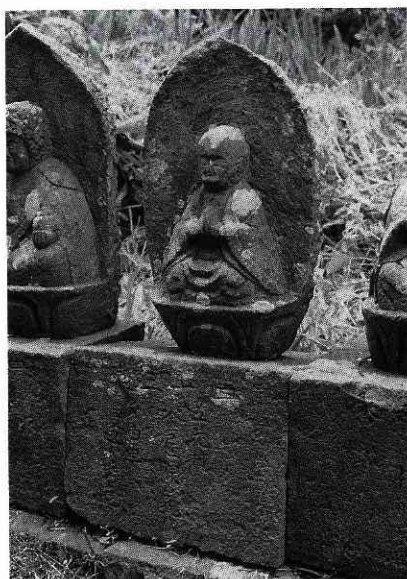
215-40



215-41



215-42



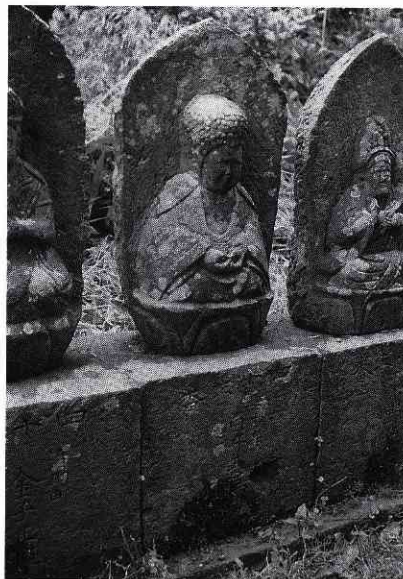
215-43



215-44



215-45



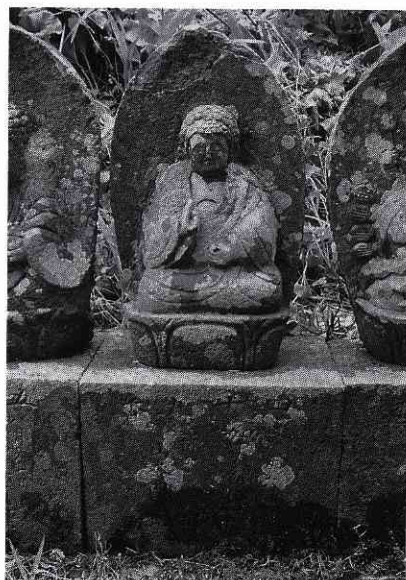
215-46



215-47



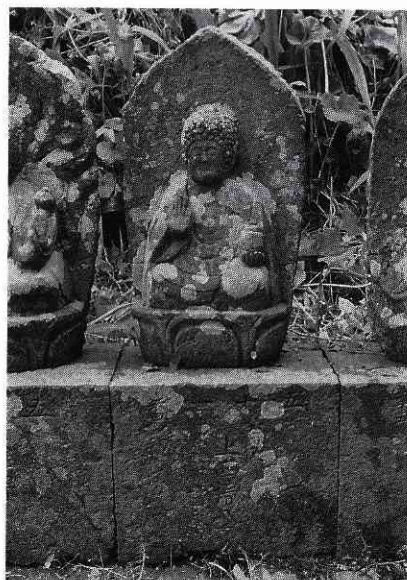
215-48



215-49



215-50



215-51



215-52



215-53



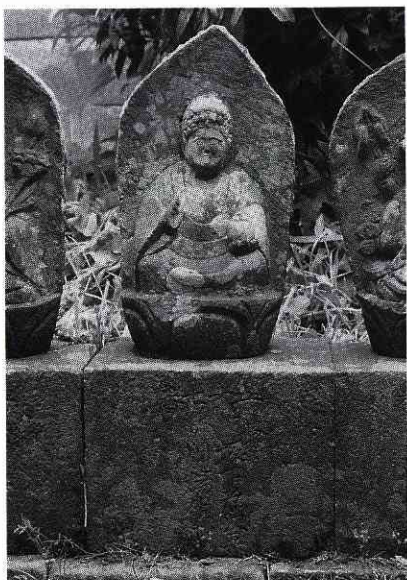
215-54



215-55



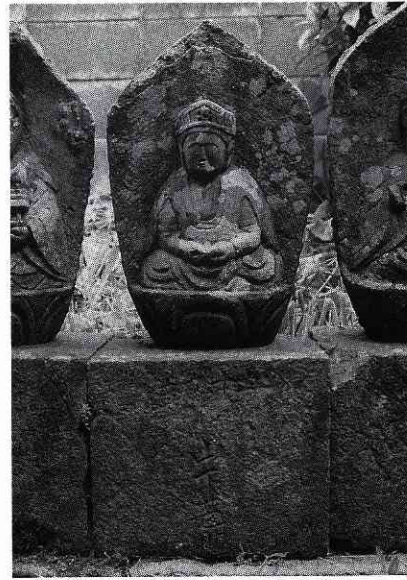
215-56



215-57



215-58



215-59



215-60



215-61



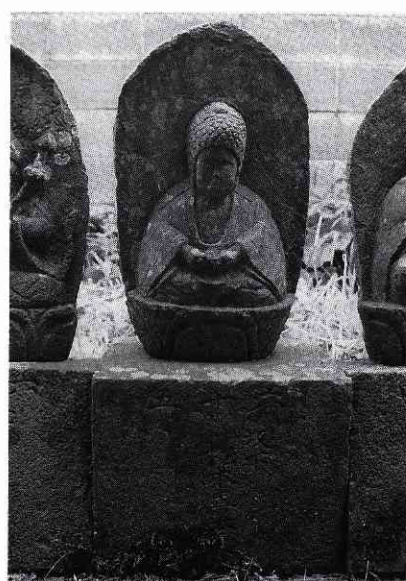
215-62



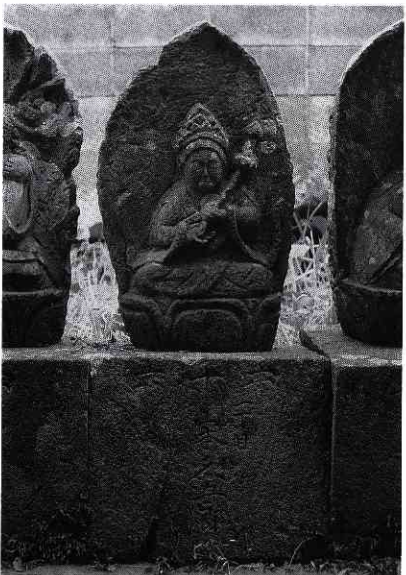
215-63



215-64



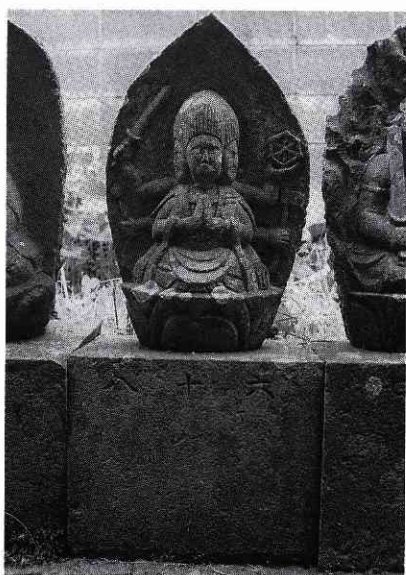
215-65



215-66



215-67



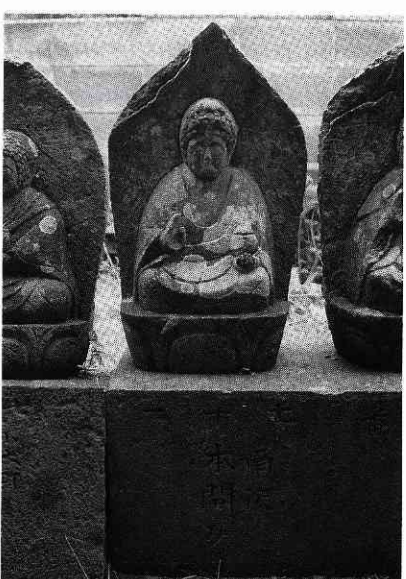
215-68



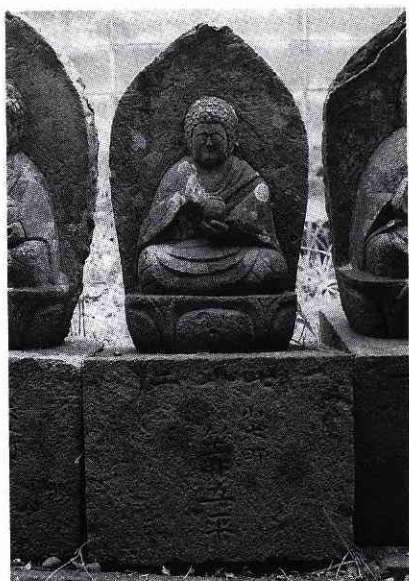
215-69



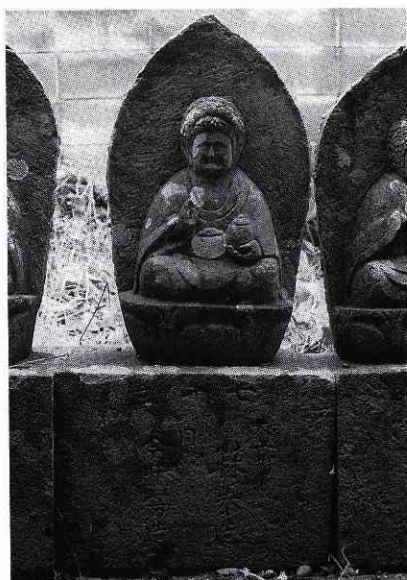
215-70



215-71



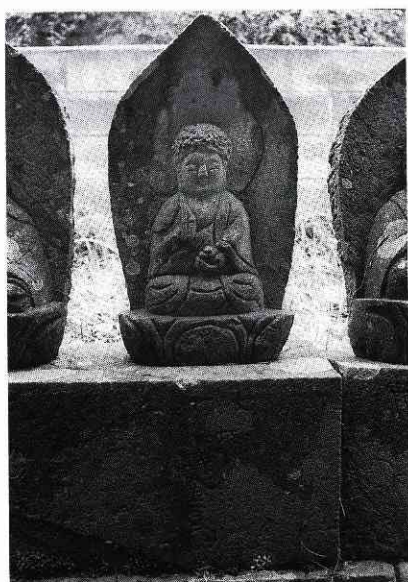
215-72



215-73



215-74



215-75



215-76



215-77



215-78



215-79



215-80



215-81



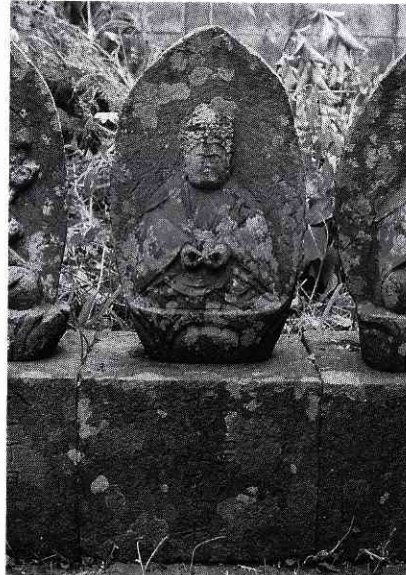
215-82



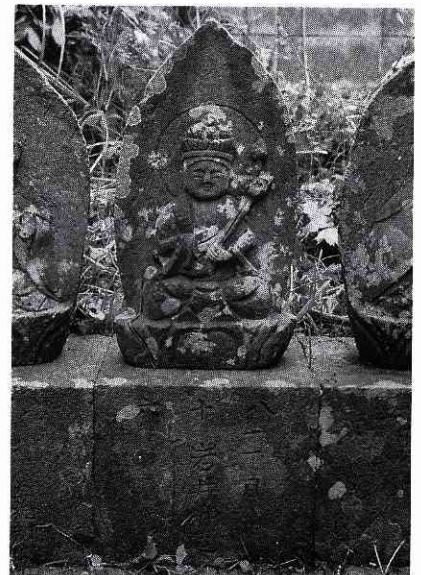
215-83



215-84



215-85



215-86



215-87



215-88



216-1



216-2



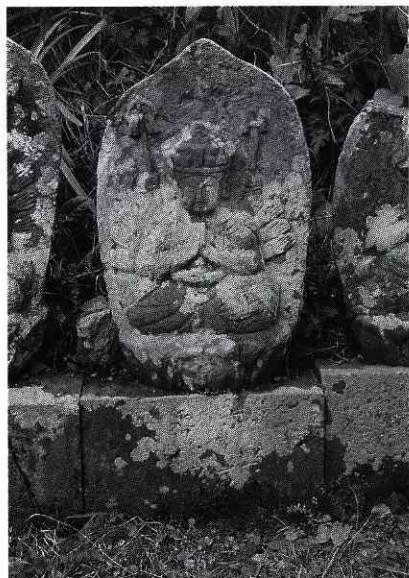
216-3



216-4



216-5



216-6



216-7



216-8



216-9



216-10



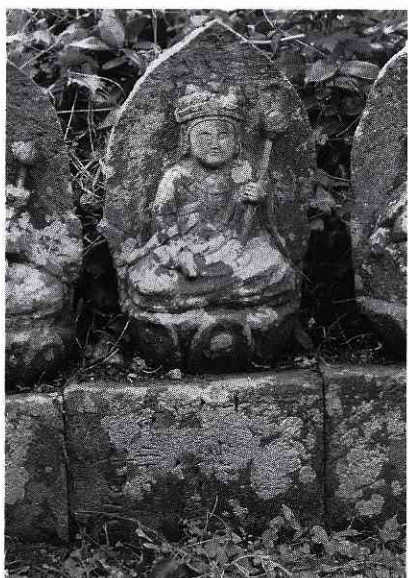
216-11



216-12



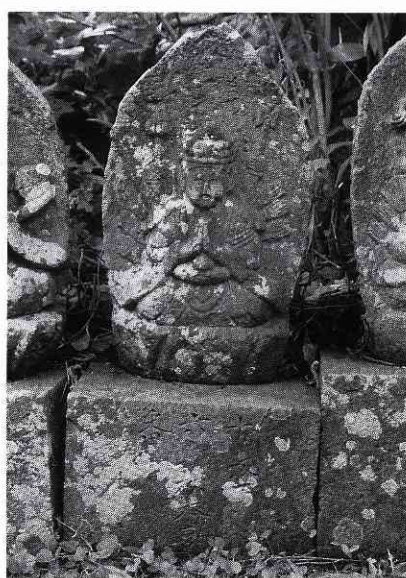
216-13



216-14



216-15



216-16



216-17



216-18



216-19



216-20



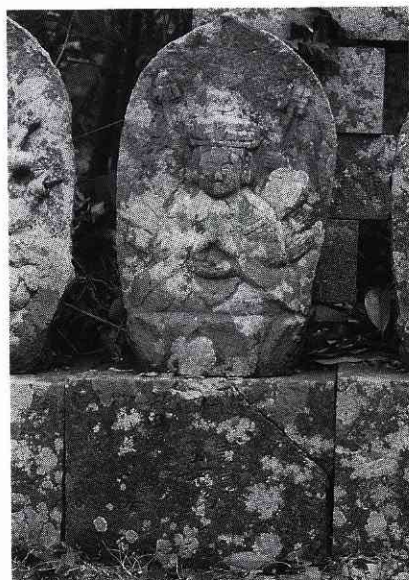
216-21



216-22



216-23



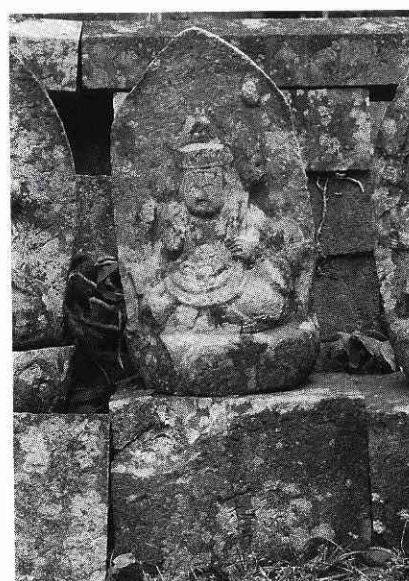
216-24



216-25



216-26



216-27



216-28



216-29



216-30



216-31



216-32



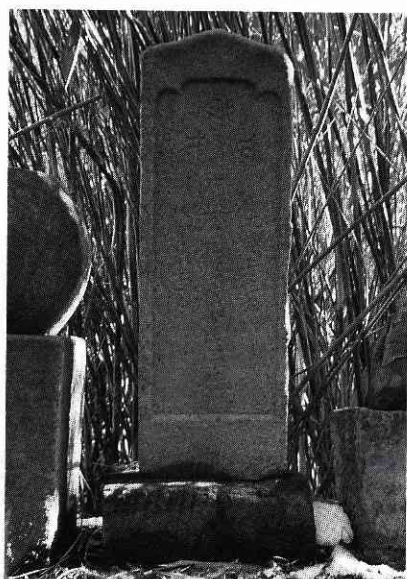
216-33



217



218



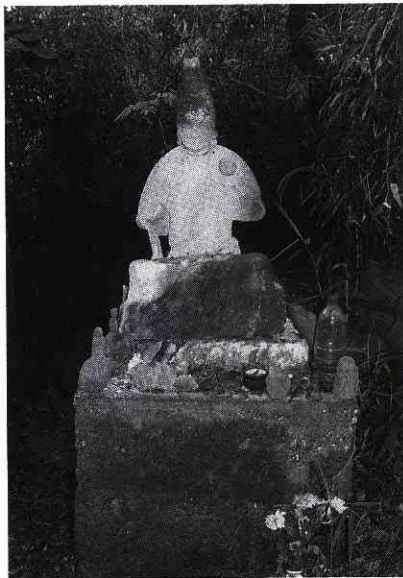
219



220



221



222



223



224



225



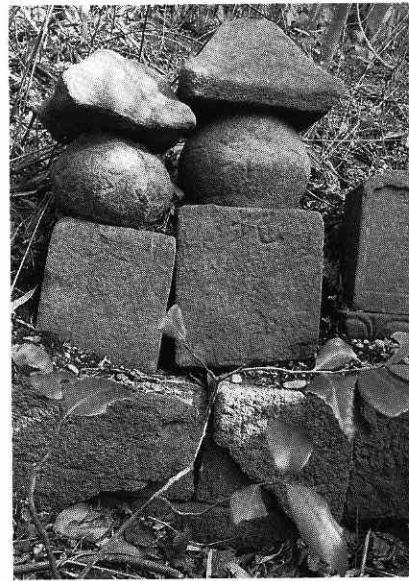
226



227



228



229



230-1



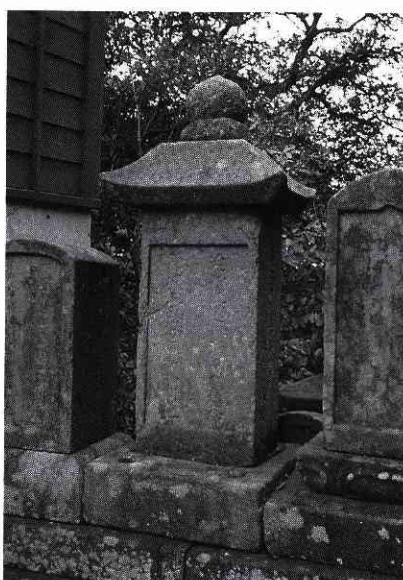
230-2



230-3



231



232



233



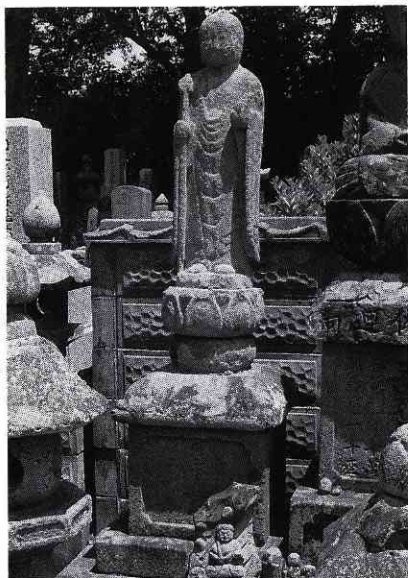
234



235



236



237



238



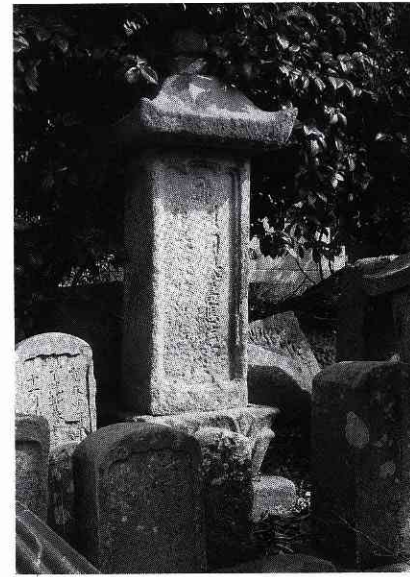
239



240



241



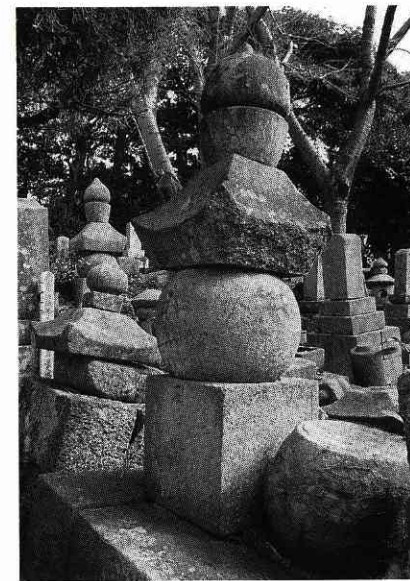
242



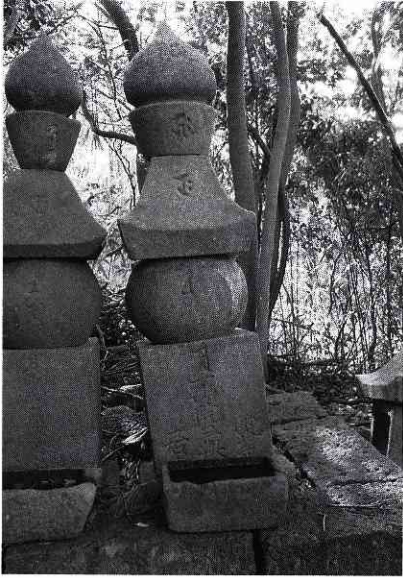
243



244



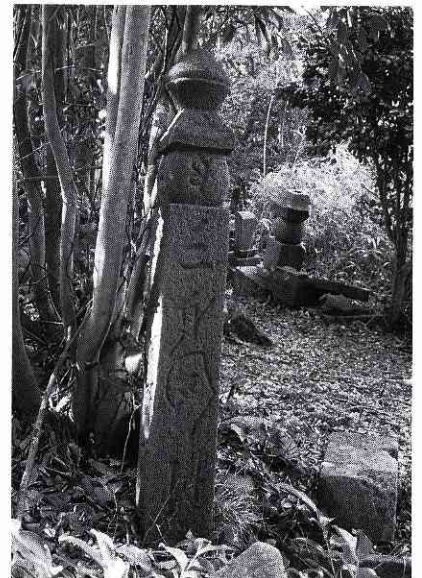
245



246



247



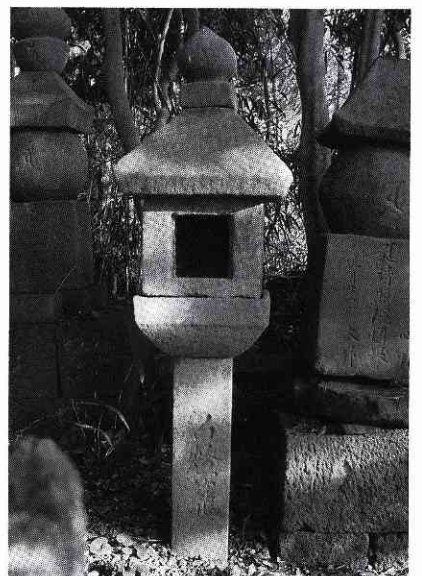
248



249



250



251-1



251-2



252



253



254



255



256



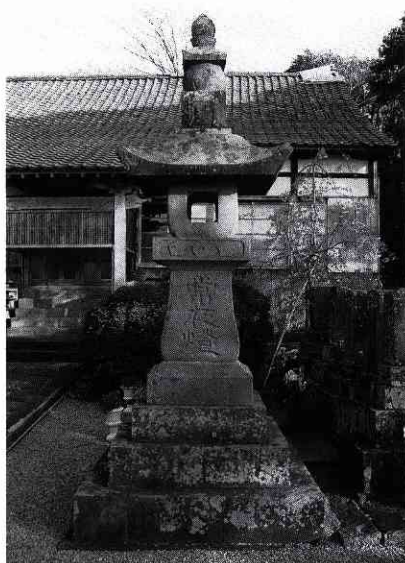
257



258



259



260



261



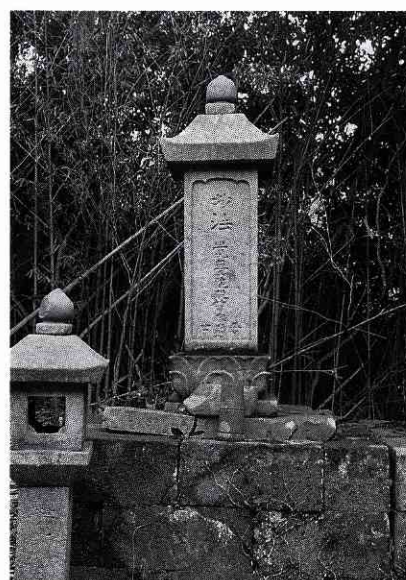
262



263



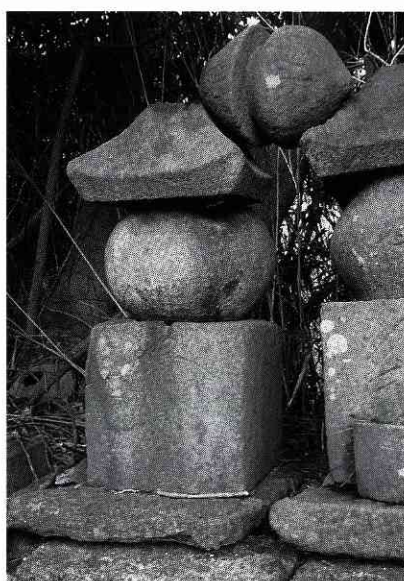
264



265



266



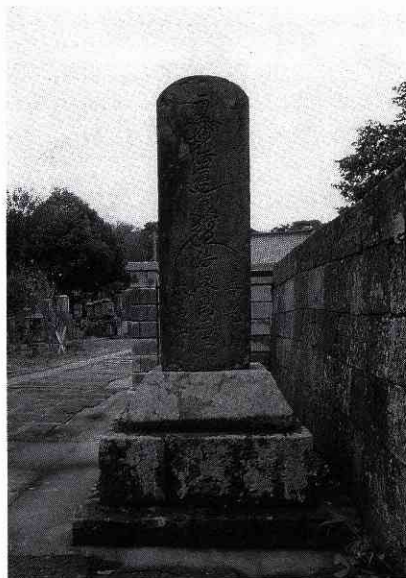
267



268



269



270



271



272



273



274



275



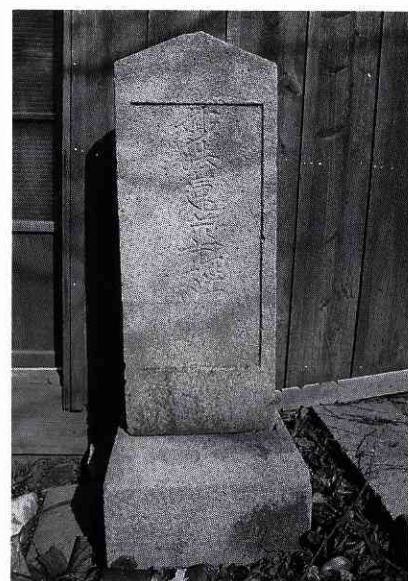
276



277



278



279



280



281



282



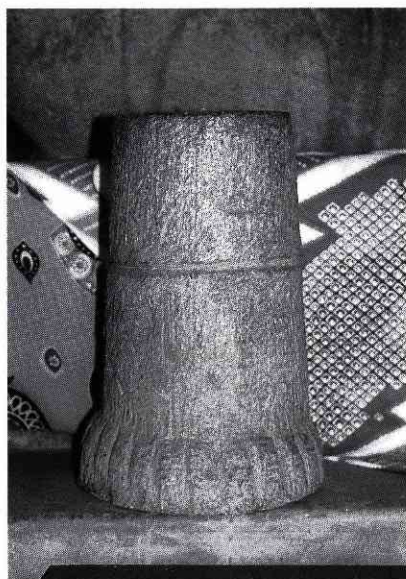
283



284



285



286



287



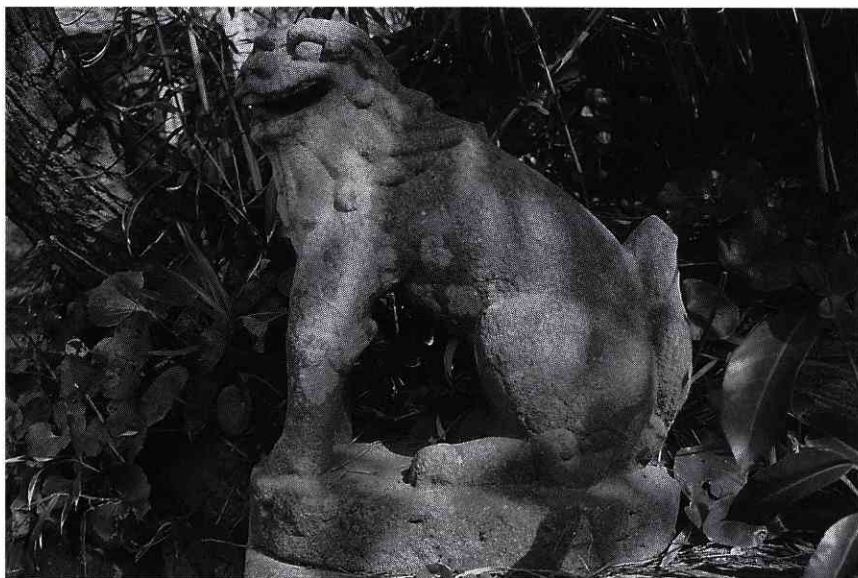
288



289



290一昨



290—阿



291



292



293



294



295



296



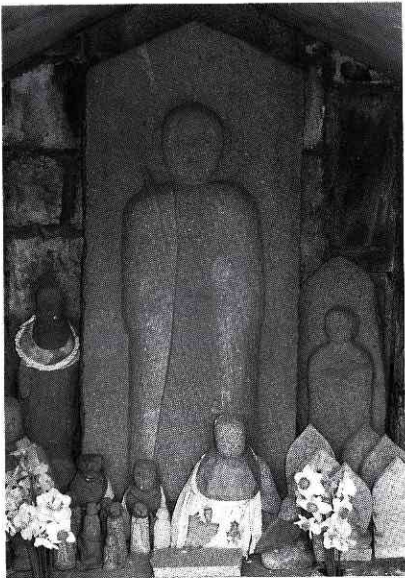
297



298



299



300



301



303



302



304



305



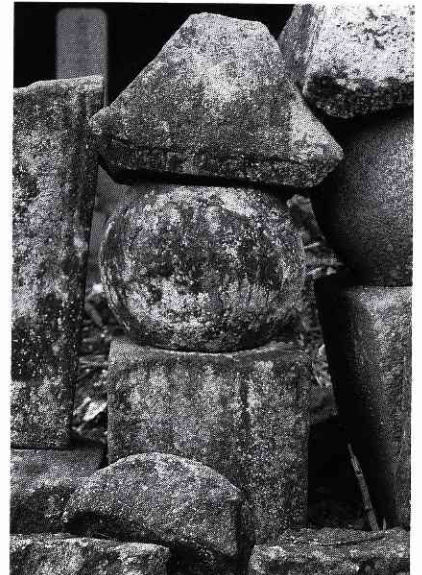
306



307



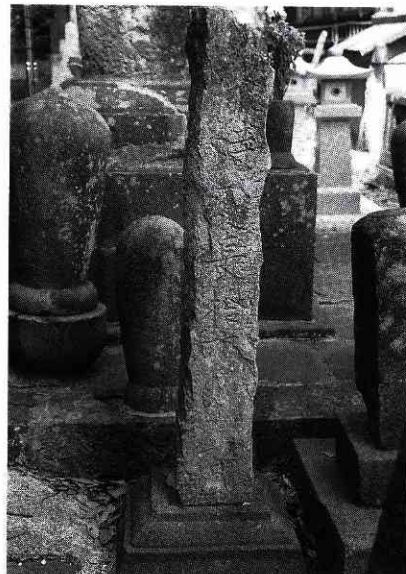
308



309



310



311



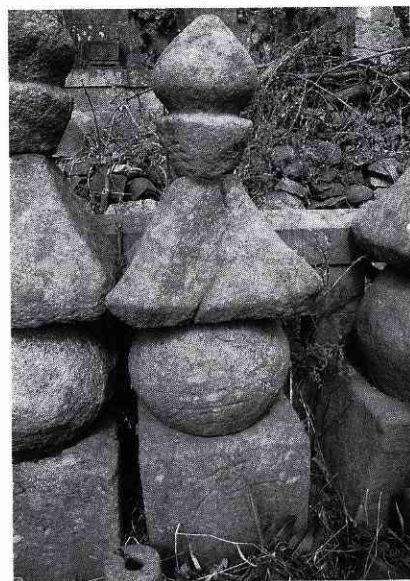
312



313



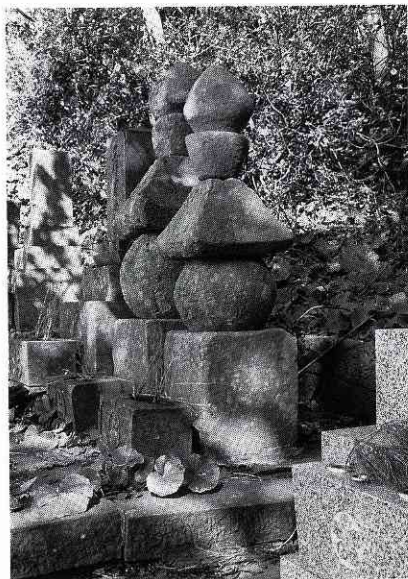
314



315



316



317



318-阿



318-吽



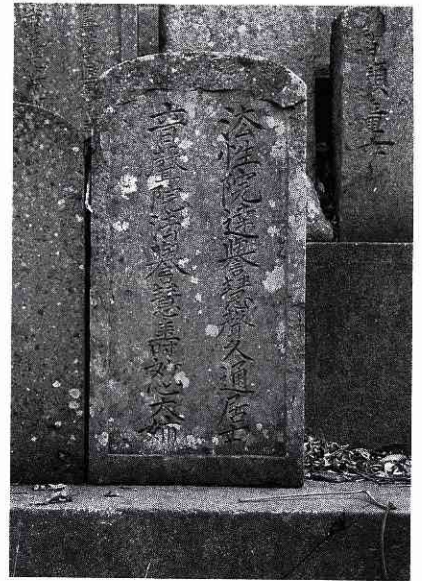
319



320



321



322



323



324



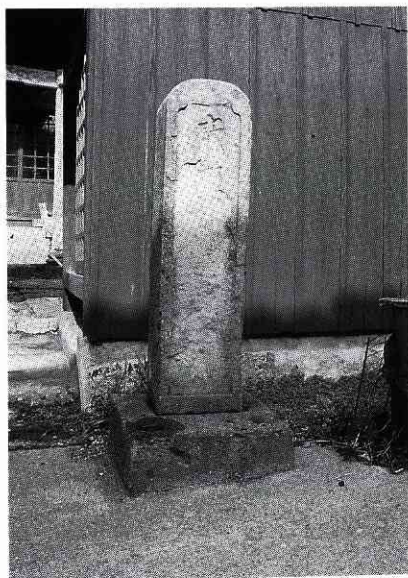
325



326



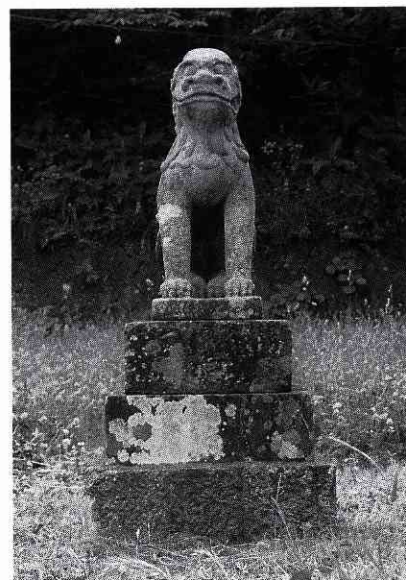
327



328



329一阿



329一吽



330



331



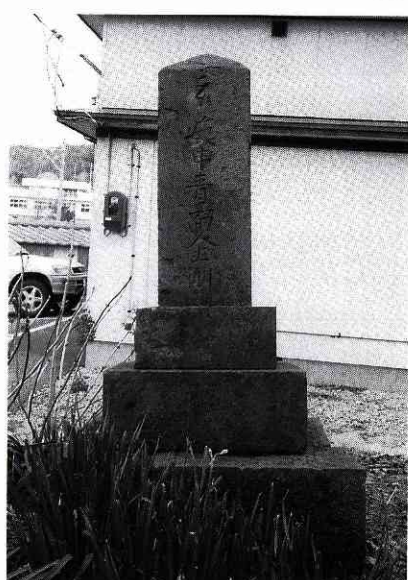
332



333-阿



333-吽



334



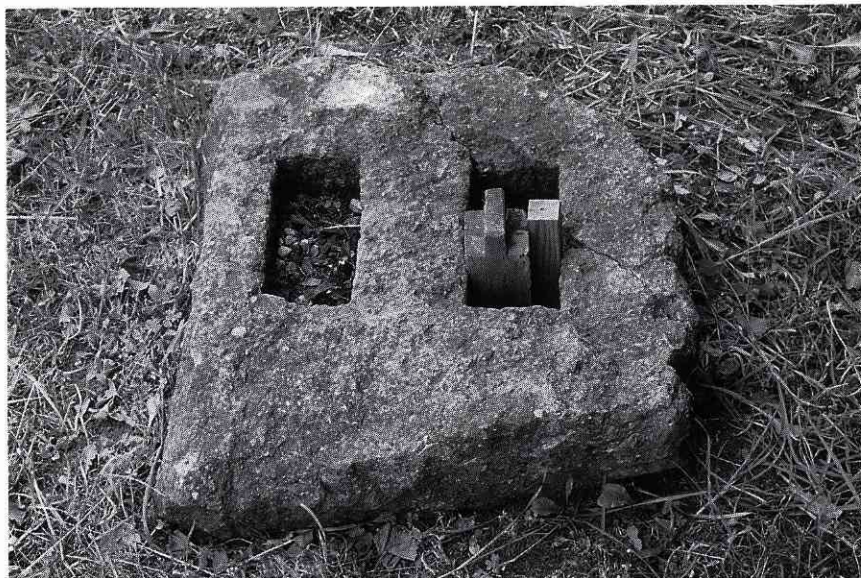
335



336



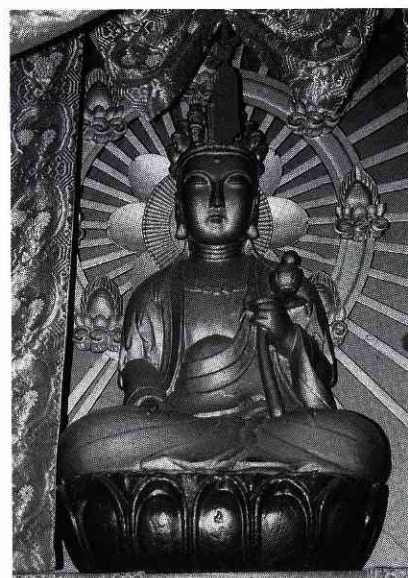
337



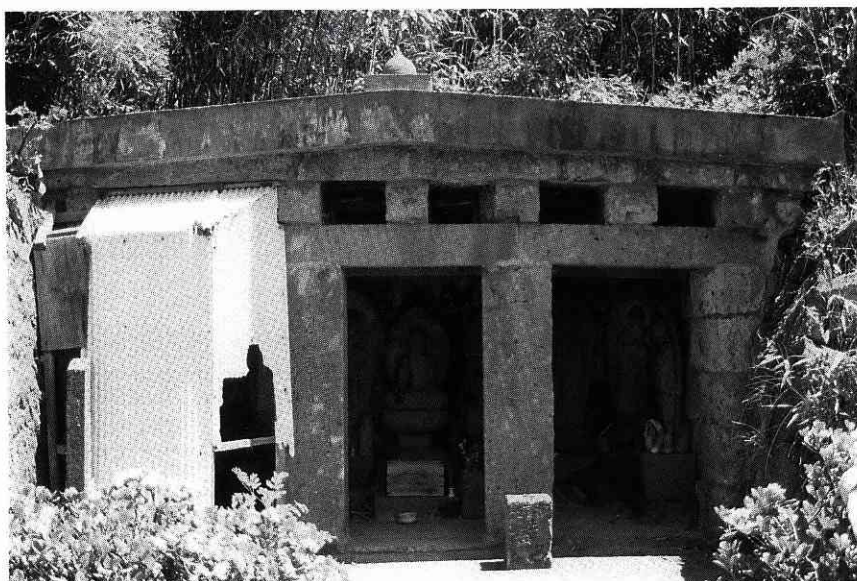
338



339



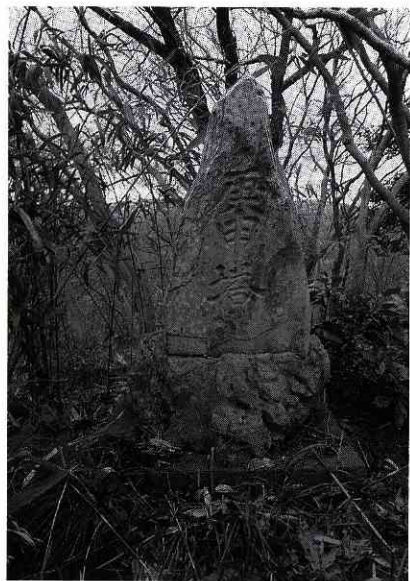
340



341



342



343



344



345



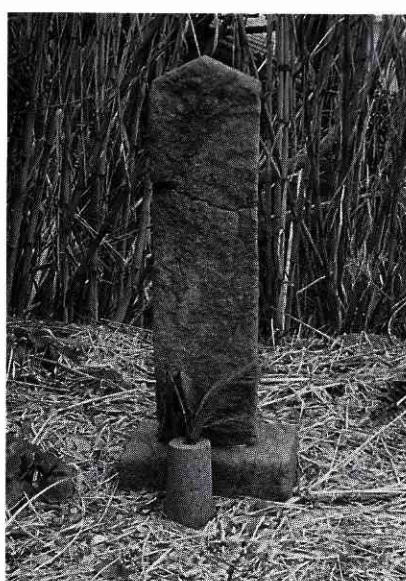
346



347



348



349



350

報告書抄録

ふりがな	さどきんぎんざん						
書名	佐渡金銀山						
副書名	相川地区 石造物分布調査報告書						
シリーズ名							
編著者名	佐藤俊策・羽二生正夫・鎌田直治・上林章造・滝川邦彦						
発行	佐渡市教育委員会 平成17年3月31日			市町村 コード		152242	
事務局	〒952-0005 新潟県佐渡市梅津2314番地1 佐渡市教育委員会生涯学習課 tel 0259-27-4181						
頁数	A4版 本文194頁 図版94頁						
遺跡名 (遺跡番号)	ふりがな 所在地	国土地理院地形図 1/5万 1/2.5万		北緯	東経	調査期間	調査の 原因
佐渡金山 遺跡(302) 他	佐渡市	河原田	相川	38° 01′ 58″	138° 14′ 36″	200110 ～ 20050228	佐渡金銀 山遺跡分 布調査
遺跡名	遺構	種別	主な時代		石造物		特記事項
佐渡金山 遺跡 他		鉱山跡 他	江戸時代 明治時代		石神仏 石塔 建設部材 器具 その他		国指定・県指 定記念物(史 跡)の奉行逆 修塔・奉行墓 を含む

佐 渡 金 銀 山

相川地区 石造物分布調査報告書

発行・編集

平成17年3月31日

佐渡市教育委員会

新潟県佐渡市梅津2314番地1

電話 0259-27-4181

印刷・製本

株式会社 第一印刷所



ページ	行	訂正前	訂正後
全般		大山蔵神社	大山 蔵 神社
口絵		はじめは粉砕作業である。	はじめは鉱石を石磨で粉砕する作業である。
3	20行目	笏谷石	笏谷石
3	32行目	、と表示した直後にそれぞれ示した。	、というように、銘文の刻まれている面がわかるようにした。
3	最終行	文字の配置はや大きさ……	文字の配置や大きさ……
3	最終行	現物にならうよう注意した。	現物にそうように表記した。
4		B 基本的な調査工程	B 基本的な調査過程
4		＜要 約＞ ＜一 覧 表＞ ＜引用・参考文献＞ ＜図 版＞	＜引用・参考文献＞ ＜一 覧 表＞ ＜図 版＞
5		第1図 佐渡ヶ島	第1図 佐渡島
5		第37図 敷石の形態及び規則部位	第37図 敷石の形態及び計測部位
7		図版13 蓮光寺(158)……	図版13 蓮光寺(158)……
7		図版29 ……来迎寺跡(322)……	図版29 ……来迎寺跡(322)……
8		図版58 ……蓮光寺(158)……	図版58 ……蓮光寺(158)……
9		図版90 ……来迎寺跡(322)……	図版90 ……来迎寺跡(322)……
12	3行目	浸透を担い、	啓発を担い、
13	22行目	換わる調査組織	替わる調査組織
14	7行目	版權はじめ	版權をはじめとし
14	22行目	2001(平成13)年度調査では不足していた石造物・石神仏を……	2001(平成13)年度調査で不足していた石造物・石神仏を、……
15	8行目	大佐渡山地	大佐渡山脈
15	9行目	小佐渡丘陵	小佐渡山地
15	20行目	囲まれている。	部分的に囲まれている。
15	21行目	八幡砂丘が発達している。[新潟県教委2000]	かつて八幡砂丘が発達していた。[神蔵勝明・小林巖雄1993]
15	39行目	道遊割戸	道遊の割戸
22	9行目	出居の内	土居の内
22	12行目	沢根・五十里(現在の佐渡市沢根町付近)	沢根・五十里(現在の佐渡市沢根・沢根五十里 付近)
26	35行目	佐渡近畿山	佐渡金銀山
26	37行目	北沢浮遊遊戯場	北沢浮遊遊戯場
31	13行目	ひもどく	ひもとく
32	40行目	(羽茂町上山田……	(羽茂地区上山田……
48	1行目	B 基本的な調査工程	B 基本的な調査過程
49	22行目	あぐらを組んだ	座った姿をしている
51	24行目	……夏念仏塔	……夏念仏塔、釘念仏塔
57	第23図キャプション	角柱形石塔(塔身が尖頂で段面正方形に近いもの)……	角柱形石塔(塔身が尖頂で断面正方形に近いもの)……
57	第24図キャプション	角柱形石塔(塔身が円頂で段面長方形のもの)……	角柱形石塔(塔身が円頂で断面長方形のもの)……
57	第25図キャプション	角柱形石塔(塔身が円頂で段面正方形に近いもの)……	角柱形石塔(塔身が円頂で断面正方形に近いもの)……
58	3行目	笠を失ったものもあり、頂部に木ノ穴の有無が問題となる。	笠を失ったものもある。
59	第28図	偶蹄突起	偶蹄突起
65	2行目	石窟、石殿ともいう。	削除
72	扣石(はたきいし)	……採掘する鉱物に質によっては……	……採掘する鉱物の質によっては……
74	第1表	民間信仰の塔……念仏塔……夏念仏塔	民間信仰の塔……念仏塔……夏念仏塔、釘念仏塔
92	18行目	なくなった。	亡くなった。
92	最終行	半田清水ヶ窪(現相川町)の田地を、山師山崎宗清より買い取って鶴子(佐和田町)に……	半田清水ヶ窪(現 相川町)の田地を、山師山崎宗清より買い取って鶴子に……
95	12行目	兵十郎、花世の墓	削除
95	36行目	相川銀山	相川金銀山
97	20行目	半伽思惟像	半伽思惟像
98	38行目	カクレキリシタン	隠れキリシタン
100	10行目	聖観音菩薩の座像である。	聖観音菩薩の立像である。
100	18行目	地藏菩薩の座像である。	地藏菩薩の立像である。
109	20行目	291 塩蔵神社 庚申講中碑	291 塩蔵神社 庚申講中塔
110	16行目	右手に錫杖、	右手に錫杖
111	1行目	「中川扇助」	「中川翁助」
111	27行目	笏谷石	笏谷石
112	26行目	塔身の正面には題目・年月・寄進者等を刻む。	塔身の正面には名号・年月・寄進者名を刻む。
115	12行目	328 海士町大日堂 八字名号塔	328 海士町大日堂 名号塔
117	24行目	……一里塚など、……	……一里塚など、……
118	21行目	…… 眞男公連……	…… 眞男公連……
127	4行目	相川郷土博物館 1961『相川郷土博物館報第2号』	相川郷土博物館 1961『相川郷土博物館報第2号』
127	6行目	『相川郷土博物館報第6号 佐渡浜端・夫婦岩洞穴遺跡の調査』	『相川郷土博物館報 佐渡浜端・夫婦岩洞穴遺跡の調査』第6号
127	30行目	飯山弘 1964『相川町米屋町発見のたたき石』『佐渡文化』第1号』	飯山弘 1964『相川町米屋町発見のたたき石』『佐渡文化』第1号
127	31行目	磯部欣三 1968『遊女の墓』『いしぼとけ』佐渡石仏会	磯部欣三 1968『遊女の墓』『いしぼとけ』第2号 佐渡石仏会
128	12行目	計良勝範 1968『大久保石見守おけ長安の逆修塔』『いしぼとけ』創刊号 佐渡石仏会	計良勝範 1968『大久保石見守おけ長安の逆修塔』『いしぼとけ』創刊号 佐渡石仏会
128	13行目	計良勝範 1969『相川の石仏』『いしぼとけ』第3号 佐渡石仏会	計良勝範 1969『相川の石仏』『いしぼとけ』第3号 佐渡石仏会
128	14行目	計良勝範 1968『佐渡の石仏のあらまし』『いしぼとけ』第2号 佐渡石仏会	計良勝範 1968『佐渡の石仏のあらまし』『いしぼとけ』第2号 佐渡石仏会
128	15行目	計良勝範 1978『江戸水替無宿の墓』『いしぼとけ』第10号 佐渡石仏会	計良勝範 1978『江戸水替無宿の墓』『いしぼとけ』第10号 佐渡石仏会
128	18行目	計良勝範 2002『佐渡島の石工在銘資料』『日本の石仏』第104号』	計良勝範 2002『佐渡島の石工在銘資料』『日本の石仏』第104号
128	30行目	『新潟考古第2号』	『新潟考古』第2号
128	31行目	坂井友二 2002『金井町のいしづみ』金井町教育委員会	坂井友二 2002『金井町のいしづみ』金井町教育委員会
128	34行目	金井町教育委員会	全国天領ゼミナール事務局
129	2行目	田中圭一 1964『銀山初期の集落について』『相川郷土博物館報第3号』相川町教育委員会	田中圭一 1964『銀山初期の集落について』『相川郷土博物館報第3号』相川町教育委員会
129	12行目	新潟県教育委員会 2001『新潟県埋蔵文化財調査報告書第98集 県営ほ場整備事業関連発掘調査報告書 平田遺跡』	神蔵勝明・小林巖雄 1993『第5章 佐渡の生い立ち(地質)』 『図説佐渡島 自然と歴史と文化』(財)佐渡博物館・新潟交通株式会社
129	19行目	『埋文にいがた』No.49』	『埋文にいがた』No.49

ページ	行	訂正前	訂正後
129	27行目	『第14回全国天領ゼミナール記録集』金井町教育委員会	『第14回全国天領ゼミナール記録集』全国天領ゼミナール事務局
133	一覧表 No.328 国有名欄	海士町大日堂 八字名号塔	海士町大日堂 名号塔
133	一覧表 No.329 銘文欄	(右) ...國羽茂群...千... (左) □□□□...	(右) ...國羽茂群...千... (左) 宝曆□□...
139	一覧表 No.291 国有名欄	塩竈神社 庚申腰中碑	塩竈神社 庚申腰中塔
168	一覧表 No.208 銘文欄	寛永十二.....	マ マ 寛永十二.....
179	一覧表 No.113 分類欄	空欄	板石形石塔
179	一覧表 No.113 記年銘欄	1689	元禄二年(1689)
179	一覧表 No.113 石材欄	板石形石塔	安山岩
179	一覧表 No.113 寸法欄	元禄二年	97×32×13
179	一覧表 No.113 銘文欄		塔身 (正面) 元禄二己巳歲 妙法行運院妙泉日口 十一月八日
194	一覧表 No.5 銘文欄	...権乞竹林	削除
194	一覧表 No.1 銘文欄	(右) ...皆悉到彼国自致口退転...	(右) ...皆悉到彼国自致不退転...
195	冒頭	戸河神社(5・8)	戸河神社(5・7・8)
203	最終行	縮尺 1:10(109)...	縮尺1:10(109-1)...